（受学管７－２）
木幡中学校配膳室設置ほか工事

図　面　リ　ス　ト

建築				機械設備		電気設備	
図面番号	図　面　内　容	図面番号	図　面　内　容	図面番号	図　面　内　容	図面番号	図　面　内　容
A-01	共通特記仕様書	A-36	新館棟　[現況]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（２）	M-01	機械設備工事特記仕様書　No.１	E-01	電気設備工事特記仕様書(1)
A-02	建築改修工事特記仕様書１	A-37	新館棟　[現況]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（３）	M-02	機械設備工事特記仕様書　No.２	E-02	電気設備工事特記仕様書(2)
A-03	建築改修工事特記仕様書２	A-38	新館棟　[現況]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（４）	M-03	特別教室棟・新館棟　[改修]衛生機器・衛生器具・会所表	E-03	電灯分電盤リスト　(新設・改修･撤去)
A-04	建築改修工事特記仕様書３	A-39	新館棟　[現況]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（５）	M-04	特別教室棟　[撤去]美術室（衛生設備）	E-04	電気設備　配置図
A-05	建築改修工事特記仕様書４	A-40	新館棟　[改修]美術室詳細図（１）	M-05	特別教室棟　[改修]配膳室（衛生設備）	E-05	1階　配膳室　空調電源設備図　(改修)
A-06	建築改修工事特記仕様書５	A-41	新館棟　[改修]美術室詳細図（２）	M-06	新館棟　[撤去・改修]北側外部（衛生設備）	E-06	1階　配膳室　コンセント設備図　(改修)
A-07	建築改修工事特記仕様書６	A-42	新館棟　[改修]美術室詳細図（３）	M-07	新館棟　[撤去]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室・[改修]美術室　衛生設備	E-07	1階　配膳室　電灯設備図　(改修)
A-08	建築改修工事特記仕様書７	A-43	新館棟　[改修]美術室詳細図（４）	M-08	特別教室棟　[撤去]美術室（空調設備・換気設備）	E-08	1階　電灯設備図　(改修)
A-09	建築改修工事特記仕様書８	A-44	新館棟　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室→美術室　建具表	M-09	特別教室棟　[改修]配膳室（空調設備・換気設備）	E-09	1階　配膳室　弱電設備図　(改修) (放送･テレビ共聴･緊急通報･機械警備･インターホン)
A-10	建築改修工事特記仕様書９	A-45	新館棟　[改修]美術室部分詳細図（１）	M-10	新館棟　[改修]南側外部（空調設備）	E-10	1階　配膳室　自火報設備図　(改修)
A-11	建築改修工事特記仕様書10	A-46	新館棟　[改修]美術室部分詳細図（２）	M-11	新館棟　[撤去]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室・[改修]美術室（空調設備・換気設備）	E-11	1階　電灯･コンセント設備図　(撤去)
A-12	建築改修工事特記仕様書11	A-47	新館棟　[改修]美術室部分詳細図（３）	M-12	プレハブ棟［撤去・改修]2階視聴覚教室（空調設備・換気設備）	E-12	1階　弱電･自火報設備図　(撤去)
A-13	アスベスト対策工事特記仕様書	A-48	新館棟　[改修]美術室部分詳細図（４）			E-13	2階　美術室　幹線設備図　(改修)
A-14	付近見取図、配置図兼仮設計画図	A-49	プレハブ棟　現況平面図・仮設図(参考図)			E-14	2階　美術室　空調電源設備図　(改修)
A-15	１階平面図（本館棟・特別教室棟・新館棟・技術棟）	A-50	プレハブ棟　現況立面図・仮設図(参考図)			E-15	2階　美術室　コンセント設備図　(改修)
A-16	２階平面図（本館棟・特別教室棟・新館棟・技術棟）	A-51	プレハブ棟　仕上表、建具表			E-16	2階　美術室　電灯設備図　(改修)
A-17	特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（１）	A-52	プレハブ棟　[現況]平面図・展開図・天井伏図			E-17	2階　美術室　放送･テレビ共聴設備図　(改修)
A-18	特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（２）	A-53	プレハブ棟　[改修]平面図・展開図・天井伏図			E-18	2階　美術室　自火報設備図　(改修)
A-19	特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（３）	A-54	プレハブ棟　屋外階段詳細図			E-19	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　幹線設備図　(撤去)
A-20	特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（４）	A-55	プレハブ棟　矩計図			E-20	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　コンセント設備図　(撤去)
A-21	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（１）	A-56	プレハブ棟　ホワイトボード（参考図）			E-21	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　電灯設備図　(撤去)
A-22	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（２）					E-22	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　放送･テレビ共聴設備図　(撤去)
A-23	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（３）	S-01	構造特記仕様書			E-23	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　自火報設備図　(撤去)
A-24	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（４）	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)			E-24	幹線設備（改修）各階平面図
A-25	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（５）	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)			E-25	電灯設備（撤去・改修）2階平面図
A-26	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（６）	S-04	鉄骨工作標準図(1)			E-26	ｺﾝｾﾝﾄ設備（撤去・改修）2階平面図
A-27	特別教室棟　美術室→配膳室　建具表（１）	S-05	鉄骨工作標準図(2)			E-27	弱電設備（撤去・改修）2階平面図
A-28	特別教室棟　美術室→配膳室　建具表（２）	S-06	ベースパック柱脚工法設計施工標準図				
A-29	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（１）	S-07	土質柱状図				
A-30	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（２）	S-08	伏図				
A-31	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（３）	S-09	軸組図				
A-32	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（４）	S-10	RC部材リスト				
A-33	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（５）	S-11	S部材リスト				
A-34	特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（６）	S-12	鉄骨詳細図				
A-35	新館棟　[現況]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（１）	S-13	雑詳細図				

A　工事概要

1　工事名称	(受学管７－２)　木幡中学校配膳室設置ほか工事	
2　工事場所	宇治市木幡内畑３４番地	
3　工事期間	入札通知書による。	
4　規模構造	鉄筋コンクリート造４階建て（増築部　鉄骨造平屋建て）	
5　建築面積	既存4,359.40㎡＋増築9.88㎡＝合計4,369.28㎡	
6　延床面積	既設8,479.34㎡＋増築9.88㎡＝合計8,489.22㎡	
7　工事範囲	配膳室設置工事	一式
	美術室改修工事	一式
	上屋増築工事	一式
	プレハブ棟改修工事	一式
	上記に伴う機械・電気設備工事	一式
	上記に伴う撤去・処分	一式

B　特記仕様書

1　共通事項	ａ施工基準	本工事は契約書及び①質疑回答書②現場説明書③特記仕様書④設計図⑤公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編・機械設備工事編・電気設備工事編）及び公共建築工事標準仕様書（建築工事編機械設備工事編・電気設備工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版）により施工する。なお、設計図書間に相違がある場合の優先順位は上記記載の順とする。
	ｂ監理基準	本工事は建築改修工事監理指針及び建築・機械設備・電気設備・各工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修令和４年版）により監理する。
	ｃ提出書類等	契約書及び設計図書に定められた提出書類等を監督職員の指示により、定められた期日までに提出する。受注者は、下請契約を締結する場合には、下請金額に関わらず、施工体制台帳を提出する。 また、施工体系図においては、すべての下請負人及び警備業者を記載する。 なお、施工体制台帳には監督職員が指示する書類を添付して提出する。
	ｄ建設業退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度（建退共）に加入の上、掛金収納書を提出する。工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」を掲示し、工事完成時には「建退共運営実績報告書」、「労働者の就労日報」及び「共済証紙受払簿」を提出する。また、下請負人に対しても同共済制度加入を奨励する。
	ｅ工事実績情報	受注者は受注時、変更時及び完成時の各時点において、あらかじめ登録内容について監督職員の確認を受けた上で、それぞれ１０日以内に（一財）日本建築情報総合センターへ工事実績情報サービス入力システム（ＣＯＲＩＮＳ）の登録申請を行う。 また、登録後、直ちに登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する（作成、登録等に伴う費用は受注者の負担とする）。
	ｆ建設工事保険等	受注者は、工事目的物・工事材料等を建設工事保険等（第三者保険を含み、火災による損害が見込まれる場合は火災保険を含む）に付し、その保険証書の写し又はこれに代わるものを提出する。なお、その保険の加入期間は、工事着工の時から、工事完成期日後１４日迄とする。
	ｇ労災補償に必要な法定外の保険契約について	受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年法律第35号）に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険（法定外の労災保険）に付する。
	ｈ工事写真・完成写真	工事写真撮影ガイドブック（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和５年版）を参考に、着工前・工事中の各段階の工程の内容が充分把握できるよう撮影する。工事完成時には、完成写真を撮影し、着工前・工事中と共に工事用アルバムに整理の上１部提出する（データ共）。 なお、着工前・完成写真は、着工前・完成を一対（左右または前後）として整理すること。
	ｉ不正軽油使用防止の徹底	受注者は建設機械等の燃料としての軽油はＪＩＳ規格軽油以外のものを使用してはならない。 また、下請負人等に対しても不正軽油使用防止の指導・監視を徹底する。受注者は、京都府税務調査員による燃料検査に協力しなければならない。
	ｊ一般事項	・　軽微な変更については、請負金額の増減は行わない。 ・　工事現場には、仮囲いを行い同現場の安全に十分配慮する。特に、工事車両の出入り及び時間等については、当該施設運営管理者等と十分打合せを行い交通安全管理に配慮する。 ・　騒音・臭気等が発生する工事については、作業時間・日時について当該施設運営管理者と協議し、施設の運営管理等に支障をきたさぬよう配慮する。 ・　既存部分については、受注者において汚染・損傷の無いよう十分な養生を行う。万一損傷等が生じた場合は、監督職員に報告の上受注者の責任において、現状復旧する。 ・　使用材料は、設計図書に記載されたもの又は同等品とする。同等品とする場合は、事前に監督職員にカタログ等資料を提出し、承認を受ける。 ・　工事完成時には、社内検査を実施する。 ・　本工事は市の行う完成検査に合格し、工事目的物引渡書の提出をもって完了とする。 ・　使用機器については、環境負荷の軽減に努めるものとし、排出ガス対策型機器・低騒音型機器低振動型機器・低燃費型機器の使用を促進する。また、電動工具類は、整備された工具を使用し、安全性に責任を持ち管理する。
	ｋその他	・　交通誘導警備員は、現場説明書による。 ・　公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めに従って、各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げ、所定の様式により監督職員に提出する。 ・　受注者は、宇治市が指名停止処置を行っている第三者に対して宇治市の契約についての全て、若しくは一部を下請、受託させてはならない。
	ｌ過積載防止	受注者は本工事における材料等の搬出入に伴う、工事車両の過積載防止について、十分注意を払うと共に、下請負人への指導を徹底する。
	ｍ官公庁その他への手続き	工事の施工に必要な官公庁その他への手続きは、受注者の責任において速やかに行うものとする。 なお、これに要する費用は受注者の負担とする。
	ｎ技術者及び現場代理人	受注者は、主任技術者及び監理技術者並びに現場代理人について、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者から選任し、配置しなければならない。
	ｏ工事完了時の整地	受注者は工事完了時に、工事敷地内及び車両通行部分は、必要に応じ砂を搬入し、整地を行う。既設コンクリート舗装、アスファルト舗装等の損傷箇所については、原状復旧する。
	ｐ建設発生土の処分	・　建設発生土を搬出する場合は「残土処理計画書（報告書）」を提出する。同計画書には処理場所の位置図及び経路図、受入承諾書を添付する。同報告書には処分したことが判明する資料（受入証明書）及び写真等を添付する。 ・　その他の建設発生土の取扱いについては、現場説明書による。
	ｑ解体等工事の事前調査	・　受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第1項・第4項に基づき、改修工事対象となる全ての部材について、特定建築材料の使用の有無について調査し、その結果を発注者に説明する。 また、第18条の15第3項・第4項に基づき、事前調査結果の記録を作成し、保存しなければならない。 調査方法は、分析による調査、目視、設計図書等による。 ・　受注者は、改正大気汚染防止法第18条の15第5項に基づき、事前調査結果を公衆の見やすい場所に掲示する。
2　発生材等処分	工事に伴う撤去材	・　撤去材・発生材は、場外搬出し関係法令を遵守し処理するものとし、「廃棄物処理計画書（報告書）」を適時提出する。同計画書には、当該廃棄物の処分業の許可証の写し、受注者と処分業者の契約書の写しに加えて、処分地の位置図及び経路図を添付する。また廃棄物を委託して運搬する場合は、該当する収集運搬業の許可証（搬出地と搬入地）の写しと受注者と運搬業者との契約書の写しを添付する。同報告書には処分したことが判明する資料として、運搬管理表(又はマニフェストの写し)及び写真等を添付する。 ・　本工事の施工により発生するアスファルト塊、コンクリート塊及び木材は再資源化施設に搬出する。 ・　その他の建築副産物の取扱いについては、現場説明書による。 ・　「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」による産業廃棄物の収集運搬車に係る表示及び書面添え付けを行う。 ・　工事完了時に産業廃棄物の収集運搬車両への表示状況が確認できる写真を提出する。
	産業廃棄物税	「京都府産業廃棄物税条例」に基づき導入される産業廃棄物税（以下「産廃税」という）は京都府内の最終処分施設に搬入される産業廃棄物について課税されるものである。また、中間処理施設に搬入された産業廃棄物においてもリサイクル後の処理残滓（ザンサイ）等が最終処分場に搬入される場合は、最終処分場に搬入される量に対して課税される。 なお、本工事においても、産廃税相当額を見込んでいる。（産廃税も本工事に含む）
3　仮設工事	工事電力･工事用水	現場説明書による。
	工事用電力設備の保安責任者	工事用電力設備の保安責任者を定め報告する。当該施設に電気主任技術者が専任されている場合はその指示を仰ぐ。 持込電動機器は整備された機器以外は持込させてはならない。また、仮設分電盤内に漏電遮断器を取り付け事故の防止に努める。
	設置・維持管理	現場説明書による。
	仮囲い	施工範囲・資材置場等に対しての侵入防止策を講じる。（フェンスバリケード（シート貼り共）等） 詳細については仮設計画図による。
	内外足場・養生等	足場等は、労働安全衛生法・建築基準法・建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い適切な材料および構造のものとし、適切な保守管理を行う。高所作業車使用時含む。また、仮設計画を作成し監督職員と協議を行う。 近接する他の部材や工作物の部分を損傷しないようにメッシュシート又は工事用シート等で養生を行う。外部足場については、手摺先行型枠組本足場（Ｗ＝900以上）とする。足場の設置に関しては、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省　平成１５年４月制定・平成２１年６月１日改正）」に基づく働きやすい安心感のある足場とし、二段手すりと幅木の機能を有する部材があらかじめ備えられた手すり先行専用足場型とするか、または改善措置機材を用いて手すり先行専用足場型と同等の機能を確保する。また、外部足場には昇降足場を設置する。
	墜落制止用器具の使用について	受注者は、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則等の改正（平成31年2月）に伴い、高所作業を行う場合には、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」に基づき、墜落、転落による労働災害の防止に努める。
4　その他	ホルムアルデヒド等の放散量測定について	「学校環境衛生基準」により、工事着工前及び工事完成時において、当該居室における空間のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・パラジクロロベンゼン･エチルベンゼン・スチレンの濃度を測定し分析結果を監督職員に提出する（検査方法・判定基準とも「学校環境衛生基準」（平成２１年４月１日施行）による） 分析機関・測定器具については、国土交通省住宅局「ホルムアルデヒド、トルエン、パラジクロロベンゼン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレン用パッシブ採取機器（サンプラー）一覧表（学校用）」による。（平成２１年４月１日改訂版） 測定場所：配膳室　２箇所、美術室　１箇所、プレハブ棟　１箇所
	電気・機械設備工事	工事着工に際し、事前に必要な機器（照明機器・放送設備・空調機器・受信設備等）器具の機能確認を行い、その結果を書面にて監督職員に報告する。
5　完成図書	完成に際しては以下の図書を提出する。	

名称	内容	サイズ	部数
完成図（背張り製本）	特記仕様書・完成図・施工図	Ａ３版	１部
完成図書	機器完成図・機器保証書・取扱説明書・各種試験成績書・諸官庁提出書類（写）	Ａ４版	２部
諸官庁提出書類	副本		一式
完成図データ	CADデータ（ファイル形式は任意とするが、JWW形式で出力したものを添付する）、PDF	ＣＤ－Ｒ	２部

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-01／56
ITEM 共通特記仕様書	SCALE		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

建築改修工事 特記仕様書

【1】 工 事 概 要

1．工 事 場 所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．敷 地 面 積 ＿＿＿＿＿＿＿＿ ㎡

3．建築物概要

	棟 名	構 造	階 数	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	備 考
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修
						○ 執務並行改修 ○ 全館無人改修

4．そ の 他

【2】 適 用 範 囲

現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。
すべての設計図書は相互に補完するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。
上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和 4年版）をいう。（以下、これを「改修標仕」という。）
本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標仕」の適用を受けるものとする。

【3】 工 事 区 分

設計図書による。
別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。

【4】 工 事 仕 様

1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標仕」のほか別記の適用基準による。
2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。
4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	① 適用基準等	○ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 建築工事標準詳細図 令和 4年改定 （監修：国土交通省） ○ 敷地調査共通仕様書 令和 4年改定 （監修：国土交通省） ○ 建築構造設計基準、同資料 令和 3年改定 （監修：国土交通省） ○ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築木造工事標準仕様書 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） ○ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編） 令和 4年版 （監修：国土交通省） （注：監修欄「国土交通省」は国土交通省大臣官房官庁営繕部を示す）
	② 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。 下記材料品目は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。 （評価名簿によるもの） 床型枠用鋼製デッキプレート（ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｷ）、鉄骨柱下無収縮モルタル、 無収縮グラウト材（ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ形、現場調合形）、押出成形セメント板、 成形伸縮目地材、乾式保護材（防水立上部）、陶磁器質タイル、既製調合モルタル（ﾀｲﾙ工事用）、既製調合目地材、ルーフドレン、吸水調整材（ﾓﾙﾀﾙ用）、 アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、 錠前類（ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠）、クローザー類（ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ、ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ）、自動扉機構（制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置）、自閉式上吊り引戸機構（手動開き式）、 重量シャッター、軽量シャッター、ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ、ガラス（ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ、型板ｶﾞﾗｽ、網入板ｶﾞﾗｽ・線入板ｶﾞﾗｽ、熱線吸収板ｶﾞﾗｽ、倍強度ｶﾞﾗｽ、熱線反射ｶﾞﾗｽ）、 ガラスブロック（中空）、防水剤、現場発泡断熱材、ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（3000N、5000N）、 可動間仕切、移動間仕切（ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ）、トイレブース、煙突用成形ライニング材、 天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム（屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム）、トップライト、エポキシ樹脂、 タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、 鋳鉄製ふた（マンホールふた・弁栓ふた）

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	④ 風圧力及び積雪に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速（Vo） ○ ３２ ○ （平成12年5月31日建設省告示第1454号） 地表面粗度区分 ○ Ⅰ ○ Ⅱ ○ Ⅲ ○ Ⅳ 多雪地域の指定 ○ なし ○ あり
	⑤ 現場代理人	本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第１０条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。
	⑥ 工事工程報告	月報は毎月末日に〆め、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（ ）曜日に提出する。
	⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)	適用する （適用事項は、現場説明書による）
	⑧ 設備工事との取合い	施工範囲 ○ 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ○ 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。
	⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。
	⑩ 工事写真 (1.2.4)	工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。 下記のものを監督職員に提出する。

		部 数(ネガ1枚につき)	分 類 ・ 規 格	原版の大きさ（㎜）
着 工 前		○ １ ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
工 事 中		○ １ ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
完成時	屋 内	○ ２ ○	○ カラーサービス版	○ 24×36以上
	（ ）箇所	○ ２ ○	○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上
	外 観	○ ２ ○	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上
	（ ）箇所		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上

写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。
完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。
○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。

	11 電気保安技術者 (1.3.3)	適用する
	⑫ 施工条件 (1.3.5)	現場説明書による
	⑬ 発生材の処理等 (1.3.12)	○ 引渡しを要するもの （ ） ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの （ ） ○ 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による） ○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ○ 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による） ○ 指定地処分 （ ） ○ 自由処分 （ 最寄りの再資源化施設へ搬出すること ） ○ 指定副産物以外の搬出 ○ 構外搬出適切処理 ○ （ ）

○ 特別管理産業廃棄物

種 類	処 理 方 法
○ 廃石綿等	
○ ＰＣＢを含む機器類	
○ ＰＣＢ含有シーリング	
○ 廃油	
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）	
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）	
○ ＳＦ６ガス使用機器	

○ 廃石綿の処分地 （ ㈱京都環境保全公社瑞穂センター ）

せっこうボードの処理方法
○ 石綿含有せっこうボードの処理 改修標仕9.1.5による
○ ひ素・カドミウム含有のせっこうボードの処理
○ 製造業者にて処分 ○ 埋立処分
○ その他のせっこうボードの処理
○ 最終処分 ○ 再資源化

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	14 石綿含有建材の調査 (1.5.1)	ＰＣＢ含有シーリング材の分析調査 ○ 行う（＿＿箇所） ○ 行わない ＰＣＢ含有シーリング材の撤去・処分方法は「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取扱」による。 次の建設廃棄物は再資源化する。 ○ 蛍光灯ランプ ○ ＨＩＤランプ ○ 硬質塩化ビニル管・継手 再生資源利用［促進］計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書による。 マニフェスト制度 ○ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。 調査 ○ 行う 石綿の除去に当たり、あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を下記により行い、結果を取りまとめ、監督職員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。 調査範囲 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿ 調査事項 ※ 石綿使用部位の確認 ※ 石綿層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない 石綿含有分析方法 ○ 行う（分析結果を監督職員に提出する） ※ JIS A 1481に基づくこと

材 料 名	定性分析	定量分析
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）
	○（ 箇所数 ）	○（ 箇所数 ）

サンプル数 １箇所あたり３サンプル
○ 行わない

既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ○ なし

	15 調査のための破壊部分の補修 (1.6.3)	既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
	16 技能士 (1.7.2)	(1.7.2)

工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業
仮設工事	○ とび作業
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	○ 左官作業 ○ 型枠工事作業 ○ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	○ 構造物鉄工作業 ○ とび作業
ﾌﾞﾛｯｸ及びALCﾊﾟﾈﾙ工事	○ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ○ ALCﾊﾟﾈﾙ工事作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	○ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工作業 ○ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ○ ｶﾞﾗｽ工事作業
防水工事	○ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ○ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業 ○ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ○ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ○ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ｺﾞﾑ系シート防水工事作業 ○ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ○ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ工法防水工事作業
石工事	○ 石張り作業
タイル工事	○ タイル張り作業
木工事	○ 大工工事作業
屋根及びとい工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業
金属工事	○ 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業
左官工事	○ 左官作業
塗装工事	○ 建築塗装作業
建具工事	○ ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業
内装工事	○ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業 ○ ﾎﾞｰﾄﾞ仕上工事作業 ○ 家具手加工作業 ○ 壁装作業
排水工事	○ 建築配管作業
舗装工事	○ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ○ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	○ 造園工事作業

ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	17 施工の検査等 (1.7.5)	見本施工の実施 ○ 適用する（ ） ○ 適用しない
	18 化学物質の濃度測定 (1.7.9)	適用する （適用事項は、現場説明書による）
	⑲ 完成図 (1.9.2)	作成する （提出部数 ○ ２部 ○ ＿＿部 ） 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。
	⑳ 保全に関する資料 (1.9.3)	作成する （提出部数 ○ ２部 ○ ＿＿ 部 ） ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。
2 仮設工事	① 足場その他 (2.1.3) (2.2.1)	労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ● 施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ ＿＿＿＿ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ● ネット及び養生シート 材料、搬去材等の運搬方法 ○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 ● E種 （表2.2.1）

足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中桟及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の２の（２）手すり据置方式又は（３）手すり先行専用足場方式を採用すること。
屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971（屋根工事用足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。

	② 既存部分の養生 (2.3.1)	既存部分の養生 ※ 行う（ ※ ビニールシート、合板 ○ ＿＿＿＿＿＿ ） ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う（ ※ ビニールシート ○ ＿＿＿＿＿＿ ） ○ 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ○ 行わない 養生の方法 ○ 取り外しのうえ清掃 ○ ＿＿＿＿ 保管場所 ○ 室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ ＿＿＿＿ 家具の移動 ○ 行う （ 図示 ） ● 行わない 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	③ 仮設間仕切り (2.3.2)	● 設ける （ 図示 ）

種別	仕上げ（厚さ㎜）	塗装	充填
○ A種	○ せっこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ ㎜ ○ 9.5㎜	● なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/㎥ ○＿＿ 厚さ ○ 50㎜
● B種	● 合板 材質 ● ﾗﾜﾝ合板 ○＿＿ 厚さ ○ ㎜ ● 9㎜		
※ C種	全面シート張り		

○ 設けない

	4 監督職員事務所 (2.4.1)	規模 ○ 10㎡程度 ○ 20㎡程度 ○ 35㎡程度 ○ 65㎡程度 ○ 100㎡程度 仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ ﾋﾞﾆﾙ床シート敷き ○ ﾊﾟﾝﾁｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせっこうﾎﾞｰﾄﾞ張り、合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り 屋根 ○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける（畳敷き） ○ ＿＿＿＿ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類ﾛｯｶｰ（上記６品、＿＿人分程度） ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ ＿＿＿＿ ○ 改修標仕（令和4年版） ○ 建築改修工事監理指針（令和4年版） ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図（令和4年改定） ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）

1/100 1/200 1/300 1/500

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度	図名	建築改修工事特記仕様書 1
	令和 年 月	図番	No. A-02
			56 枚の内

Ver. R04(R05. 02)

2 仮設工事

5 工事用水　構内既存の施設　○ 利用できない　● 利用できる（ ○ 有償　○ 無償 ）

⑥ 工事用電力　構内既存の施設　○ 利用できない　● 利用できる（ ○ 有償　○ 無償 ）

⑦ 仮囲い等　● 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿

⑧ 設計ＧＬ　● 図示による　○ 設計ＧＬ＝現状ＧＬ

（2） 土・鉄筋・コンクリート工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（令和4年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。
なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。

① 埋め戻し及び盛土 (3.2.3)　(表3.2.1)
- ○ Ａ種　砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め
- ● Ｂ種　根切り土の中の良質土を機器による締固め
- ○ Ｃ種　他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め
- ○ Ｄ種　再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め
- ○ その他（材料＿＿＿＿＿＿＿＿工法＿＿＿＿＿＿＿＿）
- ○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（　　m3）
  発生場所（　　）

② 建設発生土の処理 (3.2.5)　下記に定めるほかは、現場説明書による
- ● 構外指示の受入場所に処分
  - 受入場所　● （一財）城陽山砂利採取地整備公社　○ ＿＿＿＿＿＿
  - 土壌調査　● 行う（受入場所指定の検査）　○ ＿＿＿＿＿＿
  - ● 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例 施行規則第７条第３項１３号及び第４項に規定する方法
  - 仮置場所　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
- ○ 構内指示の場所に敷き均し
- ○ 構内指示の場所にたい積

③ 鉄筋の種類 (5.2.1)　(表5.2.1)

	種類の記号	径（mm）	備　考
異形鉄筋	※ ＳＤ２９５	Ｄ１６以下	
	※ ＳＤ３４５ ○	Ｄ１９以上	一般建築物の柱・梁の主筋に適用する

④ 溶接金網 (5.2.2)　網目の形状、寸法 150×150　鉄線の径 6 mm

⑤ コンクリートの種類 (6.2.1)　(表6.2.1)
- 種類　※ 普通コンクリート　○ ＿＿＿＿＿＿
- 類別　※ Ⅰ類　○ Ⅱ類

⑥ コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1)

設計基準強度（Ｆc）

打設部位		Ｆc（N/mm２）	スランプ（cm）	備　考
構造体	基礎	● ２４ ○	● １５ ○ １８	
	上部	● ２４ ○	○ １５ ○ １８	土間スラブを含む
土間コンクリート		● １８ ○	● １５ ○ １８	側溝・犬走り
捨コンクリート		● １８ ○	● １５ ○ １８	
軽量コンクリート		○ ２１ ○	※ ２１ ○ １８	
無筋コンクリート		※ １８ ○	○ １５ ○ １８	標仕6.14.1による

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
｛Ｆｃ＋構造体強度補正値(S)｝N/mm２
(6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

⑦ セメントの類別 (6.3.1)
- ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
- ○ 高炉セメントＢ種 （適用箇所＿＿＿＿＿＿＿＿）
- ○ シリカセメント
- ○ フライアッシュセメントＢ種（施工箇所 ＿＿＿＿＿＿）

⑧ 骨材 (6.3.1)
- 粗骨材　※ 砂利(JIS A5308)，砕石(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
- 細骨材　※ 砂(JIS A5308)，砕砂(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 銅ｽﾗｸﾞ　○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
- アルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ（無害）　○ ＿＿＿＿＿＿

⑨ 混和材料 (6.3.1)
- ● 混和剤　※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のⅠ種(JIS A 6204)
  防錆剤　※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
- ○ 混和材　※ フライアッシュ(JIS A 6201)Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
  - ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
  - ○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
  - ○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

⑩ 構造体強度補正値 (6.3.2)　(表6.3.2)

※ 気温による構造体強度補正値（Ｓ）

予想平均気温（℃） 普通	早強	補正値 (S)	期間（打設日） 南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm２	3/6 ～ 6/30 9/11～ 11/15	3/11～ 7/20 9/1 ～ 11/5	3/11～ 7/10 9/1 ～ 10/31
0以上 8未満	0以上 5未満	6 N/mm２	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市（一部を除く）、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む）

⑪ コンクリートの試験 (6.9.2) ～(6.9.5)
- ※ フレッシュコンクリートの試験
- ○ 省略する

12 軽量コンクリート (6.10.1) ～(6.10.3)
- 常時土又は水に直接接する部分の使用　○ 可　○ 不可
- 種類　○ １種　○ ２種
- 施工箇所 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 気乾単位容積質量 ＿＿＿＿ t/m3

13 寒中コンクリート (6.11.1)
- ※ 予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

14 暑中コンクリート (6.12.2)
- ※ 暑中における構造体強度補正値（Ｓ）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	７月１１日～８月３１日	※ ６N/mm2 ○ ３N/mm2
中部地域	７月２１日～８月３１日	
南部地域	７月 １日～９月１０日	

⑮ ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等
- 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

3 防水改修工事

1 既存防水の処理 (3.1.4) (3.2.3) ～(3.2.5)
- 既存保護層の撤去
  - ○ 行う（範囲　○ 図示による　）
  - ○ 行わない
- 既存防水層の撤去
  - ○ 行う（範囲　○ 図示による　）
  - ○ 行わない
- 既存露出防水層表面の仕上塗装の除去
  - ○ 行う（ ○ M4AS ○ M4ASI ○ M4C ○ M4DI ○ L4X）　○ 行わない

2 既存下地の処理 (3.2.6)
- 既存下地の修正箇所の形状、長さ、数量等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿

3 アスファルト防水 (3.3.2) ～(3.3.5)

○ 屋根保護防水工法

種	別		防水層	施工箇所
○ Ｐ１Ｂ 工法	○ B-1	○ B-2	表3.3.3	
○ Ｐ１Ｂ Ｉ 工法	○ BI-1	○ BI-2	表3.3.4	
○ Ｐ２Ａ Ｉ 工法	○ AI-1 ○ AI-3	○ AI-2	表3.3.5	
○ Ｐ２Ａ 工法	○ A-1 ○ A-3	○ A-2	表3.3.6	

○ 屋根露出防水工法

種	別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｍ４ Ｃ 工法	○ C-1 ○ C-3	○ C-2 ○ C-4	表3.3.7			
○ Ｍ３ Ｄ 工法 ○ Ｐ０ Ｄ 工法	○ D-1	○ D-2	表3.3.8			

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種	別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｐ０ Ｄ Ｉ 工法 ○ Ｍ３ Ｄ Ｉ 工法 ○ Ｍ４ Ｄ Ｉ 工法	○ DI-1	○ DI-2	表3.3.9			

○ 屋内防水工法

種	別		防水層	施工箇所
○ Ｐ１ Ｅ 工法 ○ Ｐ２ Ｅ 工法	○ E-1	○ E-2	表3.3.10	

3 防水改修工事

4 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ～(3.4.4)
- ○ 断熱材（屋根保護防水断熱工法）
  厚さ ＿＿＿＿ mm
- ○ 断熱材（屋根露出防水断熱工法）
  厚さ ＿＿＿＿ mm
  種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿
- ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
  ※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
- 絶縁用シート　※ ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上（保護防水工法）
  ※ フラットヤーンクロス（70g/㎡程度）
  ○
- 立上り部の押え金物　※ アルミニウム製 L-30×15×2.0　○
- 立上がり部の保護　○ 乾式保護材
  - ○ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）(厚さ＿＿＿＿幅＿＿＿＿)
  - ○ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）(厚さ＿＿＿＿幅＿＿＿＿)
  - ○ 普通れんが(JIS R 1250)　○ 化粧れんが(JIS R 1250)
  - ○ コンクリート（工法＿＿＿＿＿＿）
- 保護層　平場の保護コンクリート厚さ ○ ＿＿＿＿mm
  - ○ こて仕上げ＿＿＿＿ mm
  - ○ 床タイル張り等仕上げ＿＿＿＿ mm
  - コンクリート仕上がりの平たんさ　○ａ種　○ｂ種　○ｃ種　(表8.1.5)
- 脱気装置　○ 設ける　材種（　　）　設置数量　（１箇所／＿＿＿㎡）
- 伸縮目地　※ 成形伸縮目地材　○ ＿＿＿＿＿＿
- 成形緩衝材　※ ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の指定品　○ ＿＿＿＿＿＿
- 屋上排水溝　※ 図示による

○ 屋根露出防水密着工法

種	別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｍ４ Ａ Ｓ 工法	○ AS-T1 ○ AS-J2	○ AS-T2	表3.4.1			

○ 屋根露出防水絶縁工法

種	別		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｍ３ Ａ Ｓ 工法 ○ Ｐ０ Ａ Ｓ 工法	○ AS-T3 ○ AS-J1	○ AS-T4 ○ AS-J3	表3.4.2			

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｍ３ Ａ Ｓ Ｉ 工法 ○ Ｍ４ Ａ Ｓ Ｉ 工法 ○ Ｐ０ Ａ Ｓ Ｉ 工法	○ ASI-T1 ○ ASI-J1	表3.4.3			

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度　○ ＿＿＿＿
断熱材（屋根露出防水絶縁断熱工法）
厚さ ＿＿＿＿ mm
種類 ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける　材種（　　）　設置数量　（1箇所/＿＿＿㎡）
防湿層（屋根露出防水絶縁断熱工法）　○ 設ける　○ 設けない

5 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水 (3.5.2) ～(3.5.4)

種	別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｐ０ Ｓ 工法	○ S(I)-F1	表3.5.1 表3.5.2 表3.5.3	○ ＿＿＿＿ ○ﾌﾟﾗｲﾏｰｽﾄﾝｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
○ Ｓ４ Ｓ 工法	PC部材入隅増張 （ ※有り ○無し ）				
○ Ｐ０ Ｓ Ｉ 工法	○ S(I)-F2　○ S(I)-M1				
○ Ｓ４ Ｓ Ｉ 工法	○ S(I)-M2				
○ Ｓ３ Ｓ 工法	○ S(I)-F1		○ ＿＿＿＿ ○ﾌﾟﾗｲﾏｰｽﾄﾝｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
○ Ｓ３ Ｓ Ｉ 工法	PC部材入隅増張 （ ※有り ○無し ） ○ S(I)-F2				
○ Ｍ４ Ｓ 工法 ○ Ｍ４ Ｓ Ｉ 工法	○ S(I)-M1　○ S(I)-M2		○ ＿＿＿＿ ○ﾌﾟﾗｲﾏｰｽﾄﾝｺﾝｸﾘｰﾄ下地		
○ Ｐ１ Ｓ 工法	○ S-C1		ﾓﾙﾀﾙ塗り厚さ ＿＿＿＿ mm		

S-F1、S-M1、S-M2の仕様
※ 非歩行仕様
○ 軽歩行仕様

断熱材（断熱工法）
厚さ ○ ＿＿＿＿mm
種類
機械的固定工法の場合
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
接着工法の場合
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２の場合の防湿用フィルム　○ 設置する

3 防水改修工事

6 塗膜防水 (3.6.2) ～(3.6.3)

接着工法の場合で、ＰＣｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の場合
目地処理　※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿
入隅部の増張り（Ｓ－Ｆ１、Ｓ－Ｆ１の場合）　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シート　※ 発泡ポリエチレンシート　○ ＿＿＿＿
仕上げ塗料　○ ｶﾗｰ　○ ｼﾙﾊﾞｰ
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける　材種（　　）　設置数量　（1箇所/＿＿＿㎡）
※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

種別及び工程		防水層	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
○ Ｐ ０ Ｘ 工法	※ X-1　○ X-2 ○ X-1H　○ X-2H	表3.6.1 表3.6.2			
○ Ｌ ４ Ｘ 工法	○ X-1　※ X-2 ○ X-1H　○ X-2H				
○ Ｐ １ Ｙ 工法	※ Y-2	表3.6.3			
○ Ｐ ２ Ｙ 工法	○＿＿				

脱気装置(X-1)　○ 設ける　材種（　　）　設置数量　（1箇所/＿＿＿㎡）
保護層　○ 設ける　○ 設けない

7 漏水試験　※ 水張り試験を行う　（ ○ 屋内　○ 屋外 ）

8 保証書　※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。（保証年限は工事目的物引渡しより１０年間以上とする。）

9 施工標識　工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。
材質　※ 真鍮製エッチング仕上 150×100　○ ＿＿＿＿＿＿
設置数量　（　　）　箇所

⑩ シーリング (3.1.4) (3.7.2) ～(3.7.8)

シーリング材の種類 ※ 改修標仕　表3.7.1による

シーリング改修工法及び施工箇所

改修工法の種別	施工箇所
● シーリング充填工法	図示による
○ シーリング再充填工法	
○ 拡幅シーリング再充填工法	
○ ブリッジ工法	

仕上げを行わない施工箇所（ ○ 図示による ）○ ＿＿＿＿
目地寸法　コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地
※ 幅20mm以上、深さ10mm以上　○ ＿＿＿＿＿＿
ガラス回りの目地
※ 幅5mm以上、深さ5mm以上　○ ＿＿＿＿＿＿
その他の目地
※ 幅10mm以上、深さ10mm以上　○ ＿＿＿＿＿＿

シーリングの試験　※ 簡易接着性試験　（部位 ＿＿＿＿＿＿）
○ 引張接着性試験　（部位 ＿＿＿＿＿＿）

11 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)

※ 外とい（外気に接するとい）

	材種	その他
ルーフドレン	※ルーフドレン（JCW 301） ○	取付け ○＿＿＿＿ ※水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する
軒どい	○ 硬質塩化ビニル製（角形） ○	（前高）　巾120mm （カラー）巾150mm
たてとい	○ 硬質塩化ビニル管（VP） ○	（カラー）径　75mm
谷どい	○	
とい受け金物、足金物	※改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下

1/100 1m 1/500 0 5 10 15m 1/500 0 5 10 15 20 25m

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度	図名	建築改修工事特記仕様書２
	令和　年　月	図番	No. A-03

Ver.R04(R05.02)

3 防水改修工事

○ 内とい（ＶＰ管は使用しない）

材質	その他
たてとい及び横走り管 ○ SGP ○	径 75mm
とい受け金物、足金物 ※改修標仕 表 3.8.2 により溶融亜鉛めっきを行ったもの ○	○ 多雪地域の軒とい の取付間隔 0.5m 以下
防露巻き ※ 改修標仕表3.8.3による	※Ｆ☆☆☆

※ 掃除口を設ける（開放性のある自転車置き場のといを除く）
○ 養生鉄管を設ける（径＿＿＿ 厚さ＿＿＿ 長さ＿＿＿）
○ 既存といの撤去及び養生 （ ）
○ 鋼管製といの防露巻 （ ※ 改修標仕表3.8.4による ○ ＿＿＿＿＿）
○ たてどい受金物（ ）

12 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3)

(表3.9.1)(表5.2.2)

種類	幅	板厚(mm)	表面処理	備考
○ 250 形	250	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。
○ 300 形	300	1.8	○ AC-1種 ○ AC-2種	
○ 350 形	350	2.0	○ BA-1種 ○ BA-2種	
○			○ BB-1種 ○ BB-2種	
曲げ材 ○＿＿		※ 2.0	○ BC-1種 ○ BC-2種	
○ｵｰﾌﾟﾝ形式		○＿＿	○ C種	
○ｼｰﾙ形式				

既存笠木等の撤去 ○ 行う （範囲 ○ 図示 ○ ）
○ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ○
板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○
建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法
※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

4 外壁改修工事

1 施工数量調査 (1.6.2)

調査範囲 ○ 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲
調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。
モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○ ＿＿＿＿
調査報告書の部数 ○ ２部 ○ ＿＿＿＿
※ 施工に先立ち、建築仕上診断技術者（BELCA）による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。

2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.4) ～(4.2.7)

○ コンクリート打放し仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○＿＿＿＿	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○＿＿＿＿	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○＿＿＿＿	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○＿＿＿＿	○130

コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない （注入状況確認方法 ＿＿＿＿）
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ ＿＿＿＿
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ Uカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料 ※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ○ ＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

(4.1.4) (4.3.5) ～(4.3.8)

○ モルタル塗り仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

コア抜取り検査 ○ 行う ○ 行わない
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ ＿＿＿＿
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ Uカットシール材充填方法
○ シーリング材
充填材料 ※ １成分形又は２成分形ポリウレタン系 ○ ＿＿＿＿
ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない
○ 可とう性エポキシ樹脂
○ シール工法
○ パテ状エポキシ樹脂
○ 可とう性エポキシ樹脂

(4.1.4) (4.4.5) ～(4.4.6)

○ タイル張り仕上げ
○ 樹脂注入方法

工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200～300 ○	○130
○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50～100 ○	○40
○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100～200 ○	○70
	0.5以上1.0未満	○150～250 ○	○130

ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき1個 ○
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ ＿＿＿＿

タイル撤去後の補修

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコーン樹脂 ○ ウレタン樹脂	
○ タイル張替え工法		

3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.4) (4.2.7)

○ コンクリート打放し仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル	
	○ ポリマーセメントモルタル	

(4.1.4) (4.3.9)

○ モルタル塗り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル	
	○ ポリマーセメントモルタル	
○ モルタル塗替え工法	※ 改修標仕表4.3.3による	仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○

(4.1.4) (4.4.5) (4.4.7) ～(4.4.8)

○ タイル張り仕上げ

工法	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	
○ タイル張替え工法	○ 張付けモルタル ○ 現場調合材料 ○ 既調合モルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤(JIS A 5557による)	

4 外壁改修工事

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ○ 改修標準仕様書4.4.2による ○
タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
○ 行う ○ 行わない
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ セメントモルタルによるタイル張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
タイル張りの工法
外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り
外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ○
タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル

4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.11) ～(4.3.16)

○ モルタル塗り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部 / 指定部	注入口（箇所/㎡）一般部 / 指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※16 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○		○		
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※50	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※ 9 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		○		
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※50	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※16 ○	※16 ○		○	

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○
注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm程度
○

注入工法用材料
○ ポリマーセメントスラリー

広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm2）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm2）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm2）
３以上	３以下	0.5以上	5.0以上	15以上	5.0以上

保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00
○ 充填工法用材料
○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル
○ モルタル塗替え工法用材料
既製目地材 ○ 使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○

(4.1.4) (4.4.5) (4.4.9) ～(4.4.15)

○ タイル張り仕上げ

工法	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ（本/㎡）一般部 / 指定部	注入口（箇所/㎡）一般部 / 指定部	充填量（箇所/ml）	注入量（箇所/ml）	施工箇所
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※16 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※25 ○		○		
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※13 ○	※12 ○		※50	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※20 ○	※20 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分	※ 9 ○		※25		
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○		○		
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面	※ 9 ○	※ 9 ○		※50	
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※16 ○	※16 ○		○	
○ 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ			※25	※25	
ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法			○	○	

4 外壁改修工事

(4.2.4) (4.4.7) ～(4.4.8)

アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
○ ＿＿＿＿＿＿
注入口付アンカーピン
※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径6mm程度
○ ＿＿＿＿＿＿

工法	1箇所の面積（㎡）	材料	施工箇所
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤（JIS A 5557による）	
○ タイル張替え工法		○ 張付けモルタル ○ 現場調合材料 ○ 既調合モルタル ○ 一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系接着剤（JIS A 5557による）	

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○
タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験
○ 行う ○ 行わない
抜取り部の補修方法 ○ 図示 ○
○ セメントモルタルによるタイル張り
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理
○ 目荒し工法（4.3.10(3)による） ○
タイル張りの工法
外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り
外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
○ 有機系接着剤によるタイル張り
シーリング材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○
伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコーン系 ○
タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル

5 目地改修工法 (4.1.4) (4.4.5) (4.4.16)

タイル張り仕上げ
○ 目地ひび割れ部改修工法
○ 伸縮調整目地改修工法
位置 ※ 改修標仕表4.4.2による ○ 図示による
寸法（幅×深さ）
ｺﾝｸﾘｰﾄ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20mm以上×10mm以上 ○ ＿＿＿＿
その他 ※ 10mm以上×10mm以上 ○ ＿＿＿＿

6 樹脂注入工法 (4.2.4) (4.2.5)

建築補修用注入エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形

ひび割れの幅（mm）	0.2～0.3未満	0.3～0.5未満	0.5～1.0以下
注入孔の間隔（mm）	２００程度	３００程度	３００程度
注入量（CC/mm）			

※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法
○ 機械式エポキシ樹脂注入工法

ひび割れ部の注入状況の確認
○ コア抜取り検査
（抜取り個数 ※ 長さ500mごと及びその端数につき１個 ○ ＿＿＿＿）
（抜取り部分の補修方法 ＿＿＿＿＿＿＿＿）
○ ＿＿＿＿＿＿

7 Uカットシール材充填工法 (4.2.6)

シーリング材の上にポリマーセメントモルタル
○ 行う

8 ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ注入工法 (4.3.5)

アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒
○ ＿＿＿＿＿＿

9 注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ注入工法 (4.3.5)

注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径外径6mm程度
○ ＿＿＿＿＿＿

10 モルタル塗替え工法 (4.3.5)

モルタル ○ 現場調合材料
○ 既調合材料（ ）
既製目地材 ○ 使用する（形状 ）

1/100 1/300 1/500

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度	図名	建築改修工事特記仕様書３
	令和 年 月	図番	No. A-04 / 56 枚の内

Ver. R04(R05.02)

4 外壁改修工事

11 ﾀｲﾙ部分張替え工法及びﾀｲﾙ張替え工法 (4.4.5) (4.4.7) ～(4.4.8)

施工箇所及びﾀｲﾙの種別	形状寸法(mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他
○ 図示		○ 磁器 ○ せっ器 ○ 陶器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	○ 有り ○ 無し		

○ 既調合モルタル（ ＿＿＿＿＿＿ ）
タイルの試験張り　※ 行わない　○ 行う（施工箇所 ＿＿＿＿＿＿ ）
タイルの見本焼　※ 行わない　○ 行う（範囲、仕様は図示による）
施工後の確認及び試験（タイル部分張替え工法を除く）
浮きの確認　※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験　※ 接着力試験機による接着力試験を行う　○ 行わない

12 窓下人研面台の補修

タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　※ 改修標仕表4.4.2による　○ 図示による

13 仕上塗材 (4.1.5) (4.5.2) (4.5.6)

○ シール工法　（※仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。）
※ 塗膜防水　（※弾性ウレタン系　○エポキシ系　）

薄付け仕上塗材（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ		工法	備考
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー塗り	
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー塗り	
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー塗り	
	○ 着色骨材砂壁状	○こて塗り	○吹付け	
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状	○ ゆず肌状	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー塗り	
○ 防水形外装薄塗材E	○ ゆず肌状	○ さざ波状	ローラー塗り	
（ ○ 増塗材 ）	○ 凹凸状		吹付け	
○ 外装薄塗材S	砂壁状		吹付け	

厚付け仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ		工法	備考
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け	
	○ 平たん状	○ 凹凸状	こて塗り	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起こし	○ かき落とし		
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し	○ 凸部処理	吹付け	
○ 外装厚塗材E	○ 平たん状	○ 凹凸状	○こて塗り	
（ ○ 上塗材 ）	○ ひき起こし		○ローラー塗り	

複層仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ	工法	備考
○ 複層塗材CE	○ 凸部処理	吹付け	
○ 複層塗材Si	○ 凹凸状		
○ 複層塗材E			
○ 複層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラー塗り	
○ 可とう形複層塗材CE	○ 凸部処理　○ 凹凸状	吹付け	
	○ ゆず肌状	ローラー塗り	
○ 防水形複層塗材CE	○ 凸部処理	吹付け	
○ 防水形複層塗材E	○ 凹凸状	（ ○増塗材）	
○ 防水形複層塗材RE	○ ゆず肌状	ローラー塗り	

可とう形改修用仕上塗材　（JIS A 6909）　(表4.5.1)

種類（呼び名）	仕上げ	工法	備考
○ 可とう形改修塗材E	○ 平たん状	ローラー塗り	
○ 可とう形改修塗材RE	○ さざ波状	ローラー塗り	
○ 可とう形改修塗材CE	○ ゆず肌状	吹付け	

防火材料の指定　※ なし　○ ＿＿＿＿＿＿
下地補修後の打放しコンクリート壁面の仕上げ補修
※ 行う　（参考工法：＿＿＿＿＿＿ 製造所：＿＿＿＿＿＿ ）
○ 行わない

仕上塗材の耐候性　※ 耐候形３種　○ ＿＿＿＿
仕上塗材の上塗材　溶媒　※ 水系　○ ＿＿＿＿
樹脂　※ アクリル系　○ ＿＿＿＿
外観　※ つや有　○ つやなし　○ メタリック

14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.5.4) (4.5.5)

既存塗膜の除去方法　※ 試験施工実施
○ サンダー工法
○ 高圧水洗工法（試験施工実施）　（加圧力　○ 30Mpa　○ ＿＿＿＿ ）
○ 塗膜はく離剤工法（製造所：＿＿＿＿ ）
○ 水洗い工法　（ ○ ﾃﾞｯｷﾌﾞﾗｼ　○ 高圧ｷﾞﾝﾌﾞ10～15pa ）
既存塗膜の除去範囲
※ 既存仕上げ面全体　○ 既存壁面の（ ＿＿＿％）　○ 別図に示す範囲

4 外壁改修工事

下地処理　下地のひび割れ部等の補修　○ 図示による
下地調整材　※ セメント系下地調整材（JIS A 6916）
○ ポリマーセメントモルタル
○ 防水形仕上塗材主材（JIS A 6910(複層仕上塗材)）

15 マスチック塗材塗り (4.1.5) (4.6.2)

種別　○ A種　※ B種　(表4.6.1)

16 部分改修工法 (4.5.7)

仕上げ塗材の種類　○ 薄付け仕上塗材　○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材
○ 防水形複層仕上塗材　○ マスチック塗材
施工箇所　○ 別図に示す範囲　○ ＿＿＿＿＿＿

17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.7.2) (4.7.3)

外壁用塗膜防水塗り
仕上げの形状 ＿＿＿＿＿＿ 工法 ＿＿＿＿＿＿
外壁用仕上げ塗材の耐候性　○ ＿＿＿＿＿＿
下地挙動緩衝材の適用　○ 適用する　○ 適用しない
吹付け工法の模様材の種類 ＿＿＿＿＿＿ 所要量 ＿＿＿＿ (kg/㎡)
外壁用仕上げ塗材の種類 ＿＿＿＿＿＿ 所要量 ＿＿＿＿ (kg/㎡)

5 建具改修工事

① 性能

※ 「第１章　一般共通事項　4　風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

2 施工数量調査 (1.6.2)

※ 行う（ ○ 建具金物　○ ガラス　○ ガラス止め材　○ ＿＿＿＿ ）
※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。
● 行わない

③ 改修工法 (5.1.3)

既存建具を新規建具に改修する場合
※ かぶせ工法（ ● カバー工法　○ 持出し工法　○ ノンシール工法 ）
● 撤去工法　（ ○ はつり工法　○ 引き抜き工法 ）
新規に建具を設置する場合
新規建具を設ける壁の開口方法　※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿
新規建具周囲の補修工法及び範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿＿＿

④ 防火戸 (5.1.4)

※ 図示による　○＿＿＿＿＿＿
防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動
○ 連動させる　（※建具表による ○＿＿＿＿ ）
○ 連動させない

5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)

建具見本の製作　○ 行う　（建具番号＿＿＿＿＿＿ ）
特殊な建具の仮組　○ 行う　（建具番号＿＿＿＿＿＿ ）
○ ブラインドボックス等の再使用　（ ＿＿＿＿＿＿ ）

⑥ 防犯建物部品 (5.1.7)

開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所
・ ドア　適用箇所 （ ＿＿＿＿＿＿ ）
・ サッシ　適用箇所 （ ＿＿＿＿＿＿ ）
⊙ シャッター　適用箇所 （ SS-1 ）

⑦ アルミニウム製建具 (5.2.2) ～(5.2.5)

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級　(表5.2.1)

性能等級	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S－4　○	※ S－5　○	※ S－6　○
気密性	※ A－3　○		※ A－4　○
水密性	※ W－4　○		※ W－5　○
枠見込み(mm)	※ 図示　● 70　○ 100		○ 図示　○

表面処理　(表5.2.2)

種別	色	施工箇所
● BB－1種	● 標準 ○ 特注	※ 図示による　○
○ BB－2種	○ 標準 ○ 特注	※ 図示による　○
○	○ 標準 ○ 特注	
○	○ 標準 ○ 特注	
○	○ 標準 ○ 特注	

○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

結露水の処理方法　○ 水貯め式　○ 排水式　※ 図示による　○＿＿＿＿
水切り、ぜん板等　※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○＿＿＿＿＿＿

5 建具改修工事

8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3)

防虫網　網の種別　※ 合成樹脂製　○ ガラス繊維入り合成樹脂製
○ ステンレス製（SUS316）
形式　※ 外部可動式　○ 固定式
線径、網目　※ 0.25mm以上、16～18メッシュ　○ ＿＿＿＿＿＿
防鳥網　○ 設置する

9 樹脂製建具 (5.3.2) ～(5.3.5)

外部に面する樹脂製建具の性能等級　(表5.3.1)

性能等級	○ A種	○ B種	○ C種
耐風圧性	※ S－4　○	※ S－5　○	※ S－6　○
気密性	※ A－4　○		
水密性	※ W－4　○	※ W－5　○	
枠見込み(mm)	※ 図示　○		

○ 防音ドア、防音サッシとする場合(遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○＿＿＿＿)
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合(断熱性の等級 ○H-4 ○H-5 ○H-6 ○H-7 ○H-8)

ガラス　※ 複層ガラス　○ 単板ガラス　○ 三重ガラス　○ ＿＿＿＿
表面色　○ 標準色　○ 特注色
水切り、ぜん板等　※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○＿＿＿＿＿＿

⑩ 鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2) ～(5.4.4)

外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性能の等級（ ○ ＿＿＿＿ ）(表5.2.1)
簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない　(表5.4.1)
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

JISただし書き建具の寸法許容差（これ以外は改修標仕による）
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による
鋼板類の厚さ　※ 表5.4.2（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く）
○＿＿＿mm
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○＿＿＿＿＿＿
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による

⑪ 鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.5.2) ～(5.5.4)

簡易気密型ドアセットの気密性　※ 適用する（A－3）　● 適用しない
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級 ＿＿＿＿＿＿ ）

鋼板　※ 表面処理亜鉛めっき鋼板　○ ビニル被覆鋼板
○ カラー鋼板
鋼板類の厚さ　※ 表5.5.1（片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く）
○＿＿＿mm
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板　○ ＿＿＿＿＿＿)
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○＿＿＿＿＿＿
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法　※ 建具表による

12 ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2) ～(5.6.5)

外部に面する建具の耐風圧性　耐風圧性能の等級（ ○ ＿＿＿＿ ）(表5.2.1)
簡易気密扉の気密性、水密性　※ 適用する　○ 適用しない　(表5.4.1)
○ 防音ドア、防音サッシとする場合（遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○T-3 ）
○ 断熱ドア、断熱サッシとする場合（断熱性の等級 ○H-2 ○H-3 ）
○ 耐震ドアとする場合　（面内変形追随性の等級○D-1 ○D-2 ）

ステンレス鋼板の種類　○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ ＿＿＿＿
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　○＿＿＿＿＿＿

JISただし書き建具の寸法許容差
※ 製造所標準製作規定寸法許容差による
表面仕上げ　※ ＨＬ　○ 鏡面仕上げ
曲げ加工　※ 普通曲げ　○ 角出し曲げ

5 建具改修工事

⑬ 建具用金物 (5.8.2) ～(5.8.4)

マスターキーの製作
※ 作成する　（ ＿＿＿ グループ、各グループ＿＿＿個）　○ 作成しない
● 在来マスターキーに合わせる
鍵の制作本数　※ ３本１組（室名札付き）　○ ＿＿＿＿＿＿
鍵箱　※ 無　○ 有

開き戸　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
○ シリンダー箱錠	○ 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ○ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金,（○ｽﾃﾝﾚｽ,　○黄銅 ） ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	○ 取付位置（ ）
		実用性能項目 ※ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具） ○＿＿＿＿ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
● 本締り錠	ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ：ｽﾃﾝﾚｽ	実用性能項目 ※ｸﾞﾚｰﾄﾞ３以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ｽﾃﾝﾚｽ建具） ○＿＿＿＿ 耐じん性能のｸﾞﾚｰﾄﾞ ○
● 空錠	● 握り玉：ｽﾃﾝﾚｽ ○ ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金,（○ｽﾃﾝﾚｽ,　○黄銅 ）	○ 取付位置（ ）
○ グレモン錠	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ:亜鉛合金,（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	○ 取付位置（ ）
ケースハンドル錠	ステンレス	
点検口錠	亜鉛合金程度,（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
丁番	ｽﾃﾝﾚｽ,（○黄銅 ）	
○ ピボットヒンジ	ｶﾊﾞｰ部:ｽﾃﾝﾚｽ,（○亜鉛合金）	亜鉛合金は本製建具用のみ
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き
○ フロアヒンジ	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ,（本体は鋼）	ドアクローザー
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ(丁番型)	鋼（焼付け塗装 ）	○ 遅延閉り機能付き
○ ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ(ﾋﾟﾎﾞｯﾄ型)	ｶﾊﾞｰ部：ｽﾃﾝﾚｽ,（本体は鋼）	
● ドアクローザー	本体：ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ｱｰﾑ部：鋼（焼付け塗装）	
閉鎖順位調整器	ｽﾃﾝﾚｽ,（○鋼 ）	
○ 押棒・押板	(○ｽﾃﾝﾚｽ,　○黄銅,　○合成樹脂）	○ 取付位置（ ）
● 上げ落し（フランス落し）	亜鉛合金程度,（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
○ ｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ	鋼（ｸﾛｰﾑめっき）,（○ｽﾃﾝﾚｽ ）	
● 戸当り	亜鉛合金程度,（○ｽﾃﾝﾚｽ,　○黄銅 ）	○ あおり止め付き

引戸　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
引戸用錠	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合：ｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾗｰ等はｽﾃﾝﾚｽ
● クレセント		○ 取付位置（ ）
● 引手類		木製建具の場合：ｽﾃﾝﾚｽ（○黄銅）
● 戸車（上吊りの場合を除く）		
● レール（上吊りの場合を除く）	ステンレス,（○ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金　○黄銅 ）	黄銅は木製建具用のみ

窓　(表5.8.1)

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
クレセント・調整器・ヒンジ等	建具製作所の仕様による。	

金属製建具用丁番　※ 表 5.8.2による　○ ＿＿＿＿＿＿
樹脂製建具用丁番　※ 表 5.8.3による　○ ＿＿＿＿＿＿

14 自動ﾄﾞｱ開閉装置 (5.9.2) ～(5.9.3)

駆動装置及び検出装置の性能
○ 引き戸用駆動装置性能値
※ 改修標仕 表5.9.1による（○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2）

○ 種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

○ 車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置性能値
※ 改修標仕 表5.9.2による

○ 耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源

1/100 1/200 1/300 1/500

杉原設計事務所　1級建築士 第293338号　村上 哲生

設計番号	設計年度	令和　年　月

工事名：木幡中学校配膳室設置ほか工事
図名：建築改修工事特記仕様書４
図番：No. A-05　56枚の内

Ver. R04(R05.02)

章	項目	特記事項
5 建具改修工事		○ 引き戸用検出装置性能値 ※ 改修標仕 表5.9.3による ○ 放射無線周波数電磁界耐性 / 耐電圧 / 防錆 / 防滴 / 電源 戸の開閉方式 ※ 建具表による ○ _____ 引き戸検出装置の種類 ○ 表 5.9.4（_____）による ※ 建具表による タッチスイッチの種類 ○ 無線式タッチスイッチ ○ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便房 ○ 大形押しボタンスイッチ ○ 非接触スイッチ 凍結防止措置 ○ 行う
	15 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)	性能値等の区分 (表5.10.1) 適用戸の総質量(kg) / ○40以下 / ○40を越えるもの 手動開き力(N) / ※15以下 ○ / ※20以下 ○ 手動閉じ力(N) / ※15以下 ○ / ※20以下 ○ 性能等 _____ 品質・規格 _____
	16 重量シャッター (5.11.2)～(5.11.4)	種類 ○ 管理用シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ○ 設ける ） 耐風圧強度（_____） ○ 外壁用防火シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける ） 耐風圧強度（_____） ○ 屋内用防火シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける ） ○ 屋内用防煙シャッター（ｼｬｯﾀｰｹｰｽ ※ 設ける ） 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 _____ Pa 開閉方式 ※ 電動式（手動併用） ○ 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ スラット及びシャッターケース用鋼板 材質 / めっきの付着量 ○ JIS G 3302 / ○ Z12又はF12を満足するもの ○ ○ JIS G 3312 / ○ Z12又はF12を満足するもの ○
	⑰ 軽量シャッター (5.12.2)～(5.12.4)	開閉方式 ○ 電動式（手動併用） ※ 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ 耐風圧強度 _____ Pa スラット 材質 / めっきの付着量 / 形状 ● JIS G 3312 / ● Z06又はF06を満足するもの ○ / ● インターロッキング形 ○ JIS G 3322 / ○ AZ90を満足するもの ○ / ○ オーバーラッピング形
	18 オーバーヘッドドア (5.13.2)～(5.13.4)	セクション材 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ 耐風圧性能 _____ Pa 開閉方式 ※ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ 収納形式 ○ スタンダード形 ○ ローヘッド形 ○ ハイリフト形 ○ バーチカル形 ガイドレール等 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板
	19 ガラス (5.14.2)～(5.14.4)	材料 種別 / 種類等 / 種別 / 種類等 ○ ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ / / ○ 強化ガラス / ○ 型板ガラス / / ○ 熱線吸収板ｶﾞﾗｽ / ○ 網入板ガラス / / ○ 複層ガラス / ○ 線入板ガラス / / ○ 熱線反射ｶﾞﾗｽ / ○ 合わせガラス / / ○ 倍強度ガラス / ○ / / ○ / ガラス溝の大きさ (図5.14.1) 種別 / 面クリアランス / エッジクリアランス / 掛り代 ○ アルミニウム建具 / ※ 建具製造所の仕様による / ※ 建具製造所の仕様による / ※ 建具製造所の仕様による ○ 鋼製建具 / ○ / ○ / ○ ○ ステンレス建具 / ○ / ○ / ○ ○ / ○ / ○ / ○

章	項目	特記事項
5 建具改修工事	⑳ ガラス留め材 (5.14.2)	建具の種類 / 材質 アルミニウム製 / ※ シーリング材(SR-1) ○ グレイジングチャンネル 樹脂製 / ○ グレイジングチャンネル 鋼製・鋼製軽量・ステンレス製 / ※ シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 / ※ パテ（木製用） ※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。
	21 ガラスブロック (5.14.5)	寸法(mm) / 厚さ(mm) / 色調 / パターン / 防火認定 × / ○ / ○ クリア ○ ｶﾗｰ（ ） × / ○ 図示 / ○ 乳白 ○ 熱線反射 / / ※ なし ○ あり ※ 品質規格はJIS A5212 による ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。
	22 木製建具 (5.7.2)～(5.7.4)	○ 壁用金属枠及び補強材 _____ ○ 力骨 材質 ※ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋 ○ _____ ○ シーリング ※ 表3.7.1による ○ SR-1 ○ PS-1 ○ _____ ○ 化粧目地モルタルの色 ○ 白 ○ グレー ○ 金属製化粧カバー 材質 ○ SUS304 ○ _____ 寸法・形状 ※ 図示による ○ _____ ○ 目地幅の寸法 ○ 平積みの場合 ※ 8mm以上、15mm以下 ○ _____ ○ 曲面積みの場合 ※ 外側15mm以下、内側6mm以上（曲率半径はｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸの幅寸法の１０倍以上） ○ _____ ○ 伸縮調整目地の位置 ※ 6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮調整目地を設ける。 ○ _____ 建具材の加工、組立時の含水率の種別 ※ A種 ○ B種 代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ ○ フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※ 改修標仕5.7.2(2)(イ)(a)による 表面材の合板の種類 合板の種類 / 規格等 / 備考 ○ 普通合板 / 表面の樹脂 ○ 板面の品質（※ 広葉樹１種 ○_____） 接着の程度（○ １種 ○ ２種） / ○ 天然木化粧合板 / 樹種名（ ） 接着の程度（○ １種 ○ ２種） / ○ 特殊加工化粧合板 / 化粧加工の方法 ※ プリント ○ ポリエステル化粧合板 ○ メラミン化粧合板 ○ 接着の程度（○ １種 ○ ２種） / ○ MDF / / 表面板の厚さ ※ 図示による ○ _____ (表5.7.6) 引き戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ○ 適用しない ○ 適用する ○ かまち戸 かまち樹種（_____） 鏡板樹種（_____） 見込み寸法 ※ 36mm ○ _____ ○ ふすま 張りの種別 ○ Ⅰ型 ○ Ⅱ型 上張り（押入等の裏側以外） ○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ _____ ○ 戸ぶすま 表面板の仕上 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____ ○ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____
	23 ポリカーボネイト樹脂板	種類 _____ 厚さ _____ mm

章	項目	特記事項
6 内装改修工事	① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)(9.5.3) (9.5.4)	木材、木れんが、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ・ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ、ｶｰﾍﾟｯﾄ、合成樹脂塗床、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、ﾎﾞｰﾄﾞ類、タイル、断熱材の接着に使用する接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
	② 他の部分との取り合い等 (6.1.3)	既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ● 図示による ○ 範囲（ ） 仕上げ（ ） 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ● 図示による ○ 範囲（ ） 仕上げ（ ） 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※ 既存のまま ● 図示による ○ 範囲（ ） 仕上げ（ ）
	③ 既存床の撤去等 (6.2.2)	種別 / 工法 / 施工箇所 ○ ビニル床シート等 / ○ 下地ﾓﾙﾀﾙの除去 / ※ 図示による ○_____ ● 合成樹脂塗床材 / ● 機械的除去工法 ○ 目荒し工法 / ※ 図示による ○_____ ○ フローリング張り床材 / / ○ 床タイル / / ○ 床組 / / コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、４章外壁改修工事による。
	④ 既存壁の撤去等 (6.3.2)	間仕切壁撤去に伴う構造体の補修 ※ 改修標仕4.3.10によるモルタル塗り（塗り厚25mmを超える場合の補修 ○行う ○行わない） ○ _____
	⑤ 木下地等 (6.5.1)～(6.5.9)	材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆又は改修標仕6.5.2(1)(ウ)(b)による 含水率 下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下) 以下に規定されているものは、その規定による。 JAS 1083（製材）に基づく製材 ● 下地用製材 使用箇所 / 樹種 / 寸法 / 等級 / 含水率 / 保存処理 胴縁 / 杉 / 図示 / ○１級 ※２級 / 15%以下 / ● 造作用製材 使用箇所 / 樹種 / 寸法 / 等級 / 含水率 / 保存処理 額縁 / 桧 / 図示 / ○無節 ●上小節 ○小節 ○並 / 15%以下 / ○ 広葉樹製材 使用箇所 / 樹種 / 寸法 / 等級 / 含水率 / 保存処理 / / / ○特等 ※１等 ○２等 / ※10%以下 ○ / ○ JAS 1083（製材）以外の製材 (表12.2.2) 使用箇所 / 樹種 / 寸法 / 材面の品質 / 防虫処理 / 含水率 / / / ※A種 ○B種 / /

章	項目	特記事項
6 内装改修工事		使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。 ○ 工事完成までに、ｳｯﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞ'C02京都の木認証書（京都府産木材証明書及びｳｯﾄﾞﾏｲﾚｰｼﾞ'C02計算書）（注１）を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の木証明書（京都府産材木材証明書）（注２）を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 一般財団法人京都府木材組合連合会 TEL：075-802-2991 注１）認証書 注２）証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業体又は認証機関登録事業体でなければ発行されない。 詳細は上記法人のホームページを参照すること。 ○ 工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。 ※ 京都木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都木材規格(KTS)材証明書（発行機関：（一社）京都府木材組合連合会）を提出すること。 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 ○ 造作用集成材 使用箇所 / 品名 / 樹種 / 見付材面数 / 寸法 / 見付材面の品質 / / / / / ※１等 ○２等 ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 / 品名 / 樹種 / 寸法 / 化粧板薄厚 / 見付材面数 / 見付材面の品質 化粧材 / 芯材 / / / / / / ※１等 ○２等 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○ 造作用集成材 使用箇所 / 樹種 / 寸法 / 見付材面の品質 / 含水率 / / / / ※15%以下 ○ ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 / 化粧樹種名 / 芯材樹種名 / 寸法 / 化粧薄板厚 / 見付材面の品質 / 含水率 / / / / / / ※15%以下 ○ JAS 0701（単板積層材）に基づく造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 / 品名 / 寸法 / 表面の品質 / 防虫処理 / / / ○表面化粧加工なし ○１等 ○２等 ○３等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工 / ○適用する ○適用しない JAS 0701（単板積層材）以外の造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 / 寸法 / 表面の品質 / 含水率 / 防虫処理 / / ○表面化粧加工なし ○ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工 / ※14%以下 ○ / ○適用する ○適用しない ○ JAS 3079（直交集成板） 施工箇所 / 品名 / 曲げ性能（強度等級） / 種別 / 接着性能（使用環境） / 樹種 / 寸法(mm) / / / / / / 合板等 「合板の日本農林規格」による普通合板 使用箇所 / 品名 / 厚さ / 樹種名 / 接着程度 / 板面の品質 / その他処理 ※押入れ、物入れ / / ※5.5mm ○ / / ※１類 ○２類 / 広葉樹 ※２等以上 ○ 針葉樹 ※C-D以上 ○ / ○防虫処理 ○難燃処理 ○防炎処理 「合板の日本農林規格」による構造用合板 使用箇所 / 品名 / 等級 / 厚さ / 樹種名 / 接着程度 / 板面の品質 / 保存処理 / その他処理 ※畳床下地材、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り下地材 / / ※２級以上 ○ / ※12mm ○ / / ※１類 ○特類 / ※C-D以上 ○ / / ○防虫処理 ○強度等級 ○ 「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 使用箇所 / 品名 / 厚さ / 単板の樹種名 / 接着程度 / 防虫処理 / / / / ○１類 ○特類 / 「合板の日本農林規格」による天然化粧合板 使用箇所 / 化粧板に使用する単板の樹種名 / 厚さ / 接着程度 / 防虫処理 / / / ○１類 ○２類 / 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 使用箇所 / 品目 / 厚さ / 接着程度 / 単板の樹種名 / 化粧加工の方法 / 防虫処理 / / / ○１類 ○２類 / / /

1/100 1/300 1/500

Ver.R04(R05.02)

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名 木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号 / 設計年度	令和 年 月	図名 建築改修工事特記仕様書 5
		図番 No. A-06 / 56 枚の内

6 内装改修工事

項目：パーティクルボード

使用箇所	厚さ	各種区分
	※15mm ○____	※１３Ｐタイプ又は１３Ｍタイプ ○_____

項目：JAS 0360 に基づく構造用パネル

使用箇所	等級	厚さ

項目：ＭＤＦ

使用箇所	厚さ	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

項目：造作材化粧面の釘打ち

※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘打ち ○ 釘頭現し

項目：諸金物の形状、寸法及び材質

※ かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.3から表6.5.5までに示す程度の市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、表8.20.1［鉄鋼の亜鉛めっきの種別］のＦ種程度の亜鉛めっきを施したもの
○ _____

項目：防腐・防蟻処理

○ 防腐・防蟻処理を省略できる樹種による製材　適用部位 _____

○ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	○Ｋ２ ○Ｋ３ ○Ｋ４
	○Ｋ２ ○Ｋ３ ○Ｋ４

○ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ○	※JIS K 1571に適合又は同等品 ○
	○	

○ 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理　適用部位 _____
○ 合板等の加圧注入処理等の適用　適用部位 _____

項目：防虫処理

※ 行う （範囲：ラワン材等 ※「製材の日本農林規格」による保存処理 K1）
○ 行わない

⑥ 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2)～(6.6.4)

野縁等の種類　屋内 ※ 19型 ○ 25型　(表6.6.1)
屋外 ○ 19型 ※ 25型

野縁受け・つりボルト・インサートの間隔 900 mm
周辺部の端からの寸法 150 mm
野縁の間隔 300 mm
はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し
既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する
あと施工アンカーの引抜き試験 ● 行う（ 3 箇所以上、400N/箇所 ）
○ 行わない

開口補強
つりボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ _____
天井のふところの補強
（1.5m以上3m以下） ※ 改修標仕6.6.4(8)による ○ _____
（3m超える） ※ 図示による ○ _____
天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ● 行わない
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない

⑦ 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3)

スタッド、ランナ等の種類　(表6.7.1)
※ 表6.7.1におけるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類 ○ _____
スタッドの高さが5mを超える場合
※ 図示による ○ _____

⑧ ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り (6.8.2)

● ビニル床シート

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	工法	施工箇所
発泡層無	○ 単層ビニル床シート	ＴＳ	● 2.5 ※ 2.0 ○	※ 無地 ○ マーブル ○ 柄物	※ 熱溶接 ○	※ 仕上表による
発泡層無	※ 複層ビニル床シート	ＦＳ				
発泡層有	○ 発泡複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	ＨＳ				
発泡層有	○ クッションフロア	ＫＳ				

○ ビニル床タイル

区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	寸法	施工箇所
接着形	※ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＫＴ	※ 2.0 ○ 3.0	○ 無地 ○ 柄物	○300×300 ○450×450	
接着形	○ 単層ビニル床タイル	ＴＴ	○ 2.0 ○			
接着形	○ 複層ビニル床タイル	ＦＴ	○ 2.0 ○ 2.5 ○ 3.0			
置敷形	○ 置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＡ	○ 4.0 ○		○500×500	
置敷形	○ 薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	ＦＯＢ	○		○	

○ 帯電防止床シート ○ 帯電防止タイル

種類	性能	厚さ(mm)
○	※ 体積抵抗値 1.0×10^{9} Ω以下	
○	○	

○ 視覚障害者用床タイル

種類	形状	備考
○ 塩化ビニル系	※ ３００mm角	
○ レジンコンクリート系	○ １５０mm角	
○ 磁器又はせっ器質タイル	○	

○ 耐動荷重性床シート

種類	厚さ(mm)	備考
○	○	
○	○	

● 防滑性床シート ○ 防滑性床タイル

種類	寸法	厚さ(mm)
● 複層ビニル床シート	○	※2.0
○	○	

○ ビニル幅木

種類	高さ(mm)	厚さ(mm)
○ 軟質 ○ 硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100 ○	※ 1.5 ○ 2.0

○ ゴム床タイル張り

色柄	種類	厚さ(mm)	寸法(mm)
	○ 単層品 ○ 積層品		

9 カーペット敷き (6.9.2)～(6.9.3)

○ 織じゅうたん

種別	織り方	パイル形状	帯電性	色柄	接合方法	施工箇所
○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種			○ 適用	※ 無地 ○	※ ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法 ○ つづり縫い	

○ タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	施工箇所
		○ ﾀﾞﾘｯﾊﾟｰ工法 ○ 全面接着工法	○ 適用	

○ タイルカーペット

種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所
※ 一種 ○ 二種	※ ループパイル ○	※ 500×500 ○	※ 6.5 ○	

タイルカーペットの敷き方 平場部分 ※ 市松敷き ○ _____
階段部分 ※ 模様流し ○ _____
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
下敷き材 ※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第２種２号 呼び厚さ8mm
○ _____
見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※ 図示による
○ _____

10 合成樹脂塗床 (6.10.2)(6.10.3)

厚膜型塗床材
○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材
※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ
塗厚（mm） ○ _____
● エポキシ樹脂系塗床材
※ 薄膜流しのべ工法 （ ○ 平滑 ○ 防滑 ）
● 厚膜流しのべ工法 （ ● 平滑 ○ 防滑 ）
○ 樹脂モルタル工法 （ ○ 平滑 ○ 防滑 ）
薄膜型塗床材
○ エポキシ樹脂系塗床材
塗床材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

11 フローリング張り (6.11.2)～(6.11.6)

フローリングのホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標仕6.11.2(2)による
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

単層フローリング　(表6.11.1)～(表6.11.6)

種類	樹種	厚さ(mm)	大きさ	工法	備考
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ１等	※ なら ○	○ ○ 15 ○ 12 ○ 8	○ 表6.11.1 ○ 表6.11.3 ○ 表6.11.5	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	
○ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ１等	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○		○ 接着工法	○ 防水処理足金物付

複合フローリング

種類	樹種	厚さ(mm)	工法	種別	備考
○ １×６タイプ ○ フローリングボードタイプ ○	※ なら ○	○ 8 ○ 15 ○	釘留め工法 ○ 根太張り工法 ○ 直張り工法 ○ 接着工法	○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種	

接着工法のフローリング裏面の不陸緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート ○ _____

仕上げ塗装 ※ ウレタン樹脂ワニス塗り（１液形）Ｂ種
○ オイルステインの上ワックス塗り ○ 生地のままワックス塗り
○ _____

12 畳敷き (6.12.2)

種別 ○ Ａ種 ○ Ｂ種 ○ Ｃ種 ○ Ｄ種 （ KT-____ ）
衝撃緩和型畳 （畳表： ○Ｃ1 ○Ｃ2 ）

⑬ せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2)(6.13.3)

MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ○ _____
合板のホルムアルデヒド放散量 ※ 改修標仕6.13.2(2)の(a)～(d)のいずれか
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
表面への化粧張り等の加工 ※ 図示による ○ _____

種別 ※ 表6.13.1によるＪＩＳ規格品とする　(表6.13.1)

種類	規格、厚さ(mm)等	
● せっこうボード(GB-R)	※ 12.5(不燃) ○ 9.5(準不燃)	
● 化粧せっこうボード(GB-D)	○ 杉柾模様 ● トラバーチン模様（軽鉄下地は専用のものとする）	○ 12.5(不燃) ●9.5
○ 不燃積層せっこうボード(GB-NC)	○ トラバーチン模様 ○ 模様なし	※ 9.5(不燃)
○ シージングせっこうボード(GB-S)	○ 15(不燃) ○ 12.5(準不燃) ※ 9.5(準不燃)	
○ 強化せっこうボード(GB-F)	○ 21(不燃) ○ 15(不燃) ○ 12.5(不燃)	
○ ロックウール吸音ボード(RW-B)	※ 25 ○	
○ グラスウール吸音ボード(GW-B)	※ 25 ○	
○ 吸音あなあきせっこうボード(GB-P)	○ 9.5(準不燃)	
○ ロックウール化粧吸音板(DR)	内部用 フラット	○ 12(不燃) ※ 9(不燃)
	内部用 立体模様	○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
	軒天用 フラット	○ 12(不燃) ※ 9(不燃)
	軒天用 立体模様	○ 15(不燃) ※ 12(不燃)
○ けい酸カルシウム板(0.8FK)	タイプ２（無石綿） ○ 8.0 ○ 6.0 ○	
● メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による ※ 1.2 ●3.0（不燃）	
○ 難燃木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15	
○ 断熱木毛セメント板	○ 30 ○ 25 ○ 20 ○ 15	
○ 火山性ガラス質被層板	○ 研磨品 （○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○___）	
	○ 無研磨品 （○ 3 ○ 6 ○ 9 ○ 9.5 ○___）	
● 普通合板	厚さ 5.5/12 接着の程度 2類/特類 表板樹種 しな/ラワン	
	板面の品質 防虫処理○行う	
○ 天然木化粧合板	厚さ 接着の程度	
	化粧板樹種 ○ なら ○ しおじ 防虫処理○行う	
○ 特殊加工化粧合板	厚さ 接着の程度 化粧加工の方法	
	表面性能 ○F ○FW ○W ○WS 防虫処理○行う	
○ その他下張り用合板		

合板類の張付け　(表6.13.3)
○ Ａ種 ● Ｂ種
せっこうボードの目地処理　(表6.13.5)
● 継目処理 ○ 突付け ○ 目透かし
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類　(表6.13.5)
○ ベベルエッジ ○ スクエアエッジ

14 壁紙張り (6.14.2)(6.14.3)

防火性能・種類・規格・施工箇所 ※ 図示による ○ 下表による

施行箇所	防火性能	品質・規格

素地ごしらえ モルタル及びせっこうプラスター面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.4)
コンクリート面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.5)
せっこうボード面及びその他のボード面 ○ Ａ種 ※ Ｂ種 (表7.2.7)

⑮ 天井廻り縁

材質 ○ アルミニウム製 ● 塩化ビニル製

⑯ モルタル塗り (6.15.2)～(6.15.6)

モルタル ● 現場調合材料
○ 既調合材料（ _____ ）
既製目地材
○ 設ける （形状 _____ ）
床目地 ○ 設ける ● 設けない
目地の種類 ※ 押目地 ○ _____
目地割り ※ 2㎡程度 ○ _____
最大目地間隔 ※ 3m程度 ○ _____

17 タイル張り (6.16.2)～(6.16.4)

伸縮調整目地等 床面 ※ 縦・横とも４m以内ごと ○ _____
壁面 ※ 図示による ○ _____
タイルの試験張り ○ 行わない ○ 行う
タイルの見本焼 ○ 行わない ○ 行う
施工後の確認及び試験
浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う
接着力の試験 ※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない

タイルの種類

施工箇所・形状・寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性	耐滑り性	役物	色	工法その他
	○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
	○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
	○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	
	○ 磁器 ○ 陶器 ○ せっ器	○ 無釉 ○ 施釉	○ 有り ○ 無し		○ 有り ○ 無し	※ 標準 ○ 特注	

壁タイル張りの工法
内装タイル
○ 密着張り ○ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
内装タイル接着張りの有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ○ _____
○ 既調合モルタル _____
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ○ 目荒し工法 ○ _____

⑱ セルフレベリング材塗り (6.17.2)～(6.17.3)

塗厚（mm） ● 10 ○ 15 ○ _____

7 塗装改修工事

① 塗装材料 (7.1.3)

塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____

② 下地調整 (7.2.1)～(7.2.7)

塗替えで下地調整の種別がRB種の場合の既存塗膜の除去範囲
※ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ○ 図示 ○ _____
(表7.2.1)～(表7.2.7)

素地	種別	備考
木部	○ ＲＡ種 ※ 不透明塗料塗りの場合はＲＢ種 ○ ＲＣ種	
鉄鋼面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	
亜鉛めっき鋼面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	
モルタル及びせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及びＡＬＣパネル面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ面	○ ＲＡ種 ○ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	ひび割れ部の補修 ○ 適用する ○ 適用しない
せっこうボード及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面	○ ＲＡ種 ※ ＲＢ種 ○ ＲＣ種	

1/100 1/300 1/500

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	
設計番号	設計年度	令和 年 月

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	図番
図名	建築改修工事特記仕様書６	No. A-07 / 56 枚の内

Ver.R04(R05.02)

7 塗装改修工事

③ 素地ごしらえ (7.3.2)～(7.3.7)

(表7.3.2)～(表7.3.7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　○ B種
	透明塗料塗りの場合	○ A種　※ B種
鉄鋼面（DP以外）		○ A種　○ B種　※ C種
鉄鋼面（DP）		○ A種　※ B種　○ C種
亜鉛めっき鋼面		○ A種　○ B種
ﾓﾙﾀﾙ面及びせっこうﾌﾞﾗｽﾀｰ面（DP）		○ A種　※ B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以外）及びALCﾊﾟﾈﾙ面		○ A種　※ B種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面及びｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP）		○ A種　○ B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DPのみ）		○ A種　※ B種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及び	目地：継目処理工法	※ A種　○ B種
その他のﾎﾞｰﾄﾞ面	目地：継目処理工法以外	○ A種　※ B種

④ 錆止め塗料塗り (7.4.2) (7.4.3)

錆止め塗料の種別

素地面	塗装の種類		塗料の種別	工程の種別	備考
鉄鋼面	ＳＯＰ（工程の種別は表7.4.3）	塗替え	○Ａ種	※Ｃ種　○	
		新規見え掛り	○Ａ種	※Ａ種　○	
		新規見え隠れ	○Ａ種	※Ｂ種　○	
	ＥＰ-Ｇ（工程の種別は表7.4.3）	塗替え	○Ａ種　※Ｂ種	※Ｃ種　○	
		新規見え掛り	○Ａ種　※Ｂ種	※Ａ種　○	
		新規見え隠れ	○Ａ種　※Ｂ種	※Ｂ種	
	ＤＰ（工程の種別は表7.4.4）	塗替え	7.4.2(1)(ｲ)(a)による	○Ｂ種(下地調整処理) ○Ｃ種(下地調整処理)	
		新規	7.4.2(1)(ｲ)(a)による	○Ａ種	
亜鉛めっき鋼面	ＳＯＰ（工程の種別は表7.4.5）	塗替え	※Ａ種　○Ｂ種	※Ｃ種　○	
		新規　鋼製建具等	※Ａ種　○Ｂ種	※Ａ種　○	
		新規　その他	※Ｂ種　○	※Ｂ種　○	
	ＥＰ-Ｇ（工程の種別は表7.4.5）	塗替え	○Ｃ種　○	※Ｃ種　○	
		新規　鋼製建具等	○Ｃ種　○	※Ａ種　○	
		新規　その他	○Ｃ種　○	※Ｂ種　○	
	ＤＰ（工程の種別は表7.4.6）	塗替え	○Ｂ種　○	―	
		新規	○Ｂ種　○	―	

⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)

工程の種別　(表7.5.1)～(表7.13.1)

記号	名称	種別		
ＳＯＰ	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り 種類 ※１種 ○＿＿＿	木部	新規外部	※Ａ種　○Ｂ種　○Ｃ種
			新規内部	○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種
			塗替え	○Ａ種　※Ｂ種(外部の場合工程3,工程4は行わない)　○Ｃ種
		鉄鋼面		○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種
		亜鉛めっき面	鋼製建具塗替え	※Ａ種　○Ｂ種　○Ｃ種
			その他塗替え・新規	○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種
ＣＬ	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ塗り	○Ａ種（着色塗料の種類＿＿＿＿）※Ｂ種		
ＮＡＤ	ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料塗り	○Ａ種　※Ｂ種		
ＤＰ	耐候性塗料塗り	鉄鋼面		○＿＿＿＿
		亜鉛めっき鋼面		○＿＿＿＿
		ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		○A-1種　○B-1種　○C-1種 ○A-2種　○B-2種　○C-2種
	上塗り	○１級　ふっ素樹脂系等 ○２級　シリコン系等 ○３級　ポリウレタン系等		
ＥＰ-Ｇ	つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	ｺﾝｸﾘｰﾄ面,せっこうﾌﾞﾗｽﾀｰ面,ﾓﾙﾀﾙ面,せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面,その他ﾎﾞｰﾄﾞ面		○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種 しみ止め　○＿＿＿＿ ※しみ止めｼｰﾗｰ(B種及びC種の場合)
		木部	新規	※Ａ種　○Ｂ種　○Ｃ種
			塗替え	○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種
		鉄鋼面		○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種
		亜鉛めっき鋼面		※Ａ種　○Ｂ種
ＥＰ	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り	○Ａ種　※Ｂ種　○Ｃ種 しみ止め　○＿＿＿＿ ※しみ止めｼｰﾗｰ（B種及びC種の場合）		
ＵＣ	ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り	○Ａ種　※Ｂ種		
	ｽﾃｲﾝ塗り	○ﾋﾞｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り(表7.13.1) ○ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り（○Ｓ）		
ＷＰ	木材保護塗料塗り	○Ａ種　※Ｂ種		

クリヤラッカー塗りＡ種の工程２の運用
○ 適用する（着色剤：○ 溶剤系着色剤　○ 油性染料着色剤）　○ 適用しない
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色の適用
○ 適用する　○ 適用しない
オイルステイン塗りの工程等
○ ＿＿＿＿

8-1 耐震補強工事（鉄筋工事）

1 鉄筋の種類 (8.2.1)

(表8.2.1)

	種類の記号	径（mm）	備考
異形鉄筋	※ＳＤ２９５	Ｄ１６以下	
	※ＳＤ３４５	Ｄ１９以上	
	○		

※ SD295はＦc：21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する

2 溶接金網 (8.2.2)

網目の形状、寸法 ＿＿＿＿　鉄線の径（mm）＿＿＿＿

3 鉄筋の継手及び定着 (8.3.4) (8.4.2) (8.4.3)

部位	接合方法	径（mm）
○	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手	Ｄ１９以上
○	○ 機械式継手　○ 溶接継手	
○	○ 重ね継手　○ ｶﾞｽ圧接継手	Ｄ１６以下
○	○ 機械式継手　○ 溶接継手	

○ 機械式継手　適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
施工完了後の継手部の試験　※ 行う　○ 行わない
不合格となった継手部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 溶接継手　適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき　※ 構造図による
溶接完了後の溶接部の試験　※ 行う　○ 行わない
不合格となった溶接部への措置等　※ 監督職員と協議する
○ 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ　※ 構造図による　○ ＿＿＿＿
○ 鉄筋継手位置　※ 構造図による　○ 表8.3.3による
○ 鉄筋の定着長さ　※ 構造図による　○ 表8.3.4による
○ 機械式定着工法　適用箇所、種類　※ 構造図による
○ 帯筋組立の形、継手及び定着　※ 構造図による

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※ 構造図による　○ 表8.3.6による（次の2項目のかぶり厚さを除く。）
○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。
○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施工箇所等	最小かぶり厚さ（mm）

機械式継手及び溶接継手のあき　○ ＿＿＿＿

5 圧接完了後の試験 (8.3.8)

試験方法
○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。

6 斜裂補強筋 (8.21.6) (8.22.7)

形状　○ スパイラル筋　○ ＿＿＿＿
種類の記号　○ SR235 または SWM-P　○ ＿＿＿＿
呼び径、曲げ直径、ピッチ　○ 図示による（＿＿＿＿）　○ ＿＿＿＿

8-1 耐震補強工事（コンクリート工事）

1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)

コンクリートの類別　※ Ⅰ類　○ Ⅱ類

○ 普通コンクリート

打設部位		Fc（N/mm2）	スランプ（cm）	備考
構造体	基礎	○２４　○	○１８　○	
	上部	○２４　○	○１８　○	

○ 軽量コンクリート

打設部位（適用箇所）	Fc（N/mm2）	スランプ（cm）	備考
	○２１　○	※２１　○	

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
［Ｆc ＋構造体強度補正値(S)］N/mm2
（標仕6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない）

2 普通ｺﾝｸﾘｰﾄの材料 (8.2.5)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種
○ 高炉セメントのＢ種（施工箇所＿＿＿＿）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントのＢ種（施工箇所＿＿＿＿）

骨材
粗骨材　※砂利(JIS A5308)，砕石(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
細骨材　※砂(JIS A5308)，砕砂(JIS A5005)　○ 高炉ｽﾗｸﾞ　○ 電気炉酸化ｽﾗｸﾞ　○ 銅ｽﾗｸﾞ　○ ﾌｪﾛﾆｯｹﾙｽﾗｸﾞ　○ 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分　※ Ａ（無害）　○ ＿＿＿＿

8-2 耐震補強工事（コンクリート工事）

3 構造体強度補正値 (8.2.5)

※ 気温による構造体強度補正値（Ｓ）　(表8.2.4)

予想平均気温（℃） 普通	早強	補正値（Ｓ）	期間（打設日） 南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 N/mm2	3/6 ～ 6/31 9/11～ 11/15	3/11～ 7/20 9/1 ～ 11/5	3/11～ 7/10 9/1 ～ 10/31
0以上 8未満	0以上 5未満	6 N/mm2	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10	11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市（一部を除く）、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む）

4 構造体用モルタル (8.2.6)

モルタル圧縮強度 ＿＿＿＿
フロー値 ＿＿＿＿

5 型枠（せき板） (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)

合板の規格　※「合板の日本農林規格」の「ｺﾝｸﾘｰﾄ型枠用合板の規格」による合板
○ ＿＿＿＿
合板の材種　※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板　○ ＿＿＿＿
厚さ（mm）　※ １２　○ ＿＿＿＿

打放し仕上げのせき板
※ 合板せき板を用いる場合　(表8.1.4)

種別	板面の品質	施工箇所
○Ａ種	※8.2.7(2)(ｱ)　○	
○Ｂ種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	
○Ｃ種	※8.2.7(2)(ｲ)　○	

○ 合板せき板を用いない場合
せき板の材料 ＿＿＿＿

コンクリートの仕上がりの平たんさ

種別	適用箇所
○ａ種	
○ｂ種	
○ｃ種	

スリーブの材種　(表8.2.6)

適用箇所	材種（規格その他）
水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管（JIS G3452 の黒管に厚さ6 mm 以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの）
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管（JIS K6741 のＶＵ）
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板　（径200 mm以下は厚0.4 mm以上、径200 mmを超え350 mm以下は厚0.6 mm以上） ○

円形スリーブ（溶解亜鉛めっき鋼板）は、筒形の両側を外型に折り曲げてつばを設ける。
硬質ポリ塩化ビニル管は、防災区画を貫通する場合には使用しない。
外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ　※ 図示による　○ ２０mm
シアコネクターとセパレーターの兼用　○ 可　○ 不可

6 コンクリートの試験 (8.8.2)～(8.8.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

7 軽量コンクリート (8.9.1)

常時土又は水に直接接する部分の使用　○ 可　○ 不可
種類　○ １種　○ ２種

気乾単位容積質量 ＿＿＿＿ t/m3

8 暑中コンクリート (8.10.2)

※ 暑中における構造強度補正値（Ｓ）

地域	日平均気温が25度を超える期間（打設日）	補正値
北部地域	７月１１日～８月３１日	※ ６N/mm2 ○ ３N/mm2
中部地域	７月２１日～８月３１日	
南部地域	７月 １日～９月１０日	

9 寒中コンクリート

※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第６章第１１節（寒中コンクリート）による。

8-2 耐震補強工事（コンクリート工事）

混和材料　○ 混和剤　※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤の Ⅰ 種(JIS A6204)
防錆剤　※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○ 混和材　※ フライアッシュ(JIS A6201) Ⅰ種、Ⅱ種若しくはⅣ種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
○ コンクリート用シリカフューム(JIS A 6207)
○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)

コンクリートの種類　※ 普通コンクリート　○ ＿＿＿＿
設計基準強度　※ 18N/mm2　○ ＿＿＿＿
スランプ　※ 15cm又は18cm　○ ＿＿＿＿
セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントB種
○ フライアッシュセメントB種
適用箇所
※ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所
○ 図示による（＿＿＿＿）

11 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車１台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

8-3 耐震補強工事（あと施工アンカー工事）

1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)

○ 金属系アンカー
引張耐力 ＿＿＿＿　せん断耐力＿＿＿＿
径 ＿＿＿＿　埋込み長さ＿＿＿＿
セット方式　※ 本体打込み式改良型　○ ＿＿＿＿
接合筋　種類 ＿＿＿＿　長さ ＿＿＿＿
径 ＿＿＿＿

○ 接着系アンカー
引張耐力 ＿＿＿＿　せん断耐力＿＿＿＿
種類　※ カプセル型回転・打撃式　○ ＿＿＿＿
アンカー筋　※ 改修標仕表8.2.1の異形棒鋼　種類 ＿＿＿＿
径 ＿＿＿＿　埋込み長さ＿＿＿＿
新設壁内への定着長さ ＿＿＿＿

埋め込み配管等の探査
範囲　※ あと施工アンカー施工部分全て
方法　※ 鉄筋探知機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
○ 図示による

2 あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.7)

性能確認試験　○ 行わない　○ 行う
施工確認試験　※ 行う（ 引張試験機による引張試験　確認強度 ＿＿＿＿ ）
○ 行わない
１ロット　※ １日に施工されたものの径及び仕様ごと　○ ＿＿＿＿
試験の箇所数　※ １ロットに対し３本、無作為に抜き取る
○ ＿＿＿＿

8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）

1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)

○ 監督職員の承諾する工場
※ 建築基準法第６８条の２５に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨制作工場又は同等以上の能力のある工場
（ ○Ｓ　○Ｈ　○Ｍ　○Ｒ　○Ｊ ）グレード以上

2 鉄骨制作工場における施工管理技術者 (8.1.6)

○ 適用する　○ 適用しない

3 鋼材の種別 (8.2.8)

種類の記号	使用箇所	規格等
SS400		JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136

※ 図示による

4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

ボルトの種別　○ トルシア形高力ボルト（建築基準法の認定品）
○ ＪＩＳ形高力ボルト（JIS B 1186）　２種(F10T)
○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト（建築基準法の認定品、１種(F8T)）
ねじの呼び＿＿＿＿
すべり係数試験（対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）
○ 行わない
○ 行う　試験方法等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿
ＪＩＳ形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの５倍を超える場合の回転量 ＿＿＿＿

1/100 1/200 1/300 1/500

Ver.R04(R05.02)

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度	図名	建築改修工事特記仕様書 7
	令和　年　月	図番	No. A-08
			56 枚の内

8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)

摩擦面の処理
- ○ ブラスト処理（表面粗度５０μmRz以上）
- ○ りん酸塩処理
- ○ 図示による（　　）

すべり耐力等の確認方法　○ ＿＿＿＿
試験方法等　○ 図示による　○ ＿＿＿＿
（対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況を確認する）

6 溶接材料 (8.2.10)

溶接材料
- ※ 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による
- ○ 図示による　○ ＿＿＿＿

7 ｽﾀｯﾄﾞ (8.2.11)

種類等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

8 工作図 (8.13.2)

高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ及びｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等
- ※ 図示による　（図に無い場合は鉄骨設計基準による）

9 ﾎﾞﾙﾄ孔 (8.13.8)

母屋又は胴縁の取付けに使用する普通ﾎﾞﾙﾄの孔型
- ※ ねじの呼び径 +1.0 ㎜　○ ＿＿＿＿

10 仮組
- ○ 実施する　部位（　　）
- ○ 実施しない

11 技能資格者

溶接作業者の技量付加試験
- ※ 行わない
- ○ 行う　試験の要領　○ 図示による　○ ＿＿＿＿

12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)

開先の形状
- ○ 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による　○ ＿＿＿＿

鋼製エンドタブの切断　○ 有　○ 無
切断する箇所及び切断範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
切断面の仕上げ　※ グラインダーにより、粗さ 100μm Rz 程度以下及びノッチ深さ 1㎜ 程度以下に仕上げる

スカラップの形状
- ○ 図示による　○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による　○ 改良型スカラップ

13 溶接部の試験 (8.15.12)

H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等
- ○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強ﾏﾆｭｱﾙ(独立行政法人建築研究所)」3.5.2による受入検査
- ○ 抜き取り検査①　※ 抜き取り検査②

JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付則3「溶接」に関する試験方法等
- ○ JASS 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし､完全溶込み溶接部の外観検査の抜取り箇所は､超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は､すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い､再試験する。

- ○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)
- ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)
- ※ 超音波探傷試験　工場溶接　平均出検品質限界(A0QL)　※ 全数　○
  検査水準　※ 第6水準　○ 第__水準
  現場溶接　平均出検品質限界(A0QL)　※ 全数　○

14 錆止め塗料 (7.4.2) (8.17.2) (8.17.4)

塗料の種別
- ○ 鉄鋼面の錆止め塗料
  - ○ 表7.4.1による　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種
  - ○ ＿＿＿＿　○ Ｄ種　○ Ｅ種
- ○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
  - ○ 表7.4.2による　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種
  - ○ ＿＿＿＿

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
- ○ 表7.4.1による　○ Ａ種　○ Ｂ種　○ Ｃ種
- ○ ＿＿＿＿　○ Ｄ種　○ Ｅ種

耐火被覆材の接着する面への塗装
- ○ 行わない　○ 行う

耐火被覆材の接着する面以外への塗装
- ○ 行わない　○ 行う　（塗装範囲 ○ 図示による　○ ＿＿＿＿）

8-4 耐震補強工事（鉄骨工事）

15 耐火被覆 (8.18.2)～(8.18.9)

種別

種類	材料・工法	適用箇所（部位･部分）
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○	
○ ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	－	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所（部位・部分）
○ ３０分耐火	
○ １時間耐火	
○ ２時間耐火	
○ ３時間耐火	

16 アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)
※公共建築工事標準仕様書(R4版)による。

適用
- ○ 構造用アンカーボルト
  - 材質　○ SNR400B　○ ＿＿＿＿
  - アンカーフレームの形状及び寸法
    - ○ 図示による　○ ＿＿＿＿
- ○ 建方用アンカーボルト
  - 材質　○ SS400
  - アンカーボルトの保持及び埋め込み工法　(表7.10.1)
    - 種別　○ Ａ種　○ Ｂ種
    - 柱底均しモルタルの厚さ　○ ５０㎜　○ ３０㎜

8-5 耐震補強工事（グラウト）

1 グラウト材 (8.2.12)

グラウト材
- ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル
- ○ ＿＿＿＿

無収縮モルタルの調合
- ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ
- ○ 現場調合形

無収縮グラウト材の品質
- 圧縮強度　（ N/mm2 ）　※ 30以上　○ ＿＿＿＿
  ※ 一般部ｺﾝｸﾘｰﾄと同等以上の強度(鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ壁増設工事の壁頭部)
- ｺﾝｼｽﾃﾝｼｰJI4ﾛｰﾄ値(秒)　※ 6～10　○ ＿＿＿＿
- 乾燥収縮　（ 10^{-4} ）　※ 0　○ ＿＿＿＿

※ グラウト材の品質管理は次による
- 圧縮強度試験　※ 行う　○ 行わない
- コンシステンシー試験　※ 行う　○ 行わない

2 柱底等の均しモルタル (8.2.12)
※公共建築工事標準仕様書(R4年版)(7.2.9)(7.10.3)による。

- モルタルの種別　※ 無収縮モルタル　○ ＿＿＿＿
- 材料の調合等　※ 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(ｴ)による。　○ ＿＿＿＿
- 厚さ　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
- 工法　※ Ａ種　○ Ｂ種

8-6 耐震補強工事（現場打ちＲＣ壁の増設工事）

① 補強工法

○ 新設耐震壁　○ 増打ち耐震壁　○ 開口部閉鎖壁　● 新設袖壁
製造所及び専門業者
（ ＿＿＿＿ ）

② 既存部分の撤去 (8.21.2)

既存仕上げの撤去範囲
- ※ 図示による
- ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。

設備機器・配管等の撤去及び移設　※ 図示による　○ ＿＿＿＿
既存構造体の撤去範囲　※ 図示による　○ ＿＿＿＿

はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置
- ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。
- ○ 図示による

③ 既存部分の処理 (8.21.3)

目荒しの程度
既存柱・梁
- ※ 平均深さ2～5㎜(max：5㎜)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。
- ○ 図示による

壁（増打ち壁増設の場合）
- ※ 平均深さ2～5㎜(max：5㎜)程度の凹面を全体の10～15%の面積となるよう全体にわたって付ける。
- ○ 図示による

④ 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)

割裂補強筋
- ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」
  ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6㎜以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60㎜とする。
- ● 図示による

開口付増設壁の開口端部鉄筋及び増設そで壁の端部横筋
- ※ ダブル配筋＝閉鎖型配筋、シングル配筋＝フック(3d)付き
- ● 図示による

⑤ コンクリートの打込み工法 (8.21.8)
- ● 流込み工法
- ○ 圧入工法

⑥ 既存構造体との取合い (8.21.9)

※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する
- ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。
- ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合)
- ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合)
- ○ 図示による

7 仕上げ (8.21.10)

※ 図示による　○ ＿＿＿＿

8-7 耐震補強工事（鉄骨ブレース設置工事）

1 補強工法

○ 内側補強工法
- ○ 枠付き鉄骨Ｋ型ブレース　○ 枠付き鉄骨Ｘ型ブレース
- ○ 枠付き鉄骨類杖付ブレース　○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース
- ○ 枠付き有開口鉄板パネル　○ 枠付き無開口鉄板パネル

製造所及び専門業者
（ ＿＿＿＿ ）

○ 外側補強工法
- ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法　○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法

製造所及び専門業者
（ ＿＿＿＿ ）

2 既存部分の撤去 (8.22.2)

既存仕上げの撤去範囲
- ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。

設備機器・配管等の撤去及び移設　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。
既存構造体の撤去範囲　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。

はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置
- ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。

3 既存部分の処理 (8.22.3)

目荒しの程度
- ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-3による。

4 既存構造体との取合い (8.22.7)

割裂補強筋
- ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。
  直径6㎜以上の鉄筋とし、ピッチは40～60㎜の範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する)
- ○ 図示による

5 仕上げ (8.22.9)

※ 図示による　○ ＿＿＿＿

8-8 耐震補強工事（柱補強工事）

1 補強工法
- ○ 溶接金網巻き工法　○ 溶接閉鎖フープ巻き工法
- ○ 鋼板巻き工法　○ 帯板巻き付け工法
- ○ 連続繊維補強工法　○ ＿＿＿＿

2 既存部分の撤去 (8.23.2)

既存仕上げの撤去範囲
- ※ 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。
  垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30㎜のスリットを残して補強を行う。
- ○ 図示による

設備機器・配管等の撤去及び移設　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による
既存構造体の撤去範囲　○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による

はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置
- ○ 図示による　※ 本特記仕様書8-6-2による。

3 既存部分の処理 (8.23.3) (8.24.3)

目荒し程度
- ※ 平均深さ2～5㎜(max：5㎜)程度の凹面を全体の15～30%の面積となるよう全体にわたって付ける。
- ○ 図示による

柱及び梁の成型（連続繊維補強工法）
- ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。（ ※ 30R　○ ＿＿＿＿ ）
- ○ 図示による

4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖ﾌｰﾌﾟ巻き工法 (8.23.5)

柱頭のスリット　○ 設ける　○ 設けない
柱脚のスリット　○ 設ける　○ 設けない
打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ　○ ＿＿＿＿ ㎜
打込みの工法　○ 流込み工法　○ 圧入工法

5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)

鋼板の加工　○ 円形　○ 角形　○ ＿＿＿＿
柱頭のスリット　○ 設ける　○ 設けない
柱脚のスリット　○ 設ける　○ 設けない
柱脚スリットを設ける場合のﾓﾙﾀﾙ剥落防止処理方法
- ○ 小口塞ぎ鉄板溶接　○ 鋼板曲げ加工

グラウト材
- グラウト材の仕様　※ 本特記仕様書8-5-1による
  ○ ＿＿＿＿
- グラウト材の厚さ　○ 20㎜　○ ＿＿＿＿ ㎜

1/100 1m 2m 3m 4m 5m　1/500 0 5 10 15 20 25m

Ver.R04(R05.02)

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号 / 設計年度	令和　年　月	図名	建築改修工事特記仕様書８
		図番	No. A-09

章	項目	特記事項
8-8 耐震補強工事（柱補強工事）	6 連続繊維補強工法 (8.2.13) (8.24.6)	工法 ○（一財）日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○＿＿＿＿＿＿ 材料 ○炭素繊維 ○アラミド繊維 ○ガラス繊維 性能 引張強度＿＿＿N/mm2 ヤング係数＿＿＿N/mm2 製造所＿＿＿＿＿＿ 製品名＿＿＿＿＿＿ 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※20mm以上 ○＿＿＿ アラミド繊維シート※10mm以上 ○＿＿＿ 仕上げモルタルの除去 ※構造躯体まで除去する ○モルタル除去は行わない ひび割れ部改修 ○ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ ※樹脂注入工法 ○ﾓﾙﾀﾙ塗り仕上げ ※樹脂注入工法 炭素繊維の目付量 ※図示による ○＿＿＿＿ 炭素繊維ｼｰﾄの巻数 ※図示による ○＿＿＿＿ 引張強度試験 ※行う 試験数量（＿＿＿＿） ○行わない 付着強度試験 ※行う 試験数量（＿＿＿＿） ○行わない
	7 仕上げ (8.23.7) (8.24.7)	※図示による ○＿＿＿＿
8-9 耐震補強工事（耐震スリット）	① 耐震スリット新設工事 (8.25.2)	方向：●垂直方向 ○水平方向 タイプ：※完全（全貫通型）スリット ○せん断型部分スリット ○ 耐火性能：●耐火型 ○非耐火型 防水性能：●有り ○無し 品質・規格＿＿＿＿ 既存仕上げの撤去範囲 ● 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) 耐震スリットの幅及び深さ ● 図示による ○＿＿＿＿ 耐震スリットの充填材 耐火材の使用 ● 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ● 図示による ○＿＿＿＿ 遮音材の使用 ○ 使用する ● 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○＿＿＿＿ 既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○＿＿＿＿
8-10 耐震補強工事（免震改修）	1 既存部分の撤去 (8.26.5)	既存部分が鉄ﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。
	2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分が鉄ﾝｸﾘｰﾄ造又は鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
	3 支承材・減衰材 (8.26.7) (8.26.10)	○ 支承材 材質＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿ ○ 減衰材 材質＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿ 性能確認試験 項目＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿ 製品検査 項目＿＿＿＿ 内容＿＿＿＿ 判定基準＿＿＿＿ 検査頻度＿＿＿＿ 防錆処置＿＿＿＿ 設置位置の寸法許容差＿＿＿＿ 既存部分が鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造または鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造の場合 割裂補強筋 ※「ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による
8-11 耐震補強工事（制振改修）	1 既存部分の撤去 (8.27.2)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による ○＿＿＿＿ 方法 ※ 図示による ○＿＿＿＿ 既存鉄骨の処置方法＿＿＿＿
	2 既存部分の処理 (8.27.3)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁（増打ち壁増設の場合） ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。
	3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)	減衰材 材質＿＿＿＿ 諸元＿＿＿＿ 性能確認試験 項目＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿ 製品検査 項目＿＿＿＿ 内容＿＿＿＿ 判定基準＿＿＿＿ 検査頻度＿＿＿＿ 防錆処置＿＿＿＿ 設置位置の寸法許容差＿＿＿＿ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋は直径6mm以上とし、ﾋﾟｯﾁは40～60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割裂補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40～60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3～1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による
	4 仕上げ (8.27.8)	※ 図示による ○＿＿＿＿
	5 検査 (8.27.9)	項目＿＿＿＿ 数量＿＿＿＿
8-12 耐震補強工事（基礎工事）	1 既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○ 撤去範囲及び方法 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 杭頭部の処理 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 既存杭の補強 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 既存杭の健全性を確認する試験 ○ 図示による（＿＿＿） ○
	2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)	埋戻し及び盛土の種別 ※改修標準仕様書8.28.1による ○ A種 適用箇所（＿＿＿） ○ B種 適用箇所（＿＿＿） ○ C種 適用箇所（＿＿＿）土質（＿＿＿）受渡場所（＿＿＿） ○ D種（細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする） 適用箇所（＿＿＿） ○ その他（材料＿＿＿＿ 工法＿＿＿＿） 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き跡の処理 ○ 図示による ○＿＿＿＿ 山留め壁等の存置箇所（ ※ 図示 ○ ）
	3 杭地業 (8.2.15) (8.28.4)	支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ ○ 図示による（＿＿＿）○ 杭の材料、工法、寸法、施行方法等 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 杭の継手の箇所数、材料、工法等 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○ 図示による（＿＿＿） ○ 溶接部の確認 ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 杭頭の処理 ○ 処理する ○ 処理しない 処理方法（切断にともなう補強方法含む） ○ 図示による（＿＿＿） ○ ○ 杭頭の中詰め材料 ○ 基礎のコンクリートと同調合のもの ○ 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 ○ 評定等の評価内容による 建込み時の杭の鉛直度 ○ 1/100以内 ○ 評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ○ 図示による（＿＿＿） ○
	4 砂利地業等 (8.2.15)	材料 ※ 再生クラッシャラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石 砂利厚さ ○ 60mm ○ 砂地業 ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂
	5 捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業 (8.28.4)	捨ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ ※ 50mm ○
9 ユニット及びその他の工事	① 家具、ﾕﾆｯﾄ等の揮発性有機化合物対策	本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（令和4年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。 収納家具その他ユニットに使用する材料で、合板類、MDF及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ等の ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○＿＿＿ 収納家具その他ユニットに使用する合板等の接着剤 ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ等の放散量 ※ F☆☆☆☆ ○＿＿＿ 含まれる可塑剤 ※ ﾌﾀﾙ酸-ﾌﾞﾁﾙ等を含有しない、難揮発性のもの ○＿＿＿
	2 フリーアクセスフロア (20.2.2)	※ 建設技術評価制度「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の技術評価を取得した製品とする。 施工箇所：寸法(mm)／フロア高さ(mm)／耐震性能／所定荷重／帯電防止性能／漏えい抵抗 スロープ及びボーダー ※ 製造所の標準仕様 ○ 図示による コンセント等の取付け ※ 製造所の標準仕様 （コンセント本体は別途設備工事） 配線用取出し用開口 ※ 対応品又は工場加工品 （施工箇所は図示） 空調用吹出しパネル ○ あり（※ 固定式 ○ 可変式 施工箇所は図示 ） ※ 表面仕上げ材の品質、規模等は、標仕１９章内装工事による。 フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○＿＿＿ 耐衝撃性能 ○＿＿＿ ローリングロード性能 ○＿＿＿ 耐燃焼性能 ○＿＿＿

章	項目	特記事項
9 ユニット及びその他の工事	3 可動間仕切 (20.2.3)	種類：構造形式（○パネル式 ○スタッド式 ○ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式）／構成基材／表面仕上（○メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付 ○）／遮音性／パネル内に取付ける建具の寸法・形状 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆
	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作方法による種類／パネル表面材・仕上／パネル圧接装置の操作方法／遮音性能 ハンガーレールの取付け下地の補強 ※ 取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障ない耐力及び変形量となるように補強する。 パネルをランナーに取り付ける部品 ※ ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの ○＿＿＿ ハンガーレール及びランナー ※ パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対して、体力及び変形量が使用上支障ないもの あと施工アンカー 材質＿＿＿＿ 寸法＿＿＿＿ 引抜耐力試験 ※ 行う
	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 ○ メラミン樹脂系化粧板 ○ ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ※ 幅木型 ○ 足金物型 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆ ドアエッジの材質 ※ トイレブース製造所の仕様による ○＿＿＿
	6 手すり (20.2.6)	○ SUS304（表面処理 ※ HL程度 ○＿＿＿） ○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき（※ （表14.2.2）による種別（○＿＿）種） ○ アルミニウム 表面処理（※（表14.2.1）による種別（○＿＿）種） 種別（＿＿＿）種（＿＿＿） 色合等 ○ 標準色（＿＿＿） ○ 特注色（＿＿＿） 手すりの握り部分 材種／表面仕上げ／直径(mm)／取付場所／備考 ○ 集成材（材種：） ○ クリアラッカー ○／○35程度 ○45程度 ○ ビニル製 ○35程度 ○45程度
	7 階段滑り止め (20.2.7)	材種 ○ ステンレス製（SUS304） 幅 ○ 約３５mm ○＿＿＿ 形状 ○ ビニルタイヤ入り 両端ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞ ○あり（ ○ビニル ○SUS304 ） 取付工法 ※ 接着工法 ○ 埋込み工法
	⑧ 黒板及びホワイトボード (20.2.9)	区分／種類／色彩／備考 ● 黒板：※焼付け ○／○鋼製黒板 ●ほうろう黒板／※緑 ○黒／○曲面 ○スクリーン付引分け ● ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ：●ほうろう白板 ○＿＿＿／※白／○曲面 ○スクリーン付引分け 額縁金属 ● アルミ製 （表面処理の種別 ○Ｂ－２ ○Ｂ－１ ） 品質・規格＿＿＿＿
	9 鏡 (20.2.10)	厚さ（mm） ※ ５ ○＿＿＿

9 ユニット及びその他の工事

⑩ 表示・標識 (20.2.11)

衝突防止表示
※ 図示による（市販品 ○ ステンレス製 径 30 mm ○ ＿＿＿＿＿＿）
○ なし

法令に基づく表示
※ 非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札

厚さ(mm)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
● 5	● アクリル板		● 角太ゴシック	● シルク印刷	○ 平付型
○	○ アルミ板		○ 丸	○	● 持出型

外国語表現 ○ 行う （ ○ 英語 ○ ＿＿＿＿＿＿ ）
寸 法（mm） ○ 50×250 ● 60×250 ○ 図示による

ピクトグラフ（便所、車いす、階段等）

厚さ(mm)	材質	印刷等の種別	取付け形式	備考
○ 5	○ アクリル板	○ シルク印刷	○ 平付型	
○	○ アルミ板	○	○ 持出型	

寸 法（mm） ○ 150×150 ○ 図示による

案内板（館内、各階、便所）

厚さ(mm)	材質	色	書体	印刷等の種別	取付け形式
○ 5	○ アクリル板		○ 角太ゴシック	○ シルク印刷	○ 平付型
○	○ アルミ板		○ 丸	○	○ 持出型

外国語表現 ○ 行う （ ○ 英語 ○ ＿＿＿＿＿＿ ）
寸 法（mm） ○ 600×600 ○ 100×600 ○ 200×200 ○ 図示による
館名板等
品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

11 タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
○ SUS304（スリップ止め加工 ※あり ○なし ）
○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
（ ※ （表14.2.2）による種別（※C種 ※＿種））

12 ブライインド (20.2.14)

形式	種類	ｽﾗｯﾄの材質	ｽﾗｯﾄ幅（mm）	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材質
○ 横形	※ ギヤ式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	※ 25	※ 鋼製
	○ コード式		○ 35	○＿＿＿＿＿＿
○ 縦形	※ ２本操作コード式	○ ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ	○ 80	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ
	○ １本操作コード式	○ ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	○ 100	合金製

(20.2.15)

13 ロールスクリーン (20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
○ スプリング式	○ ガラス繊維製	※ 製造所の仕様	○ 図示による	
○ コード式	○ 合成・天然繊維製		○＿＿＿＿＿＿	
○ 電動式	○ 木製			

(20.2.16)

14 カーテン (20.2.16)

取付箇所	形式				開閉操作方法			カーテン用きれ地の	ひだの種類		
	ｼﾝｸﾞﾙﾌﾞﾙ	ﾀﾞﾌﾞﾙ	片引	引分	電動	ひも引	手引	種別・品質・特殊加工等	つまみ	箱片	ﾌﾚｰﾝ
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

15 カーテンレール (20.2.16)

材料 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス
○＿＿＿＿＿＿
形式 ○ 片引き ○ 引分け （暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。）
形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型
強さによる区分 ※ 10-90 ○＿＿仕上げ ※ アルマイト ○＿＿＿＿＿＿

16 ブラインドボックス カーテンボックス

○ 図示による ○ 市販品（アルミニウム製 押出し型材）
仕様等 溝幅×深さ（mm） ○ 90×150 ○ 150×80 ○ 120×80 ○＿＿＿＿
表面処理 ○ C－1（無着色） ○ C－2（着色）

17 くつふきマット

材種 ○ 塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製（SUS304）受枠）
○ 硬質アルミニウム合金（受枠とも） ○
○ ゴム製（ステンレス製（SUS304）受枠）

18 鋼製書架及び棚

種類	規格等	JISによる種類
○ 鋼製書架	※ JIS S 1039 の規格による	○ 1種 ○ 2種 ○ 3種
○ 鋼製物品棚	○ 法務省型	○ 4種 ○ 5種 ○ 6種

⑲ 収納家具(木製)

材質、形状、寸法
※ 図示による ※＿＿＿＿＿＿
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ※＿＿＿＿＿＿

9 ユニット及びその他の工事

20 掲示板

	枠の材質	表面の材質	照明器具	施錠	品質・規格
○ 屋内	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2）		―	―	
	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）				
○ 屋外	○ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製（B-2）		○ あり	○ あり	
	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）		○ なし	○ なし	

21 カウンター

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

22 洗面カウンター

材 種 ○メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）○人工大理石（品質 図示）
奥行き（mm） ○約450 ○約600 ○＿＿＿＿

23 流し台ユニット

種類	部品寸法（mm）	規格	仕様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 mm
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製１段式
○			

24 非常用救助袋等

※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。
形式 ○ 傾斜式 ○ 垂直式
品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

25 鍵箱

市販品 形式 ※ 釣下式 ○ 差込式
（ ○ 30 ○ 60 ○ 120 ○＿＿＿＿） 組用（＿＿） 個

26 車止め

形式	材質	柱径・肉厚（mm）	高さ（mm）
○ 上下式鎖内蔵型	○ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）	○ φ76.3 t=2.0	○ GL+700
（ ○ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ付き ）	○	○ φ114.3 t=2.5	○ GL+850

基礎 無筋コンクリート造 ３５０×３５０ H２５０程度

27 フェンス

表面仕上等	種類		門扉の仕様
○ 亜鉛めっき ○ 樹脂塗装	○ ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ	○ ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ	○ 片開き
○ ビニル被覆 ○	○ ﾈｯﾄﾌｪﾝｽ	○	○ 両開き

28 防煙垂れ壁

○ 固定式

材質	厚さ（mm）	高さ（mm）	備考
※ 網入り磨き板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
○ 線入り磨き板ガラス	○	○	

○ 可動式

種類	材質	高さ（mm）	備考
※ 垂直降下式（巻取り型）	※ 不燃布（不燃認定品）	※ 500	ガイドレール
		○ 800	※ 固定式（壁押込型）
		○	○ 可動式（天井収納型）
※ 回転降下式	鋼板制又はアルミ製	※ 500	表面仕上げ
		○ 800	※ 天井材張り
		○	○

降下機構
煙感知器運動及び手動開放装置（埋込型）

10 排水工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 材料 (21.2.1)

材種（表21.2.1）	管の種類	呼び径	基床の厚さ
○ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）		
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ ＶＰ ○ ＶＵ ○ ＲＳ－ＶＵ		
○ 硬質ポリ塩化ﾋﾞﾆﾙ管継手	○ ＤＶ ○ ＶＵ継手		

○ 凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂（○ 砂の粒度試験 ） ○＿＿＿＿＿＿

2 側塊、排水桝及びふた (21.2.1)

○ 側塊の形状および寸法 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿
○ 排水枡の種類 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿

○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種類		適用荷重（安全荷量）	
○ 水封形	○ 密閉形(ﾃｰﾊﾟｰ･ﾊﾟｯｷﾝ式)	○ T- 2用（5KN）	○ T-6用(115KN)
○ 中蓋付密閉形	○ 簡易密閉形(ﾊﾞｯｷﾝ式)	○ T-20用（50KN）	

10 排水工事

3 縁石 (21.3.1)

歩車道境界ブロックのJIS による呼び名	※ A	○＿＿＿＿	
地先境界ブロックのJIS による呼び名	○ A	○ C	○＿＿＿＿
砂利地業の厚さ	※ 100mm		○＿＿＿＿

4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)

鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名	○ 250A	※ 250B	○＿＿	
コンクリートL形のJIS による呼び名	○ 250A	※ 250B	○＿＿	
鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名	○ 240	○ 300A	○ 360A	○＿＿
現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm２)	※ １８	○＿＿		
スランプ(cm)	○ １５	○ １８	○＿＿	

現場打の鉄筋 種類の記号 ※ SD295 ○＿＿＿＿

11 舗装工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(令和4年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)

路床の構成
○ 凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○＿＿＿＿
○ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○図示による ○150mm ○＿＿＿＿
歩道部 ○図示による ○50mm ○＿＿＿＿
（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
○ 行う ○ 行わない
盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 （表3.2.1）
路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない
路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 （表22.2.1）
種 類 ○ 地盤改良材 （ ） ○ 高炉ｾﾒﾝﾄB種
○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 １号
○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 １号
添加量＿＿＿＿ kg/m3
路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う（ ※ 乱した土 ○ 乱さない土 ）
路床締固め度の試験 ※ 行う（埋戻し部、盛土部） ○ 行わない

2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)

路盤の厚さ ＿＿＿＿ mm
材料 ○ 再生クラッシャラン（RC-40,30,20）
○ クラッシャラン（C-40,30,20） ○ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ（CS-40）
路盤締固め度の試験 ※ 行う

3 アスファルト舗装 (22.4.2) ～(22.4.6)

舗装の種類	表層(mm)	基層(mm)	カラー舗装の種類
※ アスファルト舗装			※ 顔料混入加熱アスファルト混合物

アスファルト ○ 再生アスファルト （ ○ ６０～８０ ○ ８０～１００ ）
○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分	○ 一般地域	○ 寒冷地域
表層	○ 密粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）
	○ 細粒度アスファルト混合物（13）	

施工
アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない
アスファルト締固め度、厚さの試験 ○ 行う ○ 行わない

4 コンクリート舗装 (22.5.2) ～(22.5.6)

構成

コンクリートの種類	部位	厚さ(mm)	設計基準強度(N/mm²)	スランプ(cm)

早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する
目地
注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ
種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○＿＿＿＿
間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○＿＿＿＿
コンクリート版厚さの試験 ※ 行う

○ グレーチングふた

種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状
○ 溝ふた用	○ 鋳鋼製	受枠 ※ なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形
○ 桝ふた用	○ ｽﾃﾝﾚｽ製	○ あり	○ T- 2用	※ 細目	※ 凹凸形
○ 嵩上げ用	○ 鋳鉄製	○ 図示	○ T- 6用		
○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定 ※ なし	○ T-14用		
		○ 図示	○ T-20用		

11 舗装工事

5 カラー舗装 (22.6.2) ～(22.6.4)

種類	部位	配合その他
※ 加熱系ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石 結合材 ○ ｱｽﾌｧﾙﾄ ○ 石油樹脂（添加量＿＿＿＿） ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ ＿＿＿＿mm	○ 車路 ○ 歩行者用通路	
○ 常温系ニート工法		
○ 常温系塗布工法		

着色部の下部
舗装の平たん性 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装
※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

6 透水性アスファルト舗装 (22.7.2) ～(22.7.6)

舗装構成及び厚さ	※ 図示による	○＿＿＿＿	
表層の厚さの試験	※ 行う	○ 行わない	
開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物の抽出試験	○ 行う	※ 行わない	

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

○ コンクリート平板舗装

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地
※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)	○ ３００角	※ ６０	※ 砂
○ 洗出平板(W) ○ 擬石(S) ○	○	○	○ モルタル

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック	車路		※ 80	※ 5.0	※ 標準品
○ 京ｴｺﾚﾝｶﾞ			○＿＿	○＿＿＿＿	
○ 透水性ブロック	歩行者用通路		※ 60	※ 3.0	○＿＿＿＿
			○ 80	○＿＿	○＿＿＿＿
○ 植生ブロック	―		○ 60		
			※ 80		
			○ 100		

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂

○ 舗石舗装

種類	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	工法	基層	基層の厚さ(mm)
○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※ 70
○＿＿＿＿		○＿＿＿＿	○＿＿＿＿		○＿＿＿＿
				○ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※ 50
					○＿＿＿＿

品質・規格＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

8 砂利敷き (22.9.2)

通路	※ A種	○ B種	
建物周囲その他	○ A種	※ B種	

※ 下敷きの使用材料は再生クラッシャランとする

9 白線引き

種類 ○ 溶融式 ○ ペイント式 幅（cm） ○ 15 ○＿＿＿＿

12 環境配慮改修工事

1 一般事項 (9.1.1)

○ 石綿含有吹付け材除去工事
○ 除去工法 （ ）
○ 封じ込め工法 （ ）
○ 囲い込み工法 （ ）
○ 石綿含有保温材除去工事
● 石綿含有成形板等除去工事
● 石綿含有仕上塗材除去工事

2 仕上げ工事 (9.1.1)

石綿含有建材除去後の仕上げ工事
※ 図示による ○＿＿＿＿

1/100 1/300 1/500

Ver.R04(R05.02)

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度 令和 年 月	図名	建築改修工事特記仕様書 10
		図番	No. A-11
			56 枚の内

章：12 環境配慮改修工事

3 石綿粉じん濃度測定(9.1.1)

● 行う

測定時期	測定場所		測定点(各施工箇所ごと)	備考
除去作業前	除去作業室内		● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
	調査対象室外部付近		● 1点 ○ 2点 ○ 点	
除去作業中	除去作業室内		● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
	ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入り口		○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
	集じん・排気 装置の排出口		出口吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点	除去作業室外の場合
	除去作業室外	施工区画周辺	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
		敷地境界	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
除去作業後	除去作業室内		○ 1点 ○ 2点 ○ 点	ｼｰﾄ養生中
除去作業後	除去作業室内		● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	ｼｰﾄ撤去後
	調査対象室外部付近		● 1点 ○ 2点 ○ 点	1週間以降

※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。

○ 行わない

測定方法

・ 自動測定器による測定

測定場所	測定方法
○ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口 ○ 集じん・排気装置の排出口 (除去作業室外)	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙｶｳﾝﾀｰ 繊維状粒子自動測定器(ﾘｱﾙﾀｲﾑﾌｧｲﾊﾞｰﾓﾆﾀｰ)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-1に基づいた測定

測定場所	ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀ 直径 (mm)	試料の吸引流量 (L/mm)	試料の吸引時間 (min)
○ｾｷｭﾘﾃｨｿﾞｰﾝ入口 ○ 集じん・排気装置の排出口 (除去作業室外)	25	5	30
○ ○	47	10	120
○ ○	47	10	240
○ ○			

測定機関 ※ (公社)日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

報告書提出部数 ※ 3部 ○ ＿＿ 部

4 石綿含有吹付け材の除去(9.1.3)

施工業者
※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。
○ 「吹付石綿粉じん飛散防止処理技術」について(一財)日本建築ｾﾝﾀｰの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。

除去を行う範囲
※ 図示による(仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認)
○ 全ての室 ○ ＿＿＿＿＿＿

除去工法
※ 改修標仕9.1.3(2)(ｱ)による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
※ 密封処理(二重袋梱包)
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。
※ 湿潤化
○ セメント固化
○ 溶融固化

除去物等の保管
※ 他の建設副産物等と分別して保管する。
※ 飛散防止措置を講ずる。
※ 石綿等の保管場所であることの表示を行う。

除去した石綿含有吹付け材等の処分方法
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

5 石綿含有保温材等の除去(9.1.4)

除去を行う範囲
※ 図示による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
除去方法
※ 原形のまま手ばらし
○ 手ばらし以外(この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去した石綿含有保温材等(石綿含有けい酸ｶﾙｼｳﾑ板第二種含む)の処分
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

6 石綿含有成形板等の除去(9.1.5)

除去を行う範囲
※ 図示による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去の方法
※ 湿潤化したのちに手ばらし
○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

隔離養生(負圧不要)方法
○ 図示による ○ ＿＿＿＿

足場
● 図示による ○ ＿＿＿＿

除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分
○ 埋立処分(安定型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

○ 石綿含有成形板等(石綿含有けい酸ｶﾙｼｳﾑ板第一種以外)の撤去
除去を行う範囲
※ 図示による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去した石綿含有成形板等の処分
○ 石綿含有せっこうボード
※ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板等
○ 埋立処分(安定型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

● 石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板等(下地調整材)の撤去
除去を行う範囲
※ 図示による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去の方法
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

養生の方法
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

除去した石綿含有仕上塗材の処分
● 埋立処分(安定型最終処分場)
○ 埋立処分(管理型最終処分場)
○ 中間処理(溶融施設)

除去を行う石綿成形板等の仕様

種類	厚さ(mm)	種類	厚さ(mm)
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○
○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート(外装・内装)	○
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○
○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸ｶﾙｼｳﾑ板	○
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿ｾﾒﾝﾄけい酸ｶﾙｼｳﾑ板	○
○ 親水性パーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	●リシン吹付	○

7 断熱アスファルト防水改修工事

改修特記仕様書第3章による
工法の種類 ○ P1BI ○ M3DI
○ P2AI ○ M4DI
○ P0DI

8 外断熱改修工事(9.2.2)～(9.2.4)

断熱材 種類 ○ ＿＿＿＿＿＿ 厚さ(mm) ○ ＿＿＿＿
断熱材の施工 ○ 断熱材製造所の仕様による ○ ＿＿＿＿＿＿
不陸等の下地調整 ○ 外装材製造所の仕様による ○ ＿＿＿＿＿＿
外装材 ○ 取付ける (種類＿＿＿＿＿＿ 防火性能 ＿＿＿＿)
外装材の施工 ○ 断熱材製造所の仕様による ○ ＿＿＿＿＿＿
既存外壁 ○ 仕上げ材の撤去(　　)
○ 下地面の清掃 (　　)
○ 下地の欠損部の改修(4.1.4[外壁改修工法の種類]による)

施工 ※ 断熱材製造所の仕様による ○ ＿＿＿＿＿＿
通気層 ○ 有(厚さ＿＿＿mm) ○ 無
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ○ ＿＿＿＿＿＿

9 断熱・防露改修工事(9.3.2)(9.3.3)

	材料(種類)		その他
断熱材打込み工法	○ ﾋﾞｰｽﾞ法ｽﾁﾛﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材	JIS A 9511 JIS A 9521	断熱材厚さ ○＿＿mm
	○ 押出型ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材		
	○ 硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材A種又は断熱材		接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆
	○ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材又は断熱材 (※F☆☆☆☆ ○＿＿＿)		
	○		○＿＿＿
断熱材現場発泡工法	※ A種1 ○ A種1H ○ B種1 (難燃性を有するものとする)	JIS A 9526	吹付け厚さ ○＿＿mm

※ 接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量は6-1揮発性有機化合物に記載のとおりとする
※ 特定フロンを使用とする。

(9.3.4)
○ 断熱材後張り工法
断熱材の種類 ○ ＿＿＿＿＿＿
断熱材の厚さ(mm) ○ ＿＿＿＿
○ 張り付け工法
断熱材の張り付け工法 ○ ＿＿＿＿＿＿
断熱材へのボードの張り付け工法 ○ ＿＿＿＿＿＿

10 屋上緑化(9.4.2)～(9.4.4)

樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による

種類	寸法	数量	備考

芝・地被類の種類
※ 図示による
○ コウライシバ(※ 目地張り ○ ＿＿＿＿)
○ ノシバ (※ 目地張り ○ ＿＿＿＿)
○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○ ＿＿＿＿)

材料 ○ 見切材 ＿＿＿＿ ○ 舗装材 ＿＿＿＿
○ 排水孔 ＿＿＿＿ ○ ﾏｽﾁﾝｸﾞ材 ＿＿＿＿

かん水装置 ○ 設置する (種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿)
○ 設置しない

支柱材 ○ 杉(焼き丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)
形式 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿
防腐処理方法 ○ 加圧式防腐処理丸太 ○ ＿＿＿＿

幹巻用材料 ○ 幹巻き用テープ ○ わら及びこも

既存保護層の撤去 ○ 行う(工法は3.2.3[既存保護層等の撤去]による)
○ 行わない

新植芝及び地被類の枯補償 ※ 引渡しの日から1年 ○ 引渡しの日から＿＿年

11 透水性アスファルト舗装改修工事(9.5.2)～(9.5.5)(9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
○ 盛土	○ A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種 ○	○ 図示 ○
○ 凍上抑制層	○ 再生クラッシャランG ○ クラッシャラン ○ 切込み砂利 ○ 砂 ○＿＿＿＿	○ 図示 ○
○ フィルター層	○ 砂 ○＿＿＿＿	○ 図示 ○

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)
○ 行う ○ 行わない
路床安定処理 ○ 適用する ○ 適用しない
路床安定処理の方法 ○ 置き換え工法 ○ 安定処理工法
・路床安定処理用添加材料
種類 ○高炉セメントB種
○ 普通ポルトランドセメント
○ フライアッシュセメントB種
○ 生石灰 (○特号 ○1号) ○ 消石灰 (○特号 ○1号)
添加量 ○＿＿kg (目標CBR ○ 3以上 ○ ＿＿＿)
目標CBRを満足する添加量の確認方法
○ 安定処理土のCBR試験 ○＿＿＿＿
○ ジオテキスタイル

単位面積質量	○60g/㎡以上	○＿＿＿＿
厚さ(mm)	○0.5～1.0	○＿＿＿＿
引張強さ	○98N/5cm(10kgf/5cm)以上	○＿＿＿＿
透水係数	○1.5×10cm/sec以上	○＿＿＿＿

試験
路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う ○ 行わない
現場CBR試験 ○ 行う ○ 行わない
路床締固め度の試験 ○ 行う ○ 行わない

章：12 環境配慮改修工事

路盤
路盤の厚さ ○ 図示 ○
路盤材料

種類別	
砕石	○ クラッシャラン
	○ 粒度調整砕石
再生材	○ 再生クラッシャラン
	○ 再生粒度調整砕石
○ クラッシャラン鉄鋼スラグ	
○ 粒度調整鉄鋼スラグ	
○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	

舗装の構成 ○ 図示による ○
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない

舗装の平たん性 ※ 著しい不陸がないもの ○ ＿＿＿＿

1/100 1/200 1/300 1/500

Ver.R04(R05.02)

杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
設計番号	設計年度	図名	建築改修工事特記仕様書 11
	令和 年 月	図番	No. A-12 / 56 枚の内

章	項目	特記事項
13 アスベスト対策工事	①適用範囲 (9.1.1)	アスベストを重量で0.1%を超えて含有する、アスベスト含有建材の除去工事に適用する。 ○ アスベスト含有吹付け材除去工事 ○ 除去工法 （ ） ○ 封じ込め工法 （ ） ○ 囲い込み工法 （ ） ○ アスベスト含有保温材等除去工事 ● アスベスト含有成形板除去工事
	②法令等の遵守	施工にあたっては、「大気汚染防止法（昭和43年法律97号）」「労働安全衛生法（昭和47年法律57号）」「石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令21号）」「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）」「建築基準法（昭和25年法律201号）」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）（平成12年法律104号）」「京都府建築物の解体等に伴う石綿の飛散防止に関する緊急措置条例（平成17年京都府条例45号）」等、石綿除去に関する諸法令に基づき適正に作業を行う。諸法令の適用及び運用は、受注者の負担と責任において行う。ただし、当該工事に関係のない事項は適用しない。
	14 石綿含有建材の調査 (1.5.1)	事前調査 ・施工計画に先立ち、改正大気汚染防止法第18条の17の規定により、特定工事に該当するか否かの調査を行う。 調査結果について発注者に書面を交付して説明を行い、調査結果その他環境省令で定める事項を、公衆に見やすいように掲示し、その写しを工事の現場に備え置く。 なお、特定工事に該当する場合は、「特定粉じん排出等作業実施届出書」の届出内容について発注者に書面を交付して説明を行う。 ・施工計画に先立ち、石綿障害予防規則第3条の規定により、アスベスト含有建材の有無を調査する。 調査結果を記録し、作業に従事する労働者が見やすいように掲示する。 事前調査は、国土交通省に登録された機関が行う講習を修了した建築物石綿含有建材調査者、石綿作業主任者技能講習修了者、日本アスベスト調査診断協会に登録されたアスベスト診断士等が行い、資格証明書の写しを監督職員に提出する。 調査範囲 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿ 調査事項 ※石綿使用部位の確認 ※石綿層の厚さの確認 ※施工範囲と工事管理区分の確認 ※更衣施設等の仮設計画 ※廃棄物等の搬出方法 アスベスト含有分析 ○ 行う（分析結果を監督職員に提出する） 材料名 / 定性分析方法 / 定量分析方法 ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） ○（箇所数 ） / ○（箇所数 ） サンプル数 １箇所あたり３サンプル ※JIS A 1481に基づくこと。 ○ 行わない 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ●なし
	④アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)	アスベスト粉じん濃度測定 ● 行う 測定時期 / 測定場所 / 測定点(各施工箇所ごと) / 備考 除去作業前 / 除去作業室内 / ● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 / 調査対象室外部付近 / ● 1点 ○ 2点 ○ 点 / 除去作業中 / 除去作業室内 / ● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 / 負圧粉じん装置の排出吹き出し口 / 吹出し風速1m/秒以下の位置 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 / 除去作業室外 / ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 / 除去作業後 / 除去作業室内 / ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 / シート養生中 除去作業室内 / ● 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 / シート撤去後 調査対象室外部付近 / ● 1点 ○ 2点 ○ 点 / 1週間以降 ※周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。 ○ 行わない 測定機関 ※（公社）日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。 ○＿＿＿＿＿＿ 報告書提出部数 ※ 3部 ○ 部

章	項目	特記事項
13 アスベスト対策工事	⑤仕上げ工事 (9.1.1)	アスベスト含有建材除去後の仕上げ工事 ※図示による ○＿＿＿＿＿＿
	⑥石綿作業主任者 (9.1.2)	石綿作業主任者は、石綿作業主任者技能講習修了者または平成18年3月以前の特定化学物質等作業主任者の有資格者とし、証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出する。
	7 特別管理産業廃棄物管理責任者 (9.1.2)	特別管理産業廃棄物管理責任者の有資格者とし、証明書の写しに工事経歴書を添付して監督職員に提出する。ただし、アスベスト含有成形板の除去工事を除く。
	8 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)	施工業者 ※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出する。 ○ 「吹付アスベスト粉じん飛散防止処理技術」について（一財）日本建築センターの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。 除去を行う範囲 ※ 図示による（仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認） ○ 全ての室 ○＿＿＿＿＿＿ 除去工法 ※ 改修標仕9.1.3(b)(1)による ○＿＿＿＿＿＿ 除去を行うアスベスト含有吹付け材の仕様 種類 / 種類 ○吹付け石綿 / ○ ○石綿含有吹付けロックウール / ○ ○石綿含有吹付けひる石 / ○ ○石綿含有吹付けパーライト / ○ ○ / ○ 除去したアスベスト含有吹付材等の飛散防止 ※ 密封処理（二重袋梱包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 ※ 湿潤化 ○ セメント固化 ○ 溶融固化 除去物等の保管 ※ 他の建設副産物等と分別して保管する。 ※ 飛散防止措置を講ずる。 ※ アスベスト等の保管場所であることの表示を行う。 除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。 ○ 特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場における埋立処分 ○ 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 ※ 指定処分地（（株）京都環境保全公社 瑞穂環境保全センター 京都府船井郡京丹波町猪鼻冠石2-1 TEL 0774-88-0431） なお処分に関しては公社の受け入れ基準等を確認する。

章	項目	特記事項
13 アスベスト対策工事	9 アスベスト含有保温材等の除去 (9.1.4)	除去を行う範囲 ※ 図示による ○ ＿＿＿＿＿＿ 除去の方法 ※ 原形のまま手ばらし ○ 手ばらし以外（この場合は改修標仕9.1.3(a)による隔離とする） ○＿＿＿＿＿＿ 除去を行うアスベスト含有保温材等の仕様 種類 / 種類 ○石綿保温材 / ○石綿含有耐火被膜材 ○石綿含有けいそう土保温材 / ○石綿含有けい酸カルシウム板第二種 ○石綿含有パーライト保温材 / ○屋根用折版裏断熱材 ○石綿含有けい酸カルシウム保温材 / ○煙突用断熱材 ○石綿含有水練り保温材 / ○塩基性炭酸マグネシウム保温材 除去物の処理方法 ※ 密封処理（二重袋梱包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 ○ セメント固化 ○ 溶融固化 除去物等の保管 ※ 他の建設副産物等と分別して保管する。 ※ 飛散防止措置を講ずる。 ※ アスベスト等の保管場所であることの表示を行う。 除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。 ○ 特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場における埋立処分 ○ 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 ※ 指定処分地（（株）京都環境保全公社 瑞穂環境保全センター 京都府船井郡京丹波町猪鼻冠石2-1 TEL 0774-88-0431） なお処分に関しては公社の受け入れ基準等を確認する。

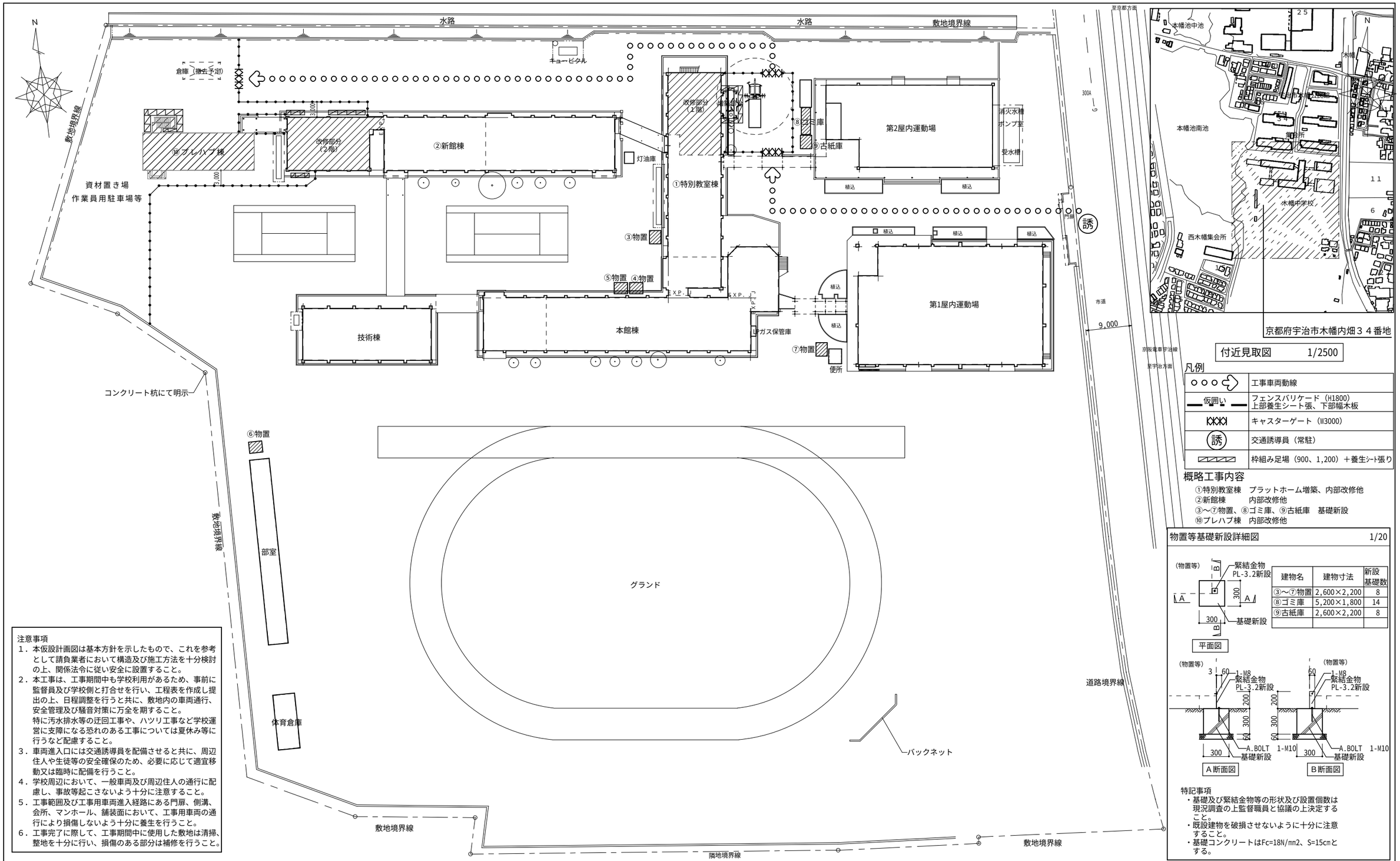
章	項目	特記事項
13 アスベスト対策工事	⑩アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)	除去を行う範囲 ※ 図示による ○＿＿＿＿＿＿ 除去の方法 ※ 湿潤化したのちに手ばらし ○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕 ○＿＿＿＿＿＿ 除去を行うアスベスト含有成形板の仕様 種類 / 厚(mm) / 種類 / 厚(mm) ○石綿含有スレート / / ○石綿含有ビニル床タイル / 2.0 ○石綿含有けい酸カルシウム板 / / ○石綿セメントけい酸ｶﾙｼｳﾑ板 / ○石綿含有押出成形セメント板 / / ○化粧石綿セメントけい酸ｶﾙｼｳﾑ板 / ○石綿含有岩綿吸音天井板 / / ○ / ●石綿含有石膏ボード / 12.0 / ○ / 除去物等の保管 ※ 他の建設副産物等と分別して保管する。 ※ 飛散防止措置を講ずる。 ※ アスベスト等の保管場所であることの表示を行う。 除去物等の処分 廃棄物及び清掃に関する法律（昭和45年法律137号）の規定を遵守して行う。 アスベスト含有石膏ボード（管理型最終処分場における埋立処分）を除くアスベスト含有成形板 ○ 石綿含有産業廃棄物として、安定型最終処分場における埋立処分 ○ 都道府県知事等から設置許可を受けた溶融施設における溶融または環境大臣の認定を受けた無害化処理施設における無害化処理 ※ 指定処分地（（財）宇治廃棄物処理公社 京都府宇治市池の尾仙郷山6-2 TEL 0774-21-2807） なお処分に関しては公社の受け入れ基準等を確認する。

杉原設計事務所
1級建築士 第293338号
村上 哲生

設計番号	設計年度	令和 年 月

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事
図名	アスベスト対策工事特記仕様書

図番 No. A-13



配置図　1/500

京都府宇治市木幡内畑３４番地

付近見取図　1/2500

凡例

○○○⇨	工事車両動線
―仮囲い―	フェンスバリケード（H1800） 上部養生シート張、下部幅木板
⋈⋈⋈	キャスターゲート（W3000）
誘	交通誘導員（常駐）
▱▱▱	枠組み足場（900、1,200）＋養生ｼｰﾄ張り

概略工事内容

①特別教室棟　プラットホーム増築、内部改修他
②新館棟　内部改修他
③～⑦物置、⑧ゴミ庫、⑨古紙庫　基礎新設
⑩プレハブ棟　内部改修他

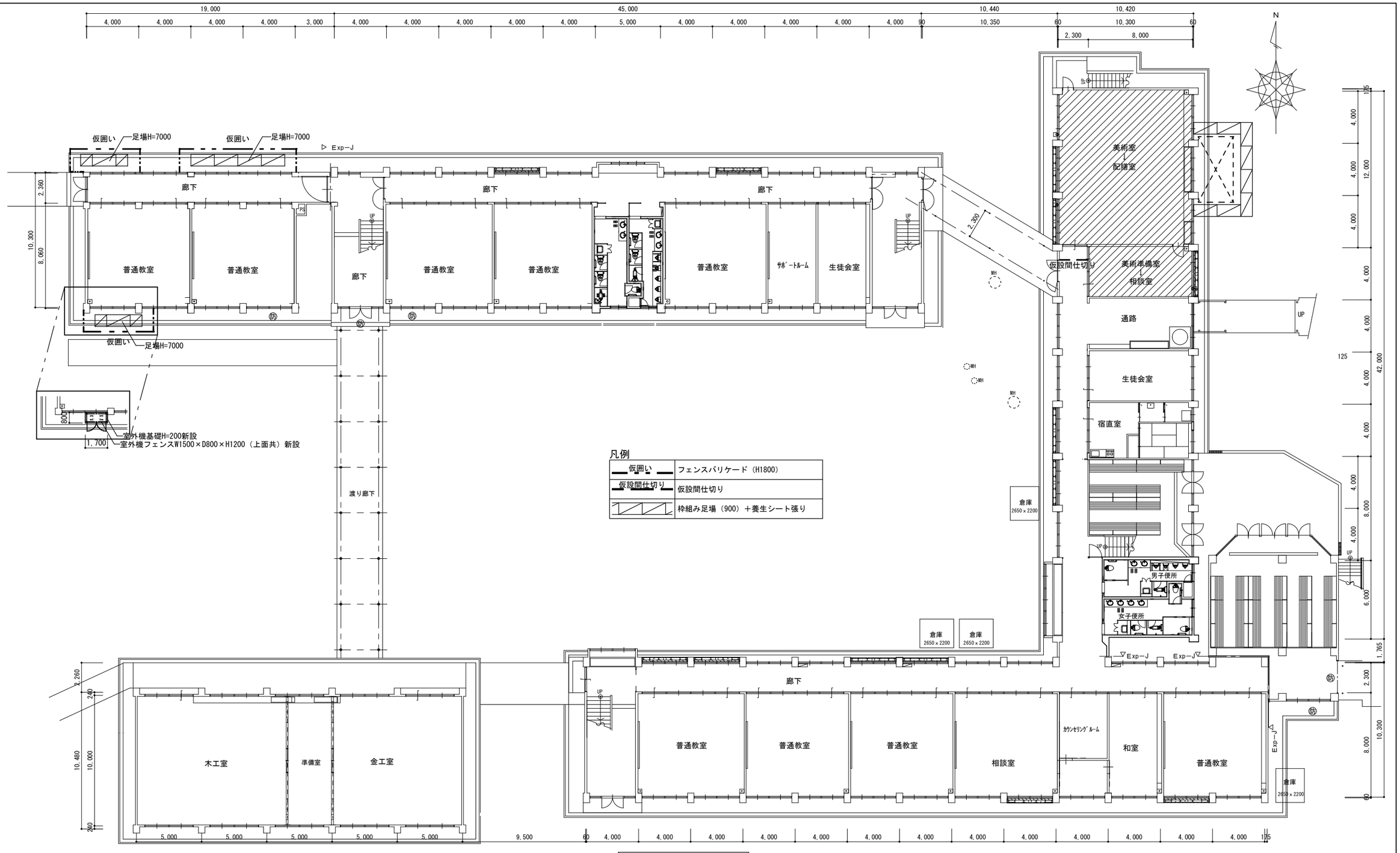
物置等基礎新設詳細図　1/20

建物名	建物寸法	新設基礎数
③～⑦物置	2,600×2,200	8
⑧ゴミ庫	5,200×1,800	14
⑨古紙庫	2,600×2,200	8

特記事項
- 基礎及び緊結金物等の形状及び設置個数は現況調査の上監督職員と協議の上決定すること。
- 既設建物を破損させないように十分に注意すること。
- 基礎コンクリートはFc=18N/mm2、S=15cmとする。

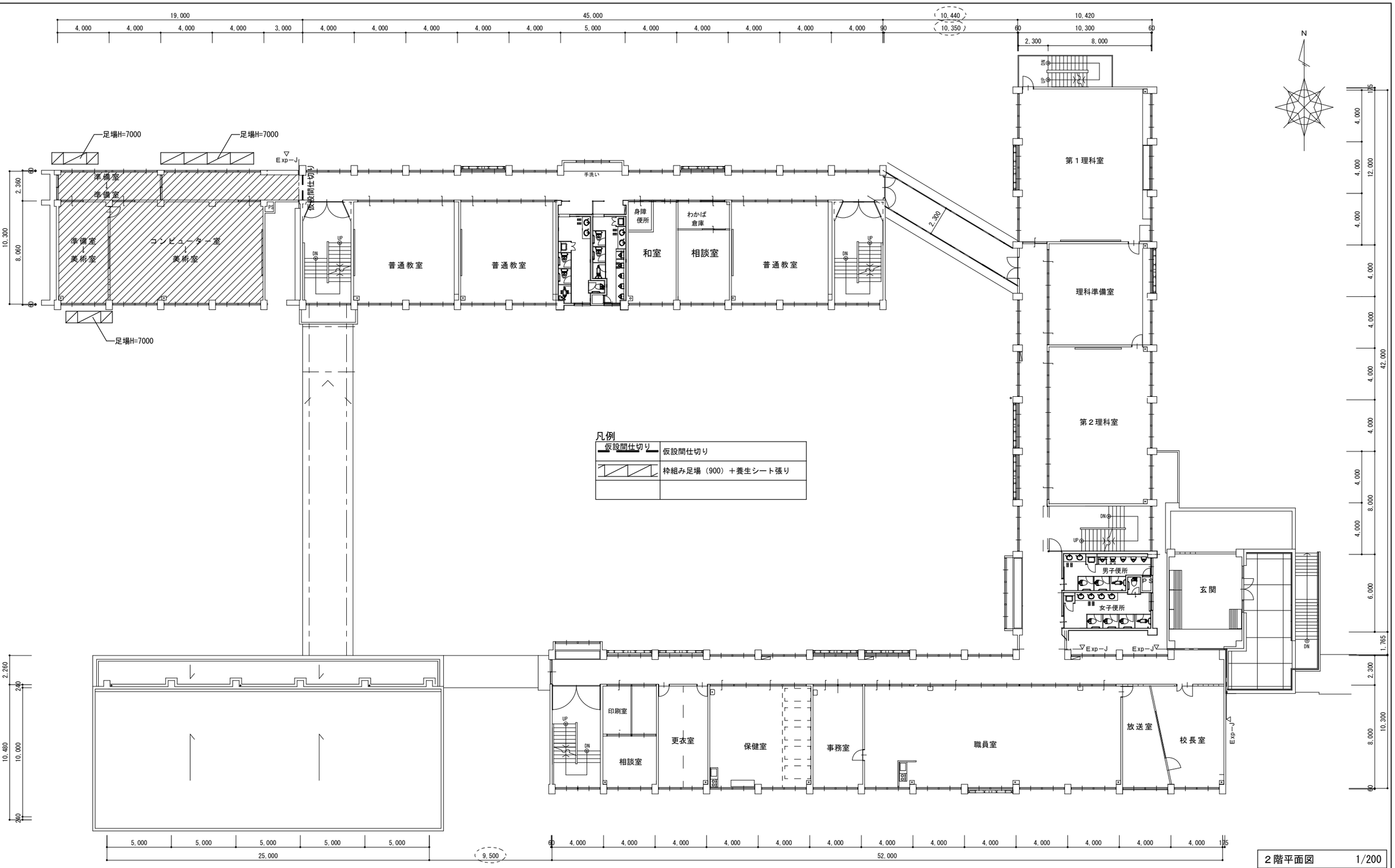
注意事項
1．本仮設計画図は基本方針を示したもので、これを参考として請負業者において構造及び施工方法を十分検討の上、関係法令に従い安全に設置すること。
2．本工事は、工事期間中も学校利用があるため、事前に監督員及び学校側と打合せを行い、工程表を作成し提出の上、日程調整を行うと共に、敷地内の車両通行、安全管理及び騒音対策に万全を期すること。
特に汚水排水等の迂回工事や、ハツリ工事など学校運営に支障になる恐れのある工事については夏休み等に行うなど配慮すること。
3．車両進入口には交通誘導員を配備させると共に、周辺住人や生徒等の安全確保のため、必要に応じて適宜移動又は臨時に配備を行うこと。
4．学校周辺において、一般車両及び周辺住人の通行に配慮し、事故等起こさないよう十分に注意すること。
5．工事範囲及び工事用車両進入経路にある門扉、側溝、会所、マンホール、舗装面において、工事用車両の通行により損傷しないよう十分に養生を行うこと。
6．工事完了に際して、工事期間中に使用した敷地は清掃、整地を十分に行い、損傷のある部分は補修を行うこと。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-14／56
ITEM 付近見取図、配置図兼仮設計画図		SCALE 1/500、1/2,500		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW



1階平面図　1/200

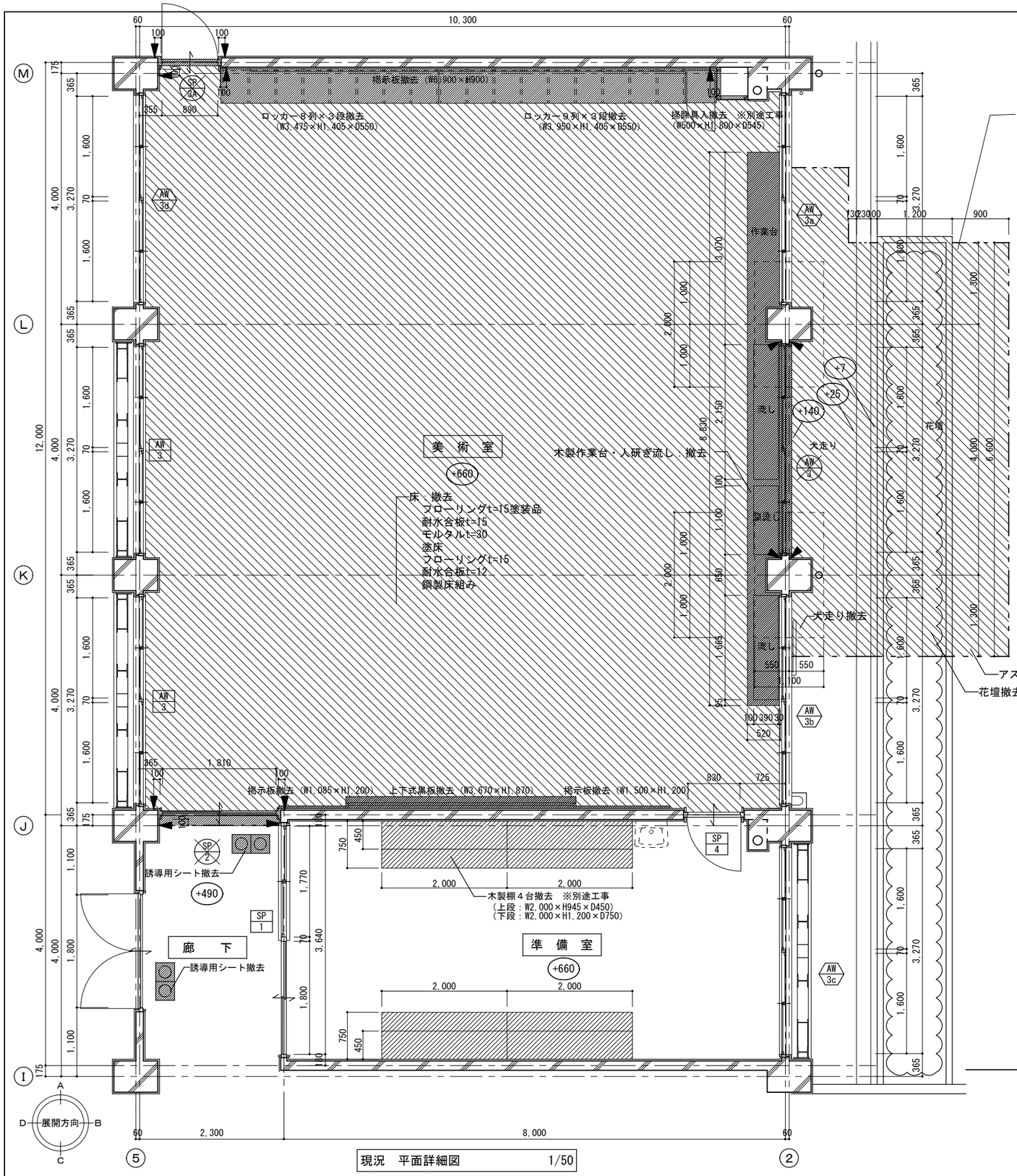
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-15／56
ITEM 1階平面図（本館棟・特別教室棟・新館棟・技術棟）		SCALE 1/200		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事
ITEM	２階平面図（本館棟・特別教室棟・新館棟・技術棟）
DATE	2025.03
SCALE	1/200
WORK	意
NO.	A-16 / 56
INSP	
CHECK	
CHIEF	
DRAW	

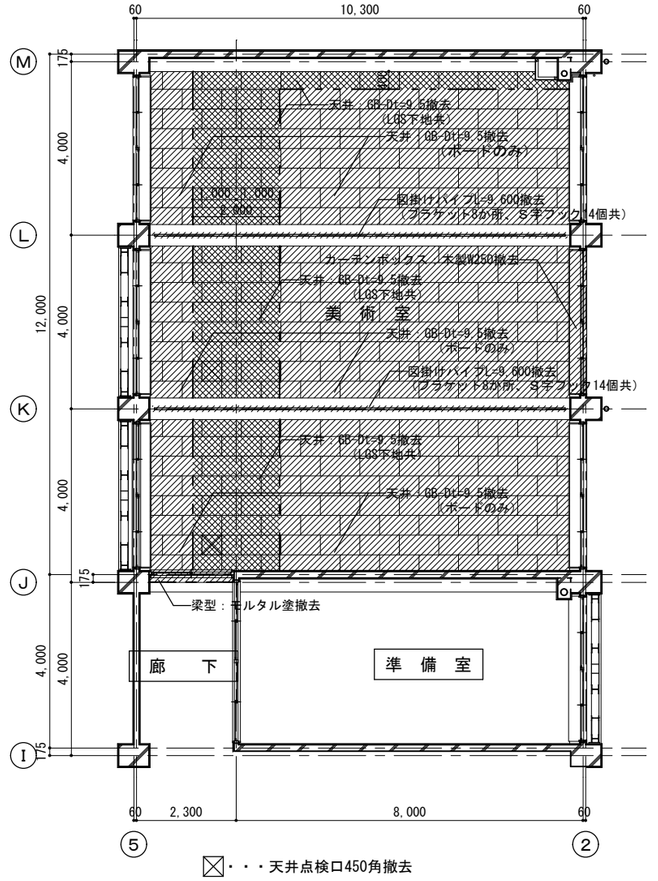
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号　村上　哲生

２階平面図　1/200



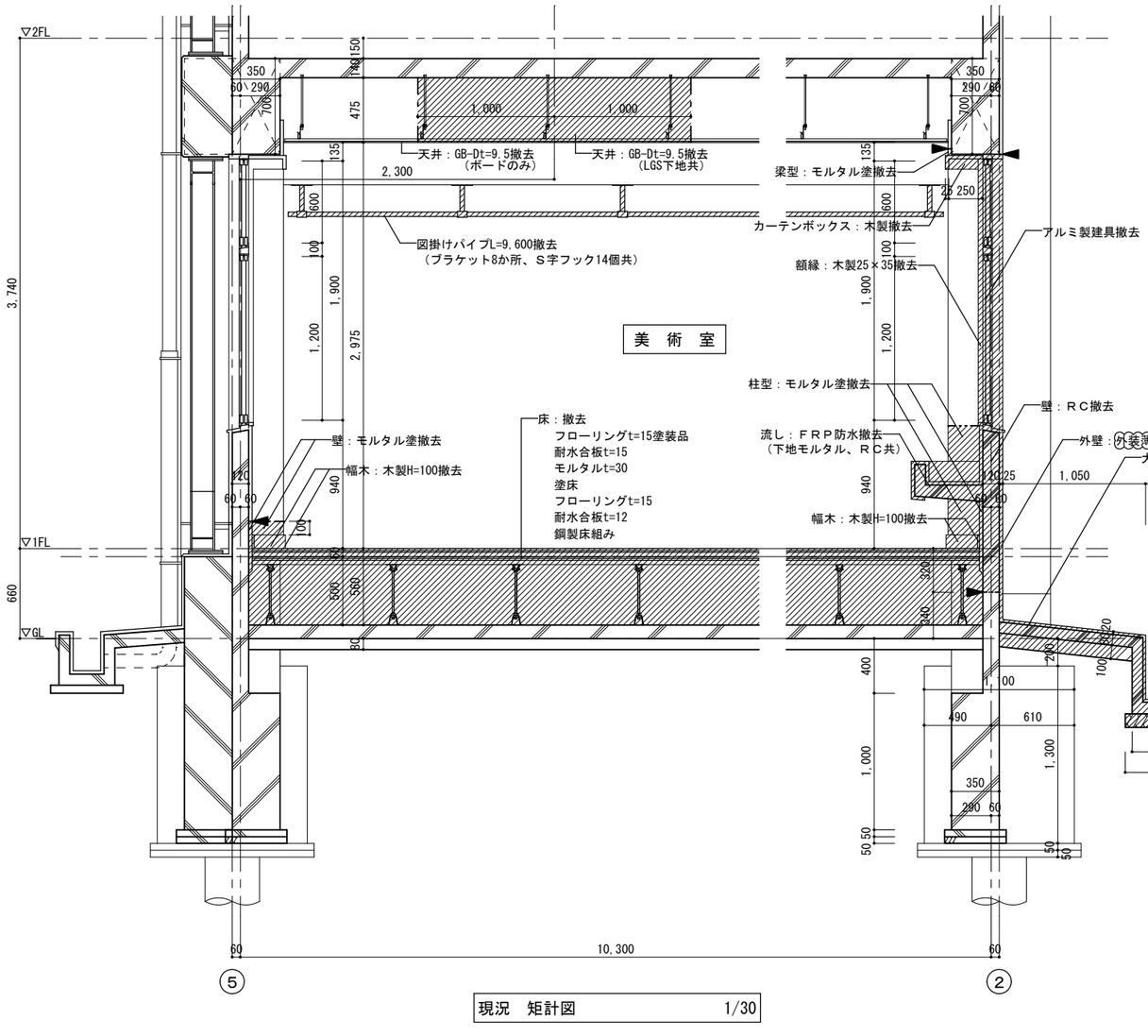
※解体作業時にﾌﾟﾗｯﾄﾎｰﾑ周りにおける既設配管影響範囲の試掘を実施すること。

現況　平面詳細図　1/50

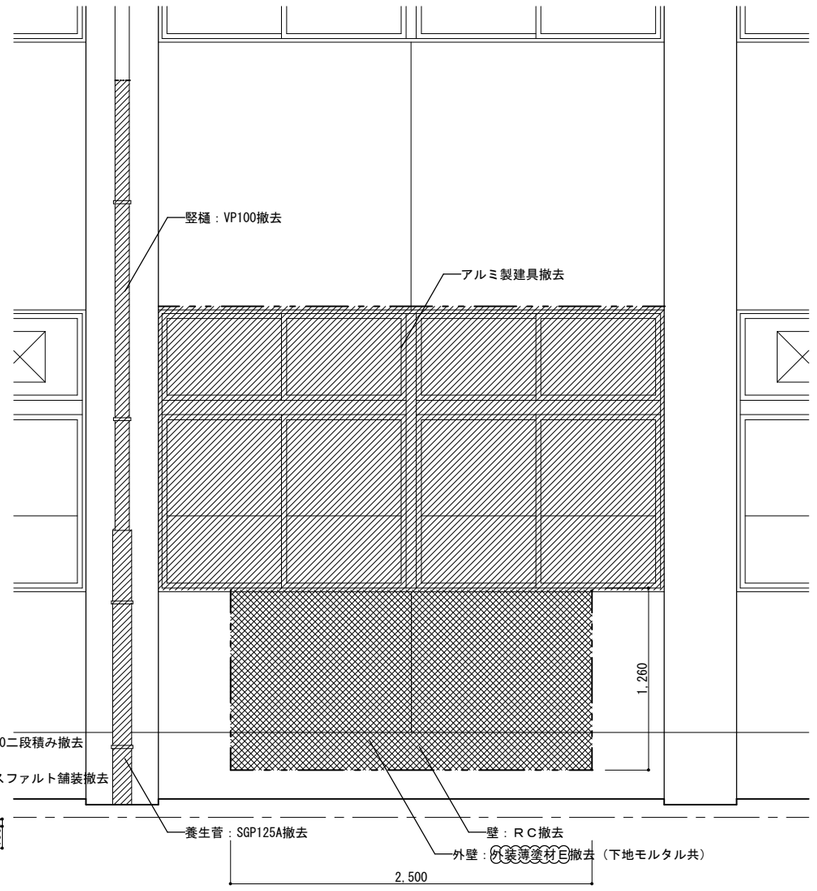


現況　天井伏図　1/100

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-17／56
ITEM 特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（１）	SCALE 図示		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

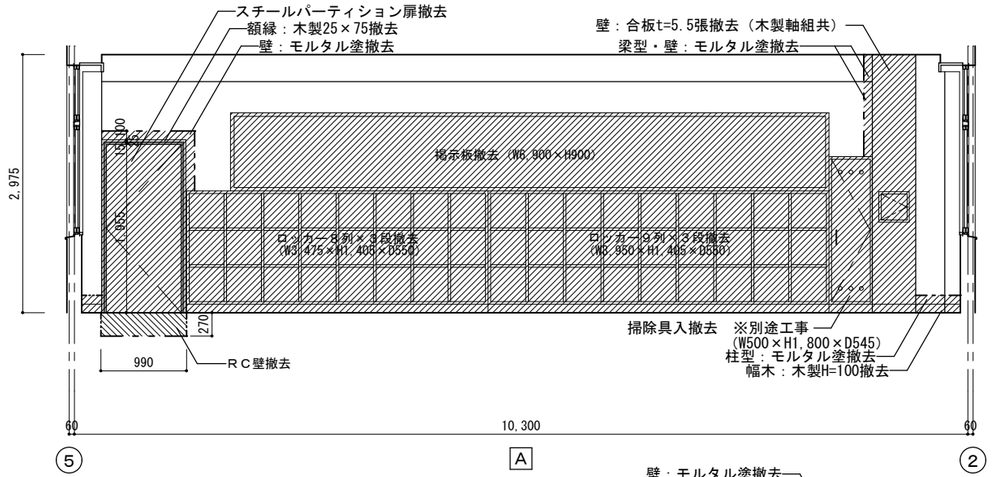


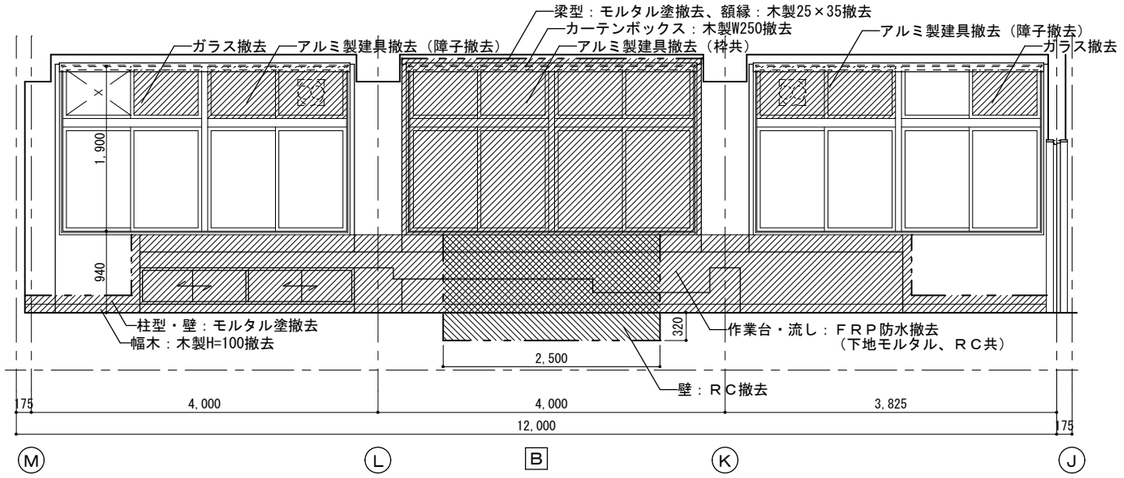
現況　矩計図　1/30

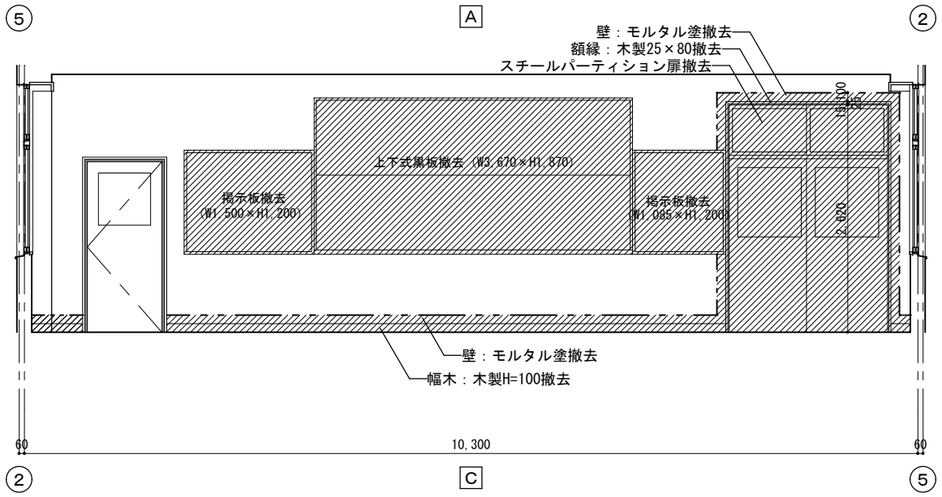


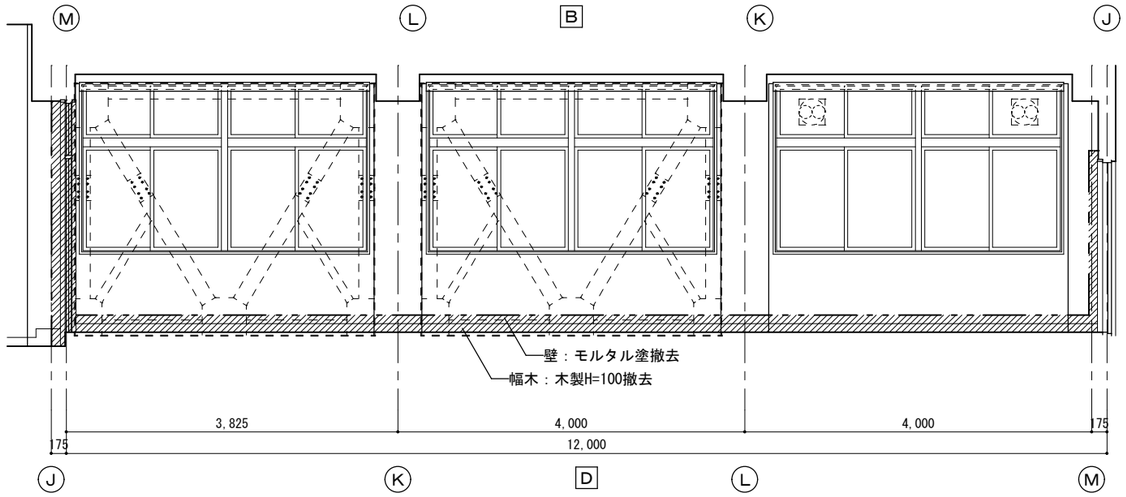
現況　立面図　1/30

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意 / NO. A-18/56
ITEM 特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（２）		SCALE 1/30	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW	



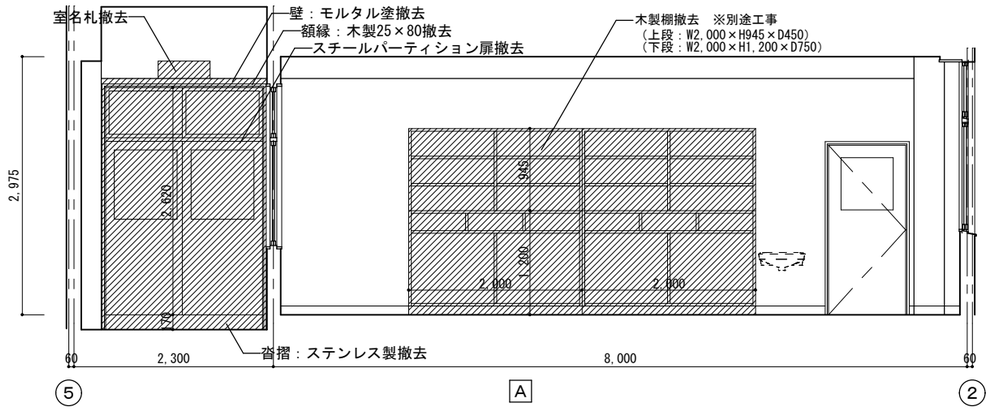


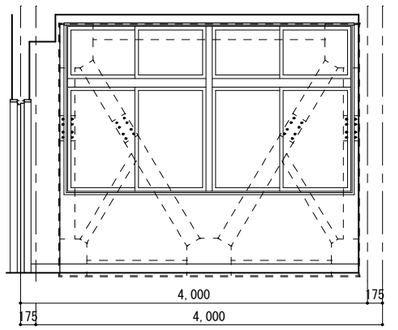


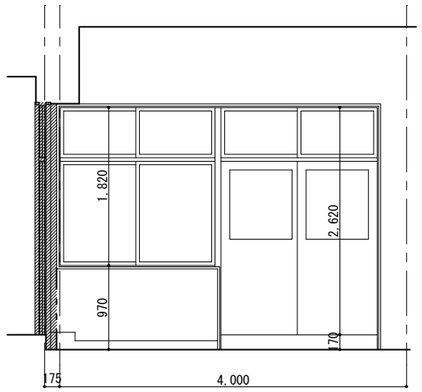


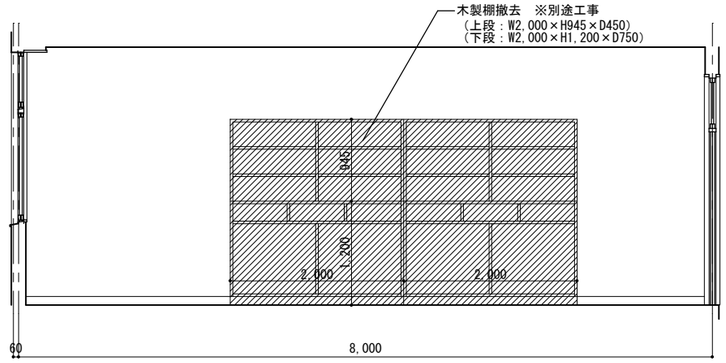
現況　美術室展開図　1/50

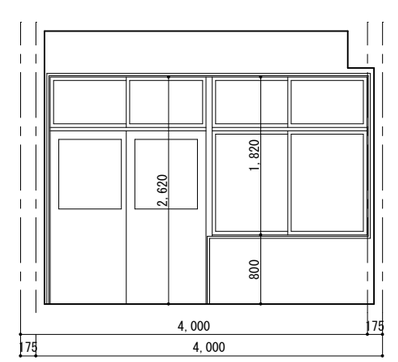
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-19／56
ITEM 特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（３）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



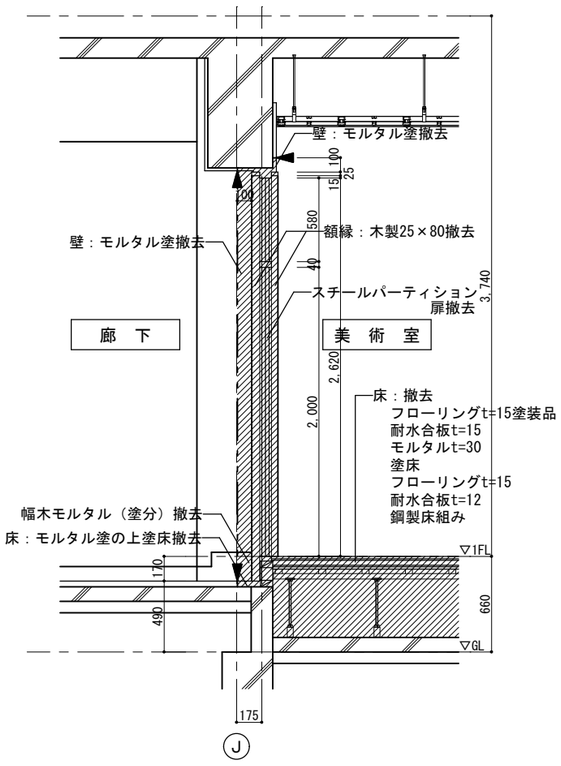






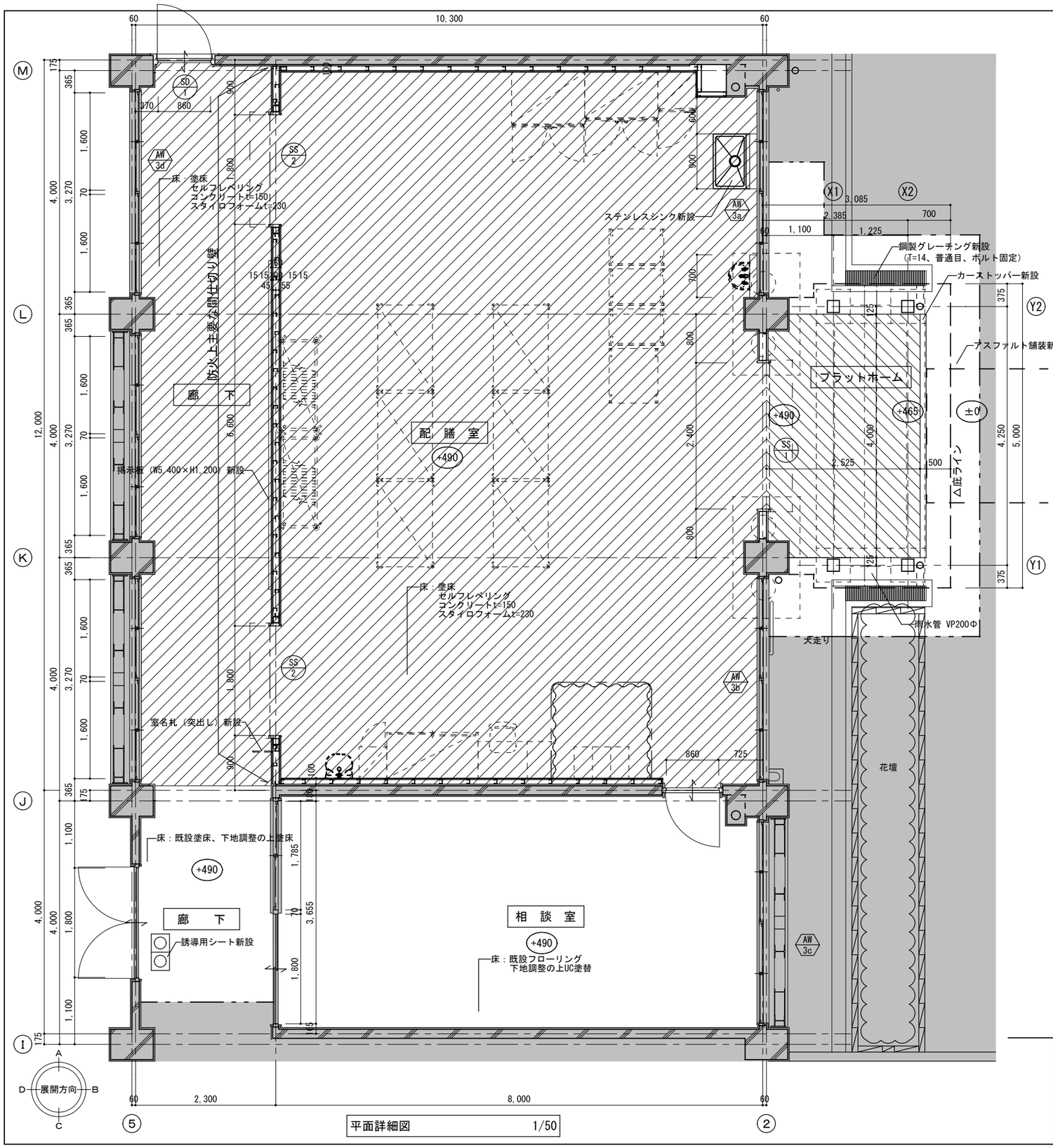


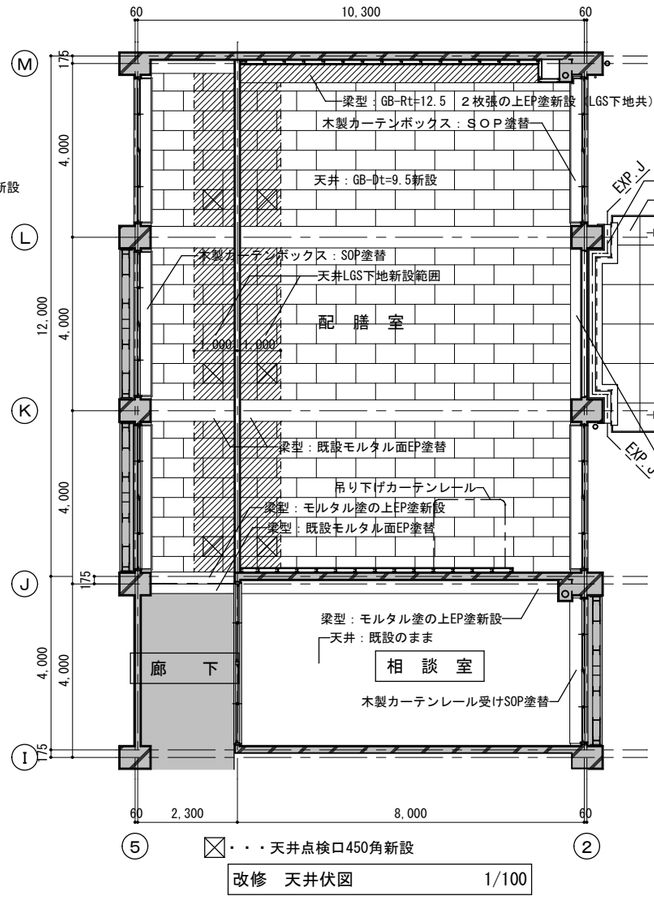
現況　美術室準備室展開図　1/50



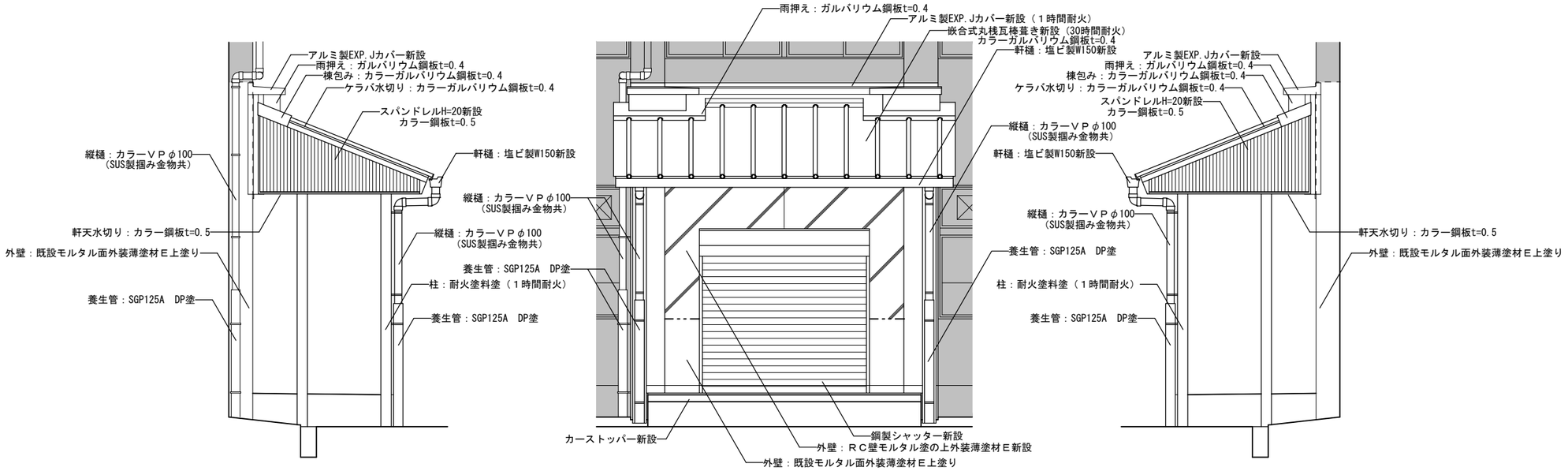
現況　矩計図　1/30

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-20／56
ITEM 特別教室棟　[現況]美術室・準備室詳細図（４）	SCALE 図示		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



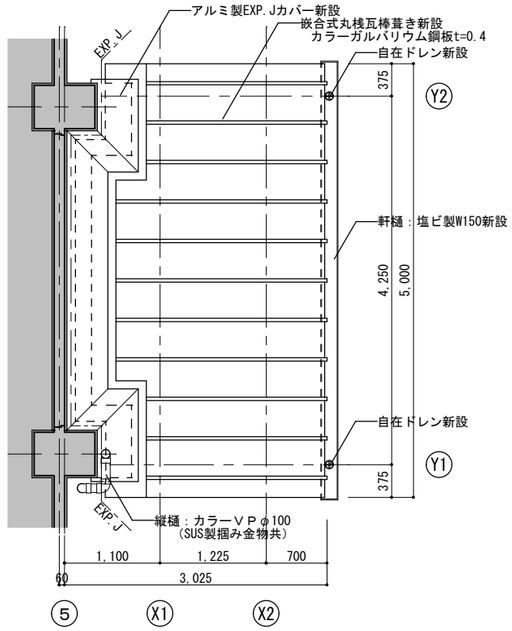


TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-21／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（１）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



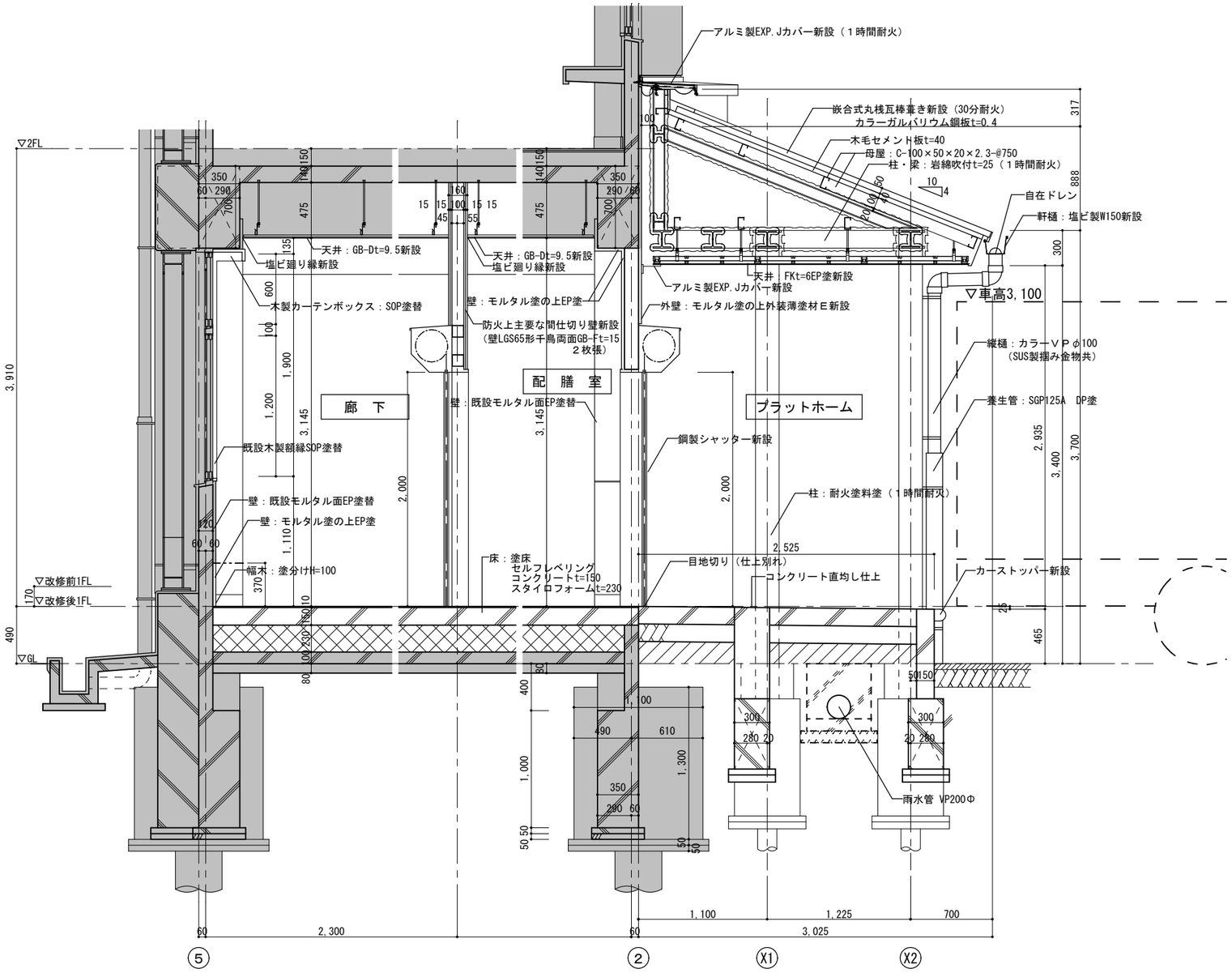
改修　立面図　1/50

室名		床	幅木	壁	天井
美術室 ⇩ 配膳室 廊下	現況	フローリングt=15 耐水合板t=15 モルタルt=30 塗床 フローリングt=15 耐水合板t=12 鋼製床組み （撤去）	木製H=100撤去	モルタル塗の上EP一部撤去 合板t=5.5撤去（木製下地共）	GB-Dt=9.5撤去 （一部LGS下地共）
	改修 配膳室	塗床 セルフレベリング コンクリートt=150 スタイロフォームt=230 （新設）	ビニル幅木H=100新設	腰壁：不燃メラミン化粧板t=3 既設面：下地調整の上EP塗替 モルタル塗の上EP塗 防火上主要な間仕切り壁EP塗	GB-Dt=9.5新設 （一部LGS下地共）
	改修 廊下	塗床 セルフレベリング コンクリートt=150 スタイロフォームt=230 （新設）	ビニル幅木H=100新設	既設面：下地調整の上EP塗替 モルタル塗の上EP塗 防火上主要な間仕切り壁EP塗	GB-Dt=9.5新設 （一部LGS下地共）
準備室 ⇩ 相談室	現況	フローリングt=15塗装品	木製H=100	モルタル塗の上EP塗	GB-Dt=9.5
	改修	下地調整の上UC塗替	下地調整の上SOP塗替	下地調整の上EP塗替	既設のまま
廊下	現況	モルタル塗の上塗床	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗
	改修	下地調整の上塗床	一部下地調整の上 EP塗替	一部下地調整の上 EP塗替	既設のまま

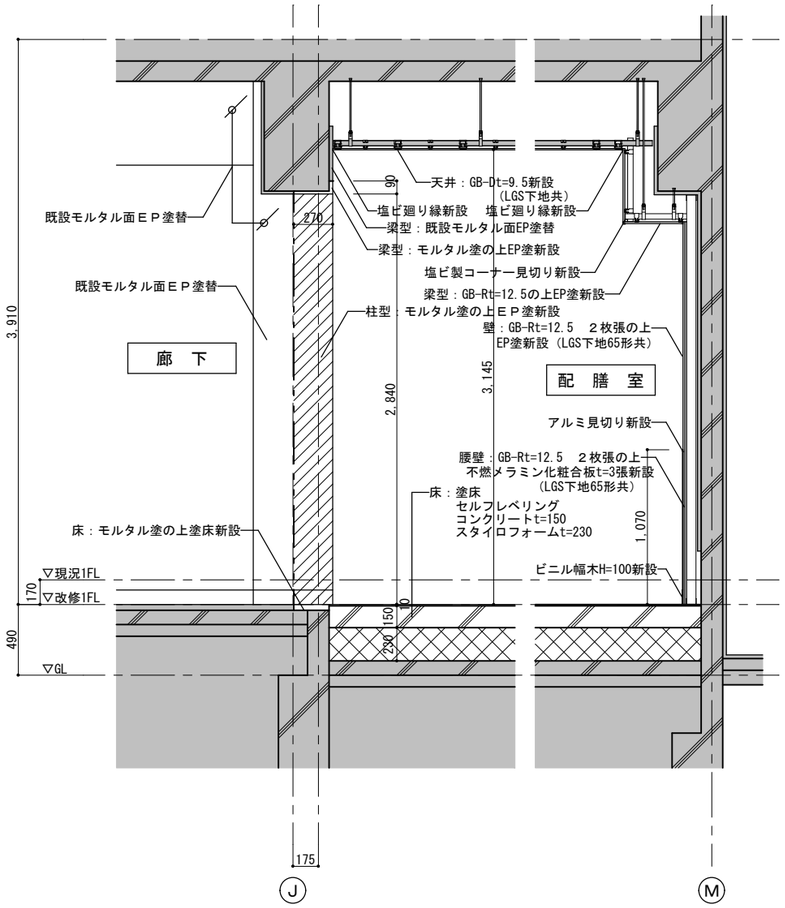


改修　屋根伏図　1/50

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	NO.
ITEM	特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（２）	SCALE	1/50	意	A-22／56
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

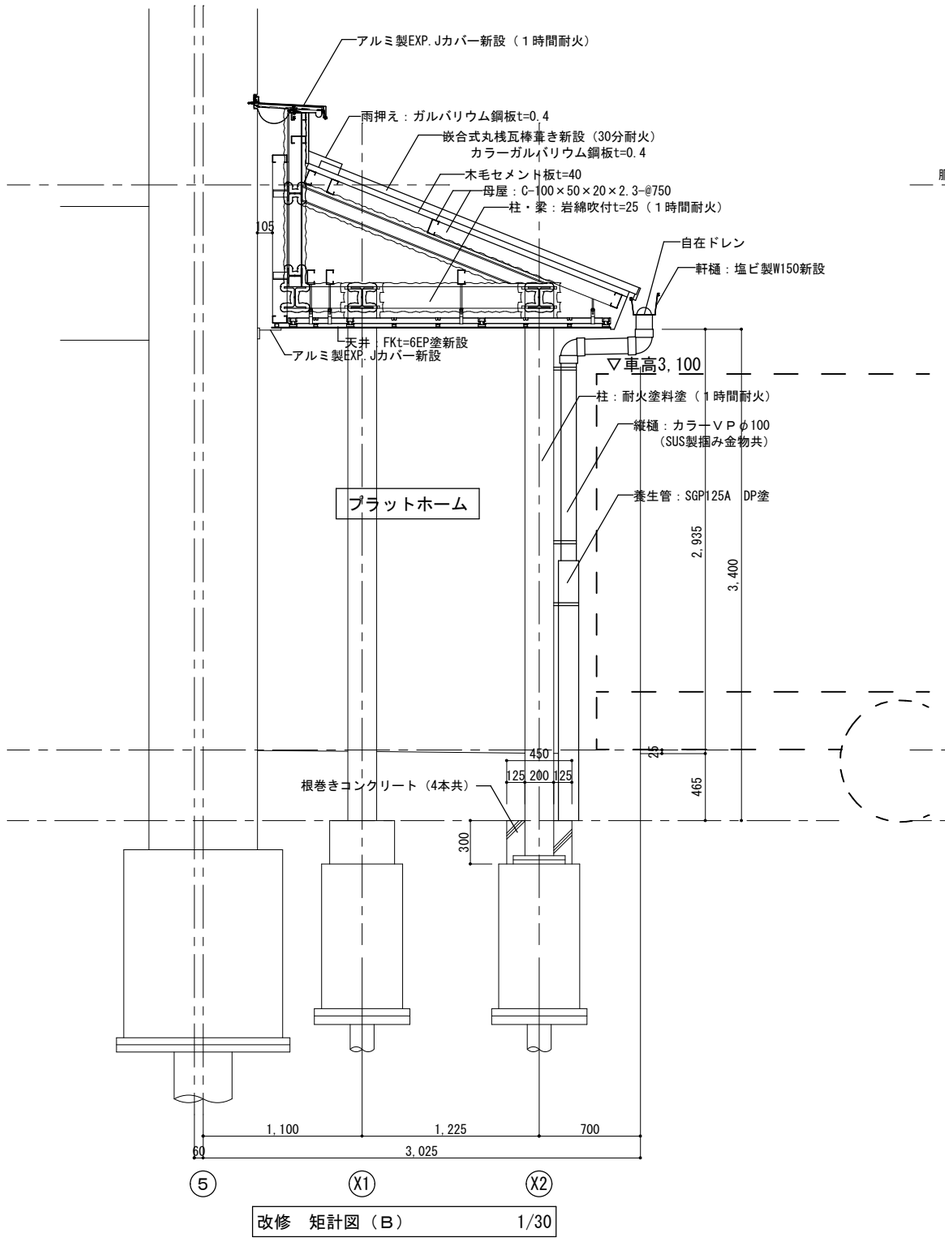


改修　矩計図（Ａ）　1/30

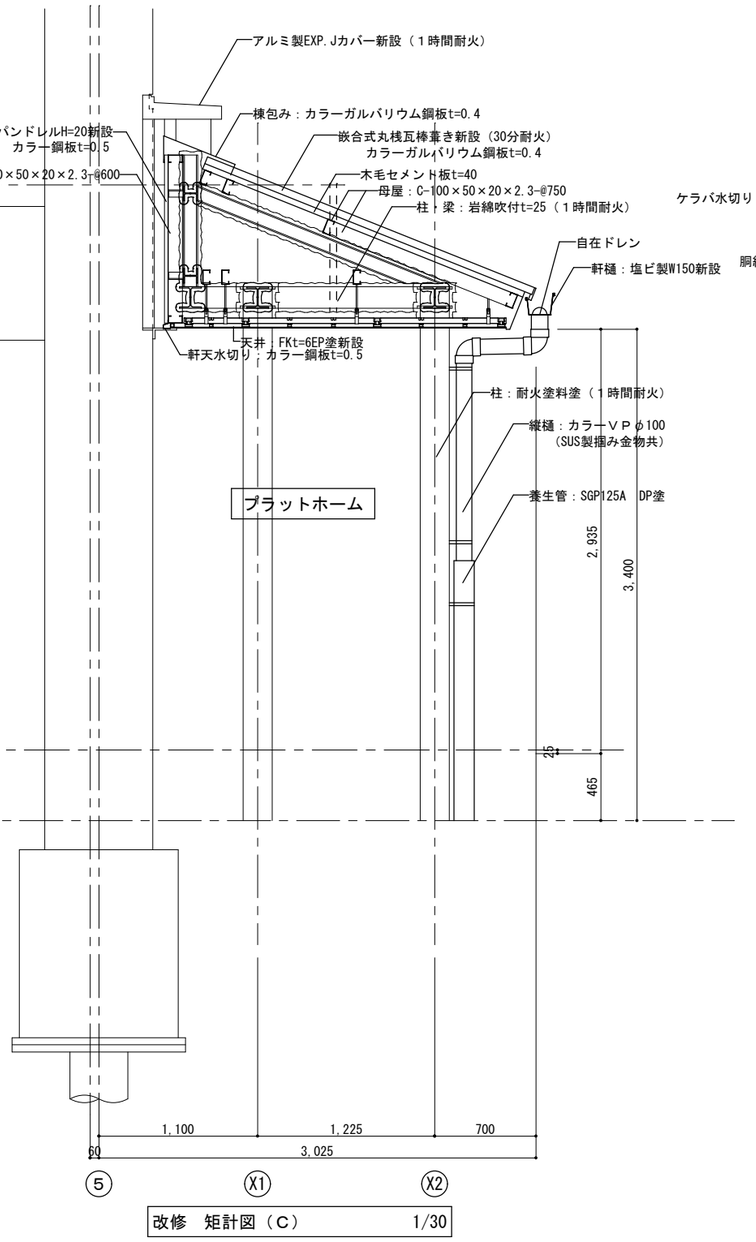


改修　矩計図（廊下）　1/30

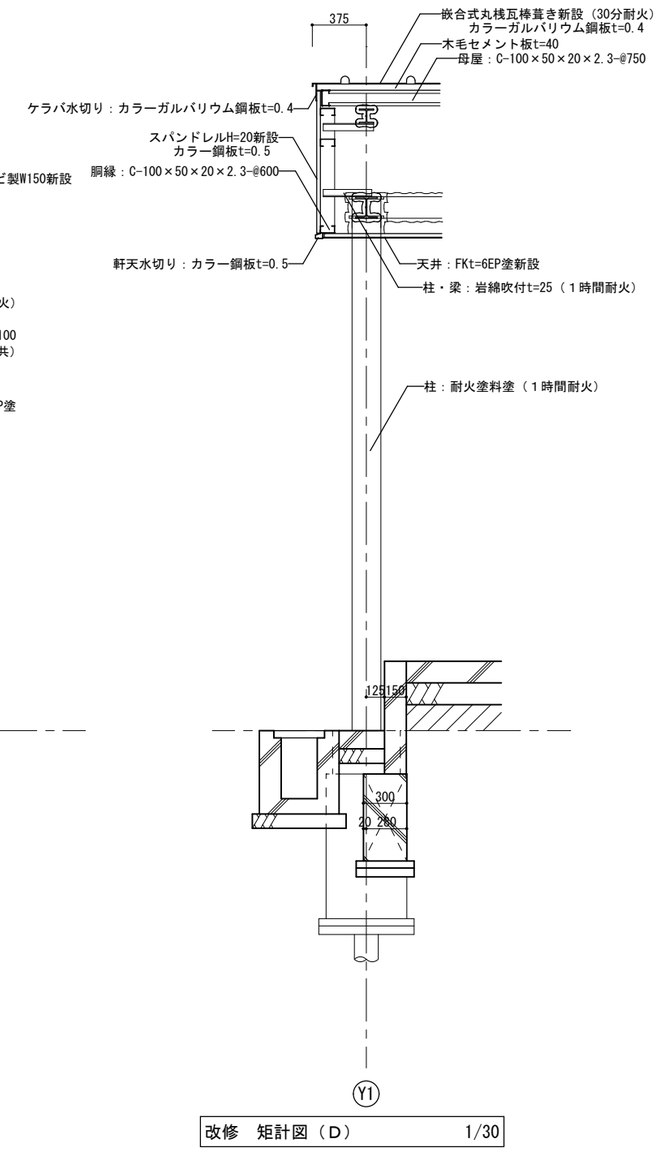
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-23／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（３）		SCALE 1/30		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



改修　矩計図（Ｂ）　1/30

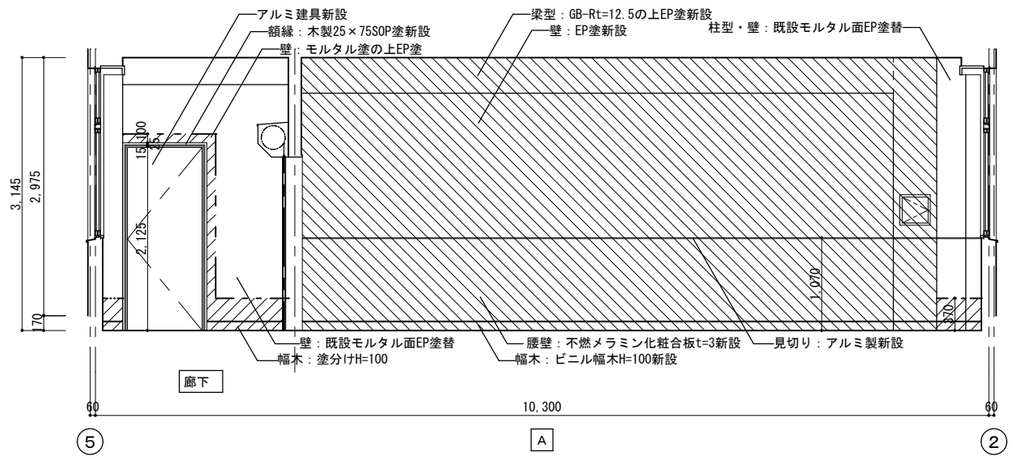


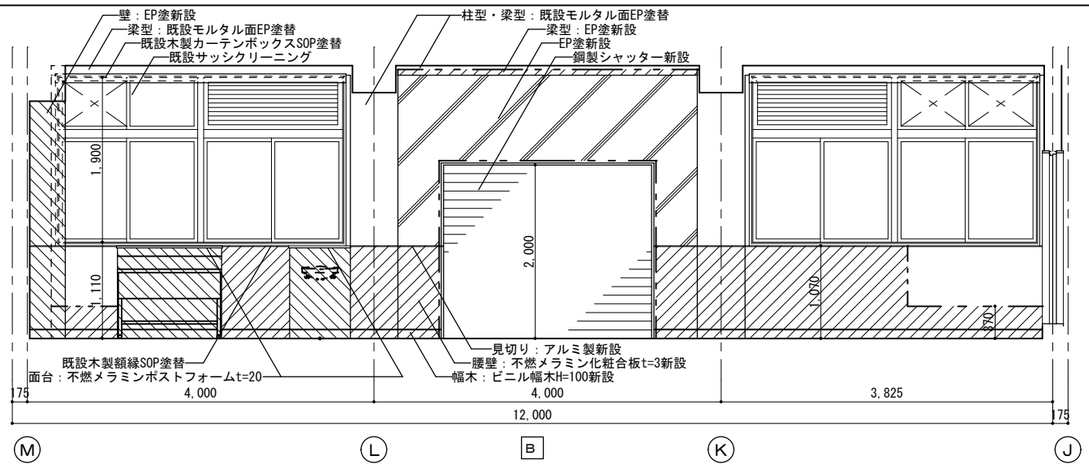
改修　矩計図（Ｃ）　1/30

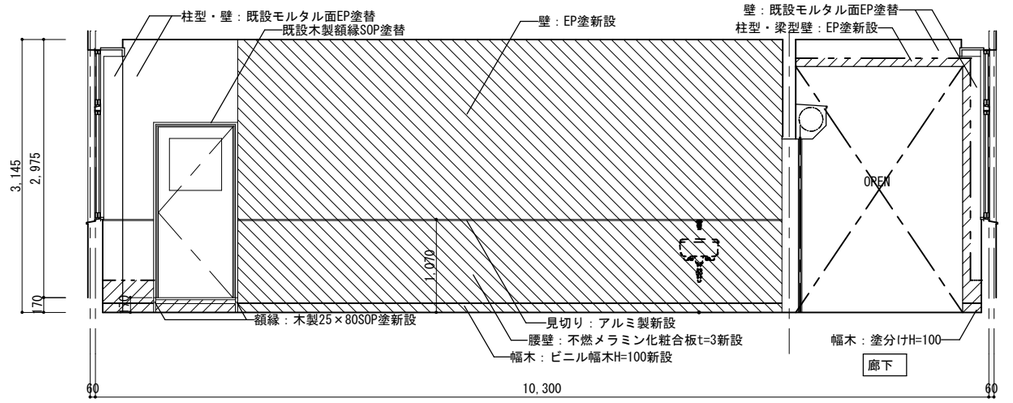


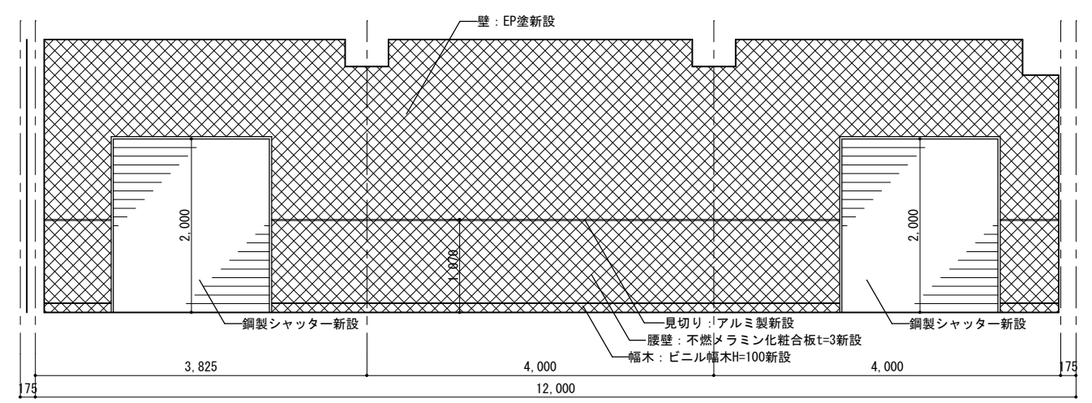
改修　矩計図（Ｄ）　1/30

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-24／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（４）		SCALE 1/30		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW









改修　配膳室展開図　1/50

凡例

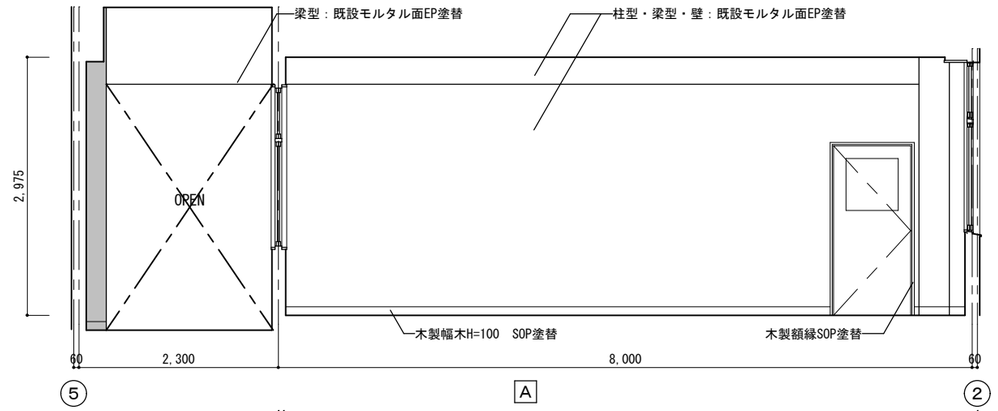
・・・鉄筋コンクリート壁新設を示す。

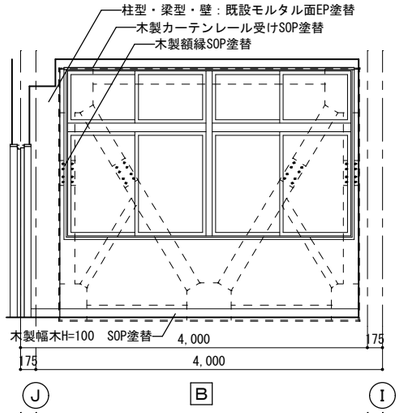
・・・モルタル塗新設を示す。

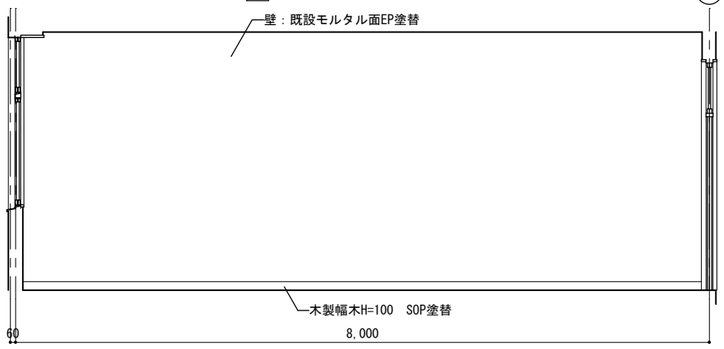
・・・ふかし壁新設を示す。
（壁LGS下地65形片面GB-Rt=12.5　２枚張）

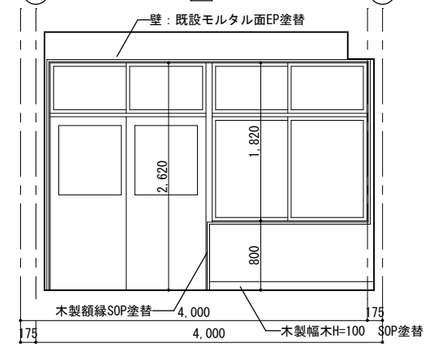
・・・防火上主要な間仕切り壁新設を示す。
（壁LGS65形両面GB-Ft=15　２枚張）

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-25／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（５）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW

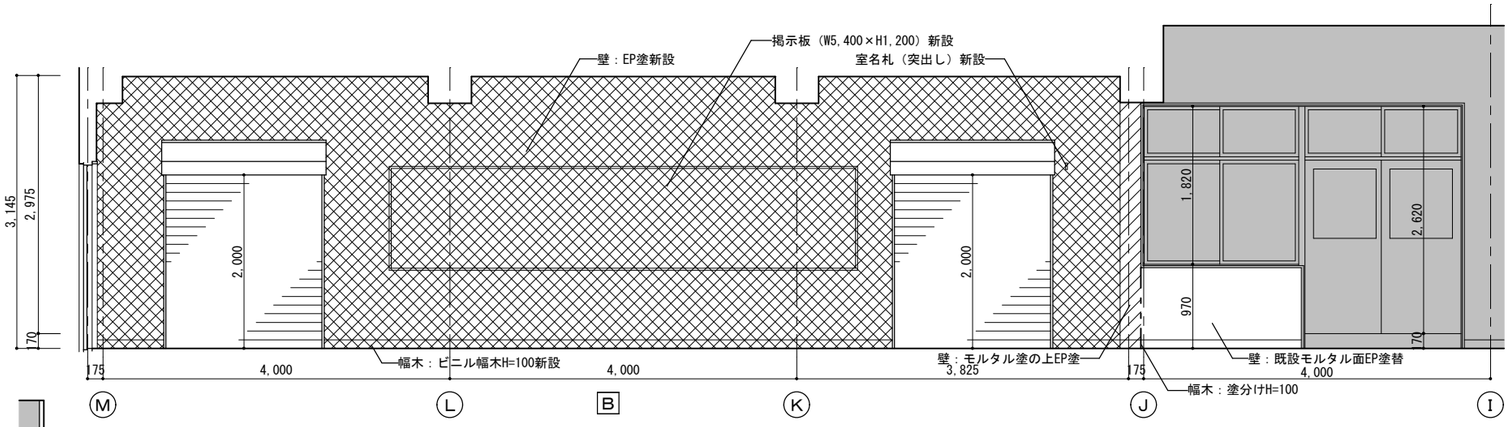


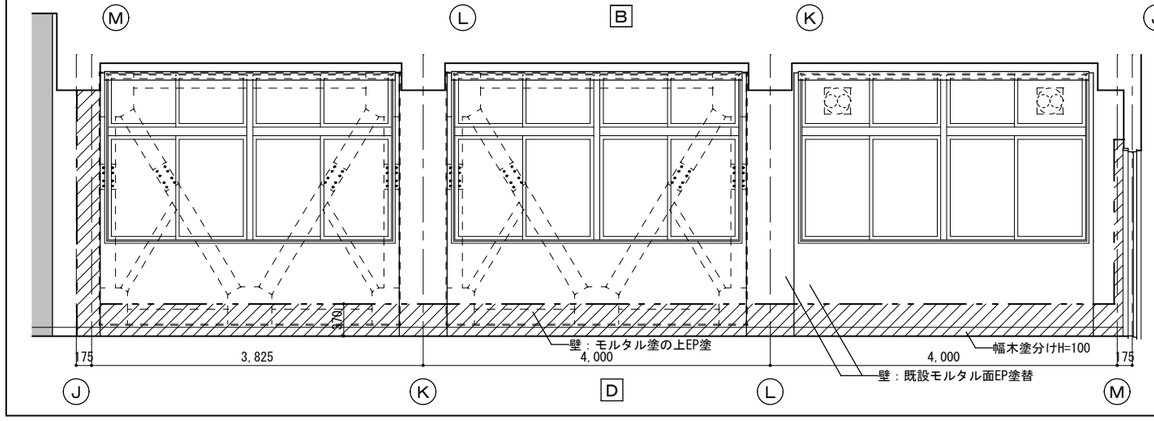






改修　美術室準備室展開図　1/50





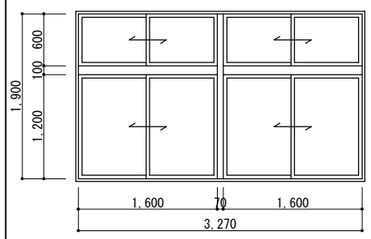
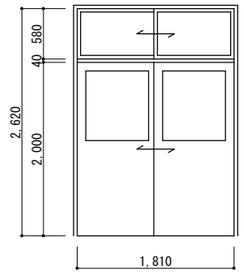
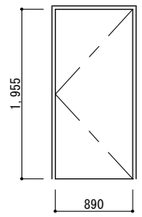
改修　廊下展開図　1/50

展開図凡例

- ・・・鉄筋コンクリート壁新設を示す。
- ・・・モルタル塗新設を示す。
- ・・・ふかし壁新設を示す。（壁LGS下地65形片面GB-Ft=15）
- ・・・防火上主要な間仕切り壁新設を示す。（壁LGS65形両面GB-Ft=15　２枚張）

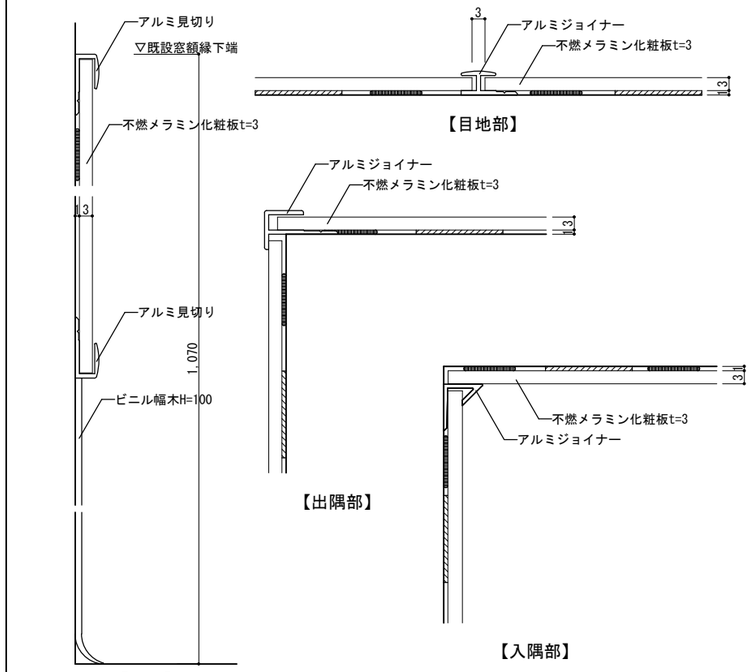
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-26／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り詳細図（６）	SCALE 図示		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW		

| 符号 | 名称 | 個数 | | |

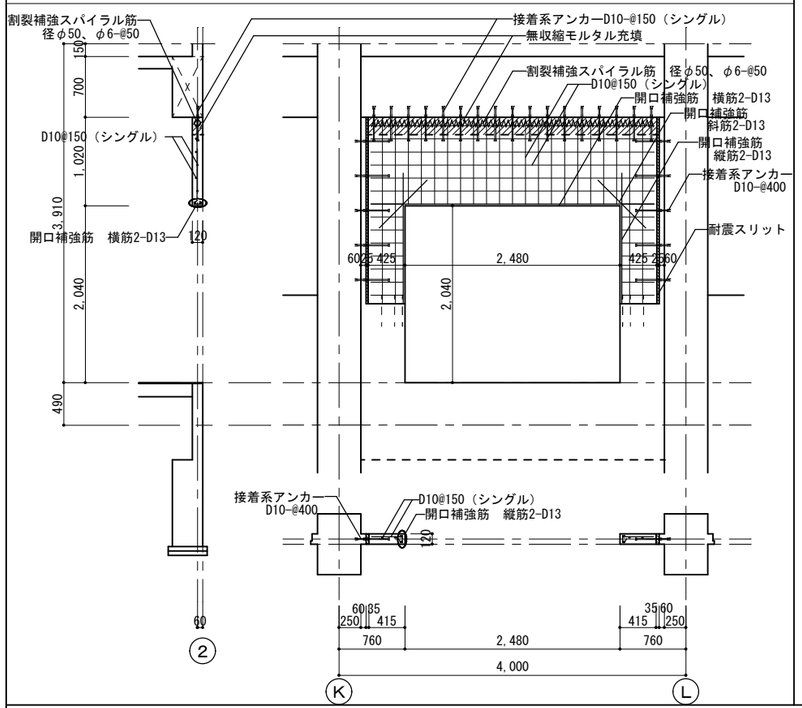
符号	名称	個数																							
			AW 3	アルミ製２連２段引違い窓	1				SP 2	学校間仕切り	1				SP 3a	学校間仕切り	1								
姿図																					
仕上	見込	防火	ＢＢ－１	70	非防火				枠：鋼板粉体塗装 扉：カラー鋼板	枠：80	不燃				枠：鋼板粉体塗装 扉：カラー鋼板	枠：80	ー								
ガラス	場所		透明t=3	（現況）美術室					欄間：透明t=3 扉・窓：スリt=3	（現況）美術室					ー	（現況）美術室									
金物			クレセント、アングルピース、アルミ水切りW120 付属金物一式						付属金物一式						付属金物一式										
工事内容			撤去（枠共）						撤去（枠共）						撤去（枠共）										
符号	名称	個数																							
姿図																									
仕上	見込	防火																							
ガラス	場所																								
金物																									
工事内容																									
符号	名称	個数																							
姿図																									
仕上	見込	防火																							
ガラス	場所																								
金物																									
工事内容																									

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意 / NO. A-28／56
ITEM	特別教室棟　美術室→配膳室　建具表（２）	SCALE 1/50	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW	

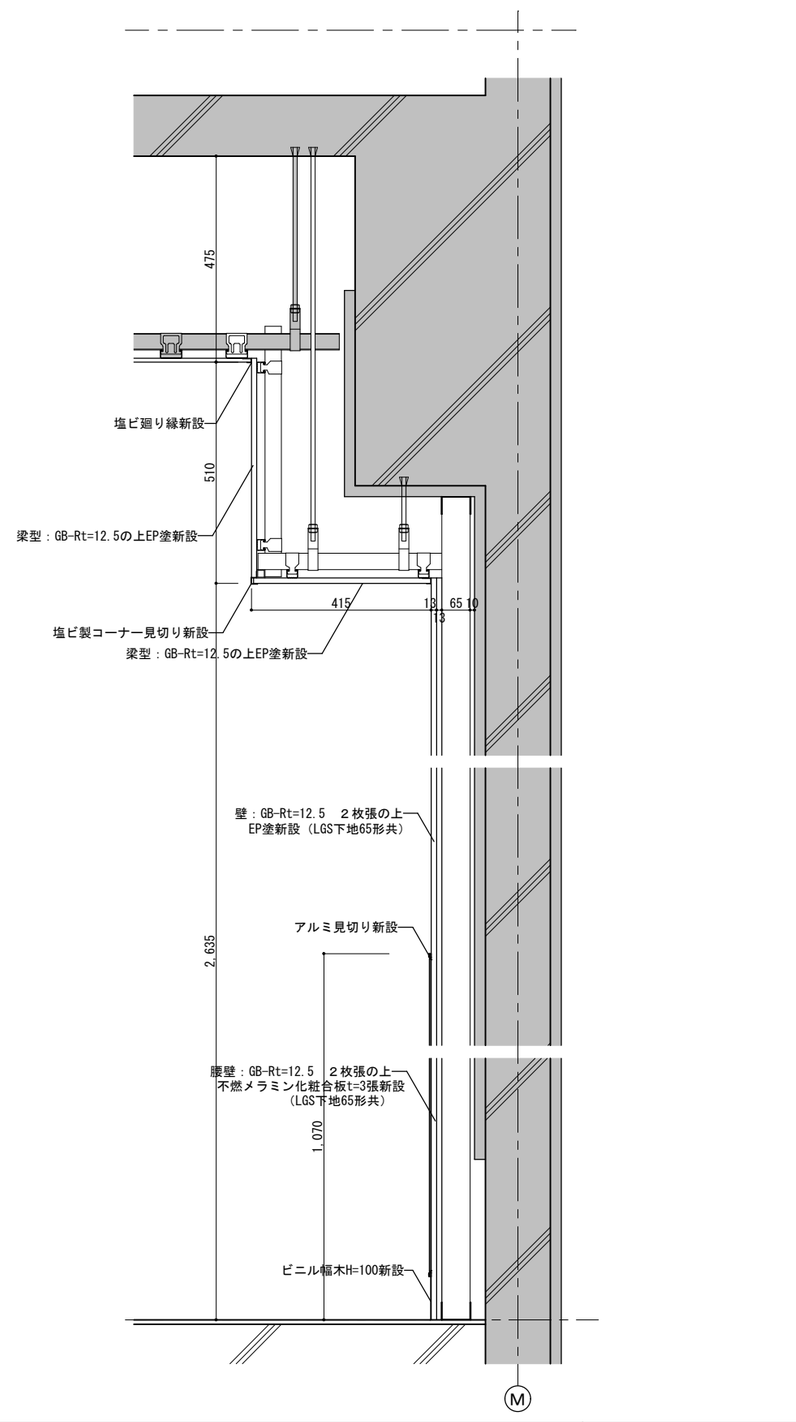
腰壁不燃メラミン化粧板詳細図　１／１



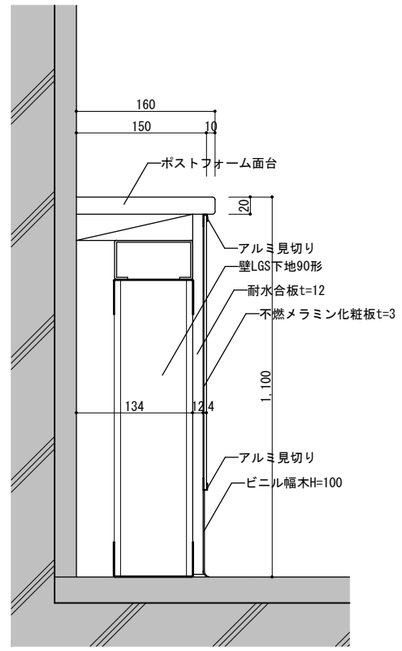
新設ＲＣ壁（２通）詳細図　１／５０



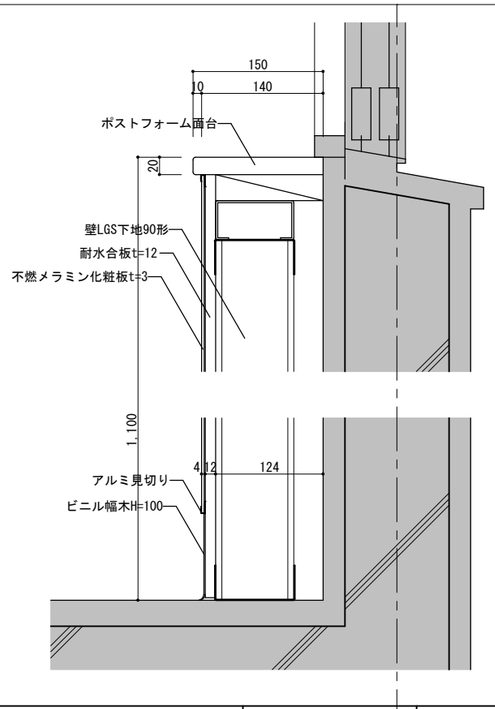
M通ふかし壁詳細図　１／１０



配管バック詳細図（１）　１／５

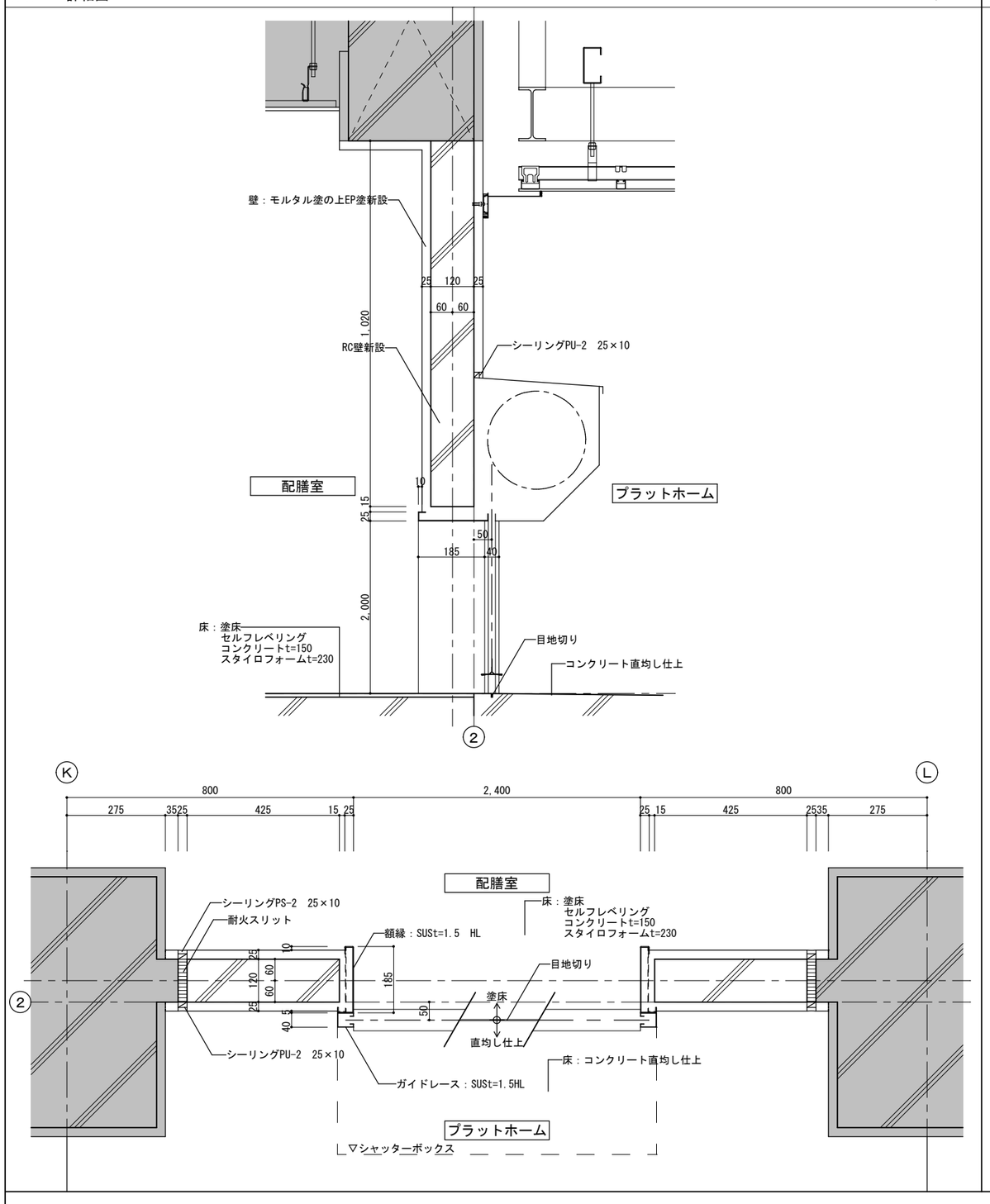


配管バック詳細図（２）　１／５

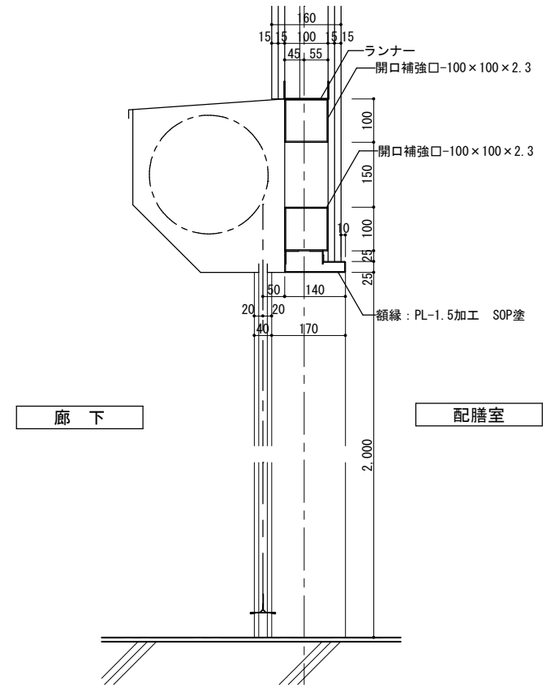


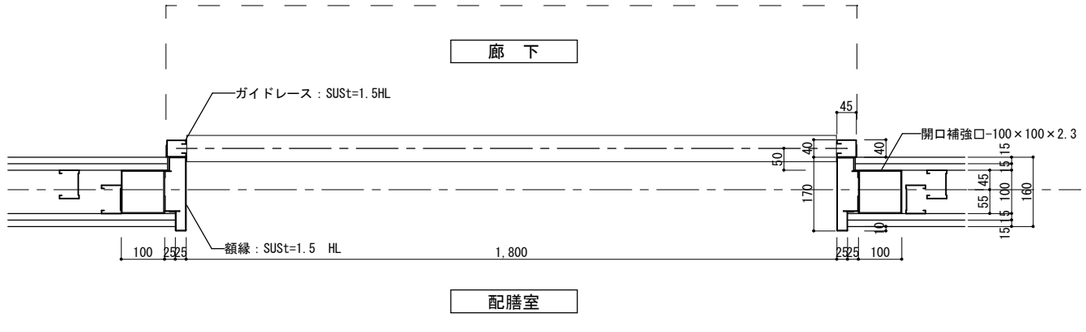
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意 / NO. A-29／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（１）		SCALE 図示	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW	

ＳＳ－１詳細図　　１／１０



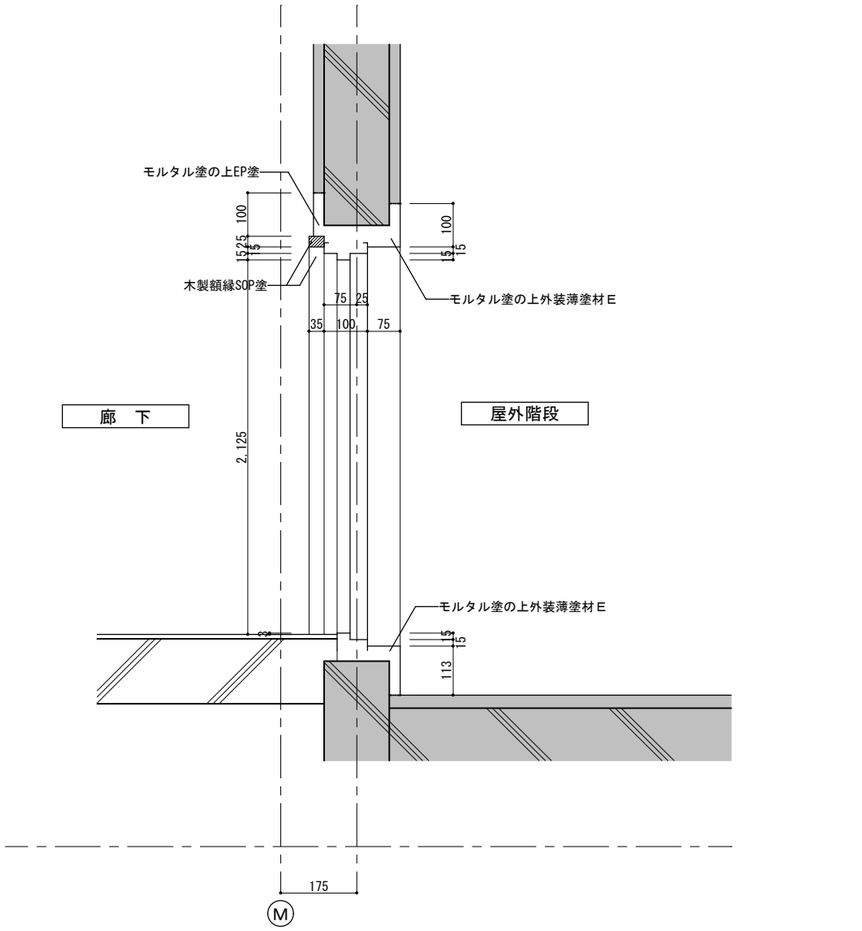
ＳＳ－２詳細図　　１／１０

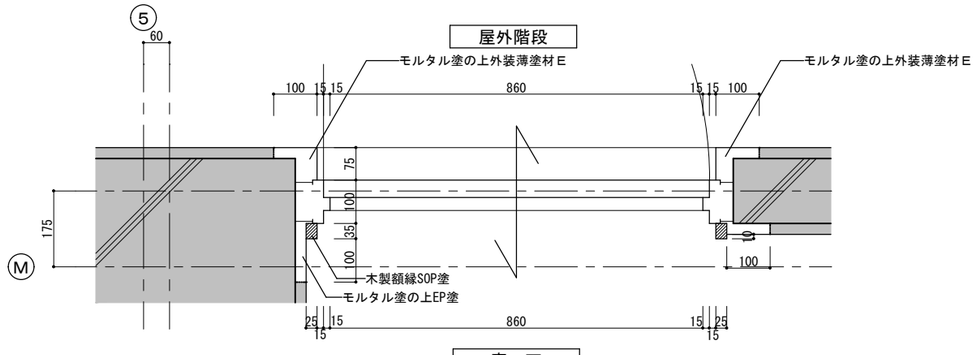




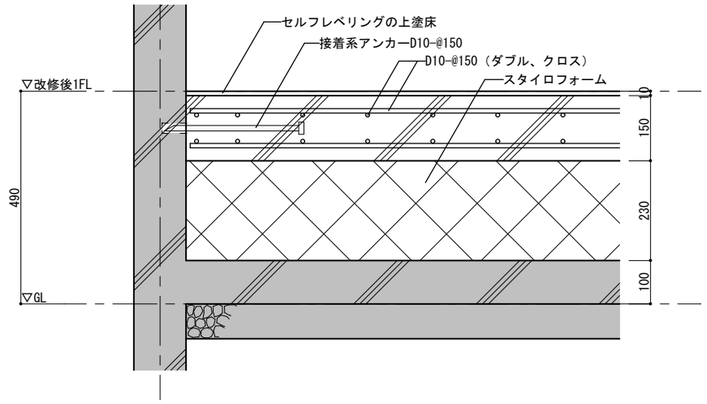
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-30／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（２）		SCALE 図示		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

ＳＤ－１詳細図　　１／１０

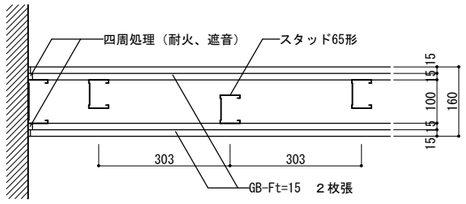




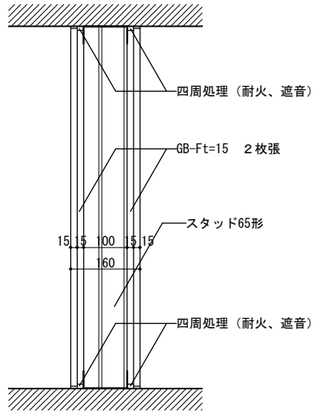
嵩上げスラブ詳細図　　１／１０



防火上主要な間仕切り壁詳細図　　１／１０



平面図

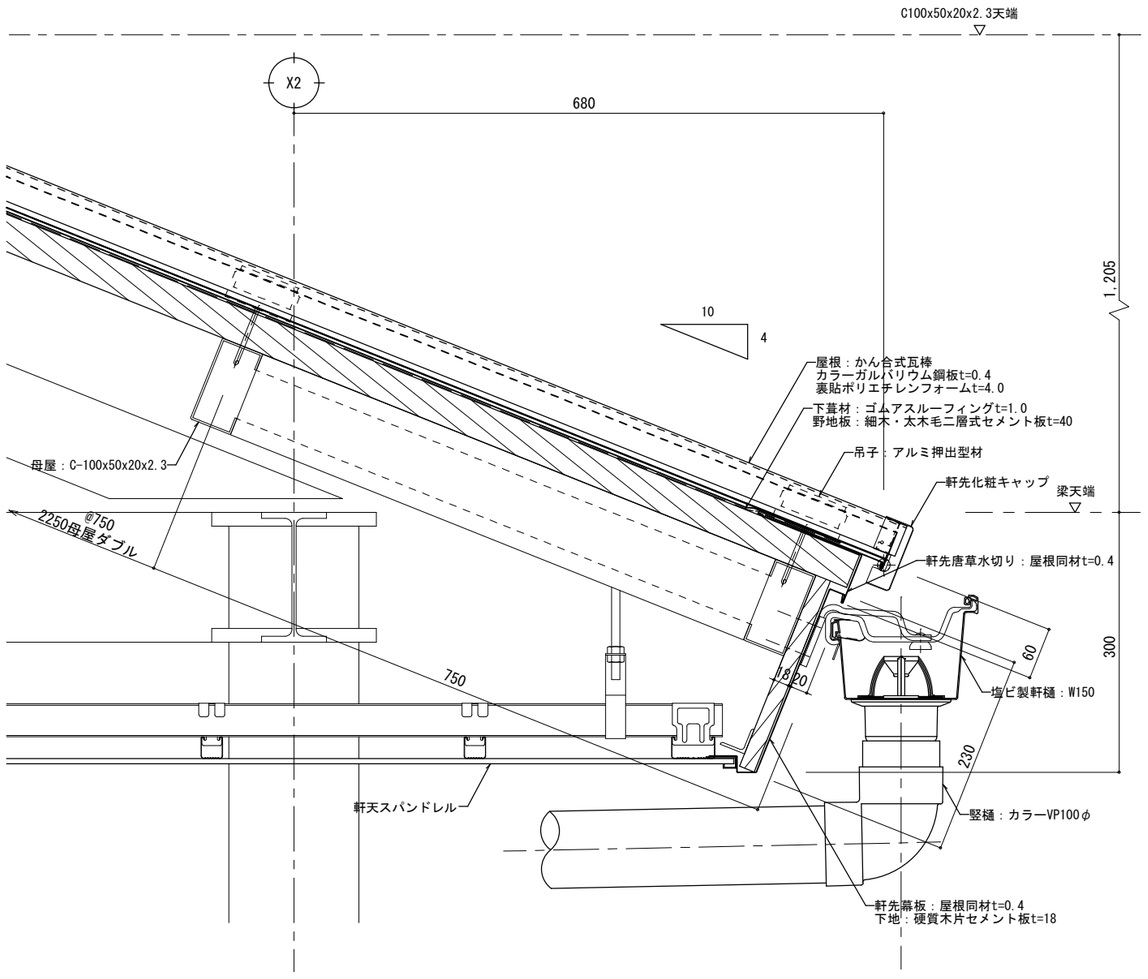


断面図

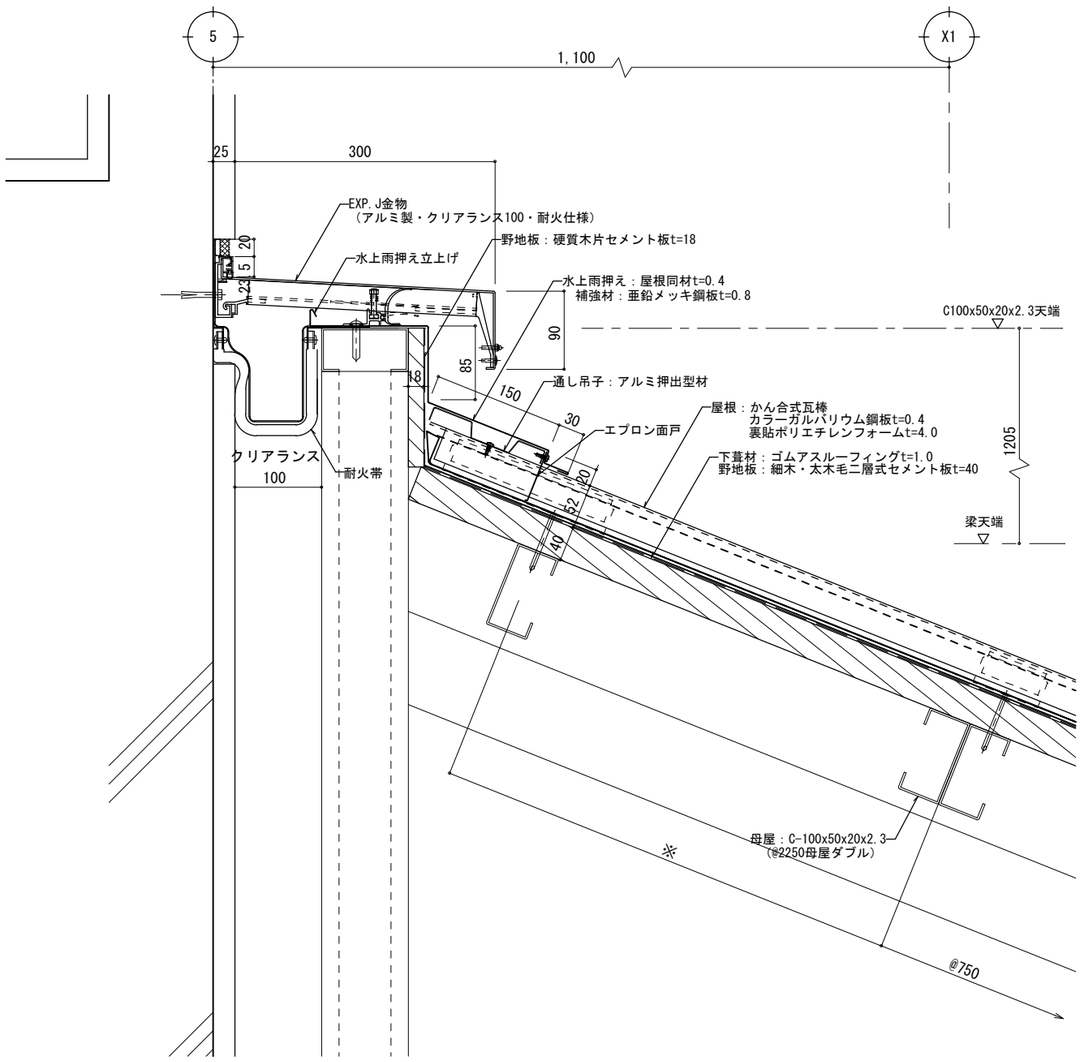
※吉野石膏Ｂ１５－Ｔまたは同等品とする。
※四周処理は認定に基づいた処理とすること。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-31／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（３）		SCALE 図示		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

軒先詳細図 1／5

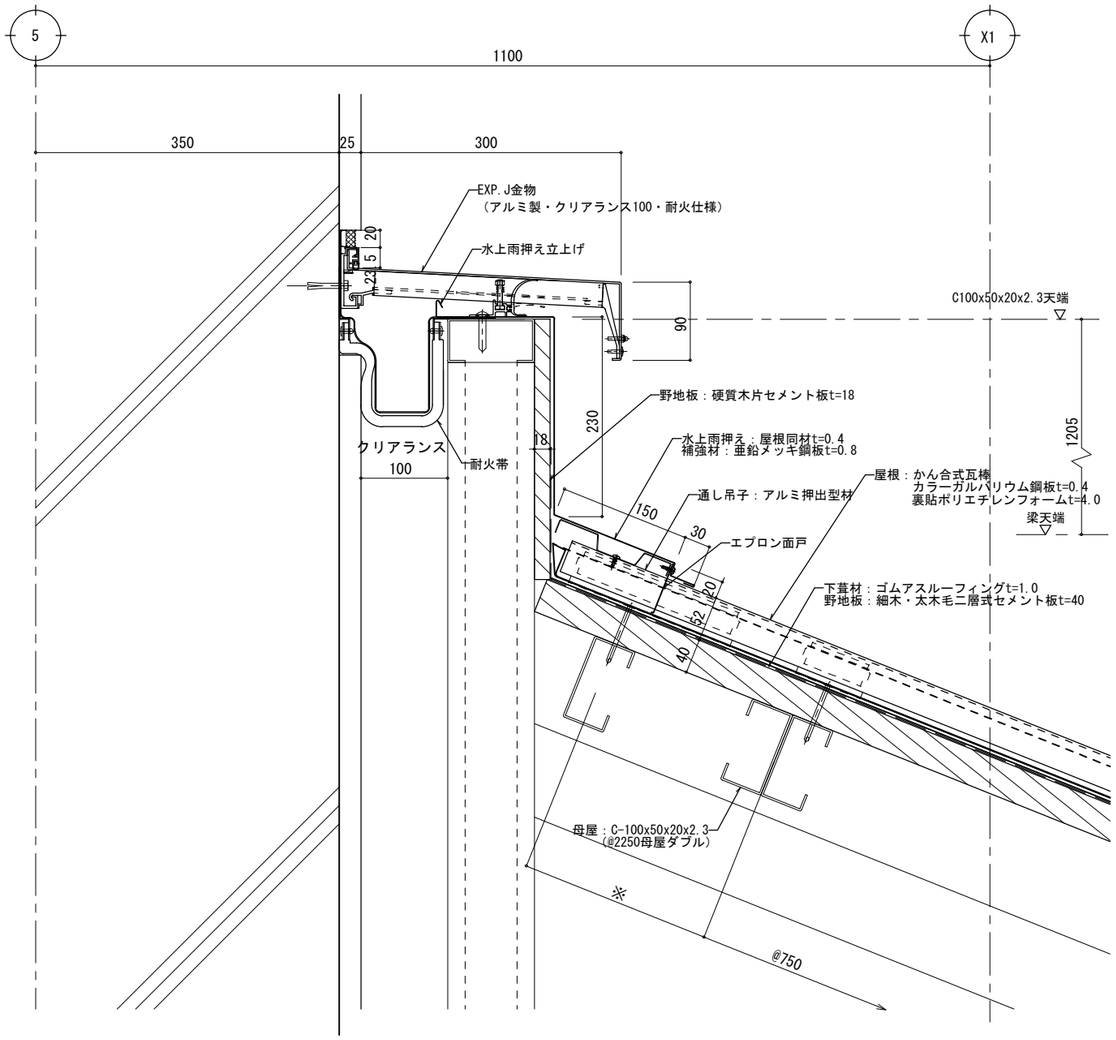


一般部水上詳細図 1／5

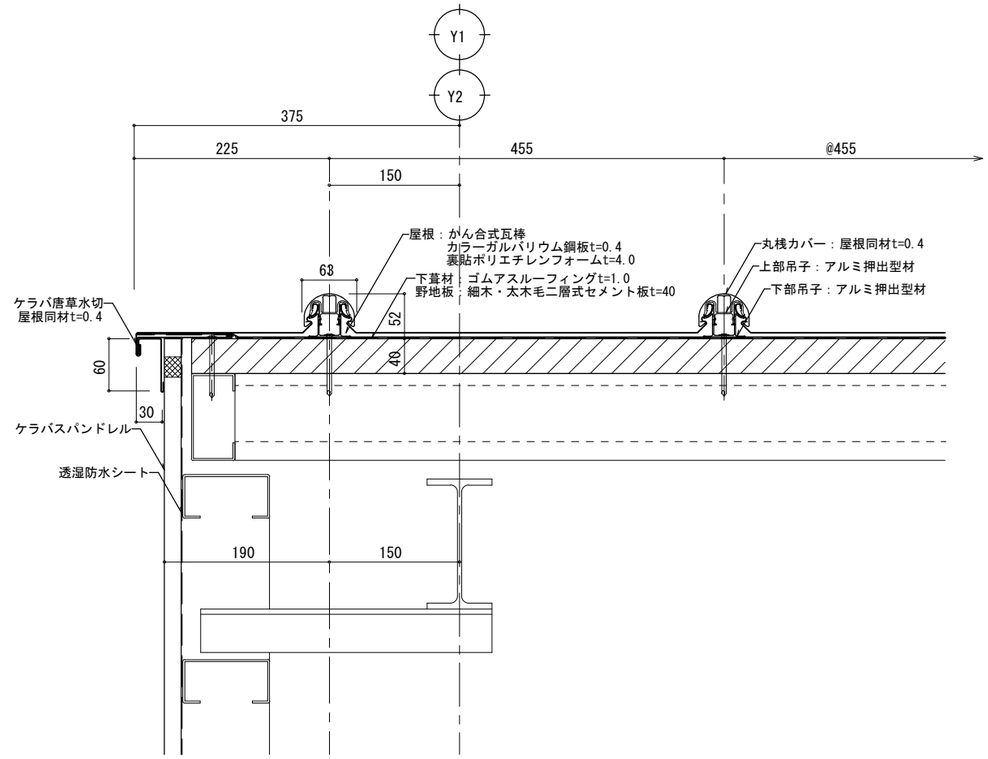


TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-32／56
ITEM 特別教室棟 ［改修］配膳室廻り部分詳細図（４）		SCALE 図示		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

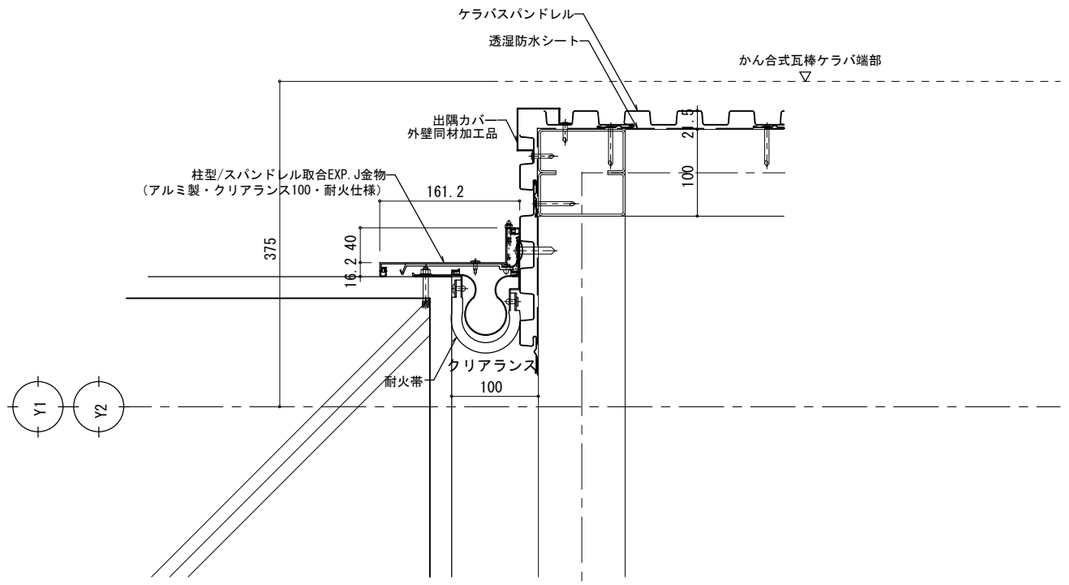
柱型取合い水上詳細図



ケラバ詳細図

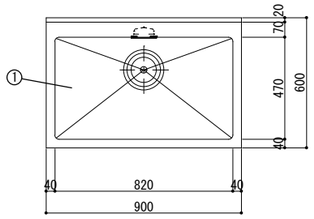


ケラバ部　柱型/スパンドレル取合い平面詳細図

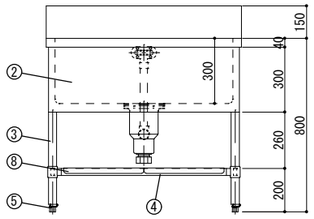


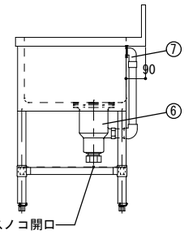
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-33／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（５）		SCALE 図示		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK / CHIEF / DRAW	

ステンレスシンク詳細図

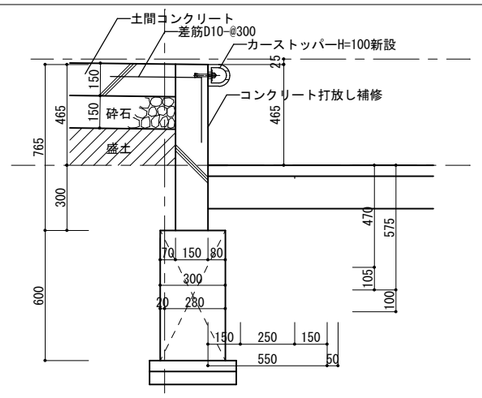


番号	名称	備考
1	槽板	SUS 430 1.2t No.4
2	化粧板	SUS 430 0.8t No.4
3	パイプ脚	SUS 430 φ38 1.2t（継手付）
4	パイプ枠	SUS 304 □32×6 1.2t
5	アジャスト	SUS 304
6	排水栓	カゴ付防臭トラップ40A（排水アダプター付）／T0-195
7	オーバーフロー	小判型／T0-232P
8	取外式平板	SUS 430 1.0t No.4（分割式）

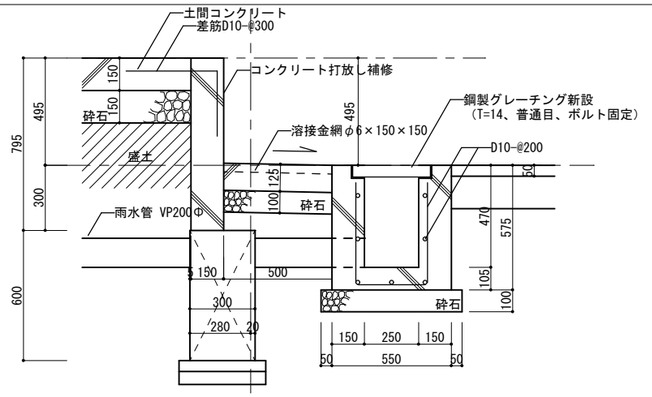




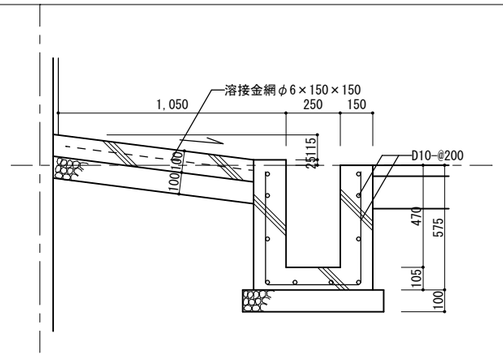
プラットホーム、現場打ち側溝W300詳細図



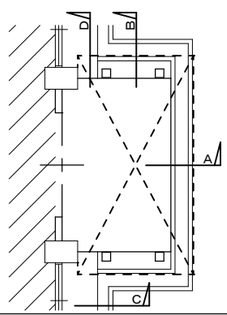
A断面詳細図　1/20



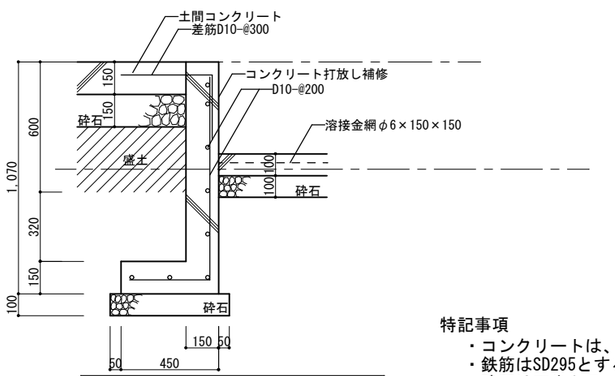
B断面詳細図　1/20



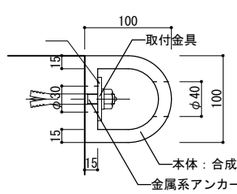
C断面詳細図　1/20



断面位置図　1/100



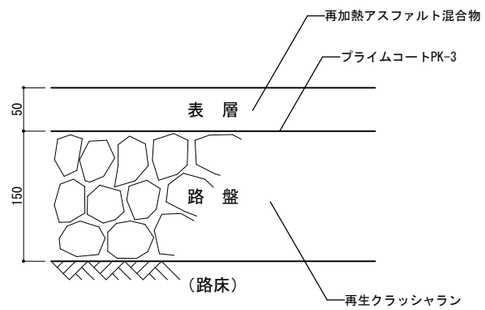
D断面詳細図　1/20



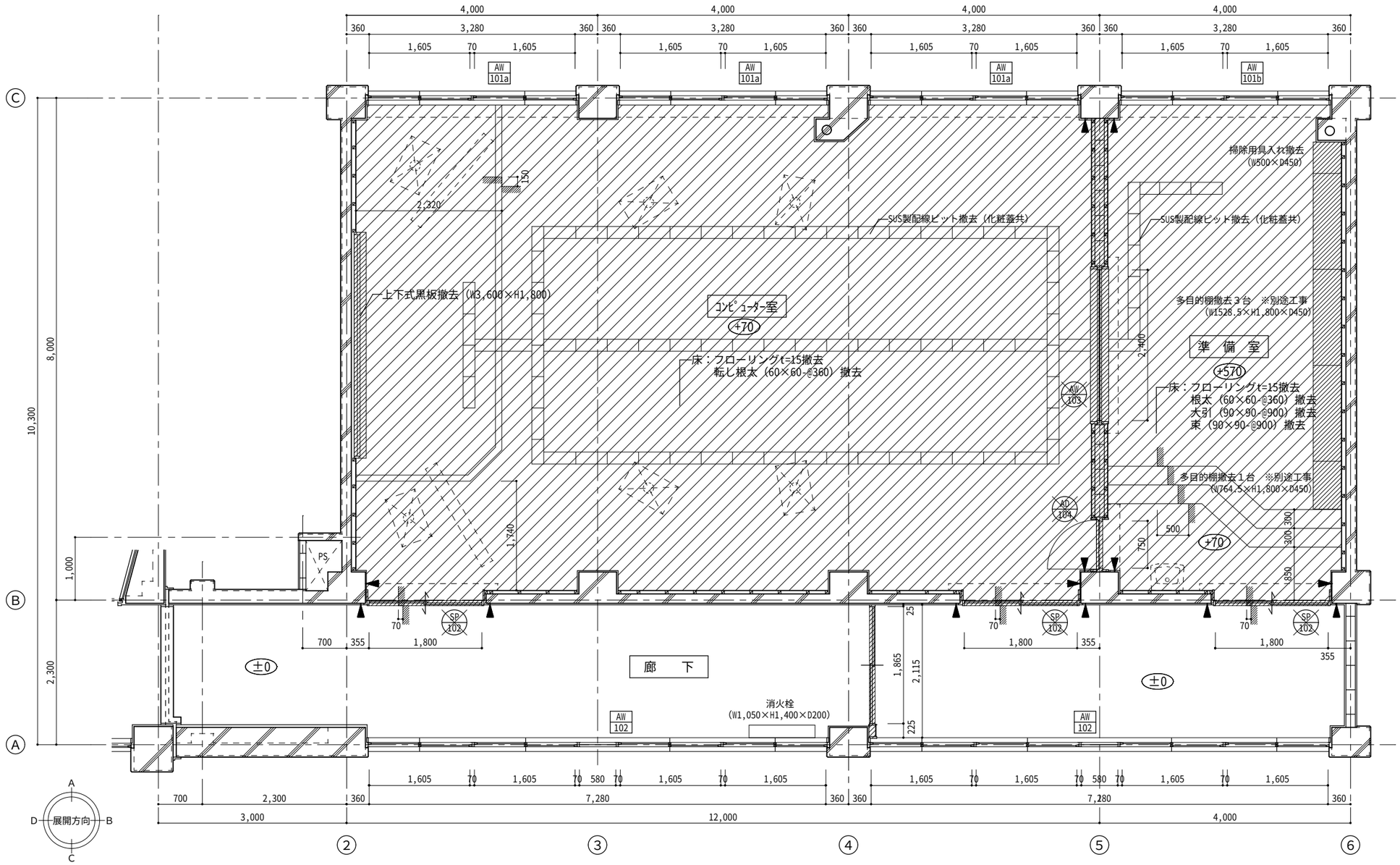
カーストッパー詳細図　1/5

特記事項
- コンクリートは、呼び強度21N/mm2、スランプ15cmとする。
- 鉄筋はSD295とする。
- 砕石は再生クラッシャラン（RC-40）とする。

アスファルト舗装（A-5-15）詳細図



TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-34／56
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室廻り部分詳細図（６）		SCALE 図示		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK / CHIEF / DRAW	



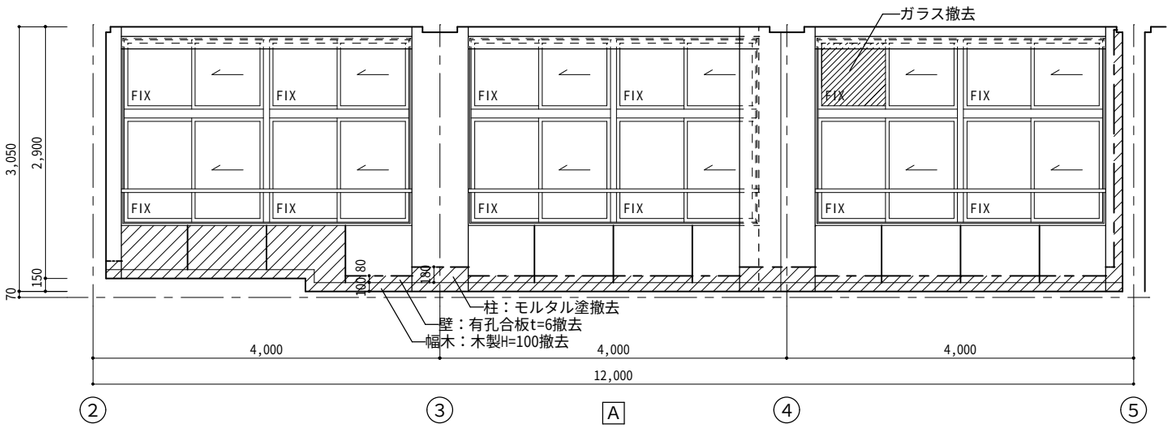
現況　平面詳細図　1/50

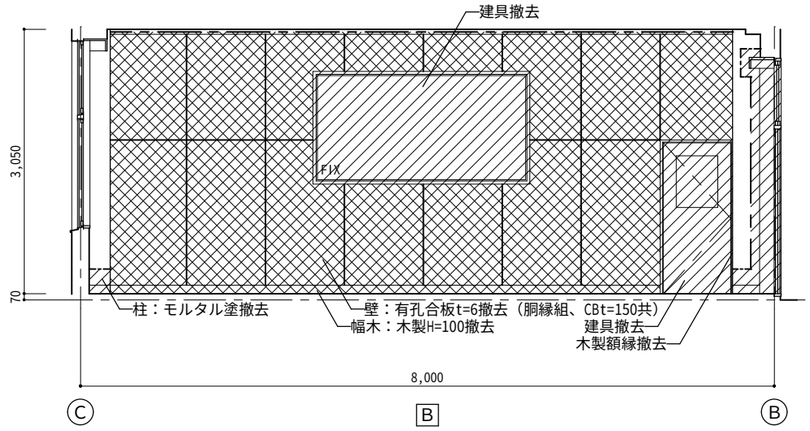
凡例

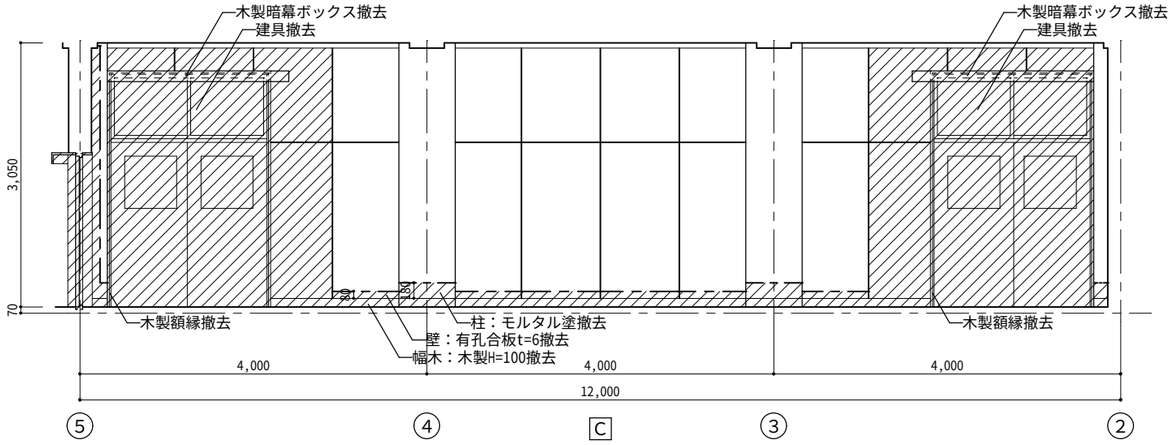
・・・撤去範囲を示す。

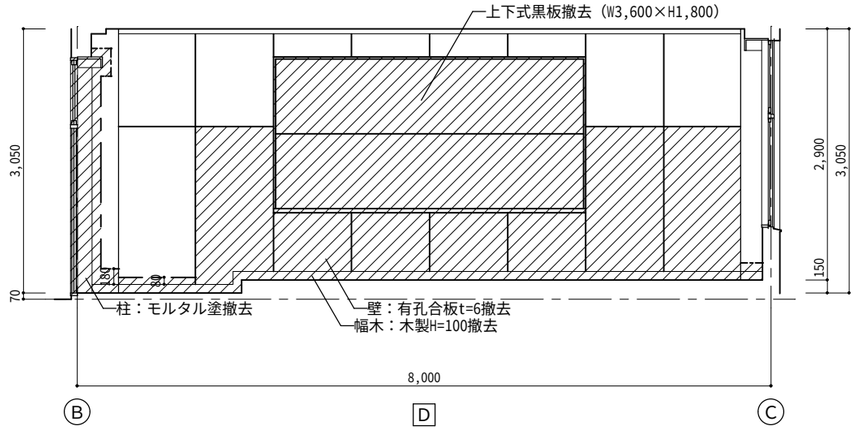
・・・カッター切りを示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-35／56
ITEM 新館棟　[現況]　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（１）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW









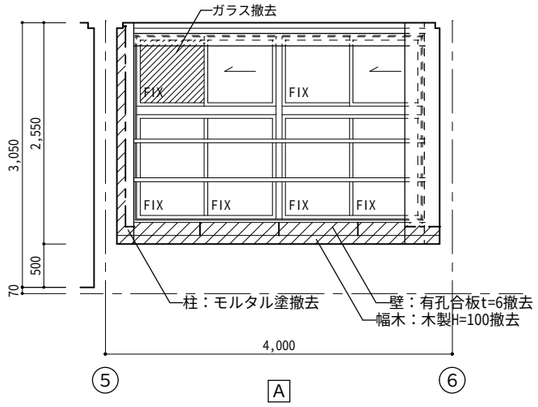
現況　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室展開図　1/50

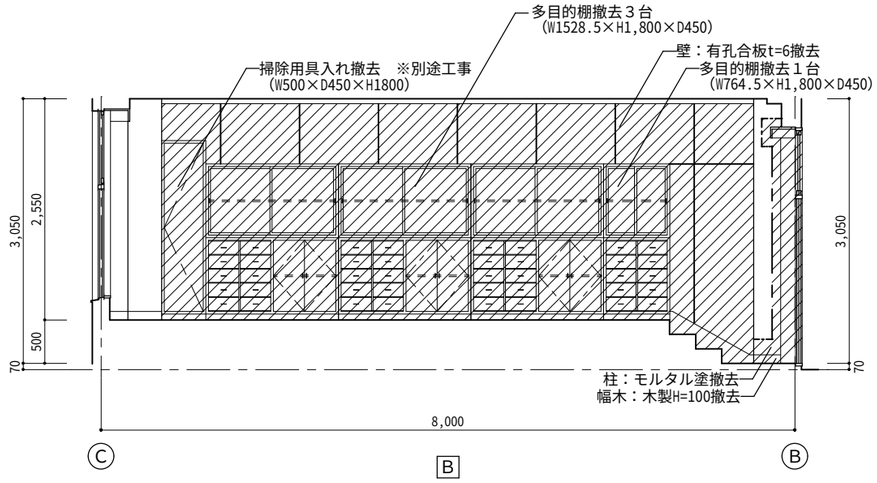
凡例

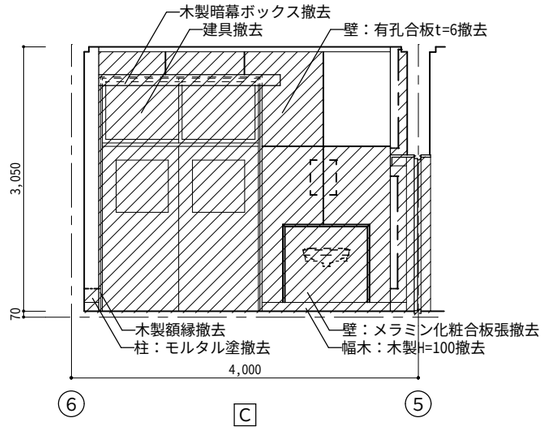
・・・撤去範囲を示す。

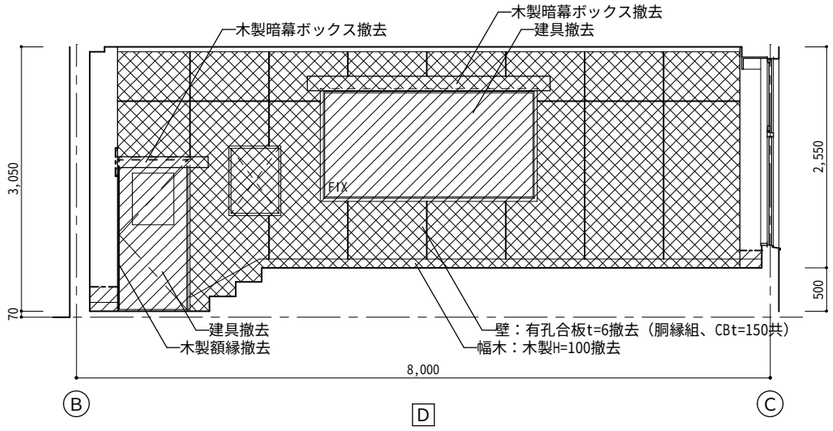
ー－ー・・・カッター切りを示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-36／56
ITEM 新館棟　[現況]　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（２）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW









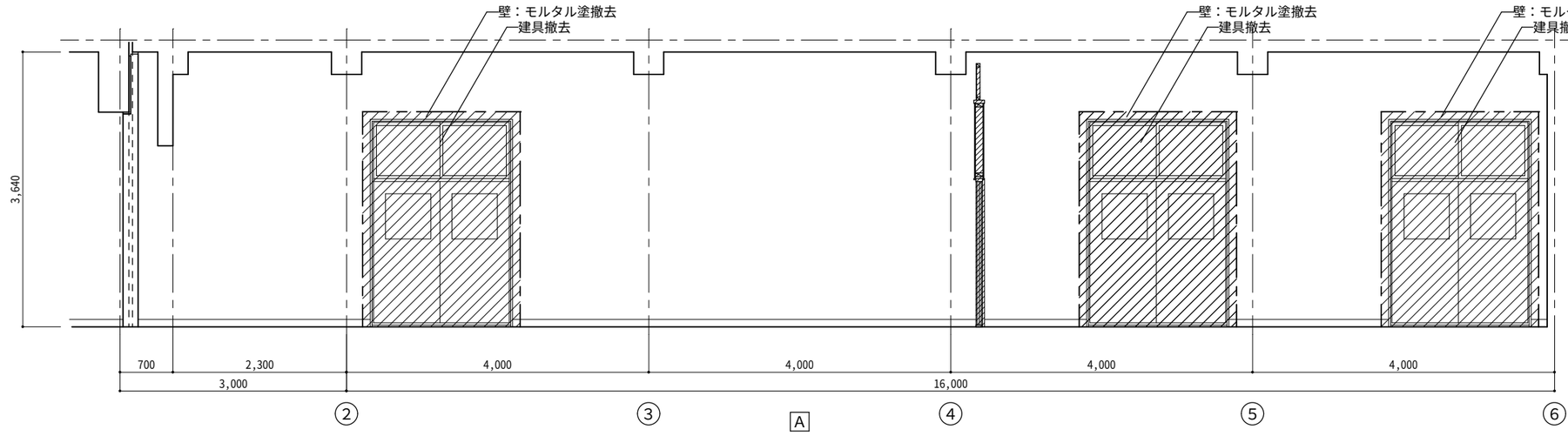
現況　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室準備室展開図　1/50

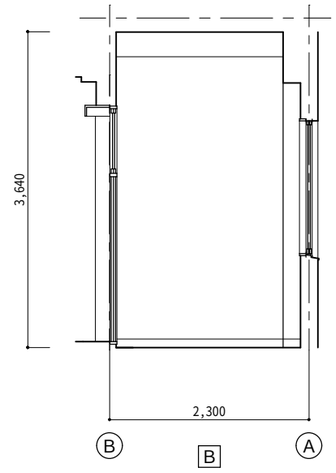
凡例

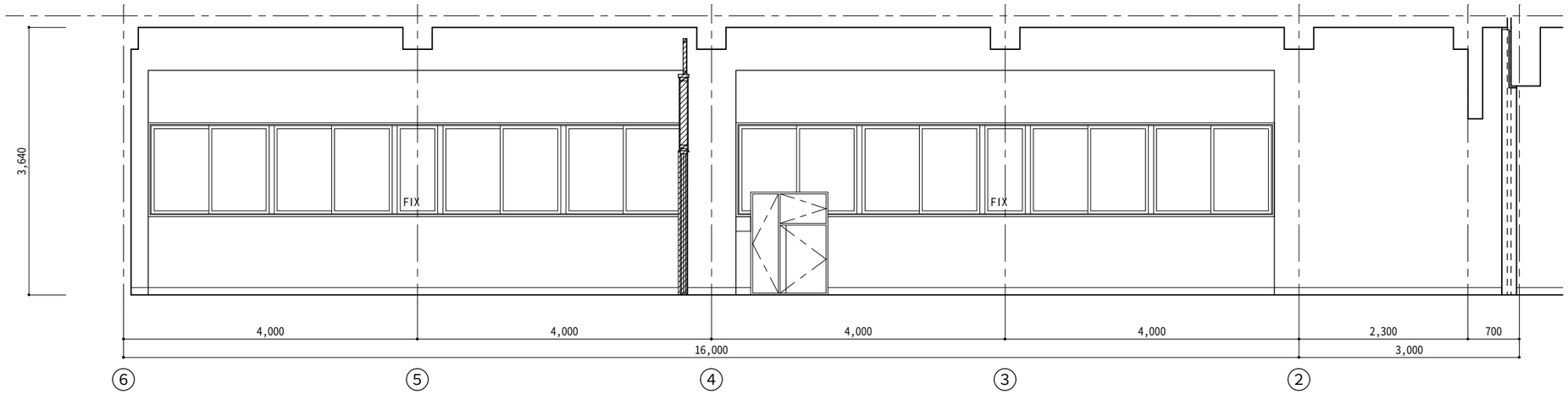
・・・撤去範囲を示す。

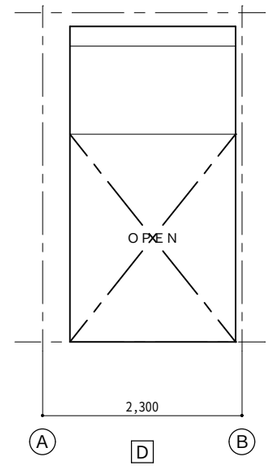
ー－ー・・・カッター切りを示す。

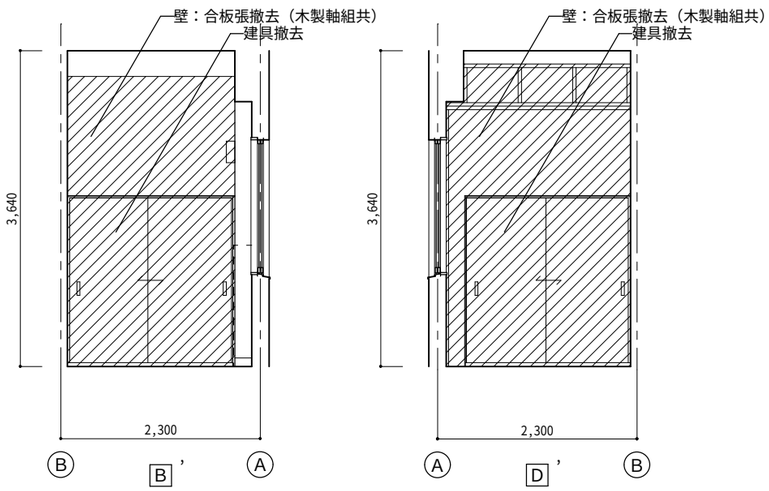
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-37／56
ITEM 新館棟　[現況]　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（３）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW











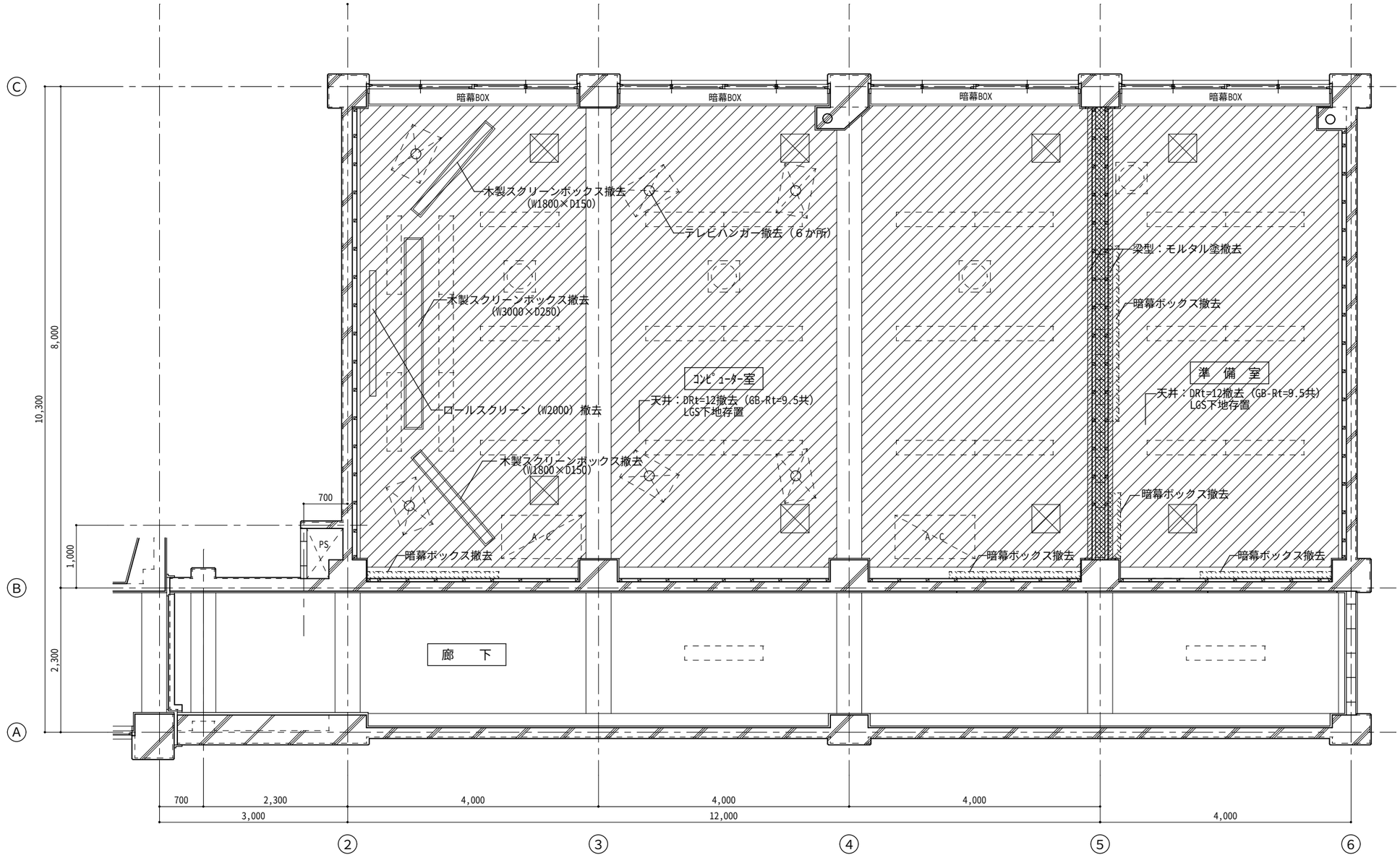
現況　廊下展開図　1/50

凡例

・・・撤去範囲を示す。

・・・カッター切りを示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.01	WORK 意	NO. A-38／56
ITEM 新館棟　[現況]　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（４）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



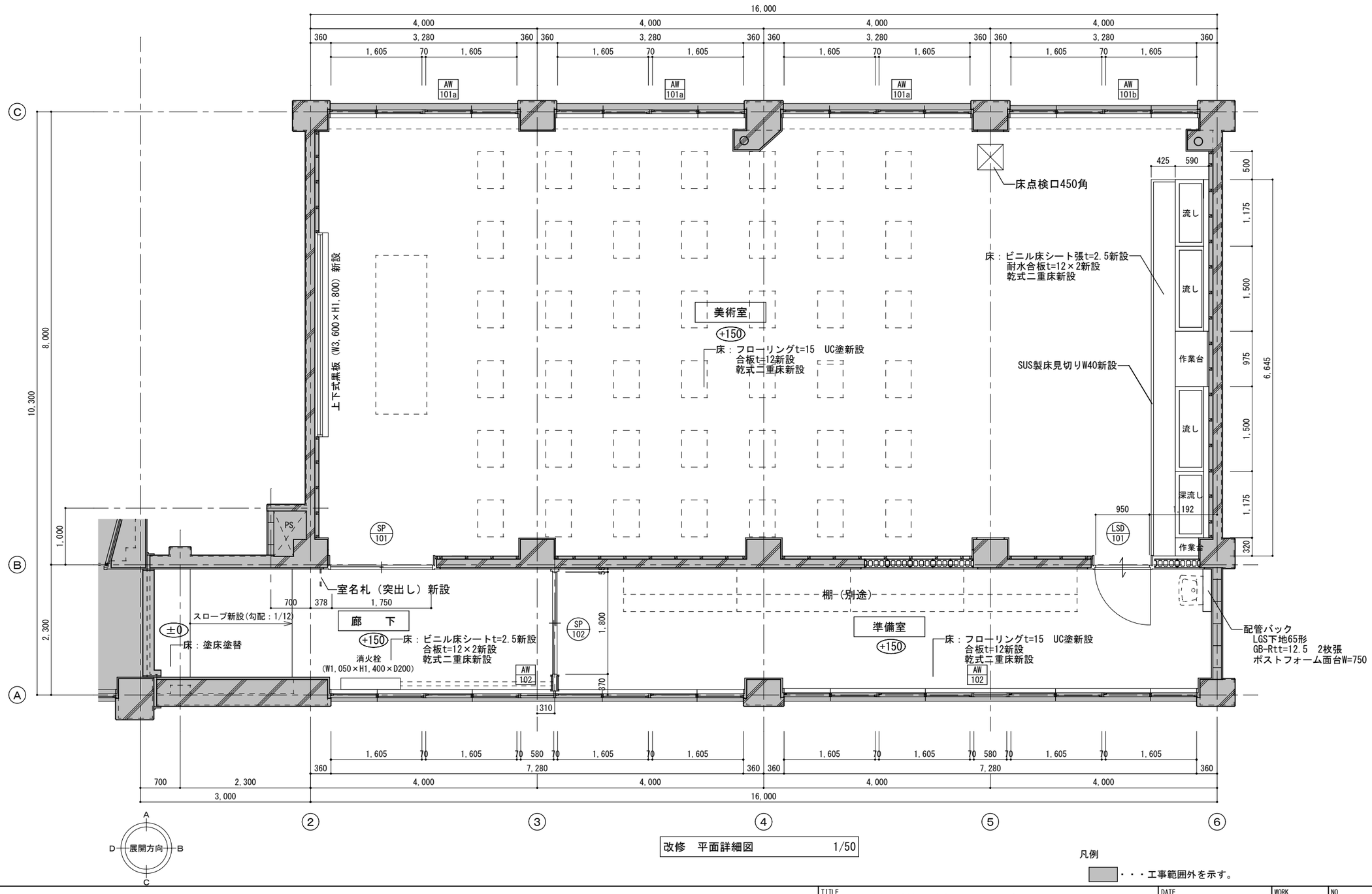
凡例

・・・天井点検口450角（既設のまま）を示す。

・・・撤去範囲を示す。

現況　天井伏図　1/50

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-39／56
ITEM 新館棟　［現況］ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室詳細図（５）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW

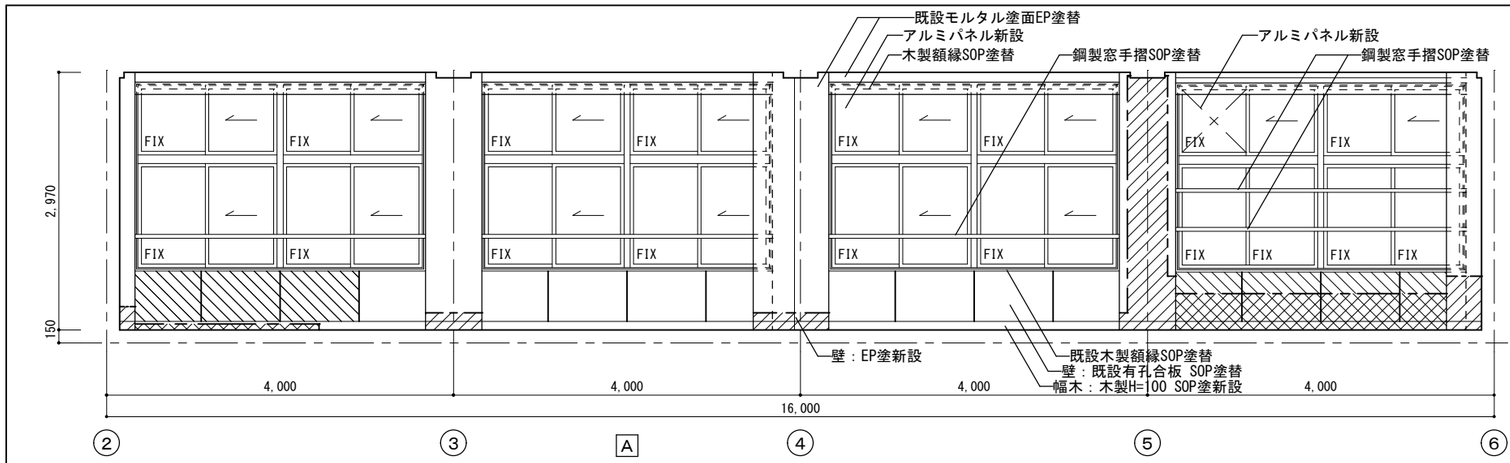


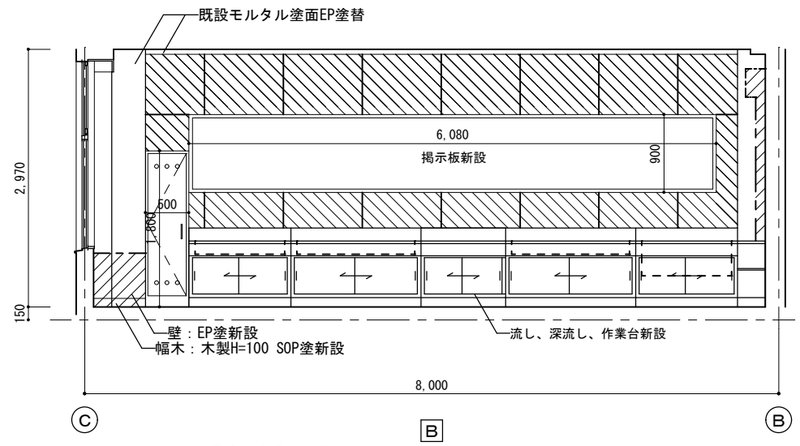
改修　平面詳細図　1/50

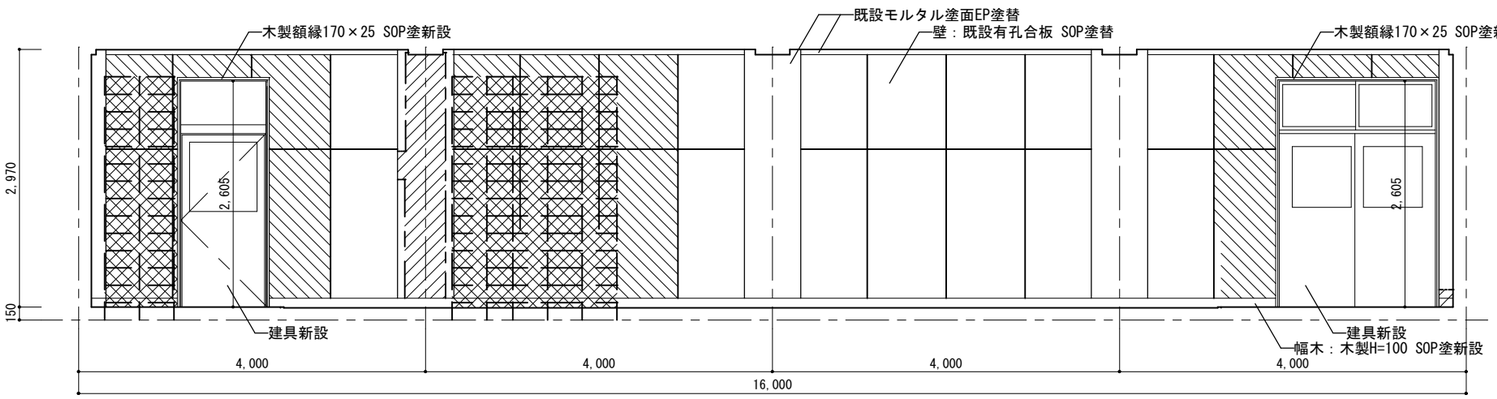
凡例

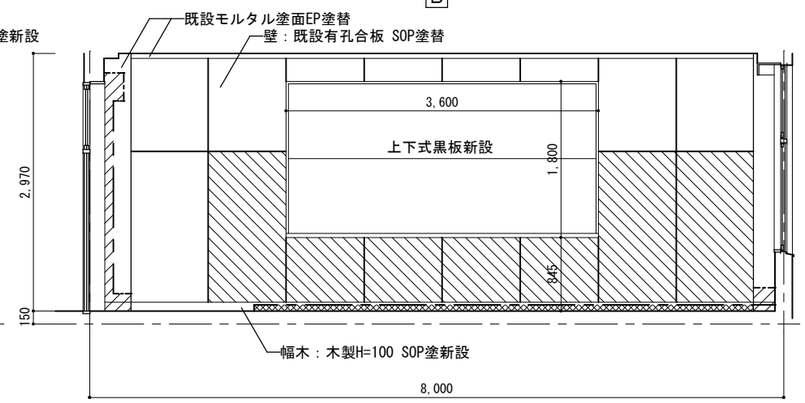
・・・工事範囲外を示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-40／56
ITEM 新館棟　［改修］　美術室詳細図（１）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW









改修　美術室展開図　1/50

室名		床	幅木	壁	天井
視聴覚室 ⇩ 美術室	現況	フローリングt=15 転がし床組み （根太60×60-@360） ホールインアンカー φ6-@720 （モルタルパッキン共） ―撤去	木製H=100撤去	有孔しな合板t=6　一部撤去 （グラスウールt=50、寒冷紗裏打共） 胴縁組一部撤去	DRt=12（捨て張GB-Rt=9）撤去 LGS下地存置
	改修	フローリングt=15　UC塗 合板t=12 乾式二重床 ―新設	木製H=100　SOP塗新設	有孔しな合板t=5.5　SOP塗新設 （グラスウールt=50、寒冷紗裏打共） 胴縁組一部新設 既設合板面：SOP塗替	DRt=12（捨て張GB-Rt=9）新設
廊下 ⇩ 準備室	現況	モルタル塗の上塗床	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗
	改修	フローリングt=15　UC塗 合板t=12 乾式二重床 ―新設	下地調整の上EP塗替 H=100（塗分け）	下地調整の上EP塗替	外装薄塗材Ｅ上塗り
廊下	現況	モルタル塗の上塗床	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗	モルタル塗の上VP塗
	改修	ビニル床シートt=2.5 合板t=12　２枚張 乾式二重床 ―新設 下地調整の上塗床	下地調整の上EP塗替 H=100（塗分け）	下地調整の上EP塗替	外装薄塗材Ｅ上塗り

凡例

・・・モルタル塗新設範囲を示す。

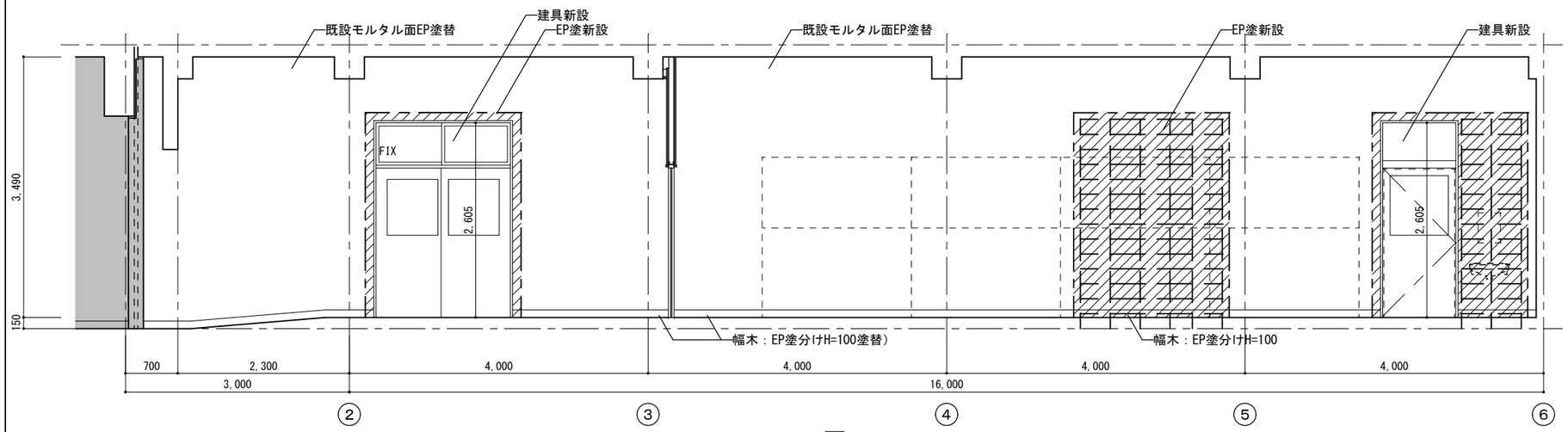
・・・有孔合板t=5.5　SOP塗新設範囲を示す。
（グラスウールt=50充填、寒冷紗裏打ち共）

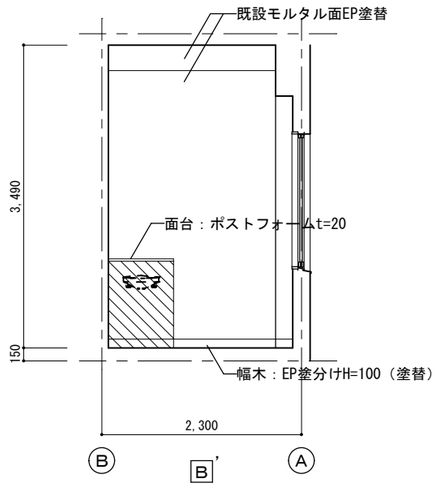
・・・胴縁組新設範囲を示す。
（縦45×45-@300、横30×21-@300）

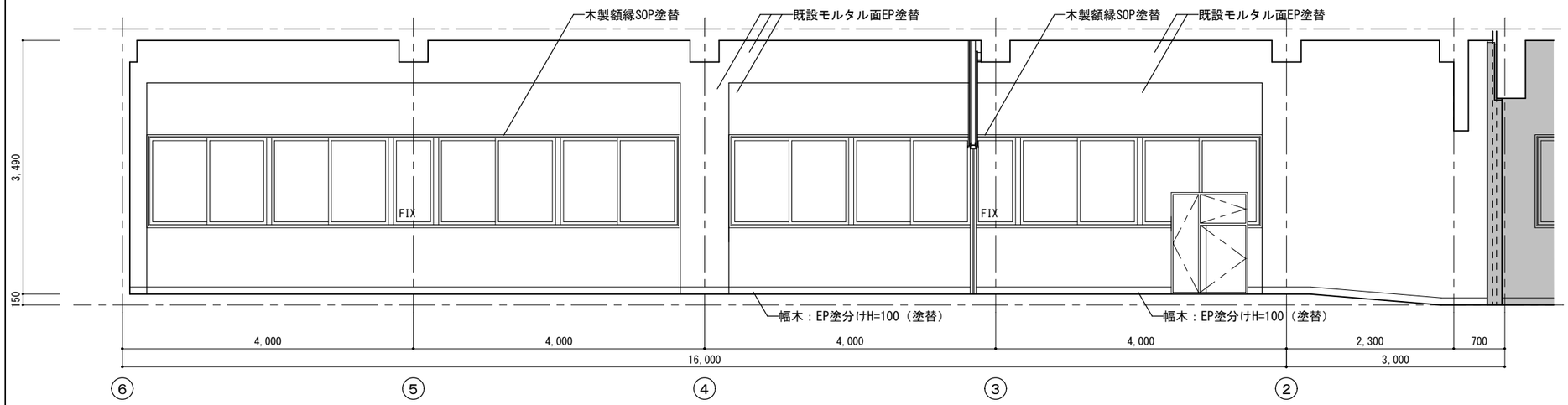
・・・ＣＢt=150（準耐火以上）新設範囲を示す。

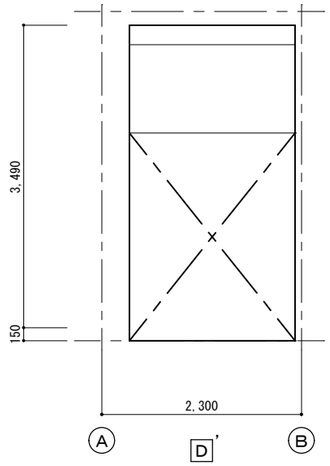
※既設胴縁組の劣化箇所の補修、取合い部分の下地新設等適宜行うこと。

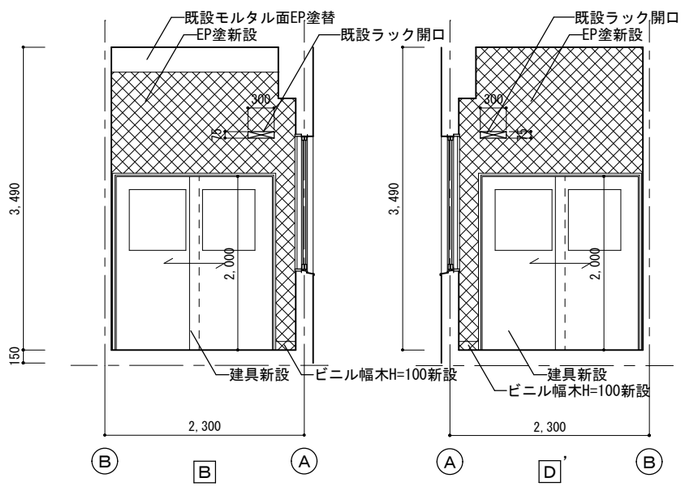
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-41／56
ITEM 新館棟　［改修］　美術室詳細図（２）		SCALE 1/50		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW









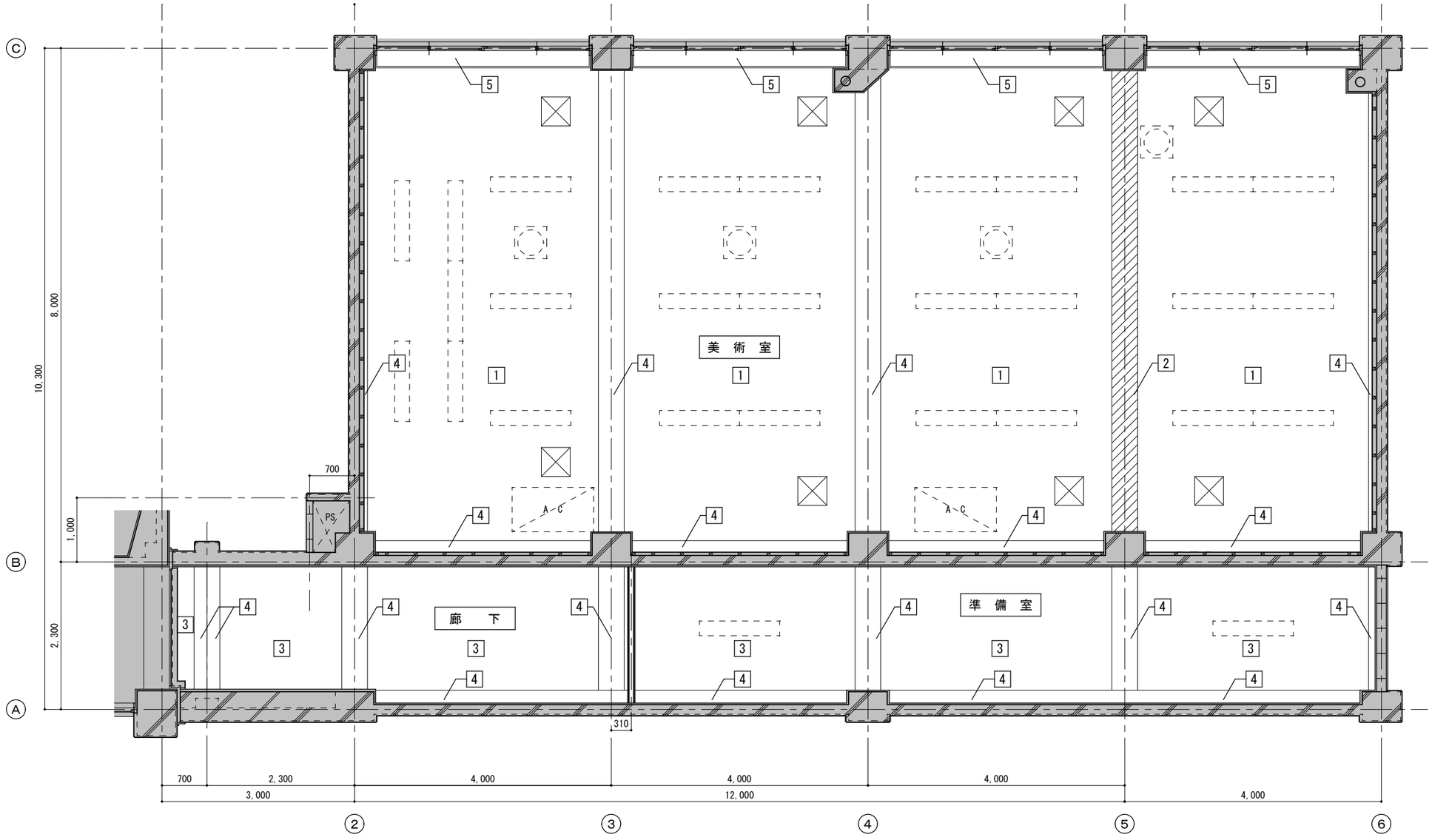


凡例

- ・・・モルタル塗新設範囲を示す。
- ・・・ふかし壁新設を示す。（壁LGS下地65形片面GB-Rt=12.5　２枚張）
- ・・・防火上主要な間仕切り新設範囲を示す。
- ・・・ＣＢt=150（準耐火以上）新設範囲を示す。
- ・・・工事範囲外を示す。

改修　準備室・廊下展開図　1/50

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-42／56
ITEM 新館棟　［改修］　美術室詳細図（３）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW

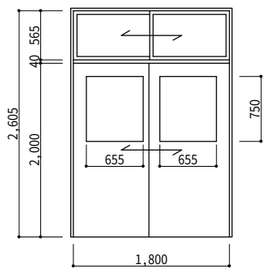
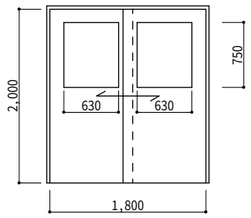
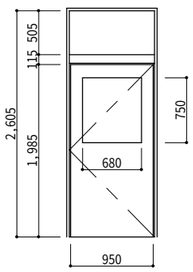


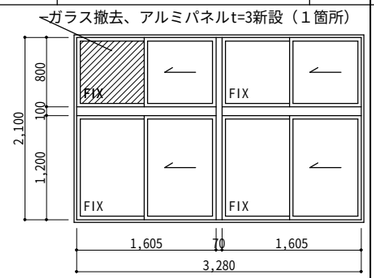
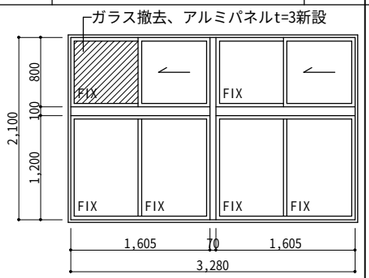
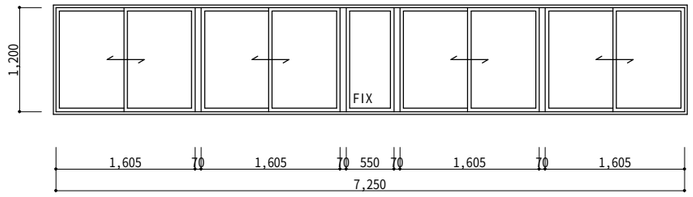
改修　天井伏図　1/50

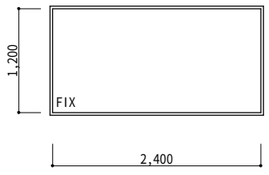
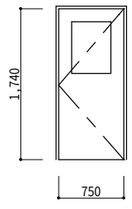
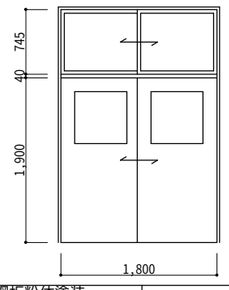
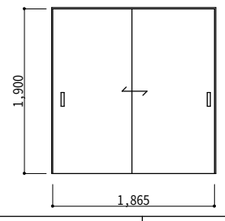
凡例

1	既設LGS下地の上DRt=12新設 （捨て張りGB-Rt=9.5、塩ビ製廻り縁共）
2	モルタル面の上EP塗新設
3	既設リシン吹付面外装薄塗材Ｅ上塗り
4	既設モルタル面EP塗替
5	木製暗幕ボックスSOP塗替
	工事範囲外

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意 / NO. A-43/56
ITEM 新館棟 ［改修］ 美術室詳細図（４）		SCALE 1/50	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW	

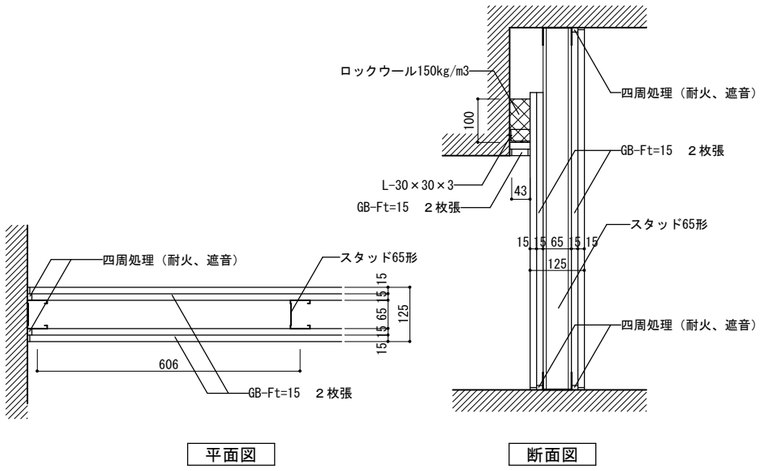
符号	名称	個数																						
			SP 101	先付け学校間仕切り	1				SP 102	先付け学校間仕切り	1				LSD 101	鋼製軽量欄間付片開き戸	1							
姿図																								
仕上	見込	防火	焼付塗装	枠：80	不燃				焼付塗装	枠：80	不燃				枠：SOP塗 扉：焼付塗装	枠：80	不燃							
ガラス	場所		欄間：学校強化透明t=4 扉：学校強化型板t=4	（改修）美術室					学校強化型板t=4	（改修）美術室					欄間：学校強化透明t=4 扉：学校強化型板t=4	（改修）美術室								
金物			戸車、クレセント、掘込引手、SUSレール、引違い戸錠、 片側アングルピース、指詰め防止処置付属金物一式						戸車、クレセント、掘込引手、SUSレール、引違い戸錠、 両面額縁（25×32.5）、指詰め防止処置付属金物一式						丁番、ＤＣ、レバーハンドル、片側アングルピース シリンダー本締錠、サムターン、付属金物一式									
工事内容			新設						新設						新設									

符号	名称	個数																						
			AW 101a	アルミ製２連２段片引き窓	3 （1）				AW 101b	アルミ製欄間片引き窓付４連FIX窓	1				AW 102	アルミ製２連２段引違い窓	2							
姿図																								
仕上	見込	防火	ＢＢ－１	70	非防火				ＢＢ－１	70	非防火				ＢＢ－１	70	非防火							
ガラス	場所		透明t=3	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室→美術室					透明t=3	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ準備室→美術室					透明t=3	２階廊下、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ準備室→美術準備室								
金物			クレセント、アングルピース、 付属金物一式						クレセント、アングルピース、 付属金物一式						クレセント、アングルピース、 付属金物一式									
工事内容			室内側クリーニング						一部ガラス撤去・パネル新設、室内側クリーニング						室内側クリーニング									

符号	名称	個数																						
			AW 103	アルミ製FIX窓	1				AD 104	アルミ製片開き戸	1				SP 102	学校間仕切り	3	WD 101	木製引違い戸	1				
姿図																										
仕上	見込	防火	ＢＣ－１	70	非防火				ＢＣ－１	100	非防火				枠：鋼板粉体塗装 扉：カラー鋼板	枠：80	不燃	木製SOP塗	扉：36	ー				
ガラス	場所		複層カラス（FL5+A6+FL5）	（現況）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室					透明t=5	（現況）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室					欄間：透明t=3 扉・窓：スリt=3	（現況）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室 （現況）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ準備室			（現況）ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ準備室、廊下					
金物			付属金物一式						丁番、ＤＣ、グレモン錠、エアタイト アングルピース（両側）付属金物一式						付属金物一式			付属金物一式						
工事内容			撤去（枠共）						撤去（枠共）						撤去（枠共）			撤去（枠共）						

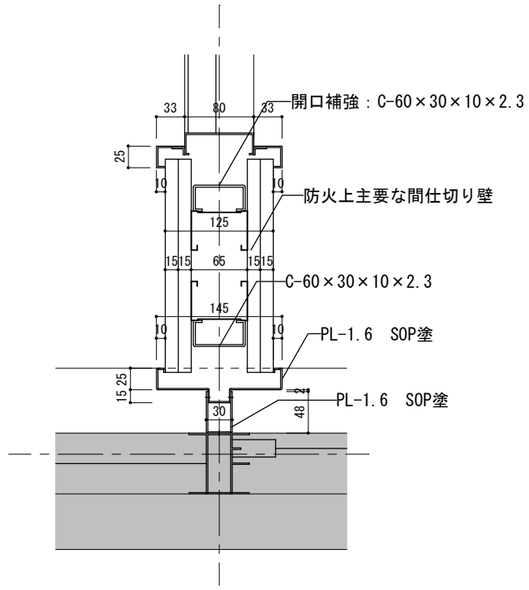
TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03
ITEM	新館棟　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室→美術室　建具表	SCALE 1/50
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	WORK 意 / NO. A-44 / 56
		INSP / CHECK / CHIEF / DRAW

防火上主要な間仕切り詳細図　１／１０

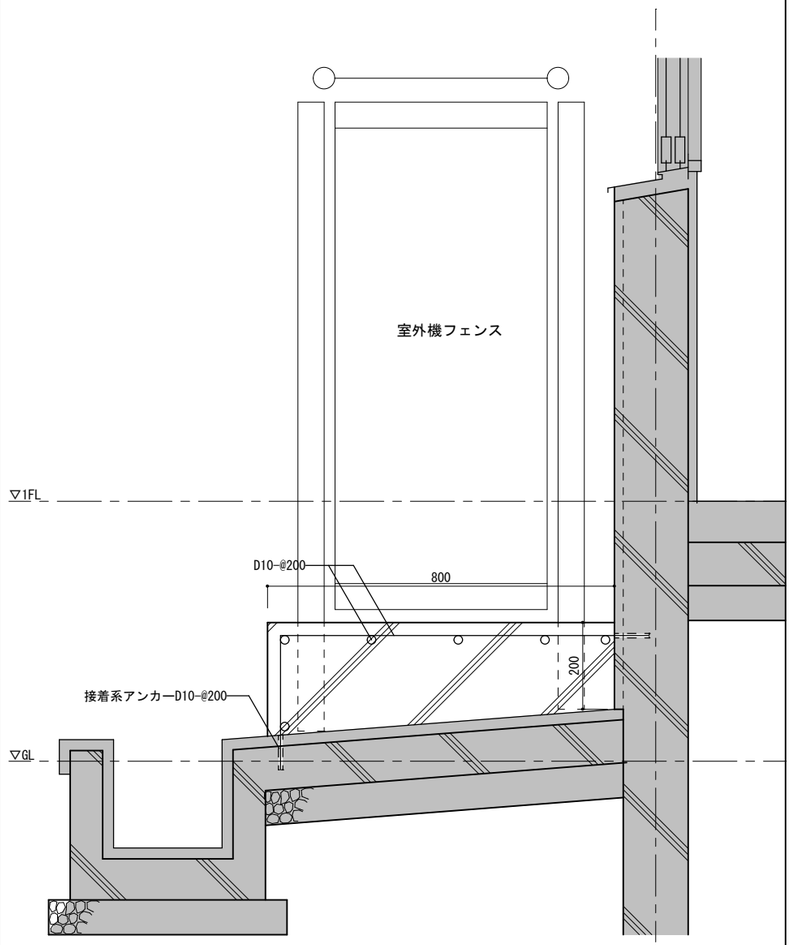


※吉野石膏Ｂ１５または同等品とする。
※四周処理は認定に基づいた処理とすること。

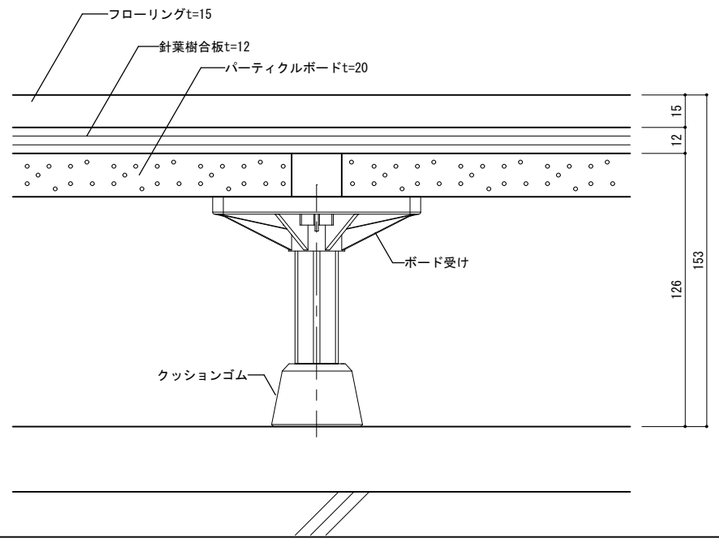
防火上主要な間仕切り既設サッシ取合い詳細図　１／１０



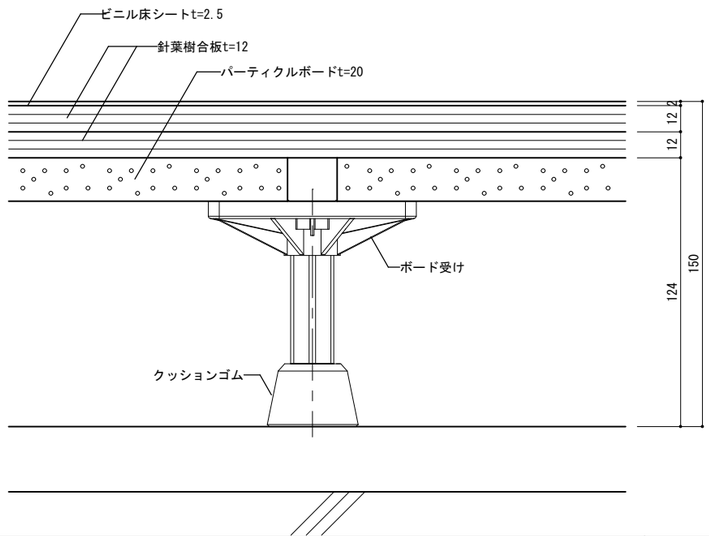
室外機基礎詳細図　１／１０



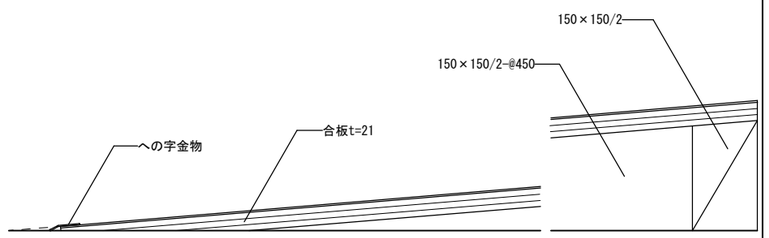
乾式二重床（美術室）詳細図　１／２



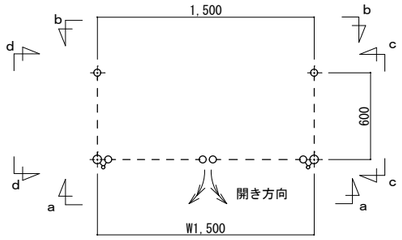
乾式二重床（廊下）詳細図　１／２



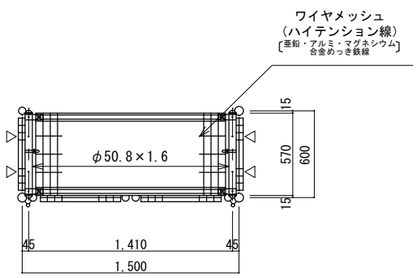
スロープ詳細図　１／５



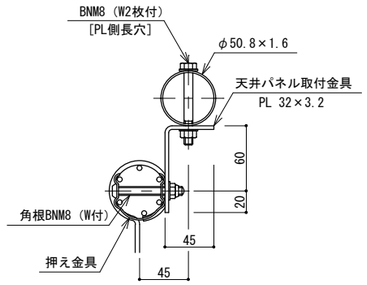
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-45／56
ITEM 新館棟　[改修]美術室部分詳細図（１）	SCALE 図示		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



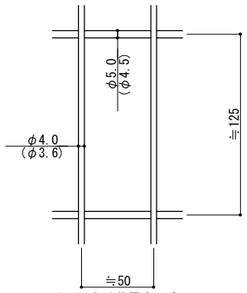
平面図



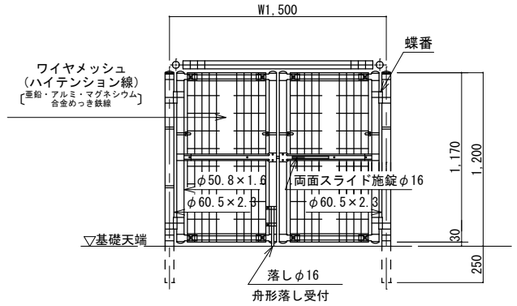
天井伏図



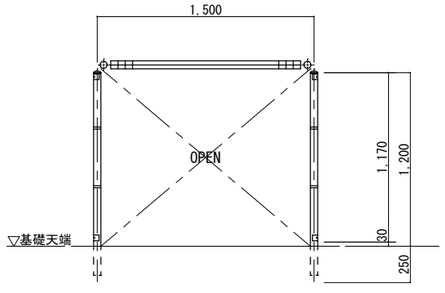
（▽部）
天井パネル取付図　S=1:4



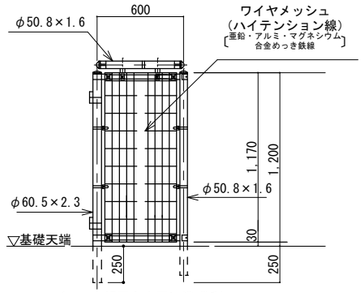
（　）内は芯径を示す.
ワイヤメッシュ図



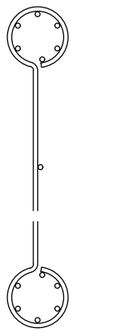
ａ～ａ視図



ｂ～ｂ視図



（ｄ～ｄ視図も本図に準ずる）
ｃ～ｃ視図


パネル断面図

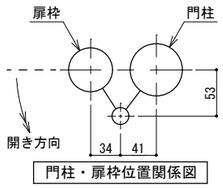
設計条件
設計荷重・・・昭和５７年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。

備考
１．外装について

・主柱、門柱、枠体 天井柱、ジョイント 押え金具 ワイヤメッシュ 天井パネル取付金具	・・	亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
・バンド	・・	亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装
・Ｕ型金具	・・	亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上防錆着色処理
・ボルト、ナット	・・	溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理とし、一部のボルト・ナットは溶融亜鉛めっきのみ
・施錠装置、落し	・・	溶融亜鉛めっきのみ

２．本図門扉は片側１８０°開きとする。
３．ワイヤメッシュのスパン方向は現地カット（カット面が危険でなく、見苦しくならない様）し、補修塗りを施すこと。

⚠ 注意
・天井部にはフェンス組立中及び組立後も人が乗らないことを条件とする。



門柱・扉枠位置関係図

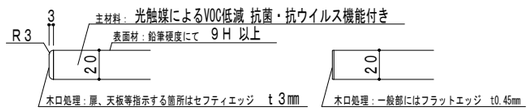
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意
ITEM 新館棟　[改修]美術室部分詳細図（２）		SCALE 図示	NO. A-46／56
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP CHECK CHIEF DRAW	

家具工事　共通仕様　「図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」

・主材料　ホルムアルデヒド及びＶＯＣの低減効果と抗菌・抗ウイルス機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーチクルボード木目（ユニボードピュアＨｉ）厚さ20mmを使用す(製内産木材チップを使用する。F☆☆☆☆JIS-A5908適合品とする。）

・表面材　上記、両面メラミン化粧パーチクルボードの表面はメラミン含浸紙使用し、鉛筆硬度にて 9H 以上のものとし、現品サンプルによるスクラッチテストを行い承認を得ること。（コート紙系パーティクルボードは使用不可）

・木口処理　化粧パーチクルボードの切断木口はABS樹脂による木口材をホットメルト系接着剤を用い、曲線部も含め専用機械にて接着する。木口材はフラットエッジ(t0.45mm)、セフティエッジ(t3mm)を用い、防湿のため床、壁に接する部位も同処理を行う



・裏板　UV塗装MDFボード t4mm を使用し、たわみの出ないよう裏桟等により補強する。

・扉　開き扉、引戸共に主材の両面メラミン化粧パーチクルボードt20mmを使用し、開き扉はその周囲をセフティエッジ貼りとする。

・ガラス扉　開き扉、引戸共に主材の両面メラミン化粧パーチクルボードt20mmを使用し、強化ガラスt4mmを落とし込んだものとする。ガラスの押し縁はABS樹脂のものを使用し、開き扉はその四周をセフティエッジ貼りとする。

・耐震開き止め　開き扉、引戸共に下端がFL+1,500mm以上に位置するものは、耐震開き止め金具を組込み、内容物の落下防止策とする。

・抽斗　強度を高めるため、ベアリングを組み入れたスチール側板を用い、底板にはt15mmの両面メラミン化粧パーチクルボードを使用する。前板は開き扉同様、四周をセフティエッジ貼りとする。

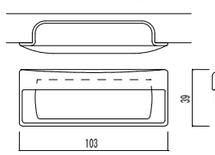
・丁番　パーチクルボードの重量に耐えるキャッチ機能付スライドヒンジで、105°以上の開き角度を持つものを使用する。

・引戸　下レールは面付けの樹脂性レールとし、上下調整機能付の戸車を使用する。上レールも樹脂製とし、耐震倒れ止め機能を持った、スライドガイドを使用する。

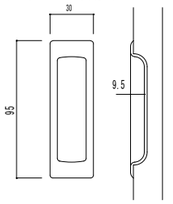
・棚板受け　安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボを使用する。棚板は、外れ止めの為のダボ受けシャクリ加工をする。図示する箇所はロック機能を持ったセフティ棚受けを使用する。

・特記事項　製作はISO9001取得工場かつ日本家具保証協会認定工場とし、その管理下で施工を行う。製作にあたり品質証明書及び、材料、接着材の安全データシートを提出し承認を受けて製造する。内田洋行又は、同等品以上とする。(同等品以上の場合は、事前に金物・素材のサンプルを提示し承認を受ける。)

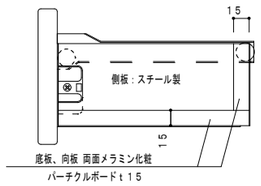
把手（抗菌性ABS成形品）詳細図
※ 3色（ライトグレー、アイボリー、ブラウン）より選択



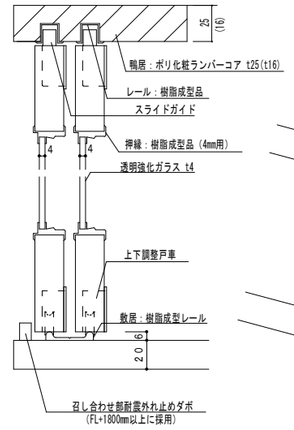
引手（抗菌性ABS成型品）詳細図
※ 3色（ライトグレー、アイボリー、ブラウン）より選択



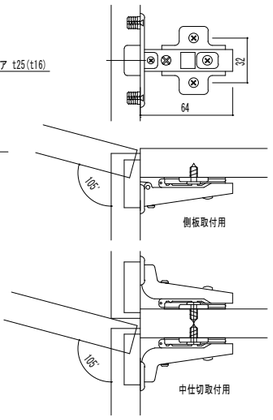
抽斗　詳細図
※ D、H寸法は本体の割付により決定する



ガラス引戸　詳細図
※ 框戸も本図に準ずる

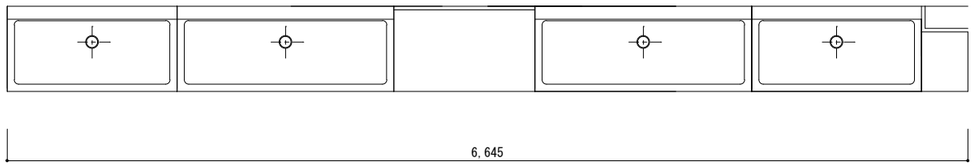


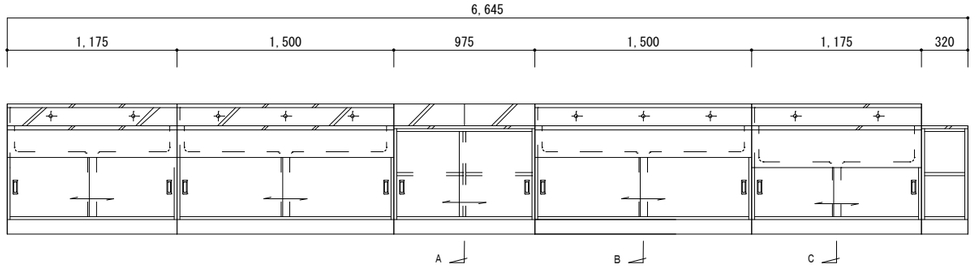
スライドヒンジ詳細図

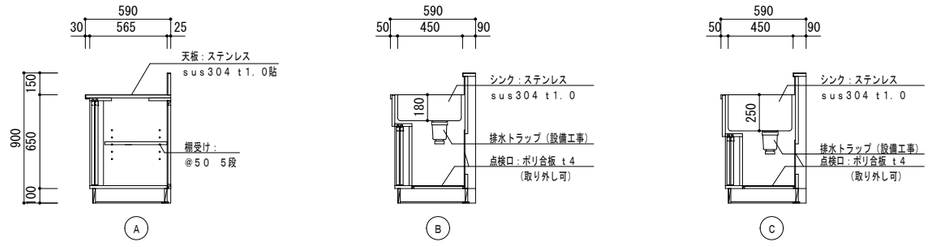


Ｆ－１	流し・深流し・作業台	美術室／１カ所

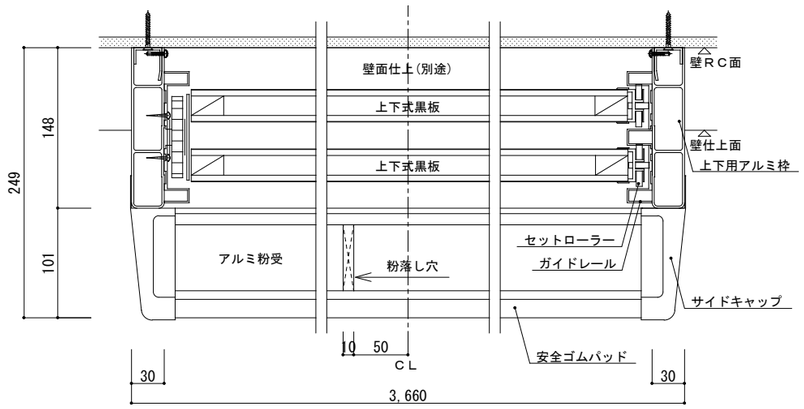
参考品番：内田洋行ＳＴ－７５９３Ｋ



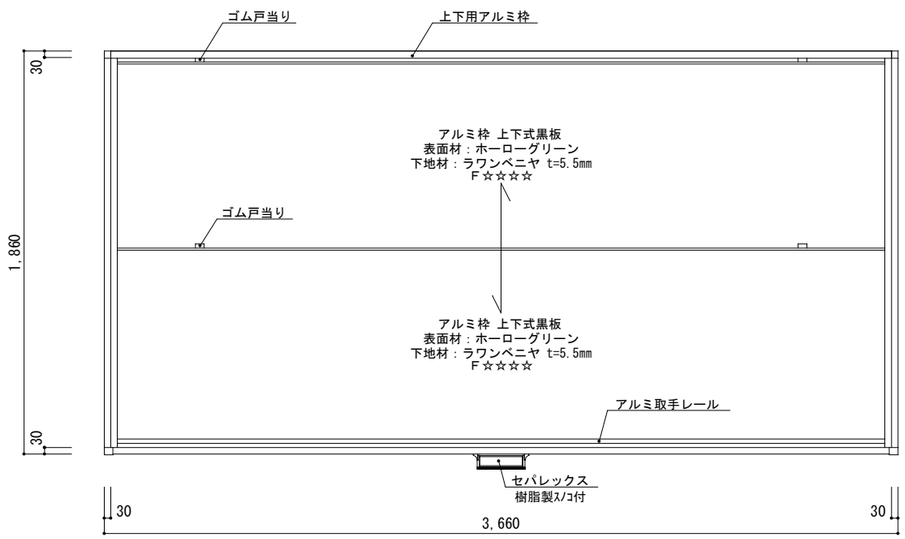




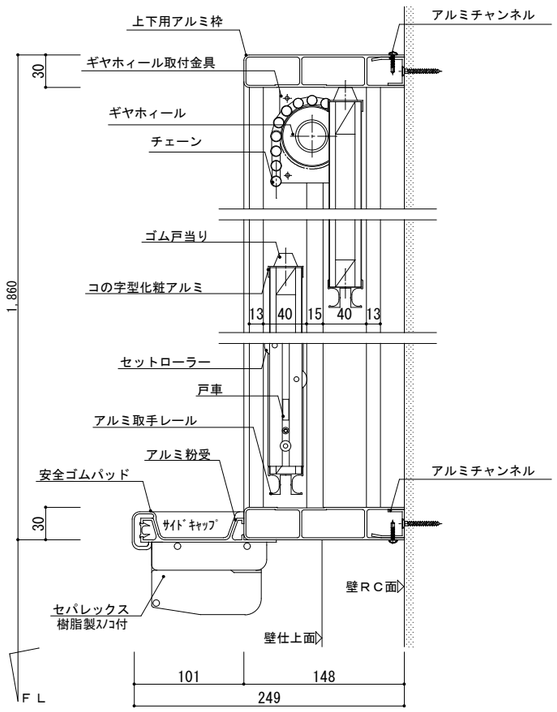
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-47／56
ITEM 新館棟　[改修]美術室部分詳細図（３）		SCALE 1/30		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



横断面図　S=1：4

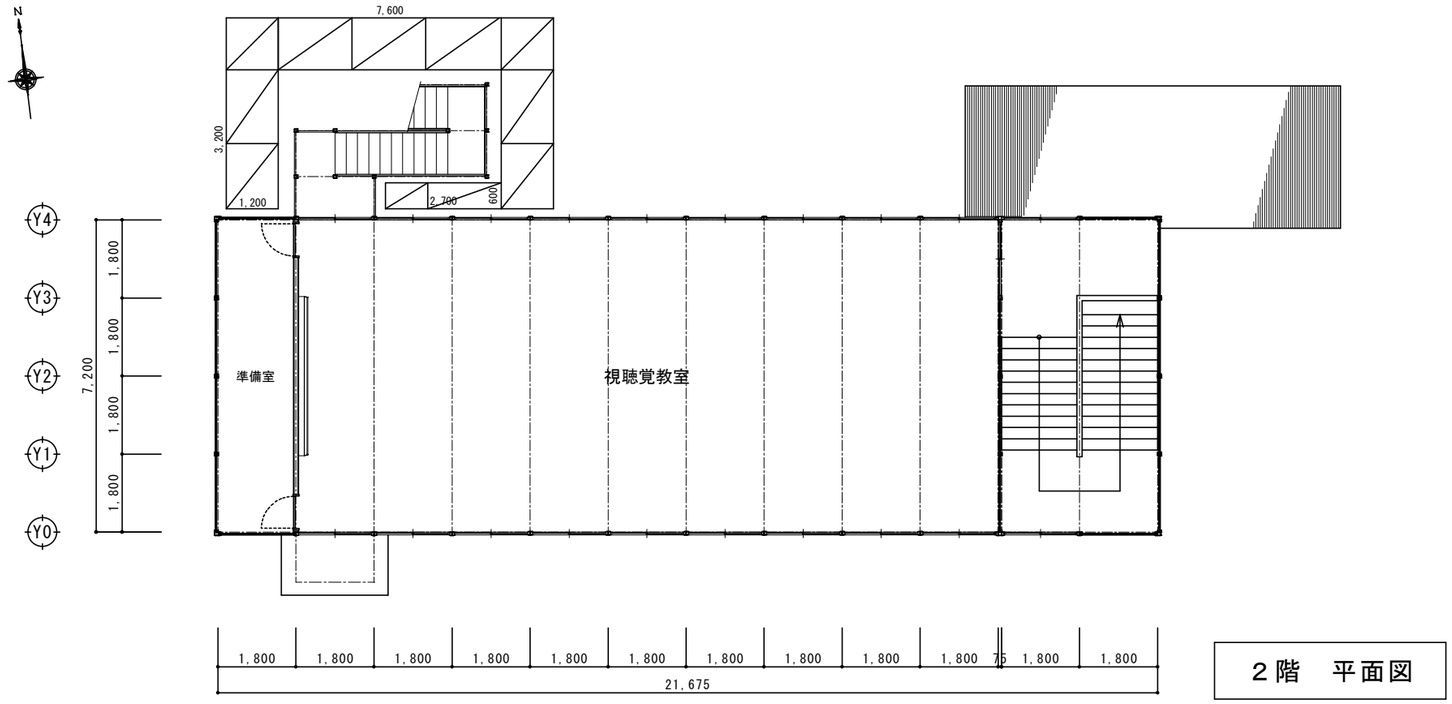


正面図　S=1：20

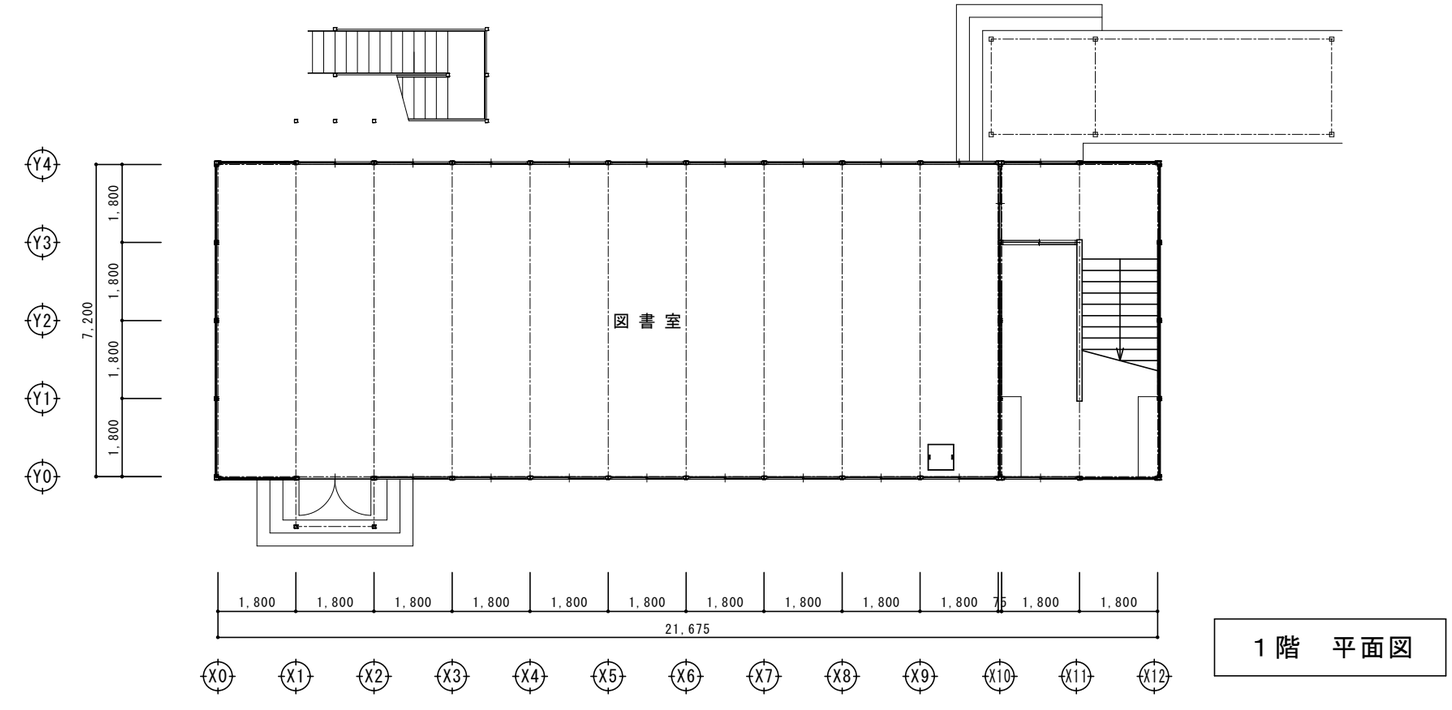


縦断面図　S=1：4

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 意	NO. A-48／56
ITEM 新館棟　[改修]美術室部分詳細図（４）		SCALE 図示		
米 杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



２階　平面図

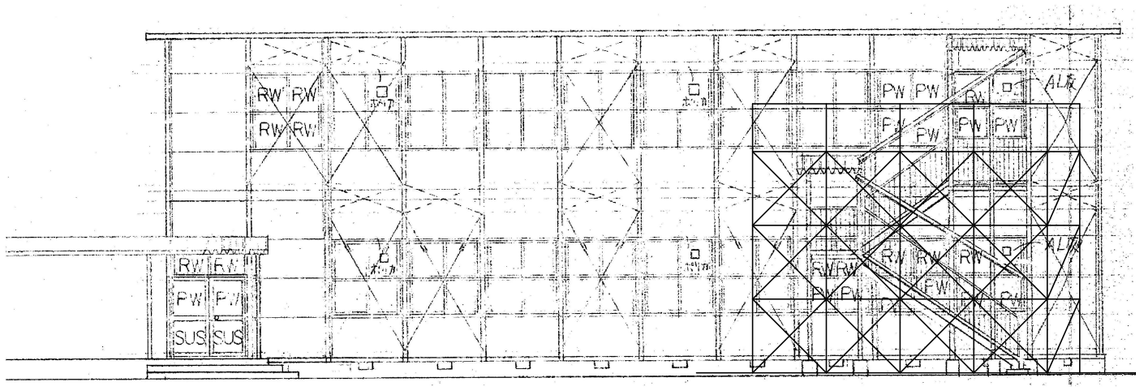


１階　平面図

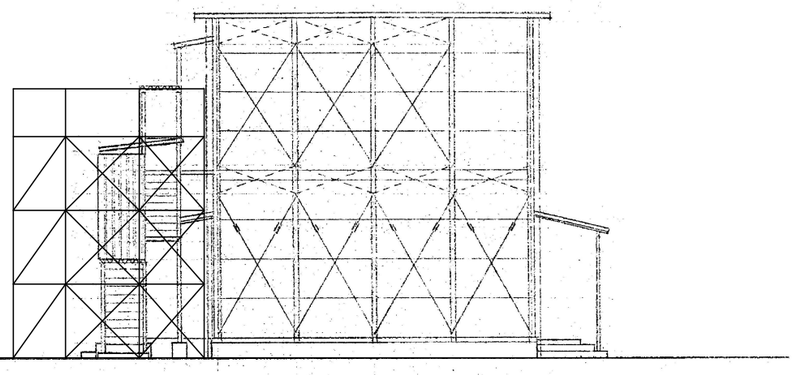
足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

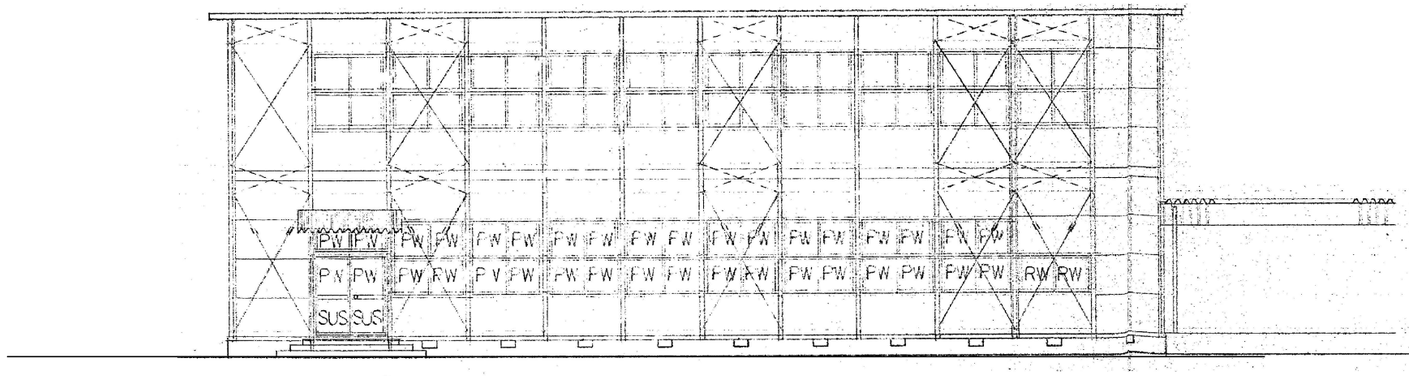
工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	プレハブ棟　現況平面図・仮設図(参考図)	1/100	A-49	R7.3



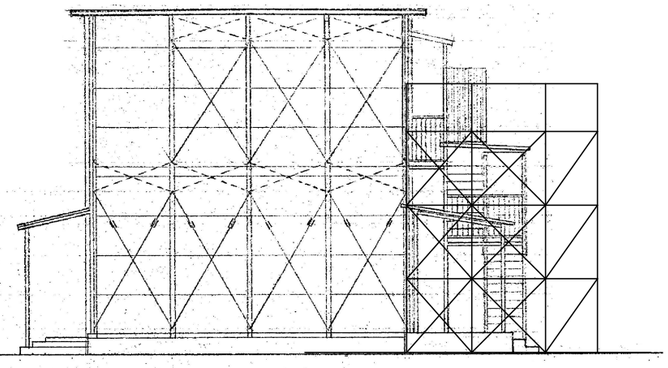
北 立 面 図　S1:100



西 立 面 図　S1:100



南 立 面 図　S1:100



東 立 面 図　S1:100

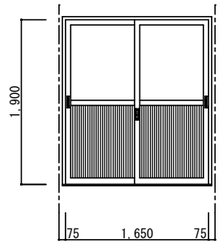
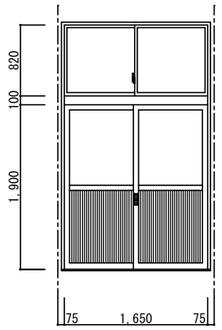
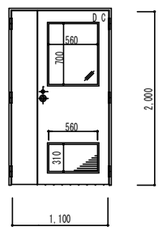
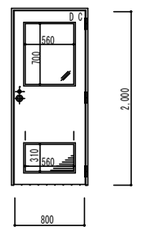
足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	プレハブ棟　現況立面図・仮設図(参考図)	1/100	A-50	R7.3

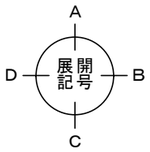
［既存］外部仕上				
外　　壁	イソバンド 厚25　外部／カラー鉄板 厚0.35　内部／塩ビ鋼板 厚0.35　芯材／ポリイソシアヌレートフォーム 厚35			
屋外鉄骨階段	下地処理、錆止め塗装、SOP塗装仕上			
［既存］内部仕上				
視聴覚教室・倉庫	ブナ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ厚12　ポリウレタン塗装　／下地床パネル	雑巾摺 15×57 OP	［外壁側］イソバンド露わし　［間仕切側］しな合板厚5.5、下地／ラワン合板厚5.5	化粧石膏ボード(ｼﾞﾌﾟﾄｰﾝ)厚9.0　下地／ラワン合板厚5.5　木製廻り縁
［改修］内部仕上				
視聴覚教室	［既存］ブナ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ／サンダー掛け、ｳﾚﾀﾝ樹脂ワニス３回塗り仕上	［既存］雑巾摺 15×57 EP-G塗装 ［間仕切側］木製幅木(ﾗﾜﾝ)H60 EP-G塗装	［外壁側］イソバンド露わし　のまま ［間仕切側］しな合板厚5.5＋ラワン合板厚5.5　EP-G塗装仕上　下地LGS	既存のまま 新設 間仕切壁部　廻り縁 30×30新設
（育友会室）	［既存］ブナ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの上、複層ビニル床シート 厚2.5張	［既存］雑巾摺 15×57 EP-G塗装 ［間仕切側］木製幅木(ﾗﾜﾝ)H60 EP-G塗装	［外壁側］イソバンド露わし　のまま ［間仕切側］しな合板厚5.5＋ラワン合板厚5.5　EP-G塗装仕上　下地LGS	［存置］下地ラワン合板 厚5.5 ［撤去］化粧石膏ボード(ｼﾞﾌﾟﾄｰﾝ)厚9.0 ［新設］化粧石膏ボード厚9.5、塩ビ廻り縁(目透かし型)
昇　降　口	［存置］ブナ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの上、防滑性複層ビニル床シート 厚2.5張	木製幅木(ﾗﾜﾝ) H60 EP-G塗装	［外壁側］イソバンド露わし　のまま ［間仕切側］しな合板厚5.5＋ラワン合板厚5.5　EP-G塗装仕上　下地LGS	［存置］下地ラワン合板 厚5.5 ［撤去］化粧石膏ボード(ｼﾞﾌﾟﾄｰﾝ)厚9.0 ［新設］化粧石膏ボード厚9.5、塩ビ廻り縁(目透かし型)
倉　　庫	［既存］ブナ複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの上、複層ビニル床シート 厚2.5張	［既存］雑巾摺 15×57 EP-G塗装 ［間仕切側］木製幅木(ﾗﾜﾝ)H60 EP-G塗装	［外壁側］イソバンド露わし　のまま ［間仕切側］しな合板厚5.5＋ラワン合板厚5.5　EP-G塗装仕上　下地LGS	［存置］下地ラワン合板 厚5.5 ［撤去］化粧石膏ボード(ｼﾞﾌﾟﾄｰﾝ)厚9.0 ［新設］化粧石膏ボード厚9.5、塩ビ廻り縁(目透かし型)

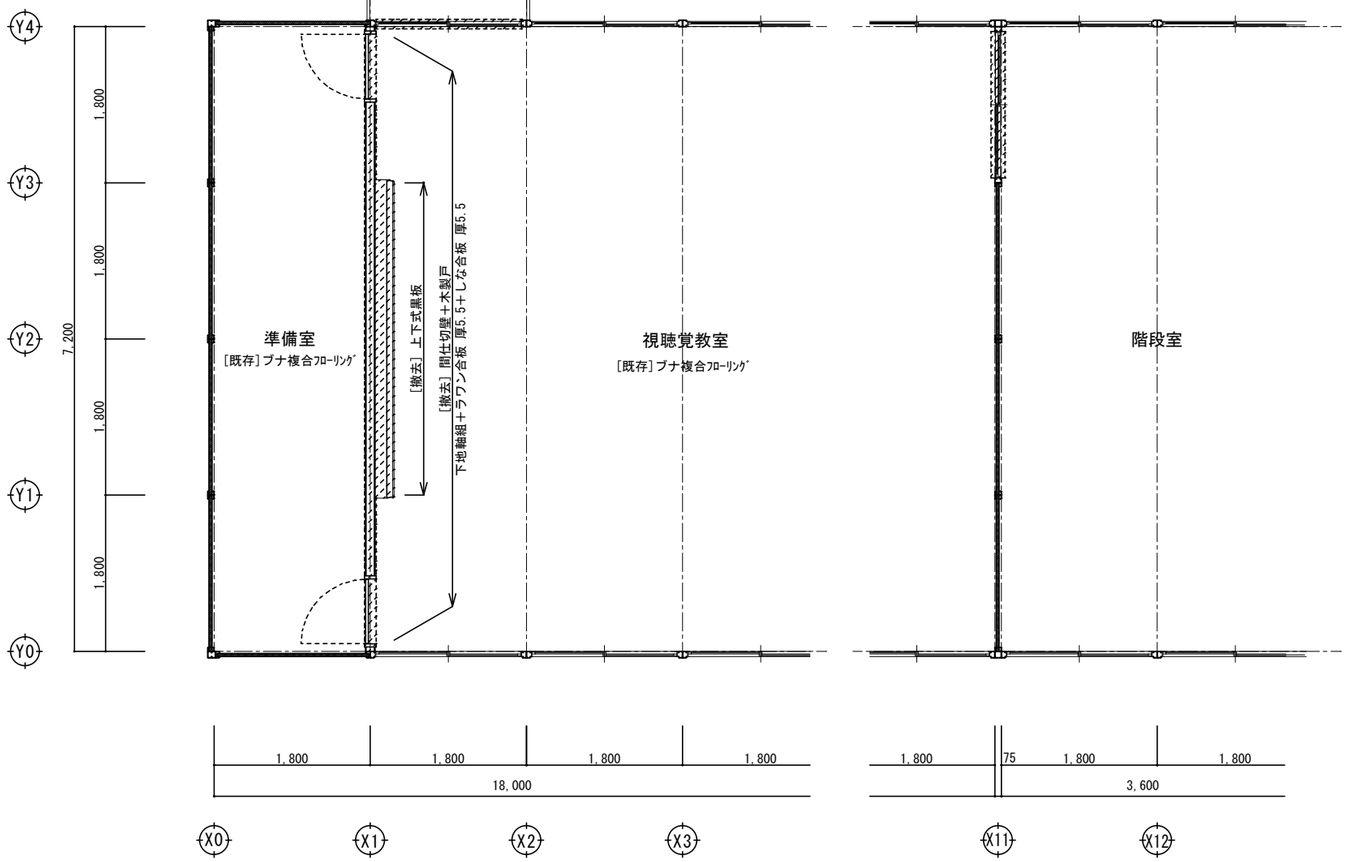
※ 天井化粧石膏ボード(アスベスト混入材)厚9.0 は環境配慮型工事とする。

符号	建1		建2		LSD1		LSD2	
数量	視聴覚教室	2	昇降口	1	倉庫、（育友会室）	2	（育友会室）	1
姿図								
見　込	70		70		扉厚 40㎜		扉厚 40㎜	
形　状	引違いアルミサッシ		欄間付引違いアルミサッシ		親子開き軽量スチール戸		片開き軽量スチール戸	
材種 仕上	アルミ建具（自然発色仕上）		アルミ建具（自然発色仕上）		化粧鋼板／芯材：ペーパーコア		化粧鋼板／芯材：ペーパーコア	
硝　子	［上部］学校用強化ガラス 5㎜		［欄間］型板強化ガラス 4㎜　［上部］学校用強化ガラス 5㎜		型板強化ガラス 4㎜		型板強化ガラス 4㎜	
	［下部］アルミパネル(エンボス柄) 3㎜		［下部］アルミパネル(エンボス柄) 3㎜		［下部］アルミガラリ		［下部］アルミガラリ	
金物他	引手、箱錠		引手、クレセント、箱錠		サムターン付ノブ錠、本締錠、ドアクローザー、旗丁番		サムターン付ノブ錠、本締錠、ドアクローザー、旗丁番、戸当り	
					フランス落し、戸当り			
備　考								

足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当		工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
						図面名	プレハブ棟　仕上表、建具表	1/50	A-51	R7.3



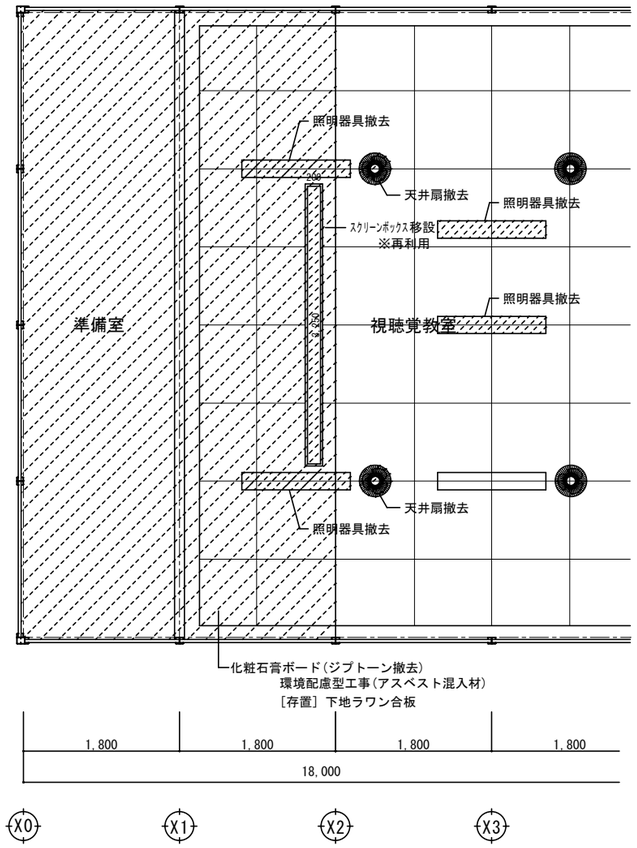


平 面 図

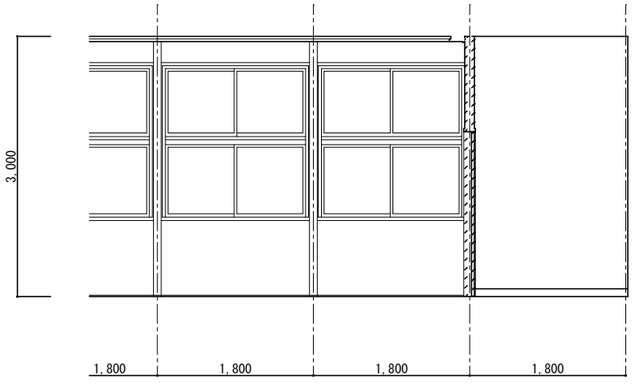


撤去部分を示す（天井・間仕切）

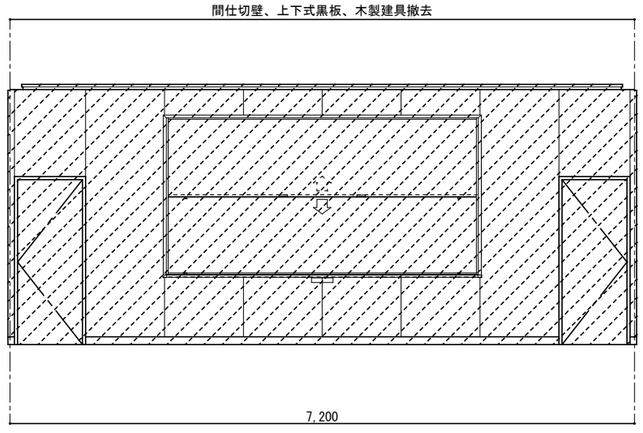
撤去部分を示す（器具・機器）



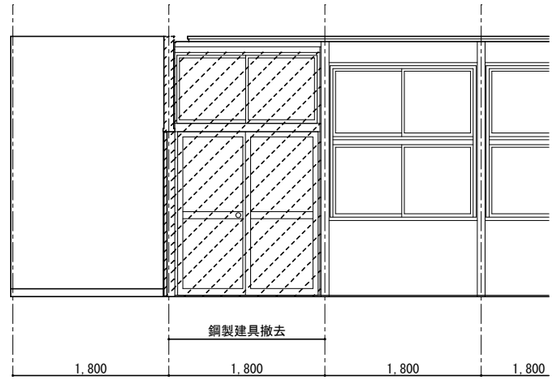
天 井 伏 図



-C- 展開図



-D- 展開図

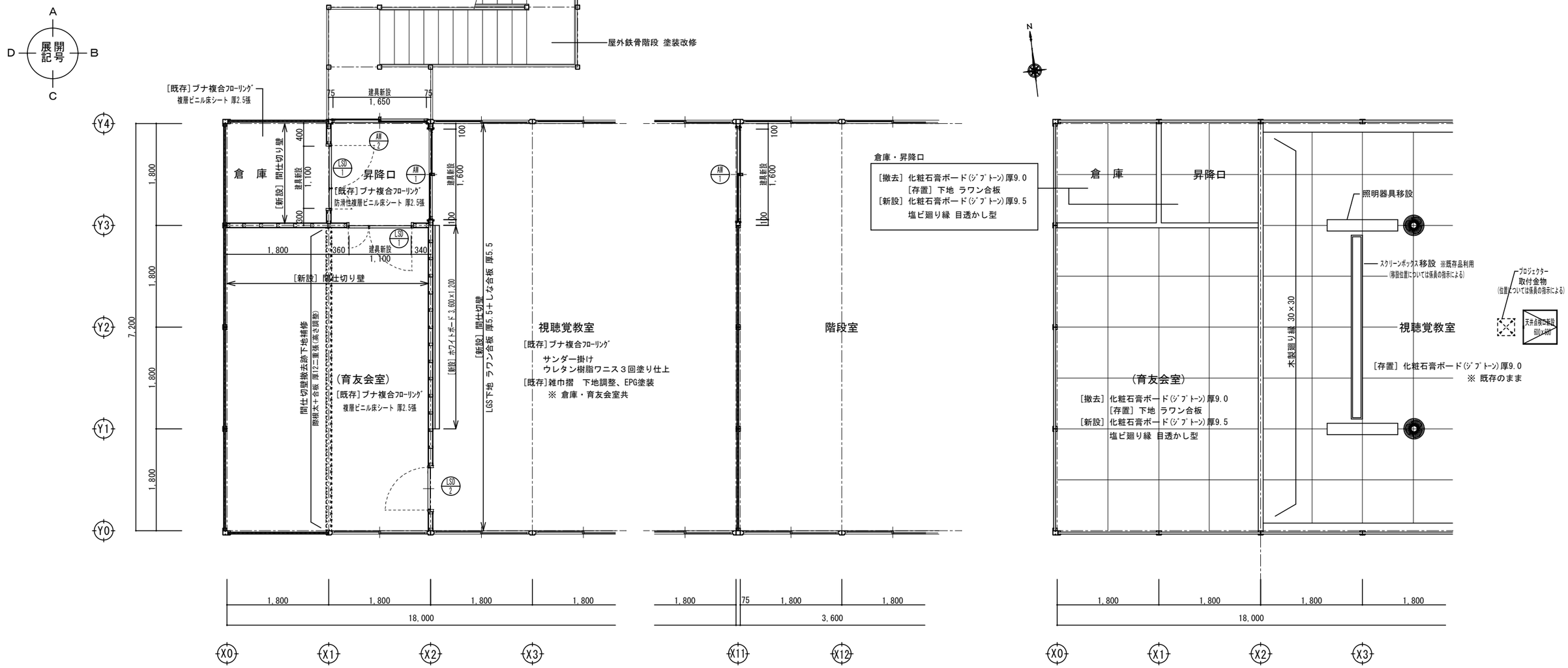


-A- 展開図

足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL（0774）33－6022 FAX（0774）33－6040

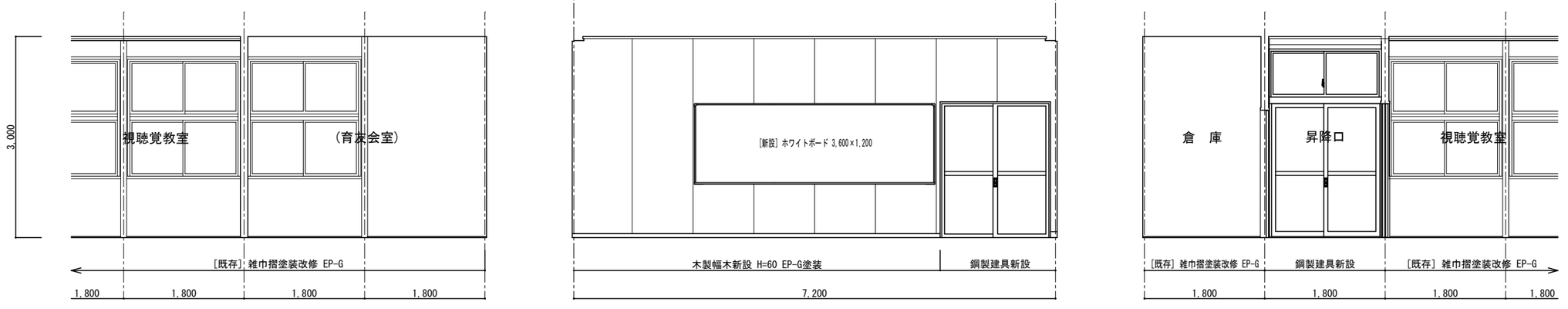
所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	プレハブ棟 [現況]平面図・展開図・天井伏図	1/50	A-52	R7.3



平 面 図

天 井 伏 図



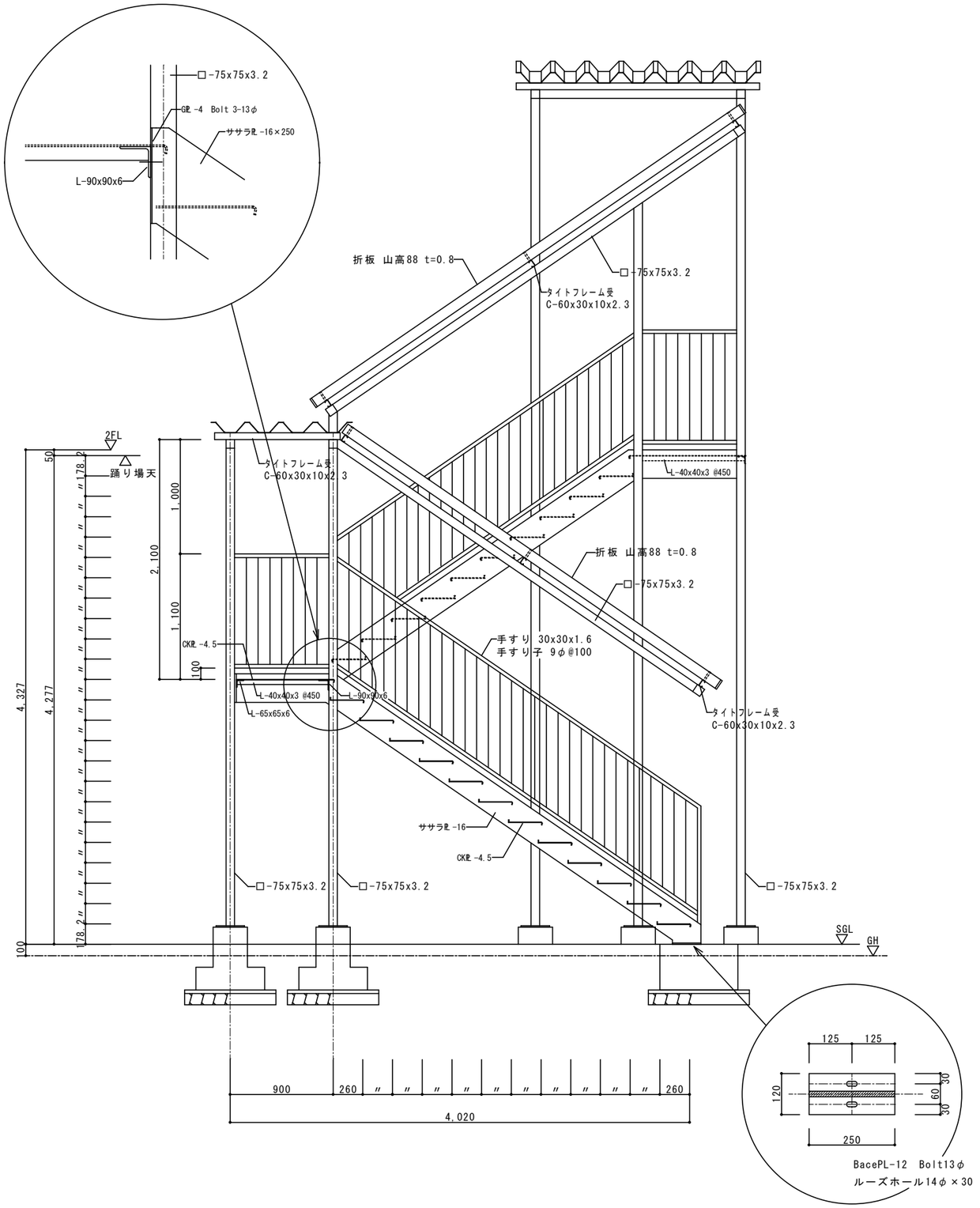
-C- 展開図

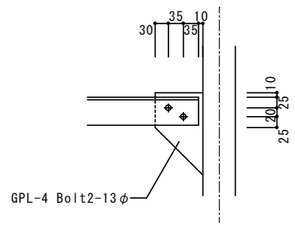
-D- 展開図

-A- 展開図

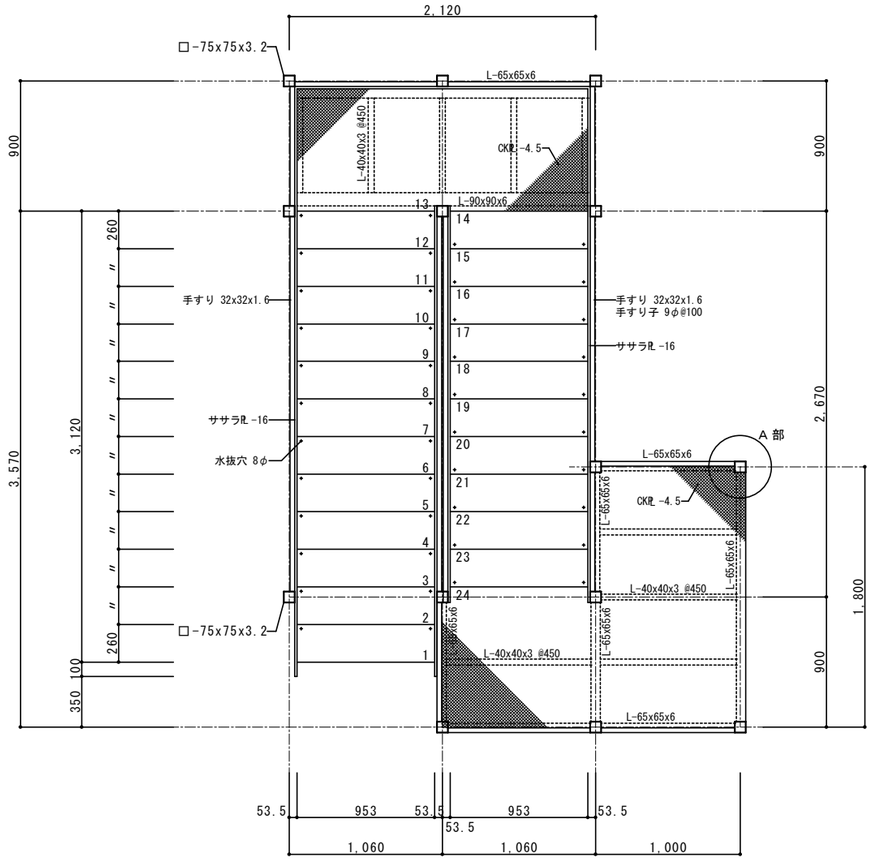
[既存] 雑巾摺塗装改修 EP-G

	足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL (0774) 33－6022 FAX (0774) 33－6040	所長		主任		担当		工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺 1/50	SHEET A-53	年月日 R7.3
								図面名	プレハブ棟 [改修] 平面図・展開図・天井伏図			

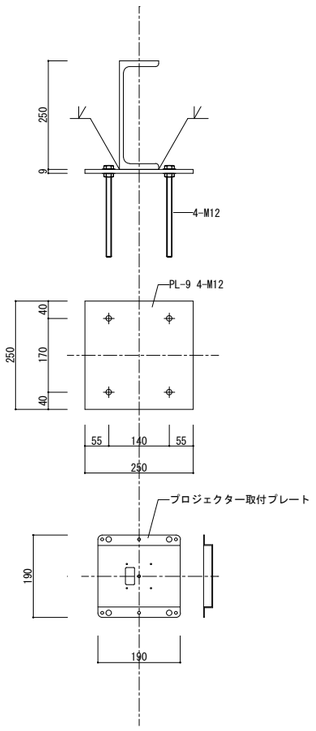


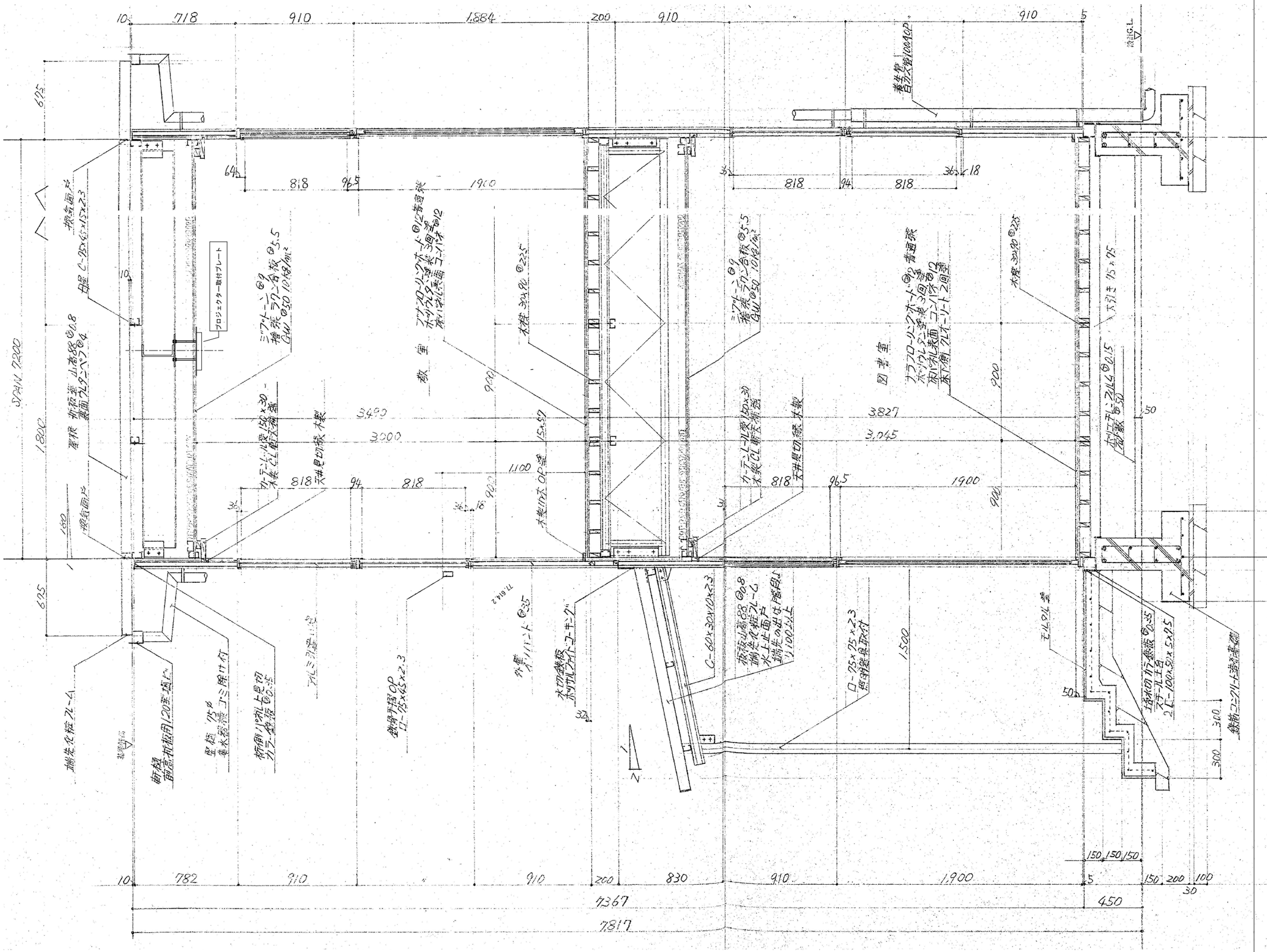


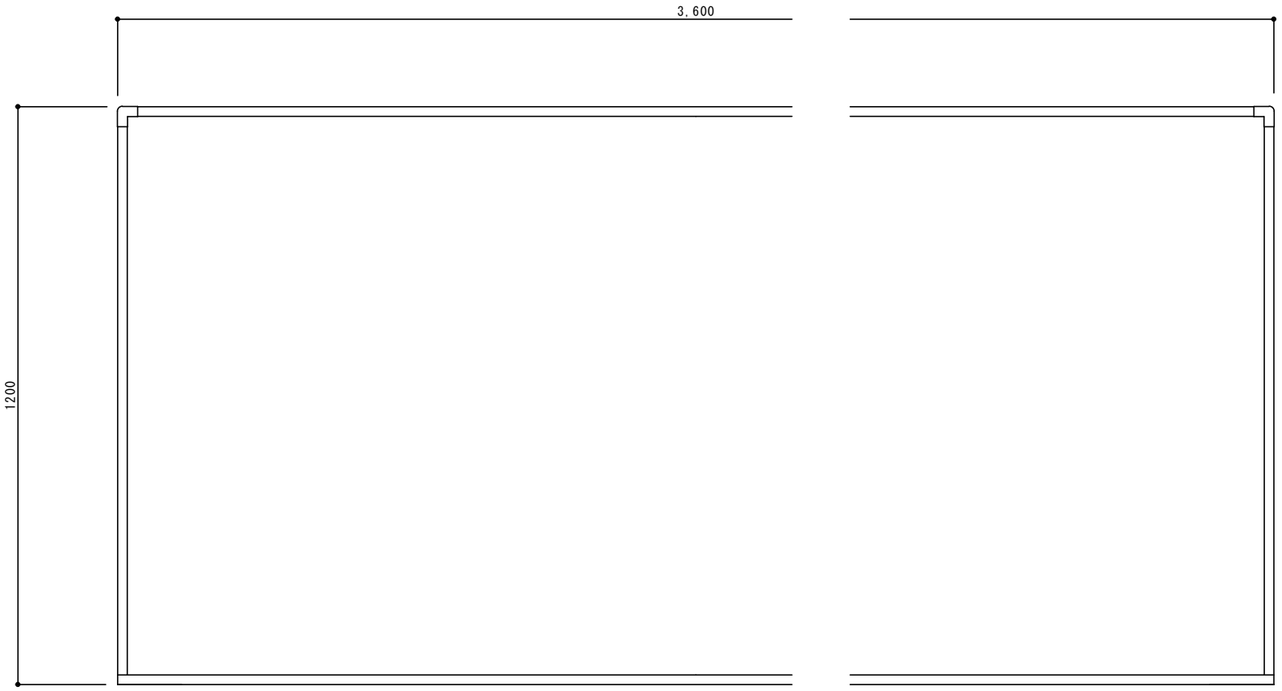
A部詳細図

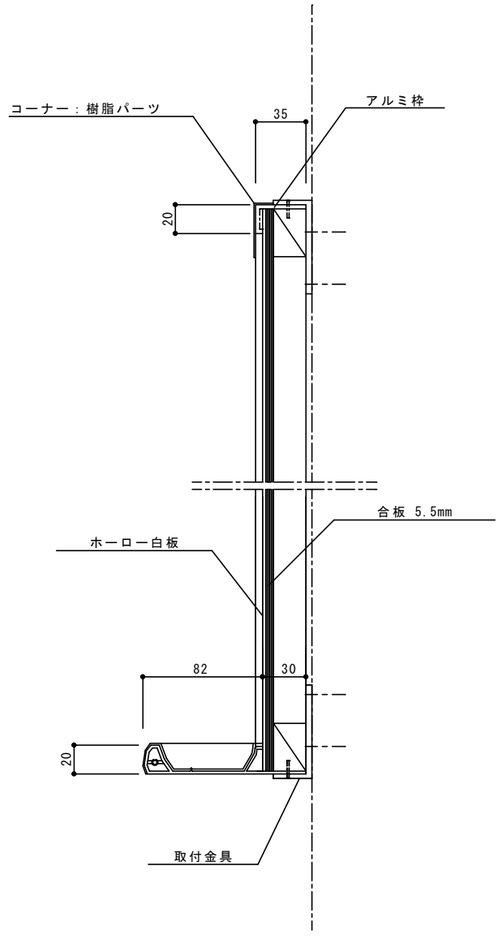


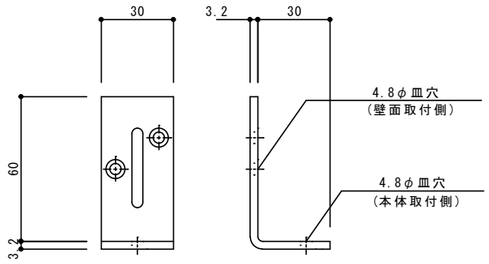
	足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL（0774）33－6022 FAX（0774）33－6040	所長		主任		担当		工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺 1/30	SHEET A-54	年月日 R7.3
								図面名	プレハブ棟 屋外階段詳細図			




10
718
910
1,884
200
910
910
5
FL
G.L.
675
1800
3744 7200
換気扇 Φ5
換気扇 防鳥金 山高 Φ0.8
金属プレーンベラ Φ4
C-75×45×15×2.3
プロジェクター取付プレート
ミリオネーン Φ9
補強ラワン合板 Φ5.5
@50 10枚/m²
数室
アフロロリングホーム Φ10 着色3回塗
ポリウレタン塗装3回塗
仕切外装面コンパネ Φ12
木造 3×4 @225
3480
3000
1100
1540
900
818
94
818
965
1900
64
818
94
818
36
18
35
32
水抜き Φ20
カラーモルタル光沢仕上 30
木製ごし戸 天端面
天井見切縁 木製
水抜き Φ20
着色ラワン合板 Φ5.5
@50 10枚/m²
アフロロリングホーム Φ10 着色3回塗
ポリウレタン塗装3回塗
仕切外装面コンパネ Φ12
木造フローリング下地 2回塗
図書室
3827
3045
900
木造 3×4 @225
木造 3×4 @225
天井見切縁 木製
カーテンレール兼UCW-30
木製ごし戸 天端面
818
965
1900
900
50
天井ロフト 2×4 @0.15
根太 50
160
換気面戸
1
675
端先仕様 フレーム
屋根 折板葺 山高 Φ0.8
裏面フレーンベラ Φ4
換気面戸
C-75×45×15×2.3
10
1800
3744 7200







取付金具

材　質
枠：アルミ（シルバー）
掲示板：ホーロー白板

足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	プレハブ棟　ホワイトボード（参考図）	1/3 1/2	A-56	R7.3

構 造 特 記 仕 様 書

§1 一般事項

選択項目は◉ 印を適用し、◎ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。
1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図 ◉ 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 ◉ 鉄骨工作標準図 ● 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図 ● 高強度せん断補強筋施工仕様書 ● 鉄筋コンクリート壁式標準配筋図
4)仕様書（ ◉公共建築協会 ※日本建築家協会 ）
5)日本建築学会標準仕様書 、JASS5 2018年 、JASS6 2018年

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に （◎含む ● 含まない ）

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(●意匠図 ● 構造図 ◎設備図)による。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	◉ルート1 ●ルート2 ●ルート3 ●
Y	◉ルート1 ●ルート2 ●ルート3 ●

2-2 鉄筋の継手(定着については設計図若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
◎ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
● 日本建築学会 JASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
● 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート2及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事,土工事（意匠図による）

3-1 山留め、根切り

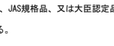
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ● 搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ● 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 ● 場内地均し ※ 場外搬出処分(※ 自由 ● 指定場所)

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業 （単位mm）

場所		捨てコンクリート厚さ 注1)	A：砕石 B：割栗石	厚さ
基礎	捨布	◎ 50 ● 60 ● 100	◎ A ● B	◎ 60 ● 100 ● 150 ●
基礎	ベタ	~~※ 50 ● 60 ● 100~~	~~※ A ● B~~	~~※ 60 ● 100 ● 150 ●~~
基礎梁		◎ 50 ● 60 ● 100	◎ A ● B	◎ 60 ● 100 ● 150 ●
土間スラブ		◎ 50 ● 60 ● 100	◎ A ● B	◎ 60 ● 100 ● 150 ●
土間コンクリート	屋内	◎ 50 ● 60 ● 100	◎ A ● B	◎ 60 ● 100 ● 150 ●
土間コンクリート	屋外	◉ 50 ● 60 ● 100	◎ A ● B	● 60 ◎ 100 ● 150 ●

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。



~~4-2 設計地耐力~~ 長期 kN/m² 短期 kN/m² 終局 kN/m²
地耐力載荷試験 ● 行う（1箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない

~~4-3 地盤改良~~
● 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ● ソイルセメント杭
● セメント系固化材攪拌 ● 圧密排水工法 ●
[● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験] ● 行う（ 箇所） ※ 行わない
[● 六価クロム溶出試験] ● 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭（杭仕様による）
~~1)杭種~~
● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● SC杭 t mm ● ● ● ●
● PRC杭 ● Ⅰ種 ● Ⅱ種 ● Ⅲ種 ● Ⅳ種
● 節杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●
● 鋼管杭
~~2)工法~~
● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー
● 埋込み工法 ● プレボーリングセメントミルク注入工法
● プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液 ※ あり ● なし
● 中掘拡大根固め工法(認定工法)
● 回転埋設根固め工法(認定工法)
● 回転杭工法
先行掘削 ※ あり ● なし

~~3)杭径・設計耐力・本数表~~

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
（ ）					
（ ）					
（ ）					
（ ）					
（ ）					

~~4)杭の構成は設計図による。~~
~~5)杭頭補強~~
● かご筋 ● スタッド溶接 ● 杭外周溶接

~~4-5 場所打鉄筋コンクリート杭・場所打鋼管コンクリート杭~~
1)工法
● アースドリル工法 ● 拡底アースドリル工法
● リバース工法 ● オールケーシング工法 （● ベノト工法 ● ）
● BH工法 ●
2)杭径,設計耐力,本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						

3)杭先端深さ ● GL− m ● 杭リストによる ● 杭伏図による
4)孔壁測定 （2 方向）
※ 行う （ ● 全数 ● % ） ● 行わない
5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合,JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc （ ● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメントB種 ）
鉄筋 ● D 以下 SD295 ● D 以上 SD345
● D 以上 SD390
鋼管(リブ付) ● SKK400 ● SKK490

~~4-6 杭打止管外法等規~~
1)[● 試験杭 ● 試験掘] ● 行う（ 本） ● 行わない
2)載荷試験 ● 行う（ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない
3)SL塗布 ● 行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類	径		継 手
◉ SD295	D 16 以下		◎ 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
◉ SD345	D 19 以上		● 重ね継手 ◎ ガス圧接 ◎ 溶接継手
● SD390	D 以上		※ ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手（ 級）
● SD490	D 以上		● ガス圧接 ※ 溶接継手 ● 機械継手（ 級）
● 溶接金網			● 重ね継手
● 高強度せん断補強筋	● 1275級	P	●フック加工 ●スパイラル ● 工場溶接
	● 785級	K	
	● 685級	U	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
◉ 抜取り検査
● 引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本
◉ 超音波探傷試験(JISZ3062) ● 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ◉ 30箇所 ●
●不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他,日本鋼手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◉ ①一般 ● ②地反力を受ける ● ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長ℓの採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効成) ◉ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ※ min(D' ,L/) ◉ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1)セメント ◎ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄJISR5210 ● 高炉ｾﾒﾝﾄB種
● 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄJISR5210 ●
2)細骨材 ●砂利 ◎ 砕石 ● 高炉ｽﾗｸﾞ骨材 ●人工軽量骨材 ●再生骨材
最大径(mm) ◎ 20 ● 25 ● 40
3)設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
◉ 普通コンクリート
● Fc18 ● Fc21 ◉ Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc
● 軽量コンクリート(※ 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc
4)土間コンクリート ◉ Fc24(S=15) (ただし柱,壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5)捨てコンクリート ◉ Fc18(S=15)
6)防水押さえコンクリート ◉ Fc18(S=15) ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)
7)かさ上げコンクリート ◉ Fc18(S=15) ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ●)

6-2 混和材 ◎AE減水剤 ◉ 高性能AE減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材
注1).混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇 所	基礎,基礎梁	一 般			備 考
スランプ cm	15	15			
水セメント比 %	55	55			60以下
単位水量 kg/m³	180以下	180以下			185以下
単位セメント量 kg/m³	270以上	270以上			270以上

注2).スランプは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験（躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う）
1)骨材 [◉ 塩分含有量 ◉ アルカリシリカ反応性] ◎ 行う ● 行わない
2)フレッシュコンクリート [◉スランプ ◉ 空気量] ◎ 行う ● 行わない
3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ◎ 行う ● 行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ◎ 行わない
5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ◎ 行わない
6)単位水量測定 ● 行う ◉ 行わない

6-5 調合（補正値は工事費に含む）
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度Fd
● 短期(18) ◉ 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3～6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≧Fm+1.73σ F≧0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15 ℃以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃以上	5 日	25 日	
	0 ℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合		5N/mm²	注)0.85Fcまたは12N/mm²	注) 設計基準強度

注）かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

~~6-7 仕中性能表示~~ 劣化等級 ● 等級2 ● 等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為,かぶりを訂正又は,設計図に明示する

~~6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による~~

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名		柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁他
一般構造用圧延鋼材	◉ SS400	●						○
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A	● SM490A						
	◉ SN400A	●						○
建築構造用圧延鋼材	◉ SN400B	◉ SN490B				●		○
	● SN400C	◉ SN490C		○				○
一般構造用角形鋼管	● STKR400	● STKR490						
冷間成形角形鋼管	◉ BCR295	●	○					
	● BCP235	● BCP325						
熱間成形角形鋼管	● SHC400B	● SHC400C						
	● SHC490B	● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	● STK400	● STK490						
	● STKN400	● STKN490						
一般構造用軽量形鋼	◉ SSC400	●						○
建築構造用圧延棒鋼	◉ SNR400						○	

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	◎ S10T	全般
JIS形高力ボルト	◉ F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T	屋内環境

7-3 普通ボルト,アンカーボルト
1)材質 ◉ SS400 ● SS490(M 以上)
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490(ABMは≧M24以上)
2)大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ◉ 使用する ● 使用しない

~~7-4 錆止めスタッド~~

径	長 さ(mm)	使用箇所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●	

7-5 溶接材料
1)アーク溶接に使用する溶接棒,ワイヤ及びフラックスは母材の種類,寸法,及び溶接条件に相応したものを選定する。
2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スカラップ形状 ◎ ノンスカラップ工法 ● スカラップ工法

7-7 継手

	柱		梁	
フランジ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト	● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト	● 現場溶接

7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAM検定の有資格者が行うとする指定を ◉行う ● 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ◉行う ● 行わない
但し、代替タブのAM検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート （単位 mm ）
1) 床用 高さ ● 板厚 ●
2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●
3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形版 タイプ
4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

7-10 塗装(工場塗 ※ 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン ● ブラスト
2) 下塗り用塗料

適用 屋外	適用 室内	塗料	種別		標準膜厚
	※	鉛、クロムフリー錆び止め JISK5674	※ 1種	※ 2種	30μm
	●	水系さび止めペイント JASS18 M-111			30μm
●		変性エポキシ樹脂プライマー JASS18 M-109	● 1種	● 2種	40μm
●		有機ジンクリッチプライマー JISK5552		● 2種	15μm
●		構造物用さび止めペイント JISK5551	A種		30μm

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ● 用いる ● 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ◎ 行う ● 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築士、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a)工場溶接の場合
ⅰ.検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ⅱ.抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
ⅲ.大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜取検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
ⅰ.全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	◎M	R	J	

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事 （意匠図による）

8-1 コンクリートブロック
1)種類 ● A 種 ● B 種 ● C 種
2)厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2 ALC パネル
1)使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁
2)厚さ mm ● 75 (80) ● 100 ● 120(125) ● 150 ● 175
3)外壁取り付け構法

方 向	構 法	使用箇所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm ● ●

方 向	構 法	使用箇所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4 PCa板
1)床及び屋根 ● 床 ● 屋根
● PCa板単独 厚さ mm ● ●
● 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

2)外壁 厚さ mm ● ●

令第129条の2の3の事項 ※ 設計が該当する場合には、● に◎ 印を記入する。
・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
◎ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び築結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。
● 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
● 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とすること。
● 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
◎ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。
◎ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
◎ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
◎ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
● 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。
◎ 給油設備は、支持構造部及び築結金物と変形又は腐朽のおそれのないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-01／13
ITEM	構造特記仕様書	SCALE		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP CHECK	CHIEF	DRAW

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§１　一般事項

1－1 基本事項

1．使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2．設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
　また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書１－２－４に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021)」による。
3．本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。

1－2 その他

4．本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

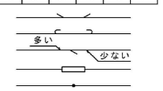
§２　共通事項

2－1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	ー	×	∅	●	○	⊙	⊠	⊛	⊕	✦	⊗
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 D	11	14	18	22	26	29	33	37	40	43	47

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 機械式継手表示
- ガス圧接、溶接継手表示



2－2 鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

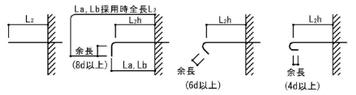
折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径 (D)
180°	余長 4d 以上	柱・梁主筋 基礎主筋 帯　筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋 壁　筋	SD295	D16以下	3d以上
			SD345	D19～D41	4d以上
135°	余長 6d 以上		SD390	D41以下	5d以上
90°	余長 8d 以上		SD490	D25以下	5d以上
	(SD490は90°のみ)			D29～D41	6d以上

2－3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5 (2018)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)	重ね継手の長さ 上段 直線 L_1 / 下段 フック付き L_1h	定着の長さ 一般 上段 直線 L_2 / 下段 フック付き L_2h, L_2a	定着の長さ 小梁・床スラブ 上端筋 フック付き Lb	定着の長さ 小梁・床スラブ 下端筋 L_2, L_2h
SD295 SD345 ()はSD345を示す	18	45d(50d) 35d	40d 30d, 20d	15d (20d)	L_2=20d L_2h=10d 床スラブの場合 L_2=10d かつ 150 以上
	21	40d(45d) 30d	35d 25d,15(20)d		
	24～27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d	15d	
	30～36	35d 25d	30d 20d,15d		
	39～45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d), 15d		
	48～60	30d 20d	25d 15d,15d		
SD390 (SD490) ()は適用外	21	50d(－) 35d(－)	40d(－) 30d(－), 20d(－)	20d (－)	SD490は適用外
	24～27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d), 20(25)d		
	30～36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 20(25)d	15d (－)	
	39～45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 15(20)d		
	48～60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d		

一般定着の直線L_2またはフック付きのL_2h, L_2a, Lbの図



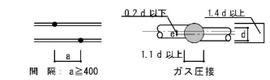
1．重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL_2h は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2．軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5ｄを加算する。

2－4 継手一般

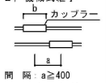
3．構造特記仕様書2-2で令第73条を選択した場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは左下表1かつ40ｄ(軽量コンクリートを使用する場合は50ｄ)とする。
4．構造特記仕様書2-2でJASS5(2018)、RC規準2018とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手重ね長さは設計図によるが、参考値として左下表JASS5(2018)にL_1, L_2を示す。

ガス圧接継手・溶接継手・機械式継手に関する事項は、標準仕様書および施工要領ならびに鉄筋継手工事特記仕様書(2019年版)共に公益社団法人日本鉄筋継手協会編に準拠。

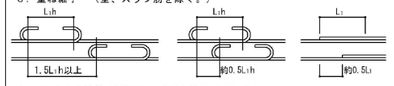
1．ガス圧接、溶接継手



2．機械式継手



3．重ね継手　（壁、スラブ筋を除く。）

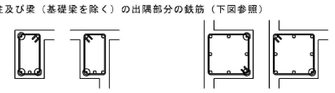


4．D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は用いない。
　（ガス圧接、溶接、機械式継手等による）
5．溶接継手及び機械式継手の場合はメーカー仕様による。

2－5 鉄筋のフック

- 下記の１．～７．に示す鉄筋の末端部にはフックをつける。

1．あばら筋及び帯筋　　2．煙突の鉄筋
3．柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（下図参照）



上図の⊙印の鉄筋の末端にはフックが必要。

4．片持ちスラブの上端筋の先端
5．最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋
6．杭基礎の基礎筋（偏心基礎及び杭２本打以上の場合）
7．鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

2－6 鉄筋のあき

- 鉄筋のあきａは原則として下記による。
　呼び名の数値の　1.5 倍以上
　粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上　　かつ 25 以上



※Dは最外径を示す

- 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。
- 二段筋のあきは1.5d且つ粗骨材最大値の1.25倍以上とする。

2－7 かぶり厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

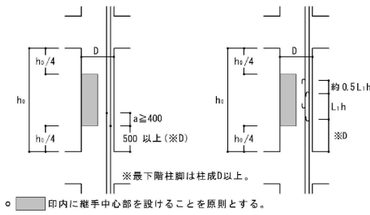
部位			かぶり厚さ 仕上げあり	かぶり厚さ 仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30(20)	30(20)
		屋外	30(20)	40(30)
	柱 梁 耐力壁	屋内	40(30)	40(30)
		屋外	40(30)	50(40)
	擁壁		※1 40(30)	※1 50(40)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		※1 ※2 50(40)	※2
	基礎・擁壁		※1 ※2 70(60)	※2

1．(　) 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2．仕上げあり　とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3．※1　品質・施工法に応じ、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。
4．※2　軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5．柱・梁の主筋の最小かぶり厚さは、表の数値以上かつ主筋径の1.5倍以上とする。

§３　柱

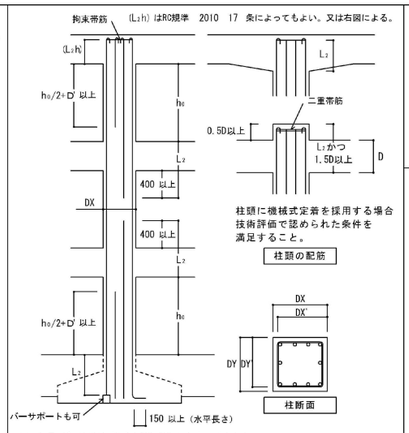
3－1 主筋の継手

ガス圧接、溶接、機械式継手　　重ね継手

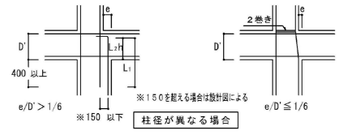


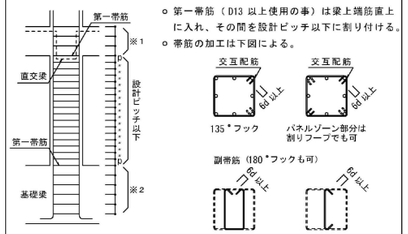
- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。
　設計者判断により、認定を取得した工法ではa=0とできる。

3－2 主筋の定着



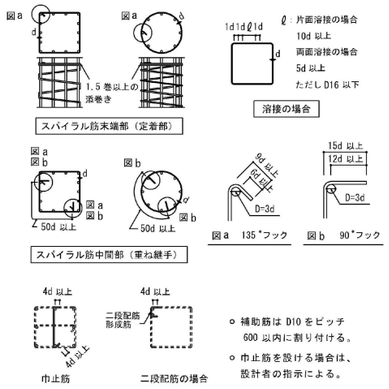
※ 余長 D' は柱有効成(DX' DY'の大きい方)とし、構造計算によって確認すれば、それによってもよい。





3－3 帯筋 副帯筋

- 第一帯筋（D13 以上使用の事）は梁上端筋直上に入れ、その間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- 帯筋の加工は下図による。
- パネルゾーンの帯筋は設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯筋量(pw)は 0.2%以上とする。
　※1．設計ピッチの 1.5 倍以下とする。 形以上の場合は同径同材質で 形φ100以下とする。
　※2．基礎梁部分は、同径で 形φ150以下とする。
- スパイラル筋の末端処理及び継手は下記のとおりとする。
　1．末端は 1.5 巻以上の逃巻きをし、図a のフックをつける。
　2．重ね継手は重ね長さ 50d 以上とし、図a 又は図b のフックをつける。

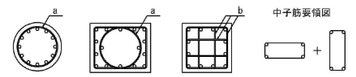


3－4 補助筋

- 補助筋は D10 をピッチ 600 以内に割り付ける。
- 巾止筋を設ける場合は、設計者の指示による。

3－5 柱のコンファインド補強

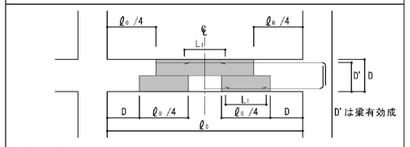
補強する柱は設計図による。（柱頭、柱脚柱成の範囲を補強する。）



a スパイラル帯筋 #60～75 （有効間隔50 程度）
b 溶接閉鎖型帯筋 #60～75 （有効間隔50 程度）

§４　梁

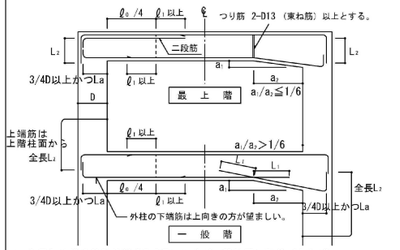
4－1 主筋の継手



- 印内に継手中心部を設けることを原則とする。(告示平 12 第 1463 号使用基準参照) 溶接継手の場合でも柱面より 500 以上はなすこと。
- 定着形状を下記以外とする場合は設計図書による。

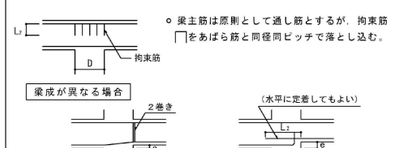
4－2 主筋の定着及び余長

外柱



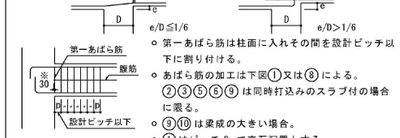
※ 余長ℓ1は構造特記仕様書5-5項によるが、設計図に記載があれば、設計図を優先する。

中柱



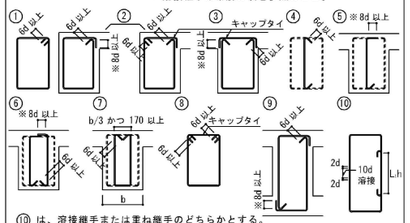
- 梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋 をあばら筋と同径同ピッチで落とし込む。

4－3 あばら筋 副あばら筋



※ ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL_2とする。

- 第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ピッチ以下に割り付ける。
- あばら筋の加工は下図①又は⑧による。
　②③⑤⑥⑨は同時打込みのスラブ付の場合に限る。
- ⑨⑩は梁成の大きい場合。
- ①はピッチ 2p で交互配置とする。
- 135° フックは 180° フックでも可とする。
- 溶接継手は帯筋の項を参照のこと。

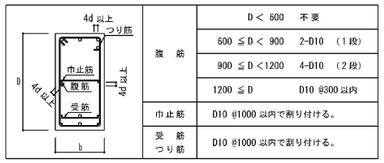


⑩は、溶接継手または重ね継手のどちらかとする。
※ 柱面より梁成の範囲は、180° フック又は 135°フックが望ましい。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-02／13
ITEM 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	SCALE		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

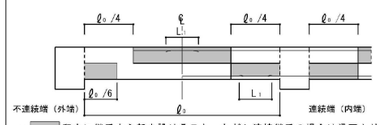
4－4 補助筋



腹筋	D＜ 600	不要
	600 ≦D＜ 900	2-D10 （1段）
	900 ≦D＜1200	4-D10 （2段）
	1200 ≦D	D10 @300 以内
巾止筋	D10 @1000 以内で割り付ける。	
受筋つり筋	D10 @1000 以内で割り付ける。	

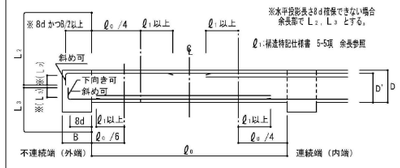
4－5 小梁及び片持梁

a）小梁継手

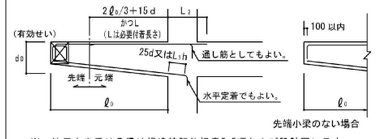


○ ▨ 印内に継手中心部を設けること。ただし溶接継手の場合は梁面より 500 以上はなすこと。

定着



b）片持梁 定着 継手



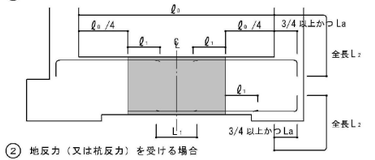
○ 下端筋は水平定着でも可。上端筋には縦手を設けてはならない。

4－6 基礎梁及び基礎小梁

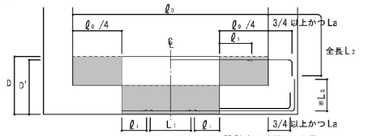
※ 地反力を受ける梁は構造特記仕様書5-5項および設計図に示す。
余長ℓ1は設計図に記載があれば、設計図を優先する。

a）基礎梁の継手及び定着

① 一般（独立基礎、杭打独立基礎）



② 地反力（又は杭反力）を受ける場合



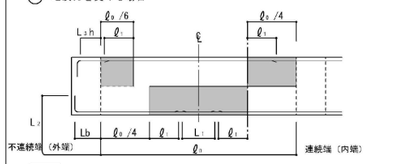
※ 設計者の判断による。

③ 上載荷重が大きい場合は②の主筋継手位置を上下逆にする。

b）基礎小梁の継手及び定着

① 地反力を受けない場合は (4-5) による。

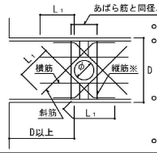
② 地反力を受ける場合



○ ▨ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。ただし溶接継手の場合は柱面（基礎小梁の場合は梁面）より 500 以上はなすこと。Lb とれない場合 4-5 a 定着によってよい。

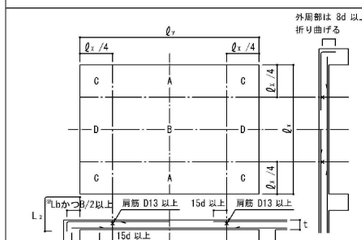
4－7 梁の貫通補強

1．補強筋は原則として工場製品（認定品）を使用する。
2．認定品を使用しない場合は下図によるが、補強筋は設計図による。



○ 梁貫通孔は梁成の 1/3 以下とする。
○ 孔が複数の場合は中心間隔を径（φ）の 3倍以上とする。
また位置は原則として柱面から梁成 D 以上はなし、梁成の中央 D/2 の範囲内とする。
○ φが 100mm未満、かつ D/10以下の場合は補強を省略することができるが、孔際の両側にかぶり厚さを確保してあばら筋を追加する。
○ ※縦筋はあばら筋加工とする。

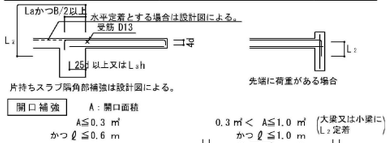
5－1 鉄筋の折り曲げ及び定着



5－2 継手

継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。（ ）は ℓy/ℓx ≧4の長辺方向

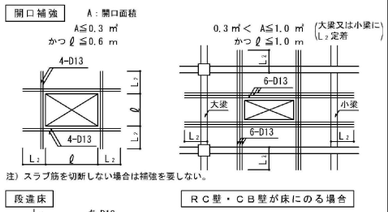
		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B D
	長辺方向	A B
下端筋	短辺・長辺方向	A (B) C D



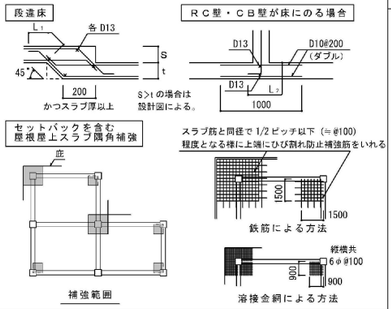
5－3 片持ちスラブ

5－4 補強筋

開口補強　A：開口面積



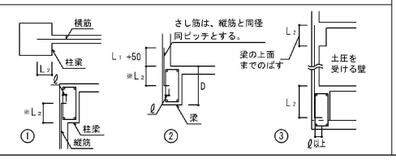
注）スラブ筋を切断しない場合は補強を要しない。



§5 スラブ

§6 壁

6－1 定着及び継手

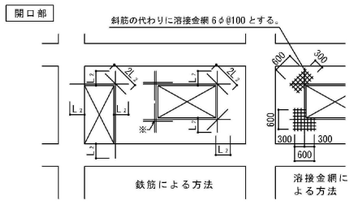


6－2 壁配筋

6－3 補強筋

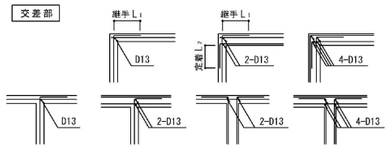
○ 定着長さは L_1、及び継手長さは L_1とする。
※ただし耐震壁で帯筋、あばら筋の内側に定着できない場合は、ℓ=8d かつ 150 以上 45°～ 90°折り曲げ、定着長さは L_1かつ D/2 以上とする。
（通し配筋の場合は不要）
○ 土圧を受ける壁の外側鉄筋の定着は③図による。
○ 継手位置はどの部分でもよいが、土圧を受ける壁は 5-2 項の土圧面側を上端筋側に読み替える。
壁の配筋は設計図書による。
○ ダブル配筋では巾止筋を縦横共 D10@1000 以内を標準とする。

開口部

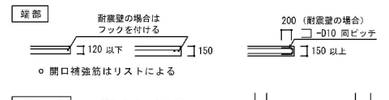


○※ 斜筋を縦・横補強筋でおきかえる場合は設計図による。
○ 斜筋は内側に配置する。壁筋を切断しない場合は補強を要しない。

交差部

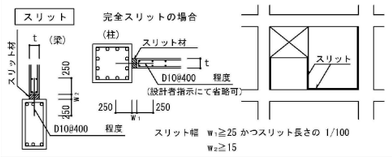


端部



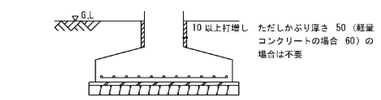
○ 開口補強筋はリストによる

スリット

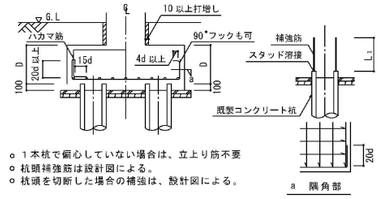


§7 基礎

7－1 独立基礎



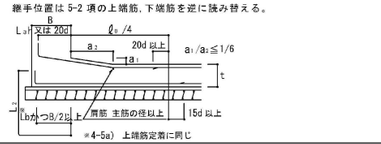
7－2 杭基礎



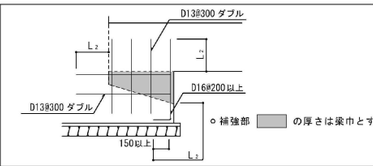
○ 1 本杭で偏心していない場合は、立上り筋不要
○ 杭頭補強筋は設計図による。
○ 杭頭を切断した場合の補強は、設計図による。

7－3 べた基礎継手及び定着

継手位置は 5-2 項の上端筋、下端筋を逆に読み替える。



7－4 基礎と基礎梁

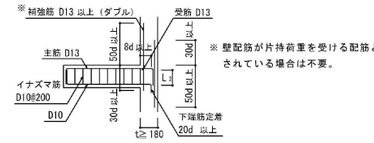


○ ▨ 補強部 の厚さは梁巾とする。

§8 その他

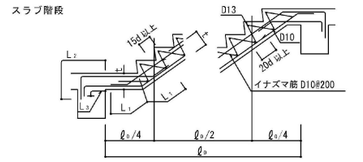
8－1 階段

片持階段

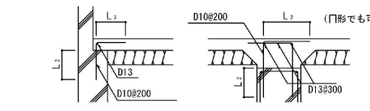


※ 壁配筋が片持荷重を受ける配筋とされている場合は不要。

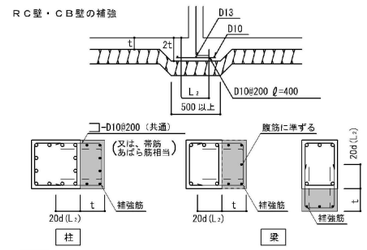
スラブ階段



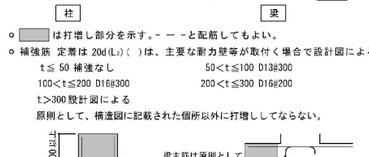
8－2 土間コンクリート



RC壁・CB壁の補強

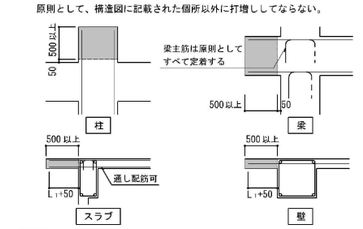


8－3 打増し補強



○ ▨ は打増し部分を示す。－ － －と配筋してもよい。
○ 補強筋 定着は 20d(L2)（ ）は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。
t≦ 50 補強なし　50＜t≦100 D13@300
100＜t≦200 D16@300　200＜t≦300 D16@200
t＞300 設計図による
原則として、構造図に記載された個所以外に打増ししてならない。

8－4 増築予定



○ ▨ は、はつり部分を示す。
○ 増築時の継手は、原則として柱・梁の主筋は溶接継手する。
（増築側の鉄筋は水平定着でもよい。）

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-03／13
ITEM 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)		SCALE		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

鉄 骨 工 作 標 準 図 (1)

§1 一般事項

1－1 基本事項

1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書１－２－４．５に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
3) 製作精度等に関しては、ＪＡＳＳ６の付則６「鉄骨精度検査基準」による。
4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1－2 その他

§2 共通事項

2－1 略号

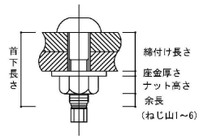
- ○ A B ―― アンカーボルト
- ○ B P L ―― ベースプレート
- ○ D F P L ―― ダイアフラム
- ○ F P L ―― フランジプレート
- ○ H T B ―― 高力ボルト
- ○ S P L ―― スプライスプレート
- ○ W P L ―― ウェブプレート
- ○ B H ―― 組立てＨ形鋼
- ○ C H P L ―― チェッカープレート
- ○ F B ―― フラットバー
- ○ G P L ―― ガセットプレート
- ○ R P L ―― リブプレート
- ○ T B ―― ターンバックル
- ○ W i-o ―― 溶接記号（§４参照）

§3 ボルト接合

3－1 高力ボルト

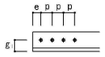
ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	
	F8T,F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40



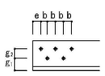
1. 特記以外はすべてS10T（トルシア形高力ボルト、上図）又はF10Tとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グラインダ掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは１次締付け後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてF8Tとする。

3－2 高力ボルトのピッチ



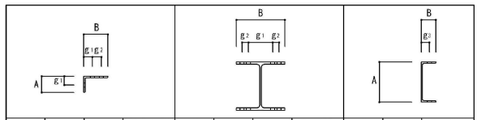
呼び径			M16	M20	M22	M24
孔径			18	22	24	26
ピッチ	標準	P	60	60	60	70
	最小		40	50	55	60
はしあき		e	40	40(50)	40(55)	45(60)
最小縁端距離	せん断縁、手動ガス切断縁		28	34	38	44
	圧延縁、自動ガス切断縁等		22	26	28	32

（）内はボルトが応力方向に３本以上並ばない場合を示す。



ゲージ g_1	千鳥打ちのピッチ b	
	M16, 20, 22	M24
35	50	65
40	45	60
55	25	45

3－3 形鋼のゲージ

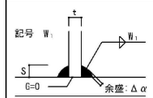
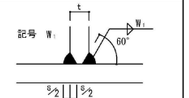


A or B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30	16
60	35		16	125	75		16	65	35	20
65	35		20	150	90		22	70	40	20
70	40		20	175	105		22	75	40	22
75	40		22	200	120		24	80	45	22
80	45		22	250	150		24	90	50	24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55	24
100	55		24	350	140	70	24			
125	50	35	24	400	140	90	24			
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

＊B =300は千鳥打ちとする。
＊＊印の欄のｇ及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

4－1 隅肉溶接

§4 溶接接合

t ≦ 16							16 < t ≦ 40						
													
t	6 以下	9	12	14	16		19	22	25	28	32	36	40
s	t	7	9	10	12		11	13	15	17	19	21	24

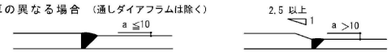
断続隅肉溶接の長さL



L≧10S かつ 40 以上

4－2 完全溶込み溶接(突合せ溶接)

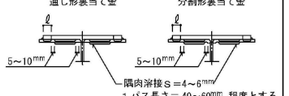
1) 板厚の異なる場合 （通しダイアフラムは除く）



クレーンガーダーの場合は、全て 2.5 倍以上の勾配をとる。

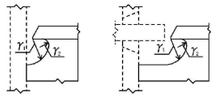
2) エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
エンドタブの長さℓは25mm以上とする。
エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より5～10mmはなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。
エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



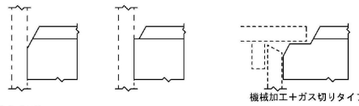
3) 開先加工 （下図は参考とする。）

a) スカラップ工法



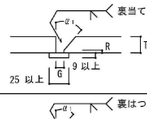
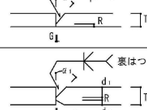
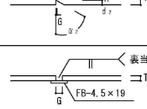
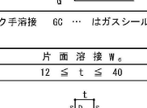
- ○ スカラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工する。γ1 は 35 程度、γ2 は 10 以上とする。なお複合円は滑らかに仕上げること。
- ○ 完全溶込み溶接部以外のスカラップはγ＝25程度とする。

b) ノンスカラップ工法



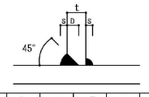
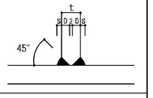
4) 開先形状

小文字は管理許容差 （）は限界許容差を示す　※十分な品質管理を行う

記号	形状	適用板厚		寸法 アーク手溶接	寸法 ガスシールド及びセルフシールドアーク溶接
W2 MC-BL-1B GC-BL-1B		6～	G	9 +∞ (+∞) −2 (−3)	7 +∞ (+∞) −2 (−3)
			R	2 −1 (+2) −2 (−2)	2 −1 (+2) −2 (−2)
			α1	35° −∞ (+∞) −2.5° (−5°)	35° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)
			G		7 +∞ (+∞) −1 (−2)
			R		2 +2 −2
			α1		30° +∞ (+∞) −1° (−2°)
W3 MC-BL-2 GC-BL-2		6～	G	0 −2.5 (+4) −2 (−0)	0 +2 (+3) −2 (−0)
			R	2 −2 (+3) −2 (−2)	2 +2 (+3) −2 (−2)
			α1	45° −2.5° (−5°)	45° −2.5° (−5°)
W4 MC-BK-2 GC-BK-2		16～	G	0 −2.5 (+4) −0 (−0)	0 +2 (+3) −0 (−0)
			d1	2/3 (T−R)	2/3 (T−R)
			R	2 +2 (+3) −2 (−2)	2 +2 (+3) −2 (−2)
			d2	1/3 (T−R)	1/3 (T−R)
			α1	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	45° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)
			α2	60° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)	60° +∞ (+∞) −2.5° (−5°)
W5 MC-BI-1B GC-BI-1B		3～6	G	T +∞ (+∞) −2 (−3)	T +∞ (+∞) −2 (−3)

MC … はアーク手溶接　GC … はガスシールドアーク溶接・セルフシールドアーク溶接の記号を示す。

4－3 部分溶込み溶接

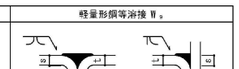
片面溶接 We	両面溶接 W7
12 ≦ t ≦ 40	16 ≦ t ≦ 40
	

t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

t/4 ≦ S ≦ 10

D=(t−2)/2

4－4 フレア溶接

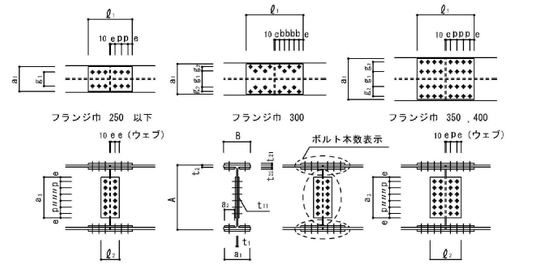
丸鋼等溶接 We	軽量形鋼等溶接 We
	

4－5 その他

加工工程中及び現場建方後においてもアークストライク、ショートビードをしてはならない。

5－1 継手リスト

§5 継手

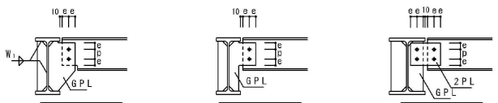


材種	主材	高力ボルト径	フランジ ボルト	フランジ 外側添板	フランジ 内側添板	ウェブ ボルト	ウェブ 添板	ピッチ
	H－ A × B × t_1 × t_2		総	2PL−	4PL−	総	2PL−	
	BH－ A × B × t_1 × t_2		本数	t_{21} × a_1 × ℓ_1	t_{22} × a_2 × ℓ_2	本数	t_{11} × a_3 × ℓ_3	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	
	H－ × × ×			× ×	× ×		× ×	

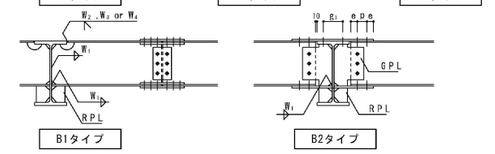
1．フランジPL面もしくはウェブPL面で、段差１mmを超える場合は、フィラーPLを入れて調整すること。
2．a_3 は原則として梁成の2/3以上確保すること。

5－2 小梁仕口

ピン接合 Aタイプ



剛接合 Bタイプ



1．GPL,RPLは材種、板厚とも小梁のWPLと同等以上とする。
2．継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	構	NO.	S-04／13
ITEM	鉄骨工作標準図(1)	SCALE					
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW		

鉄 骨 工 作 標 準 図 (2)

§6 柱梁接合部及び継手

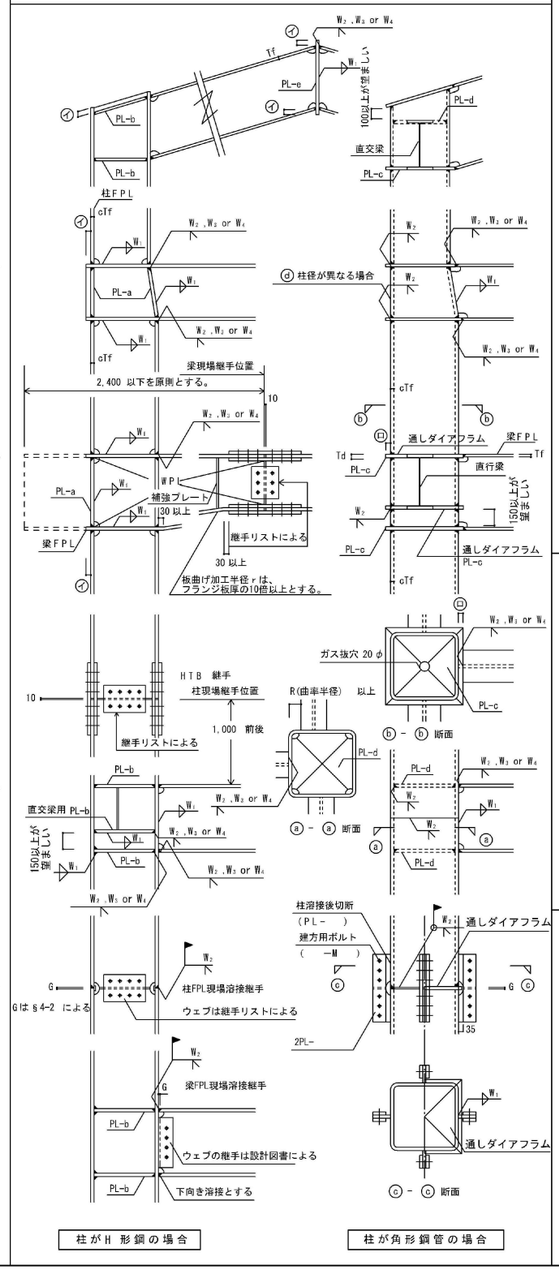
6－1 勾配屋根

6－2 梁 通 し

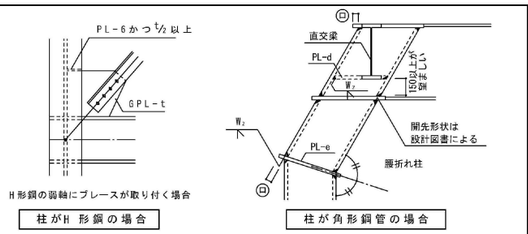
6－3 仕口と継手

6－4 柱 通 し

6－5 現場溶接継手



6－6 その他



1) パネルゾーンのPLの厚さ

1.	PL－a（鉛直スチフナ）	上下柱のFPLの厚い方より1サイズUP以上
2.	PL－b（水平スチフナ）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1サイズUP以上
3.	PL－c（通しダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
4.	PL－d（内ダイアフラム）	仕口部に集結する梁の最大FPLより1～2サイズUP以上
5.	PL－e（折れ曲がり部）	梁（柱）のFPLより1サイズUP以上

2) 出寸法

ⓓ 25 ㎜ かつcTf以上

ⓔ cTf≦25の場合 25

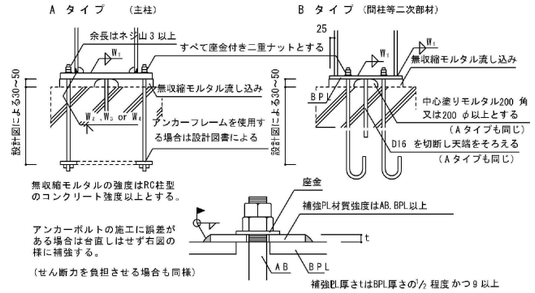
cTf≧28の場合 30

3) 注記

1. ダイアフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
2. ⓓ（6-2項）上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
3. ハンチ部でFPLを折曲げる場合はR≧10Tfとし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合（1／6程度）は不要。
4. ダイアフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイアフラムの厚みの内部で溶接すること。（告示1464）
5. 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

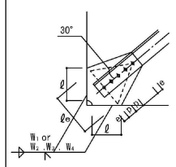
7－1 一般柱脚

§7 柱 脚



8－1 ブレースリスト

§8 壁面ブレース



符号	部 材	高力ボルト		GPL		溶 接	
		径	本数	t	ℓe	脚長	Σℓ

1. GPLの最小幅 ℓe が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共ＪＩＳ規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

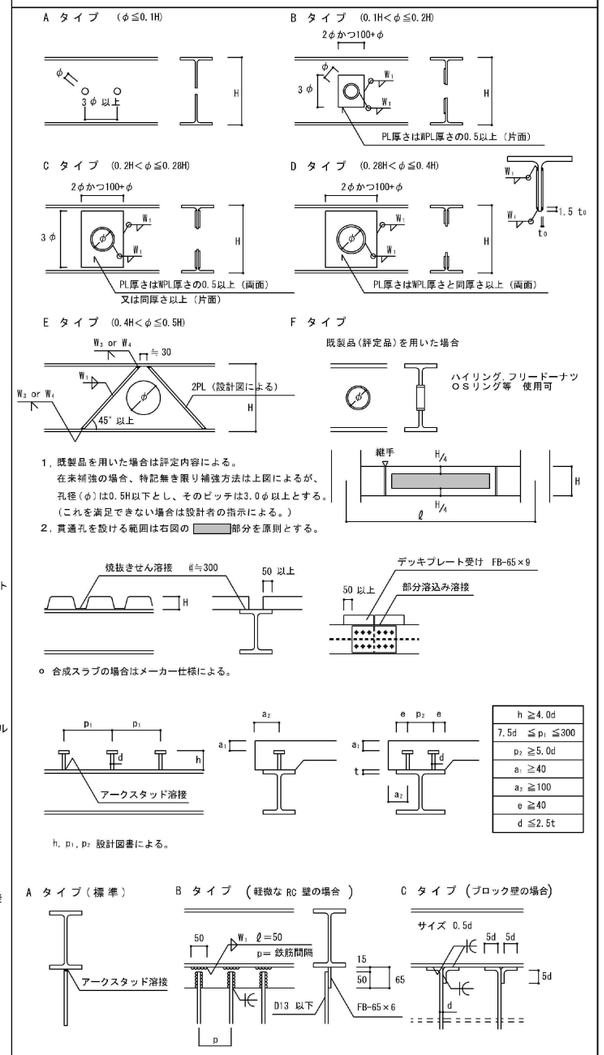
9－1 貫通補強

9－2 デッキプレート

9－3 スタッドジベル

9－4 壁筋の溶接

§9 その他



1，既製品を用いた場合は評定内容による。
在来補強の場合、特記無き限り補強方法は上図によるが、孔径（φ）は0.5H以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。
（これを満足できない場合は設計者の指示による。）

2，貫通孔を設ける範囲は右図の ▭ 部分を原則とする。

○ 合成スラブの場合はメーカー仕様による。

h ≧4.0d
7.5d ≦ p1 ≦300
p2 ≧5.0d
a1 ≧40
a2 ≧100
e ≧40
d ≦2.5t

h, p1, p2 設計図書による。

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	NO.
ITEM	鉄骨工作標準図(2)	SCALE		構	S-05／13
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

ベースパック工型

角形鋼管
F値295N/mm² 以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-18」（令和4年11月17日付）

ベースパック柱脚工法設計施工 標準図

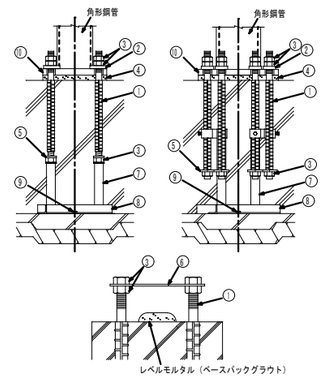
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03(3624)5336
旭化成建材株式会社 TEL03(3296)3515

2023年7月作成

1．工法概要

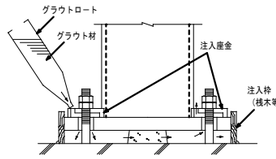
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記 ①～⑩構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記 ①～⑨現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



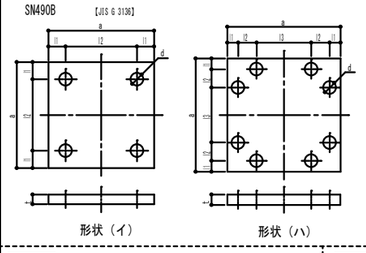
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	○
	TSC295	

3．構成部材・寸法

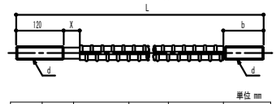
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】

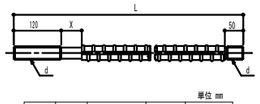


3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト） 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

i）アンカーフレーム Aタイプの場合



ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合



単位 mm

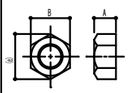
呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770,810	60	98,135	490

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

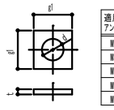


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

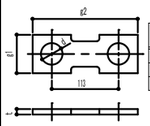
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

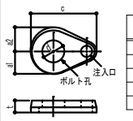


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

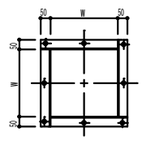


単位 mm

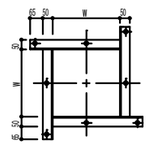
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

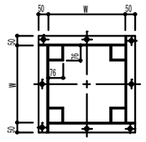
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



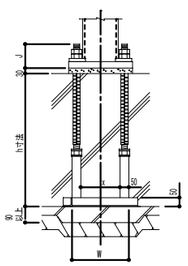
iii）特Cタイプ



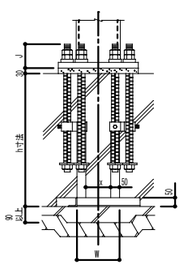
3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉

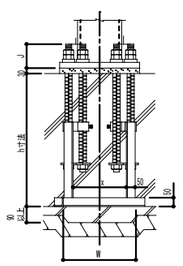


〈 Cタイプ 〉※



〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

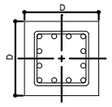


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

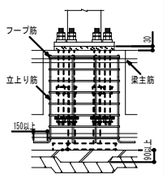


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22)

4．2 配筋

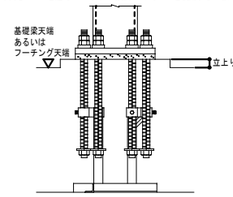
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

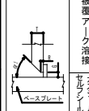
採用
□ 下表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
□ 下表標準配筋仕様からの変更あり
□ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｹｶﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。（JASS 6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：45	-2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SM490B	予熱なし	50 °C	50 °C
CO2 ガスシールドアーク溶接	SM490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

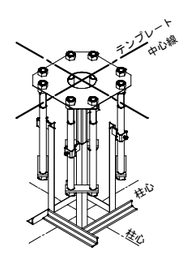
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

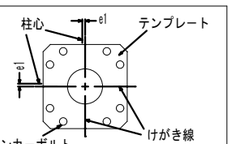
●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



図



e1 ：柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差	-2≦e1≦2
	基準高さより誤差は
	-3≦e≦10

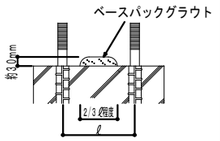
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0~1.1 ℓ の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち６．２アンカーボルト据付け及び６．６ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(□)	柱 板厚(t)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm²)	カルフレム打分	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度 (N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレム	特C	フレームポスト間 寸法A(mm) 標準フレム	特C	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21以上	250	-	150	-	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	490	A	530	-	12-D19	D13@100	21以上	280	-	180	-	600	135
○	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	25	50	260	-	φ45	4-M30	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21以上	310	-	210	-	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	490	A	610	-	12-D19	D13@100	21以上	360	-	260	-	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	490	A	630	-	12-D19	D13@100	21以上	370	-	270	-	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	490	A	680	-	12-D22	D13@100	21以上	420	-	320	-	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構 / NO. S-06 / 13
ITEM	ベースパック柱脚工法設計施工標準図	SCALE	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP CHECK CHIEF DRAW	

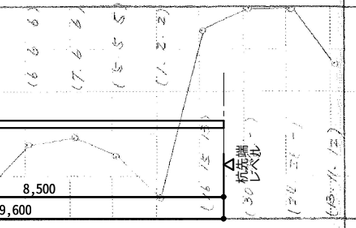
京都市上京区相国寺北門前町仲・町六九九番地ノ二

徳永工業株式会社

工事名（発注）木幡中学校ベ含新壁工事　　深度 G-1 1:30　　地下水位 G-1 -2.70

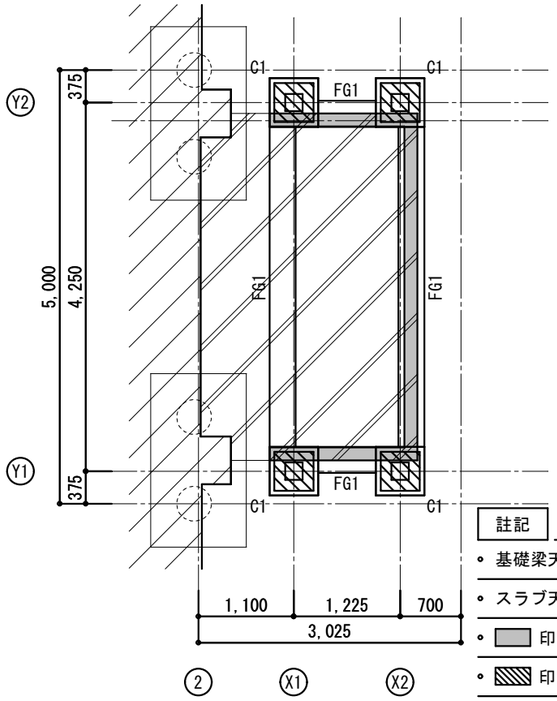
孔番 G-1　　標高 地盤高

月日	標高	深度	層厚	標本番号	断面	地質名	色	シンウォールサンプリング	標準貫入試験 打撃数 N値	打撃数	深度	相対密度	粘着度	備考
	2.20	1.40	1.40	1		表土	茶褐			7	1.40		非常に軟らか	盛土．部分的に建屋を撤去の為1本あたり30%増
		2.80	1.40	2		礫混土	灰			0	2.80			含水比低めでダル
	12.00	3.50	0.70	3		礫混り砂質シルト	黄褐			0	3.50			小量のシルト分混入
		4.70	1.20	4		粘土質シルト	灰褐			4	4.70			電気探査B
	9.65		2.05	5		粘土	茶褐			13			非常に硬い	3.20～3.50 礫多混シルト（薄層） 小量のシルト混入
		6.75	2.05	6						18	6.80			レキ中20%程度
	8.00	8.90	2.15	7		礫混り砂質粘土	青灰			15	8.90			1キロ中30%程度 含水少
	10.00		3.05	8		粘土	青灰			44				1キロ中50%程度 含水やや多い、硬い
		11.95		9						50	11.95			1キロ中30%程度
	12.20	12.30	0.45	10		礫	褐			36	12.30			部分的に礫層 粘土小量の1キロ混入 粒径最大50% 1キロ中50% 1キロ中20%程度

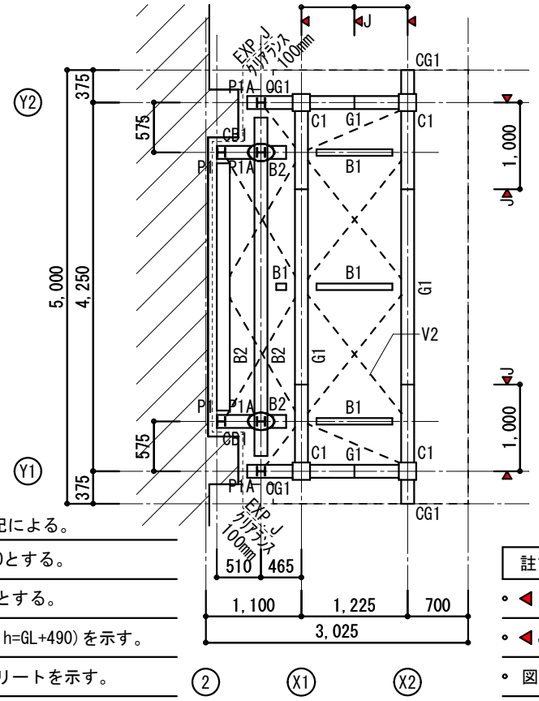


粗目1本 小量混入

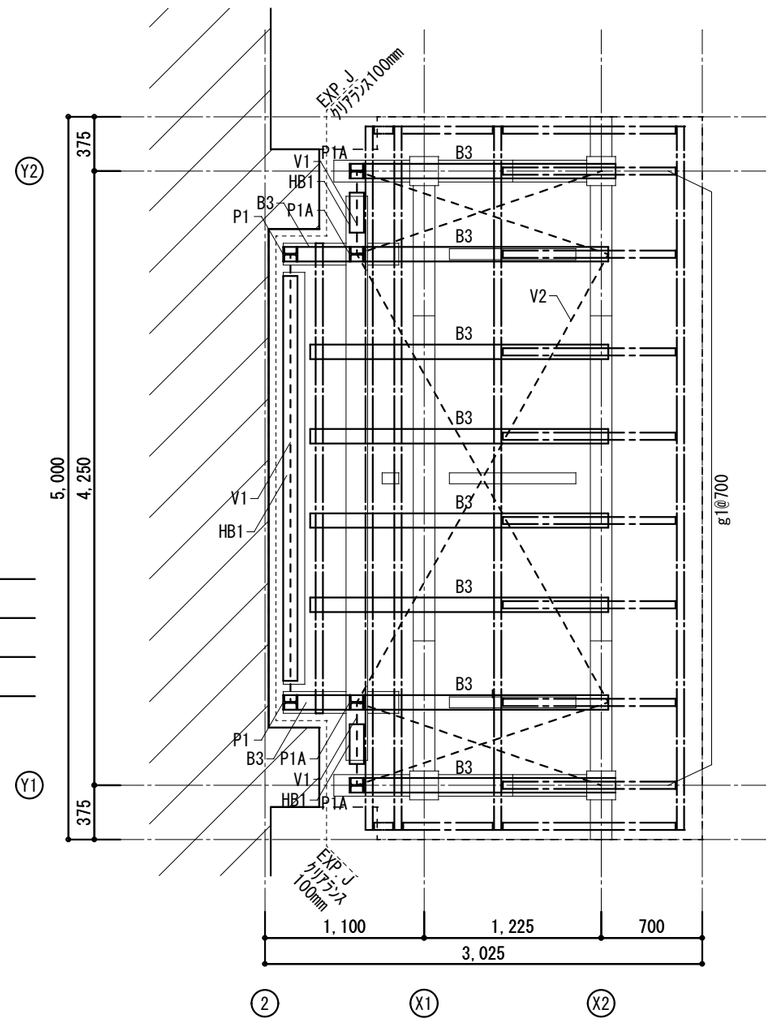
TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	構	NO. S-07／13
ITEM	土質柱状図	SCALE	1/100			
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW	



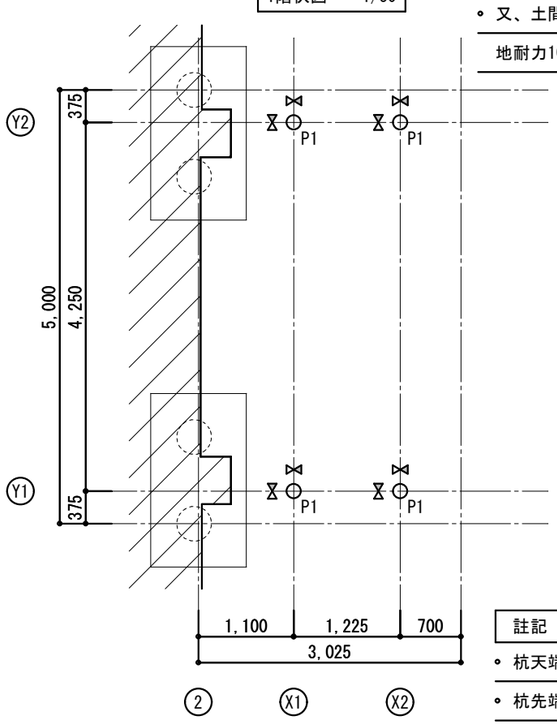
1階伏図　1/50



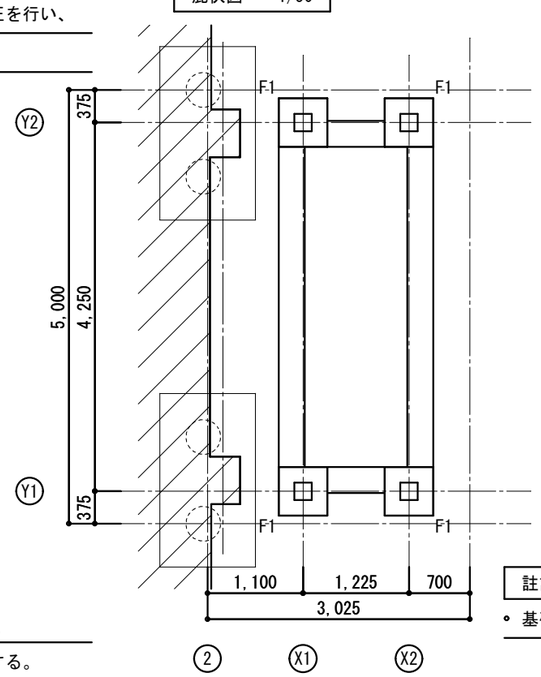
庇伏図　1/50



屋根伏図　1/30



杭伏図　1/50



基礎伏図　1/50

註記　特記なきは下記による。

- 基礎梁天端は設計GL-300とする。
- スラブ天端は設計GL±0とする。
- ▭ 印は、腰壁(t=150,h=GL+490)を示す。
- ▨ 印は、保護コンクリートを示す。
- 図中 ▨ 印は土間コンクリート(FSO)を示す。
- 又、土間コンクリート下は十分転圧を行い、地耐力10kN/m²を確保する事。

註記　特記なきは下記による。

- ◀ 印は1階柱芯を示す。
- ◀ J 印は梁現場継手位置を示す。
- 図中 ⊣⊢ 印は剛接合部分を示す。

註記　特記なきは下記による。

- 杭天端レベルは設計GL-1,100とする。
- 杭先端レベルは設計GL-9,600とする。
- ◁ 印は杭芯を示す。
- ◁ 印は柱芯を示す。

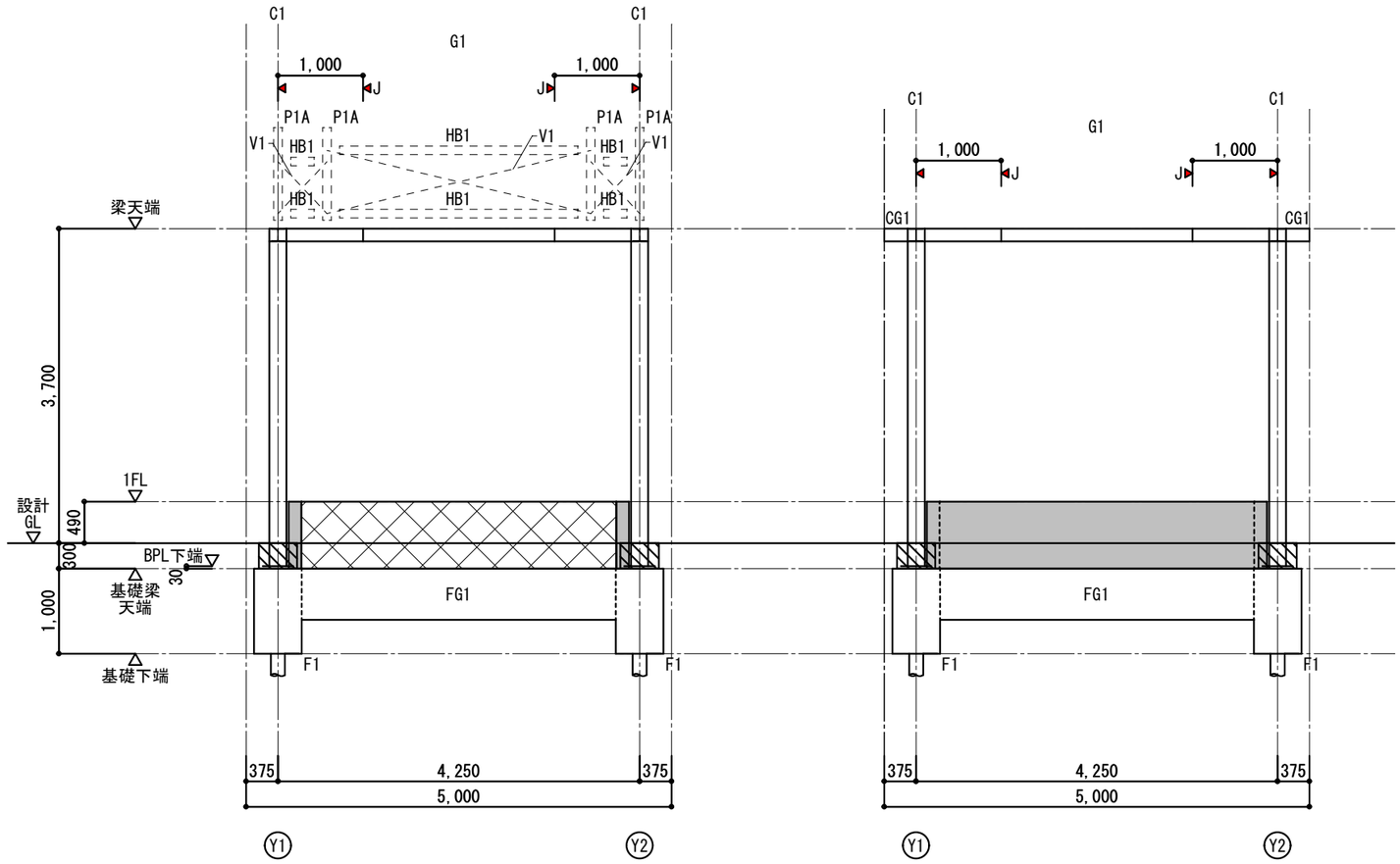
註記　特記なきは下記による。

- 基礎下端は設計GL-1,300とする。

註記　特記なきは下記による。

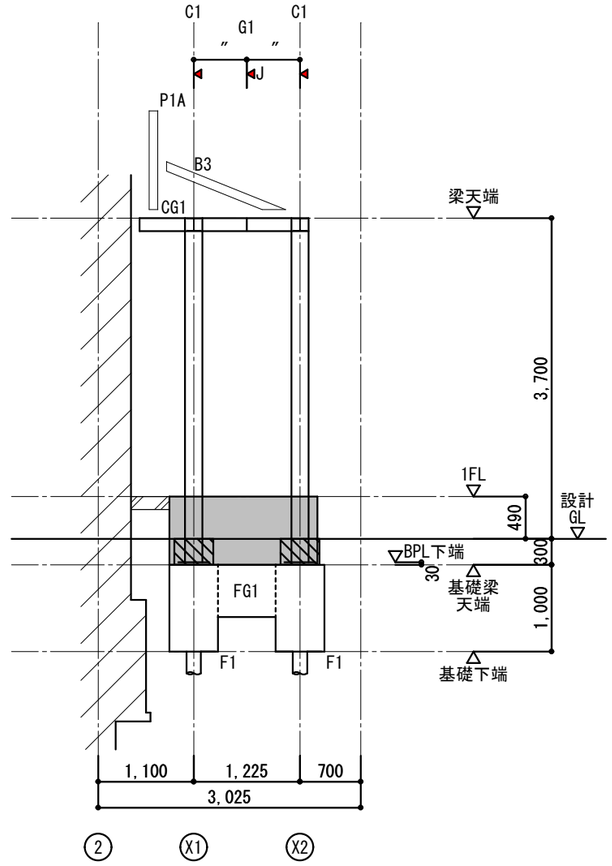
- ═══ は母屋(g1):100x 50x20x 3.2を示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-08／13
ITEM 伏図	SCALE 1/30、1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



X1通り軸組図　1/50

X2通り軸組図　1/50



Y1,Y2通り軸組図　1/50

註記　特記なきは下記による。

- ▨ 印は、増打を示す。
- ▩ 印は、腰壁(t=150,h=GL+490)を示す。
- ▨ 印は、保護コンクリートを示す。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-09／13
ITEM 軸組図	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

杭 仕 様

1.工 法　　G-ECSパイル工法　（同等工法以上、大臣認定工法とする）

2.杭径、杭長、本数、設計支持力

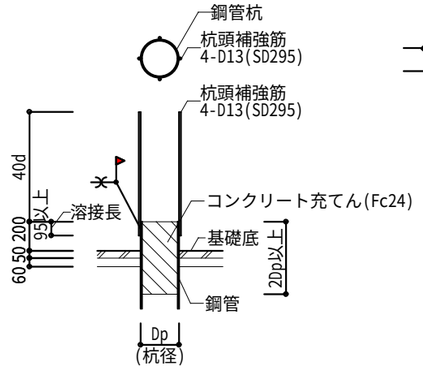
符 号	杭 径	杭天端レベル	杭先端レベル	杭 長	杭本数	設計支持力
P1	165.2φ t=7.1mm (STK490)	設計GL-1.10	設計GL-9.60	(上) (下) (2.50+6.00)m	4	長期 160kN/本

3.使用材料　鋼管杭　STK490　先端羽根　SS400,SM490A

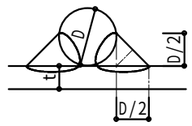
4.杭の継ぎ手は　溶接継ぎ手とする　（メーカー仕様による）。溶接部は超音波探傷試験または染色浸透探傷試験を行うこと。

5.施工時に杭偏心が生じた場合は構造設計者に報告し、その偏心に対する基礎フーチング、基礎梁の耐力検討を依頼し、その結果、変更が生じた場合は、変更届等の対応を行う事。

P1 杭頭補強筋　1/30



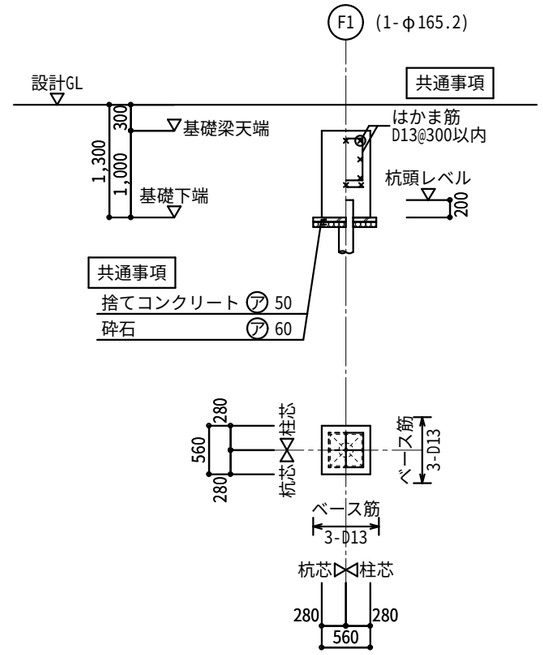
溶接詳細図



D ：鉄筋径(呼び径)
t ：板厚(t≧λ)

基礎リスト　1/50

註記
- 特記なき限りは、下記による。
- コンクリート強度は、Fc=24とする。
- 鉄筋D16以下 SD295

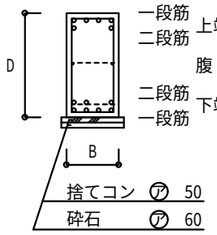


基礎梁リスト　1/30

符 号	FG1
断面名	全断面
断 面	
コンクリート	300x600
上端筋	3-D19
下端筋	3-D19
スターラップ	□-D10@200
腹 筋	2-D10
カットオフ長さ	-

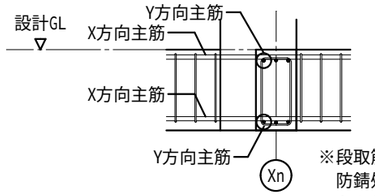
共 通 事 項

特記なき限り下記による。



- コンクリート ： Fc24
- 鉄筋 :D16以下 SD295
  :D19～D25 SD345
- 巾止筋 :D10-@1000

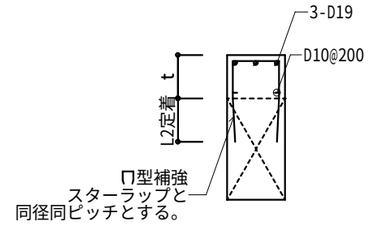
・主筋位置関係は、下図の様に配筋すること。



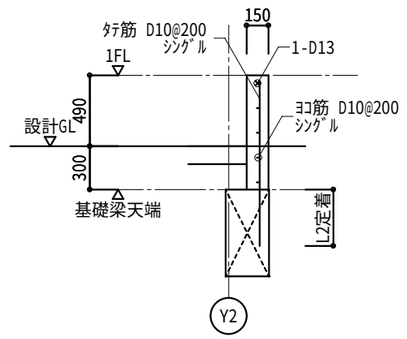
※段取筋を入れる場合は、防錆処理を施すこと。
※かぶりのとれていない補助鉄筋・金物には防錆処理を施すこと。

梁増打　配筋要領図　1/30

t>300の場合



立上り壁(W15)　配筋詳細図　1/30



スラブリスト

符 号	版 厚	支持状態	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
FS0	150		上端筋	D10 @200	D10 @200	-

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-10/13
ITEM RC部材リスト	SCALE 1/30、1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP CHECK	CHIEF	DRAW

柱リスト

註記 ・材質はBCR295とする。

符　号	C1	
1階	□-200x200x 9	

大梁リスト

註記 ・材質はSN400Bとする。

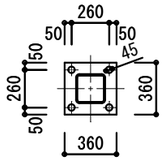
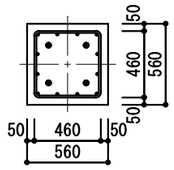
符　号	G1	
1階	H-150x150x 7x10	

鉄骨小梁リスト

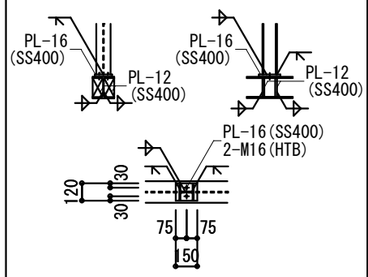
註記 ・材質はSN400A又はSS400とする。
・高力ボルトはS10T又はF10Tとする。

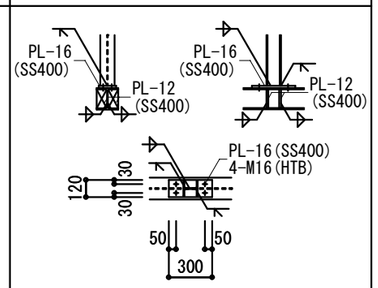
符　号	部　　材	材　　質	仕口部	備　考
B1	H-150x 75x 5x 7		GPL- 9,2-M16	仕口タイプは、S-04よりA1タイプとする。
B2	H-150x150x 7x10	SN400B	GPL- 9,2-M16	仕口タイプは、S-04よりA1タイプとする。
B3	H-100x100x 6x 8		GPL- 9,2-M16	仕口タイプは、S-04よりA1タイプとする。
CG1	H-150x150x 7x10	SN400B	-	-
CB1	H-150x150x 7x10	SN400B	-	-
HB1	H-100x100x 6x 8(横使い)		GPL- 9,2-M16	-
g1	C-100x 50x20x3.2	SSC400	PL-9(曲げ加工) 2-M12(中ボルト)	-
P1	H-100x100x 6x 8	SN400B	-	-
P1A	H-100x100x 6x 8	SN400B	-	-

鉄骨柱脚リスト　1/30

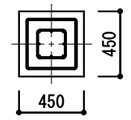
符　号	C1
柱　脚	
BASE・PL	360x360x28
A・BOLT	4-M30(BPM-SD490)
備　考	ベースパックの仕様書による 【20-09V】
柱　型	
B x D	560×560
主　筋	12-D16(SD295)
HOOP	D13@100(SD295)

鉄骨間柱リスト　1/30

符　号	P1
断　面	H
主　材	H-100x100x 6x 8
材　質	SN400B
柱　脚	

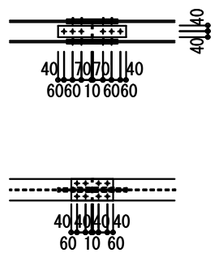
符　号	P1A
断　面	H
主　材	H-100x100x 6x 8
材　質	SN400B
柱　脚	

保護コンクリートリスト　1/30

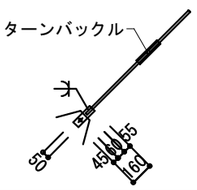
符　号	C1
断　面	
B x D	450×450
主　筋	8-D10
HOOP	D10@200

鉄骨梁継手リスト　1/30

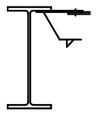
註記 ・材質はSN400Bとする。
・高力ボルトはS10T又はF10Tとする。

部　材	H-150x150x 7x10		
			
フランジ	16-M16	外	2PL- 9x150x290
		内	2PL- 9x 60x290
ウェブ	6-M16	2PL- 9x 80x470	

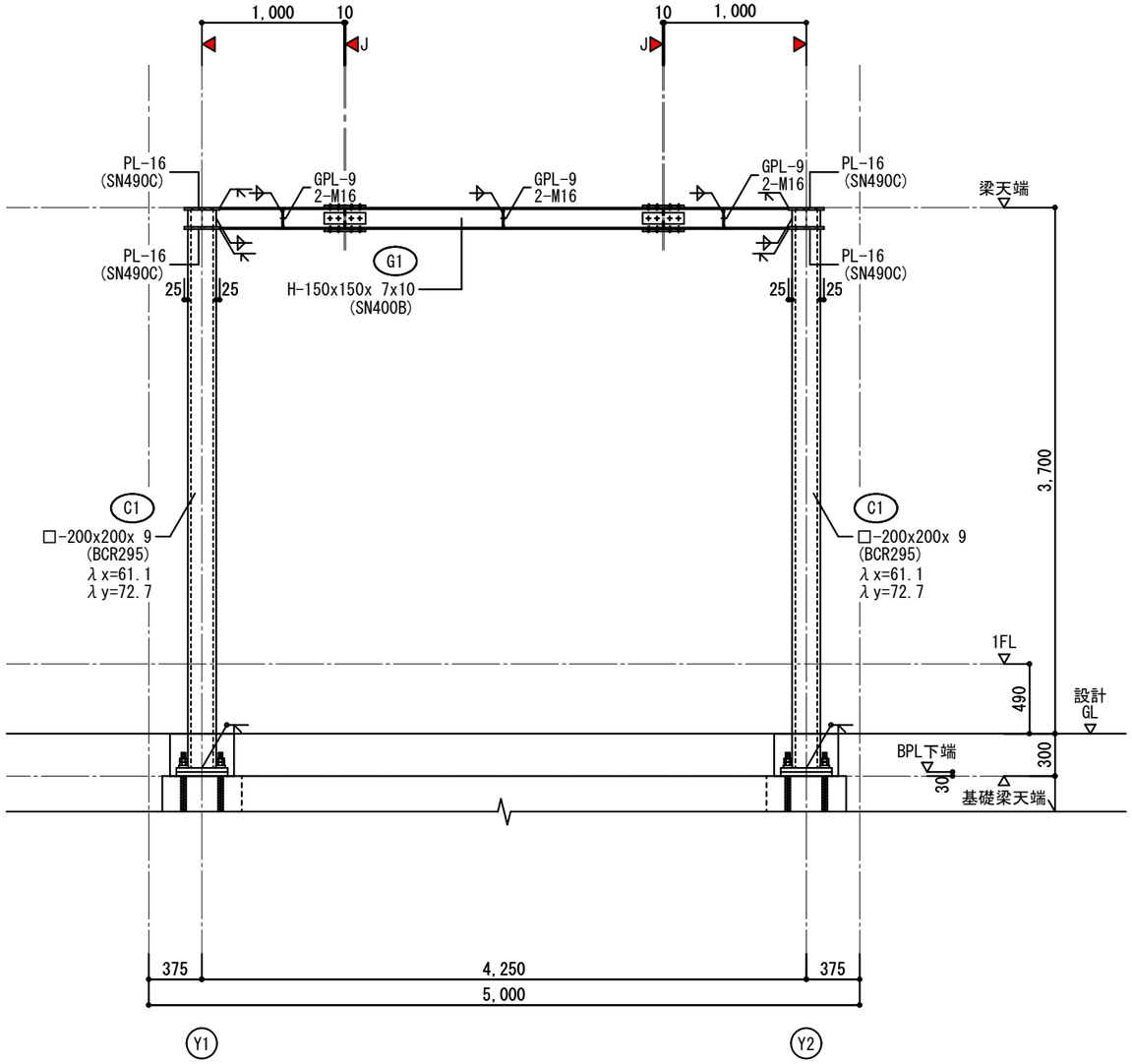
ブレースリスト　1/30

符　号	V1・V2
	
主　材	1-M16
羽子板ＰＬ	FB- 6x50x160
ガセット	GPL-9
ボルト	HTB 1-M16
備　考	材質はSNR400

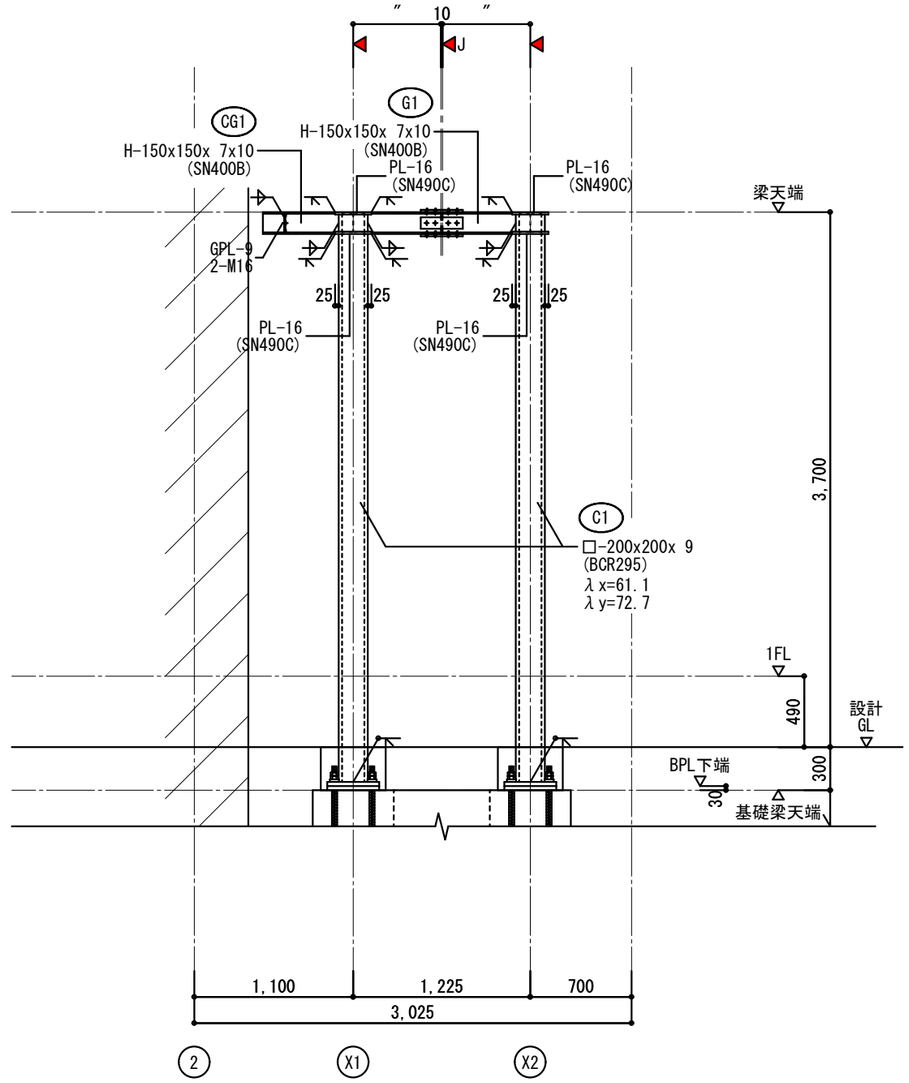
取り付け位置



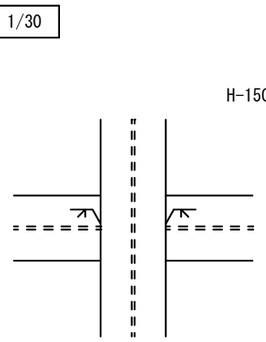
TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	構	NO.	S-11 / 13
ITEM	S部材リスト	SCALE	1/30				
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW		



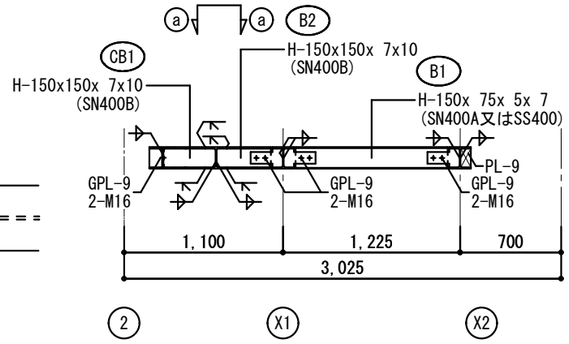
X1通り鉄骨詳細図　1/30



Y1通り鉄骨詳細図　1/30

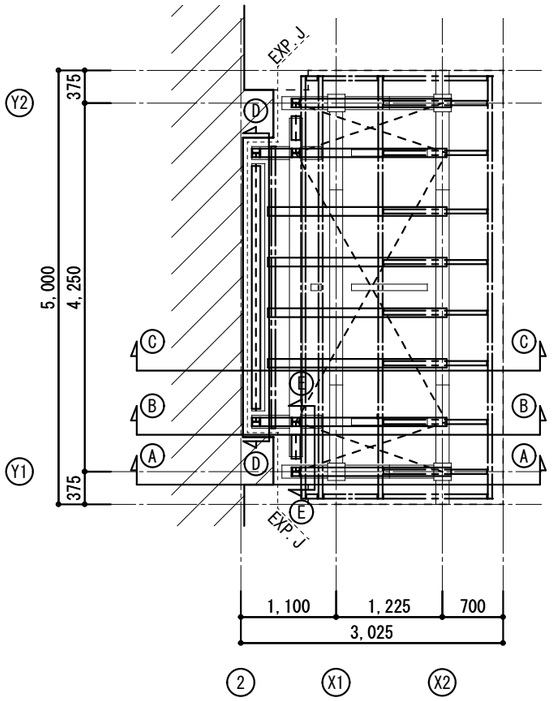


ⓐ-ⓐ 剛接合部詳細図　1/10

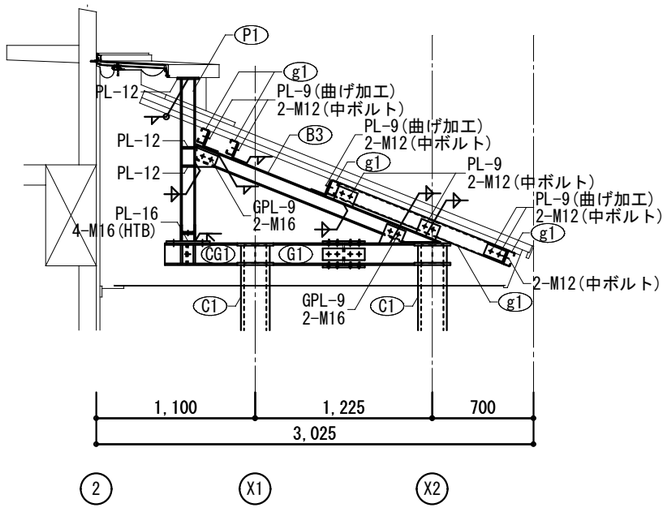


Y1通り+575鉄骨詳細図　1/30

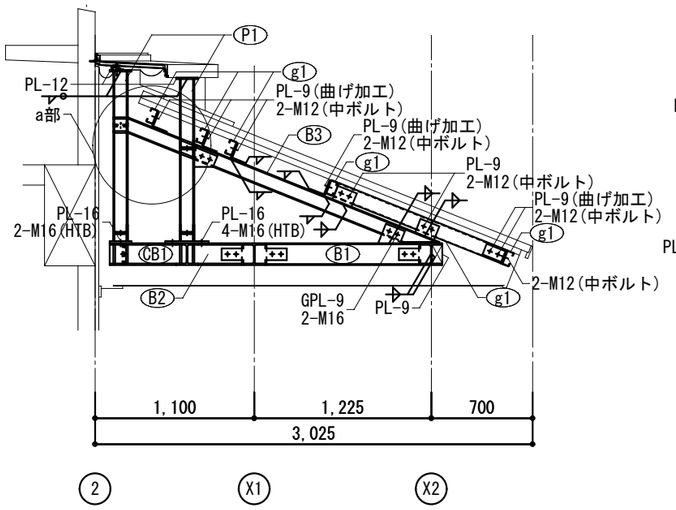
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-12／13
ITEM 鉄骨詳細図	SCALE 1/10、1/30		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



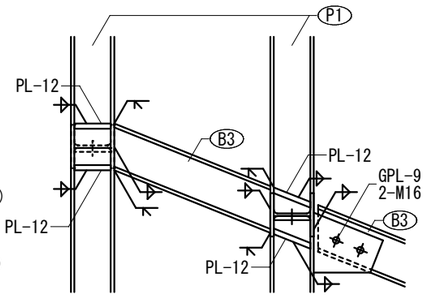
屋根伏図　1/50



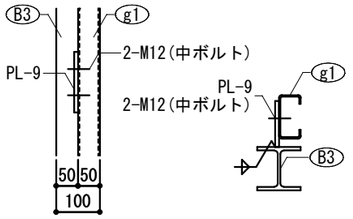
Ⓐ-Ⓐ通り取合詳細図　1/30



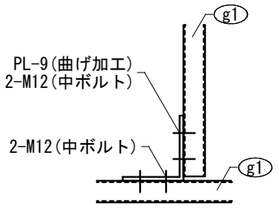
Ⓑ-Ⓑ通り取合詳細図　1/30



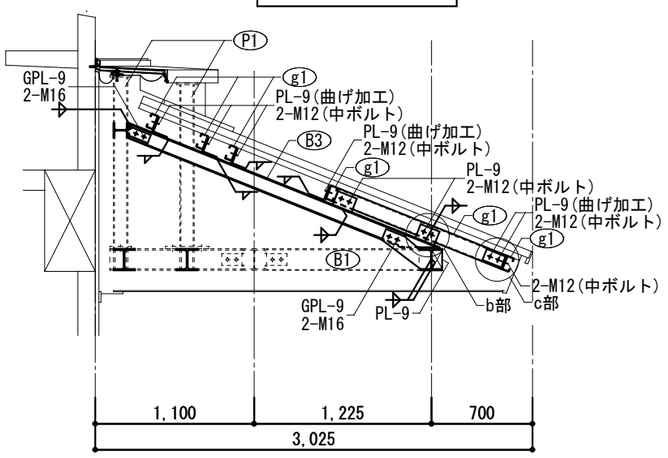
a部 取合詳細図　1/10



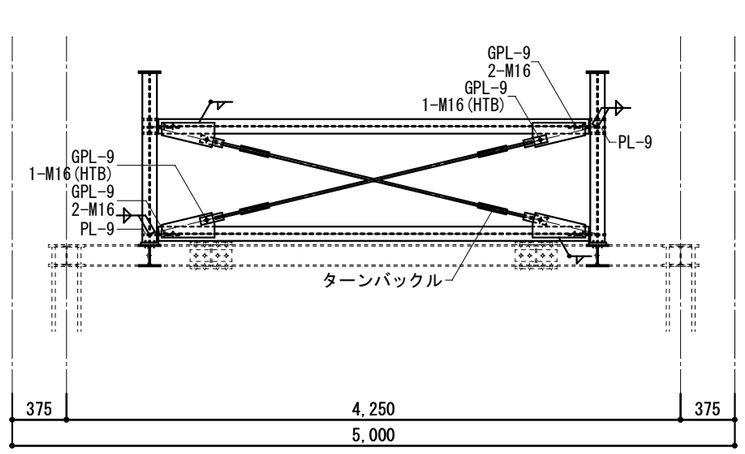
b部 取合詳細図　1/10



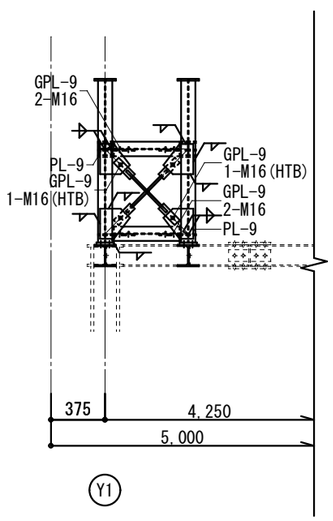
c部 取合詳細図　1/10



Ⓒ-Ⓒ通り取合詳細図　1/30



Ⓓ-Ⓓ通り取合詳細図　1/30



Ⓔ-Ⓔ通り取合詳細図　1/30

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 構	NO. S-13／13
ITEM 雑詳細図	SCALE 1/10、1/30、1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

機械設備工事特記仕様書　№１

【工事概要】
１　工事場所　宇治市木幡内畑３４番地
２　建物概要

建　物　名	構　造	階　数	延床面積（㎡）	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備　考
特別教室棟	ＲＣ	４階			○甲　○乙	工事区分を記載
新館棟	ＲＣ	４階			○甲　○乙	例：新営
					○甲　○乙	全館無人改修
					○甲　○乙	執務並行改修

３　工事科目　　●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目＼建物名称	校舎棟（配膳室）		屋　外
空気調和設備	●	○	●
換気設備	●	○	○
排煙設備	○	○	○
自動制御設備	○	○	○
衛生器具設備	●	○	○
給水設備	●	○	●
排水設備	●	○	●
給湯設備	●	○	●
消火設備	●	○	○
ガス設備	●	○	●
さく井設備	○	○	○
厨房機器設備	○	○	○
浄化槽設備	○	○	○
医療ガス設備	○	○	○
撤去工事	●	○	●

【特記事項】
１　一般事項
１）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和４年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和４年版」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
２）工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び各工事の標準仕様書による。
２　特記事項
項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課営繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（３）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、工事請負契約書第１０条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者	※適用する　　○適用しない
	○技能士（一級）	※配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作及び取付け）　　○冷凍空気調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが　※できる　　○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない　　○設置する　（○本工事　　○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)　・公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) ・機械設備工事監理指針　・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針　・工事写真撮影ガイドブック機械設備工事 ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)
	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理　右記のほか、現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの　【　　】 ○再生資源利用を図るもの【　　】 ○特別管理産業廃棄物 ○ＰＣＢ使用機器　○臭化リチウム　○
		○建設発生土の処理　右記のほか、現場説明書による ●構外指定地に搬出処理　※(一財)城陽山砂利採取地整備公社　○ ○構内指示場所に敷き均し
		再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書による。
		1）「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。 2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。 3）冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。 （積算：※本工事　○別途、　処分費：※本工事　○別途、　運搬費：※本工事　○別途）
		○アスベストの処理等 1）次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○配管エルボ部保温材　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○煙道の断熱材　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) ○アスベスト成形板　○含有　○不含　○要調査(分析資料数：　) アスベスト成形板の処理等 施工調査　アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認・施工範囲等の確認 確認範囲　※成形板の製造年等の確認　○Ｘ線解析法 2）アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 （ただし、調査費用は　※本工事　○別途　とする。。） ※ＪＩＳ　Ａ　１４８１－２「建材製品中のアスベスト含有率測定方法－第２部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又はＪＩＳ　Ａ１４８１－３「建材製品中のアスベスト含有方法－第３部：アスベスト含有率の　Ｘ線回折定量分析方法」による。 3）アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	※工事関係書類	営繕工事契約関係書類提出書類書式集※一覧表により提出。
	※履行報告	月報　※２部　○３部　　毎月末にメめ、翌月の５日までに提出する。
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領（最新版）」による。 2）工事完成時、整理の上、１部提出する。 3）小黒板電子化については、現場説明書による。
	※完成図書	名　称 / 内　容 / 大きさ / 部　数 ○完成図 / 金文字製本 / Ａ４版 / 1　部 ○完成図 / ○背貼り製本（　　版）　○Ａ４ファイル止め / / 2　部 ○施工図 / ○背貼り製本（　　版）　○Ａ４ファイル止め / / 2　部 ○機器完成図等 / 機器製作図　　ファイル止め 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 / Ａ４版 / 2　部 ○諸官庁提出書類 / 副　本 / / 1　式 ○原図 / 完　成　図 / / 1　部 ○完成写真 / アルバム綴り / / 2　部 電子納品については、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
	※総合試運転調整（測定結果は報告書にて提出）	○風量調整（測定共）　　○水量調整（測定共）　　○室内外空気の温湿度測定 ○室内気流及びじんあいの測定　　○騒音の測定 ○飲料水の水質の測定（　項目）　○雑用水の水質の測定（　項目）
共通事項	●耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」により、計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2）下記の設計用水平震度（ＫＨ）により、機器製作固定を行う。 設置場所 / ●特定の施設 重要機器 / ●特定の施設 一般機器 / ○一般の施設 重要機器 / ○一般の施設 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 / 2.0(2.0) / 1.5(2.0) / 1.0(1.5) / 1.0(1.5) 中　間　階 / 1.5(1.5) / 1.0(1.5) / 1.0(1.5) / 0.6(1.0) １階及び地下階 / 1.0(1.0) / 0.6(1.0) / 0.6(1.0) / 0.4(0.6) 設置場所 / ○特定の施設 水槽 / ○一般の施設 水槽 上層階、屋上及び塔屋 / 2.0 / 1.5 中　間　階 / 1.5 / 1.0 １階及び地下階 / 1.5 / 1.0 注１　耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注２　（　）内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。 注３　設計用鉛直震度は、設計用水平震度の１／２とする。 注４　上層階の定義は、６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上階２階。 注５　重要機器（水槽類）は、下記に示すものとする。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） 【　　】 注６　「建築設備耐震設計・施工指針（２０１４年版）」による形鋼振れ止め支持を行う場合は、S_s種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。
	●一般用弁	標準仕様書第２編２．２．１（ア）～（シ）によるほか、下記による。 1）水道直結部及び図面特記部の耐圧は１０Ｋ以上、その他は５Ｋ以上とする。 2）給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。
	●フレキブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、銅板に対してはベローズ形、ＦＲＰに対しては合成ゴム製とする。
	○銅管用伸縮管継手	○ベローズ形　　○スリーブ形
	○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査　　○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査）
	○地中埋設標及び埋設表示用テープ	1）給　水　管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 2）消　火　管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 3）ガ　ス　管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 4）油　　管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 5）ブライン管　地中埋設標（○要　○不要）　埋設表示用テープ（○要　○不要） 用途表示のあるテープ（幅は１５０mm以上）で、２倍長以上重ね合わせで使用する。
	○防食処理	地中埋設の排水用塩ビライニング鋼管は、防食処置を行う。
	●保温	1）保温材の仕様は、下記による。 給水管・排水管 / ○ポリスチレンフォーム保温材 / ○ 排煙ダクト・煙道、排気筒 / ○ロックウール保温材 / ○ その他 / ●ロックウール保温材 / ○ 2）鋼板製タンクの保温　　○必要　○不要 3）保温を施す膨張タンク等の蓋の保温　○必要　○不要 4）エア抜管の保温厚は２０mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜弁までとする。 5）露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内　○合成樹脂カバー１　●合成樹脂製カバー２　○カラー亜鉛鉄板 ・屋外　●ステンレス鋼板 6）弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内　○カラー亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板　○ ・屋外　○カラー亜鉛鉄板　○ステンレス鋼板　○ 7）車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 8）合成樹脂製支持受　○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの
	●塗装（露出施工部）	標準仕様書によるほか、下記により塗装（指定色）を行う。ただし、保温を行うものは除く。 ●屋外(○ダクト　●配管)　○屋内居室(○ダクト　○配管)　○廊下(○ダクト　○配管) ○屋内ＰＳ・ＥＰＳ(○ダクト　○配管)　○屋内機械室・電気室(○ダクト　○配管)
	○吹出口及び吸込口ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合はＪＩＳ　Ａ　４００９（空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ０．６mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。 ボックスの吊りは３点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。
	○ｽﾃﾝﾚｽ製ﾀﾞｸﾄの板厚	ステンレス製ダクトの板厚は　ＪＩＳ　Ａ４００９　２０１７による
	○ボックス	ＰＦ管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。
	○容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。
	○誘導電動機	電動機出力が０．７５ｋＷ以上の低圧３相かご形誘導電動機の規格は、ＪＩＳ　Ｃ　４２１３（低圧三相かご形誘導電動機－低圧トップランナーモータ）による。
	○開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○鋼板製　　○ステンレス鋼板製
	○電線及び電線管	電線及び電線管については標準仕様書第４編第１章第５節による

章	項　目	特　記　事　項
共通事項	●はつり及び穴開け	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。
	●インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第２編第５章による。 施工後確認試験　○行う（国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和４年版）８章１２節８．１２．７による。） ●行わない
	○防煙ダンパー及び防火帯ダンパー	復帰方式は　※遠方復帰式　（電気式（定格入力　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下）） ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンバー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は　※不要　○必要 ・チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 （ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー類に必要に応じ設ける。
	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	○機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等　（○溶融亜鉛めっき２種３５　○ステンレス鋼製（ＳＵＳ３０４）） ・その他　（○一般品　○　　） ○機器側の材質がＳＵＳ製の場合は、ＳＵＳ製とする。
	○防火区画	○平面図　　○図示　　○
	○掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。
	○天井仕上区分	（　　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	○給油設備	オイルタンク　○地下　○屋内 遠隔油量指示計　○設ける　○設けない 副指示計　○設ける　○設けない オイルサービスタンク　油面計　○ゲージ式　○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○遠隔警報（○減油　○満減油） 油管（露出、トラフ内）　○配管用炭素鋼鋼管（黒）　○ 油管（地中）　○ポリエチレン被覆鋼管　○
	○建物導入部配管	○標準図施工４（ａ）（○フレキシブルジョイント　○埋設用フレキシブルジョイント） ○標準図施工５（ｂ）（ボールジョイント） ○標準図施工５（ｃ）（スリークッション）
	○鋼材	屋外露出部分　○溶融亜鉛めっき２種３５ ○ステンレス鋼製（ＳＵＳ３０４）
	○制御及び操作盤	構成　○進相コンデンサー　○運転時間計 表示等　○運転（赤色）及び停止（緑色）表示　○保護継電器の動作表示 接点及び端子　○遠方発停用端子　○湿度調節器用端子　○運転時間表示用端子　○温水出入口温度用端子　○冷水出入口温度用端子　○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）　○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）　○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）
空気調和設備	●主方式	○全空気方式（○中央　○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式　●個別方式　○
	●主要熱源機器	○吸収冷温水機　○チリングユニット　○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機（●ＥＨＰ　○ＧＨＰ　○　　）
	○設計時の温湿度条件	場所 / 屋外 時期 / 温度（ＤＢ） / 湿度（ＲＨ） / 屋内（調整目標値） 一般居室 温度（ＤＢ） / 湿度（ＲＨ） 冬　期 / 2.2 ℃ / 54.0 % / 22.0 ℃ / 40.0 % 夏　期 / 35.1 ℃ / 55.0 % / 26.0 ℃ / 50.0 % 温度（ＤＢ） / 湿度（ＲＨ） ℃ / % ℃ / %
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法）
	○ダクトの分岐方法	○割込み工法　　○直付け工法
	●配管材料（図面特記部分は除く）	冷温水管　○配管用炭素鋼鋼管（白）○一般配管用ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４） 冷却水管　○配管用炭素鋼鋼管（白） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管　（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） ドレン管　○配管用炭素鋼鋼管（白）（○ねじ接合　○ＭＤジョイント） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） 蒸気配管　給気管　○配管用炭素鋼鋼管（黒）　○ 還　管　○圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）　○ 補給水管　○配管用炭素鋼鋼管（白）　○ 膨張管　○配管用炭素鋼鋼管（白）　○ エア抜管　○配管用炭素鋼鋼管（白）　○ 加湿給水管　○硬質塩化ビニルライニング鋼管　（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） ○一般配管用ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４） 冷媒管　○銅管　●断熱材被覆銅管（ガス管：ハイグレード仕様） ○パッケージ形空気調和機の２次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
	○温度計	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計　　○ガラス製二重管温度計
	○定風量ユニット　変風量ユニット	○メカニカル形 ○風速センサー形　（○プロペラ形センサー　○熱線センサー）
	○カセット形ファンコイルユニット	風量分配ダクト　○結露防止措置を施した亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォーム
	○ボイラー燃焼制御方式	○オン・オフ制御式（○直接始動式　○低燃費始動式） ○ハイ・ロー・オフ制御式　○比例制御式
	○遠心・スクリュー冷凍機	電動機盤　進相コンデンサー（○要　○不要）
	○吸収式冷温水機	排熱投入型再生器　○有り　○無し
	○高温再生器の構造	※図面による。
	○コージェネレーション装置	発電方式　○原動機、発電機　○燃料電池 熱回収装置　○温水熱交換機　○排ガスボイラー　○排ガス熱交換機 ○熱回収用ポンプ　○その他 その他装置等　○補機付属制御装置　○冷却塔（放熱用）　○
	○集中管理リモコン	表示機能　○屋外機吸込温度　○空調エネルギー使用量按分　○運転時間積算　○室内温度 データー管理機能　○屋外機吸込温度　○空調エネルギー使用量按分　○運転時間積算　○室内温度 ○外部記憶媒体への出力

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機	NO. M-01／12
ITEM 機械設備工事特記仕様書　No.１		SCALE		
✕ 杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW

機械設備工事特記仕様書　№２

章	項目	特記事項	
空気調和設備	○鋼板製煙道（ボイラー）	厚さ　○３．２㎜　○４．５㎜	
		○ばい煙濃度計の取付座　○ばいじん量測定口 ○伸縮継手　○掃除口	
	○ばい煙濃度計（ボイラー）	※送風機付き　○送風機なし （電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む）	
	○瞬間流量計	○固定形　個 ○着脱可能形　（測定用タッピング　個　本体　個）	
	●保温（図面特記部分は除く）	１）冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内　隠ぺい部　○不要　○必要 露 出 部　●保温化粧ケース（塩化ビニル樹脂製） ○ ・屋外　●ステンレス鋼板 ○保温化粧ケース　（○樹脂製　○アルミ合金製 ○ステンレス鋼板製　○溶融亜鉛めっき鋼板製） ・保温化粧ケースの下部カバー　○必要　○不要 ２）ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 ３）加湿用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 ４）トラフ内の油管はプラスチックテープ１／２重ね１回巻きとする。	
換気設備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法　○スライドオンフランジ工法） ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト	
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト　○割込み方式　○直付け方式 排気ダクト　○割込み方式　○直付け方式	
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。 ダクトの長辺 / 板厚 ４５０mm以下 / ０．６mm ４５０mmを超え１２００mm以下 / ０．８mm １２００mmを超え１８００mm以下 / １．０mm １８００mmを超えるもの / １．２mm	
	○排気フード	１）排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ※ステンレス鋼板（補強共） ２）排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事　○別途工事 ３）グリスフィルターの予備　○不要　○必要	
	○保温	浴室・厨房（多湿箇所）の外気取入ダクトの保温　○不要　○必要 外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温（空調を行っている室について）　○不要　○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第２編第３章第１節による。	
排煙設備	○排煙対象部分	○廊下　○事務室　○図示　○最大面積　㎡	
	○ダクトの種別	○高圧１ダクト　○高圧２ダクト	
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法	
	○ダクトの材料	※亜鉛鉄板製　○鋼板製（１．５mm以上）	
	○排煙口	１）形　状　○スリットフェース形　○パネル形　○ダンパー形 ２）排煙口の開放　○手動　（○機械式　○電気式）　○煙感知器連動 ３）復帰装置　○手元復帰式（○手動式　○電気式）　○遠方復帰式 ４）ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。	
	○保温	床下及び暗渠内の保温　※不要　○必要（図示）	
自動制御設備		※図面による。	
衛生器具設備	○小便器用節水装置	電気供給方式　○ＡＣ電源　○乾電池　○自己発電	
	○自動水栓	電気供給方式　○ＡＣ電源　○乾電池　○自己発電 手動スイッチ　○　無し　○　有り	
	○大便器用洗浄弁	操作方式　○手動式 ○電気開閉式　（○センサー式　○タッチスイッチ式　）	
	○水石けん入れ	○手洗器一体型　○手洗器分離型　○	
	○車椅子使用者用器具	１）大便器洗浄弁　○センサー式　○タッチスイッチ式　○レバー式 ２）洗面器の水栓は自動水栓とする。	
給水設備	●給水方式	○水道直結方式　○高置タンク方式　○水道直結増圧方式(水道用直結加圧形ポンプユニット) ●ポンプ直送方式(小型給水ポンプユニット)	
	●配管材料（図面特記部分は除く）	屋内配管　○一般配管用ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３０４）（呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ●水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ●ポリエチレン粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＢ、ＳＧＰ－ＦＰＢ） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ） ○
		地中配管［屋内］　○一般配管用ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３１６）（呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（５０Ａ以下）（※１種　○２種）（接合方法　※メカニカル　○電気融着） ●水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＤ、ＳＧＰ－ＦＰＤ） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ） ○
		地中配管［屋外］　○一般配管用ステンレス鋼鋼管（ＳＵＳ３１６）（呼び径６０Ｓｕ以下は拡管式、呼び径７５Ｓｕ以上は溶接接合） ○水道用ポリエチレン二層管（５０Ａ以下）（※１種　○２種）（接合方法　※メカニカル　○電気融着） ●水道用硬質ポリ塩化ビニル管（ＨＩＶＰ） ○ポリエチレン粉体ライニング鋼管（ＳＧＰ－ＰＤ、ＳＧＰ－ＦＰＤ） ○硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ）
	○緊急遮断弁装置	○必要　○　不要 駆動方式　○電気式　○機械式	
	○量水器	○現地表示式（直読式） ○遠隔表示式（パルス式）	

章	項目	特記事項	
給水設備	○水栓柱	○合成樹脂製（７０ｘ７０ｘ１３００Ｈ） ○ステンレス製（　）○アルミニウム合金製（　） ○不凍水栓柱（　） 特記なき場合、水栓取付け高さは約６００とする。	
	○管の埋設深さ	１）一般敷地　●３００mm　○ ２）構内車両通路　○６００mm　○ ３）寒冷地では凍結深度以上とする。	
	○埋戻し及び盛土	○良質土　○再生コンクリート砂　●山砂	
	○加入金・負担金	○不要　○必要（○別途　○本工事）	
	○本管引込工事	○本工事（○舗装本復旧まで　○舗装仮復旧まで）　○別途工事	
排水設備	●排水方式	汚水と雑排水　[屋内]　●分流式　○合流式 汚水・雑排水と雨水[屋外]　●分流式　○合流式 ポンプアップ排水　○有り（○雑排水　○汚水　○雨水　○湧水　○浄化槽２次側）○無し	
	●放流式	汚水　●直放流下水管　○浄化槽　○ 雑排水　●直放流下水管　○浄化槽　○別途桝・側溝 雨水ポンプアップ排水　○直放流下水管　○雨水側溝　○雨水桝 湧水ポンプアップ排水　○直放流下水管　○雨水側溝　○雨水桝	
	●配管材料（図面特記部分は除く）	屋内雑排水管　○水道用亜鉛めっき鋼管 ○配管用炭素鋼鋼管（白）（○ねじ接合　○ＭＤジョイント） ○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○排水・通気用耐火二層管（ＶＰ）	
		屋内汚水管　○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 ○硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○排水・通気用耐火二層管（ＶＰ）	
		通気管　○配管用炭素鋼鋼管（白）（○ねじ接合　○ＭＤジョイント） ○硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ＲＦ－ＶＰ） ○排水・通気用耐火二層管（ＶＰ）	
		地中配管［屋内］　●硬質ポリ塩化ビニル管（ＶＰ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（ＲＳ－ＶＵ）	
		地中配管［屋外］　●硬質ポリ塩化ビニル管（●ＶＰ　○ＶＵ） ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（ＲＳ－ＶＵ）	
		鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＶＡ、ＳＧＰ－ＦＶＡ）（地中配管はＳＧＰ－ＶＤ、ＳＧＰ－ＦＶＤ）とし、継手はフランジ接合とする。	
	○負担金	○不要　○必要（○別途　○本工事）	
	○本管接続工事	○本工事（○舗装本復旧まで　○舗装仮復旧まで）　○別途工事	
給湯設備	●給湯方式	○中央式　●局部式	
	○配管材料	○水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管（ＳＧＰ－ＨＶＡ） ○一般配管用ステンレス鋼管 ○銅管（壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆銅管を使用してもよい。） ●被覆銅管	
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第２編３．１．５の表２．３．５による。	
消火設備	●消火設備の種類	●屋内消火栓　○スプリンクラー ○泡消火　○不活性ガス消火（　） ○連結送水管　○	
	●配管材料（図面特記部分は除く）	屋内配管　●配管用炭素鋼鋼管（白） ○圧力配管用炭素鋼鋼管（白　Ｓｃｈ　４０） ○一般配管用ステンレス鋼鋼管	
		地中配管[屋内][屋外]　○消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（ＳＧＰ－ＶＳ） ○消火用ポリエチレン管（ＰＥ）	
	●保温	消火用充水タンクの保温を　○施工する（膨張タンクによる）　○施工しない 消火用呼水タンクの保温を　※施工しない　○施工する（膨張タンクによる） 屋外露出管の保温を　○施工しない　●施工する（保温　その他による） 屋内露出管の保温を　○施工しない　●施工する（保温　その他による） トレンチ内の保温を　○施工しない　○施工する（給水管の保温仕様に準ずる）	
ガス設備	●ガスの種類	○都市ガス　（発熱量　○４５，０００ｋＪ／Ｎｍ３　○　ｋＪ／Ｎｍ３） ●液化石油ガス　（○５０ｋｇ　本立　○２０ｋｇ　本立）	
	○ガスメーター	親メーター　○貸与品　○購入 子メーター　○購入　○貸与品 計量方式　（○実測式　○パルス式）	
	●配管材料（図面特記部分は除く）	屋内配管（屋外露出）　●配管用炭素鋼鋼管（白） ○	
		地中配管[屋内][屋外]　○ポリエチレン被覆鋼管 ●ガス用ポリエチレン管 ○	
		都市ガスの場合は、供給者仕様による。	
	●地中配管の接合方法	○ＳＧＭ工法　○ネジ工法　●ＰＥ管工法	
	○ピット内施工法	○溶接工法	
	○負担金	○不要　○必要（○別途　○本工事）	
	○本管接続工事	○本工事（○舗装本復旧まで　○舗装仮復旧まで）　○別途工事	
さく井設備	揚水井設備		
	○掘削工法	○パーカッション式　○ロータリー式　○ダウンザホールハンマ式　○回転振動式	
	○孔口保護管	深度　（　）ｍ	
	○ケーシング材質	※配管用炭素鋼鋼管（黒）　○配管用ステンレス鋼鋼管	
	地中熱交換井設備		
	○掘削工法	○回転振動式　○ロータリー式　○ダウンザホールハンマ式 ○ロータリーパーカッション式	
厨房機器設備		※図面による。	

章	項目	特記事項
浄化槽設備	○形式	○ユニット形　○現場施工形
	○処理方法	○小規模合併処理（図面による） ○合併処理（図面による）
医療ガス設備		※図面による。

その他	●コア抜き（ﾀﾞｲﾔﾄﾞﾘﾙ穴明け）	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 参考メーカー　日本無機㈱　ハンディサーチＲＣレーダー　ＮＪＪ-８５型同等品
	●校正記録	試験機器類の校正記録を提出する。
	○交通誘導員	機器類搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	○保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	○鉄板敷き	１，５２４×６，０９６×厚２２㎜

別表　付属品・予備品

○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナー、ハンマー）
○マンホールフック　○パイプレンチ　○ポンププライヤー　○ラバーカップ（大、小）
○イージーキャビネット　箱　○キーボックス
○盤類予備品（ランプ及びヒューズの１００％）

試験・検査

●水圧試験　○排水満水試験　●排水通水試験
●気密試験　●点火試験　●機器類動作試験　●風量測定　●吹出口温度測定
○騒音測定　○振動測定　○絶縁試験
○消防設備試験　○水質検査　○水槽水張り試験　○アンカー引張試験

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK	NO.
ITEM	機械設備工事特記仕様書　No.２	SCALE		機	M-02／12
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

衛生機器表

記号	名称	仕様	電源 Φ	電源 V	消費電力 w	数量	設置場所	備考
GH-1	ガス給湯器	給湯専用２０号（オートストップ） ＬＰＧ仕様	1	100	125	1台	１Ｆ 配膳室	（ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎：建築工事）
		【屋外屋外据置型】						700×400×200H
		ガス消費量：４１．６kw（２．９８kg）						
		台所リモコン、排気カバー、他附属品共						

衛生器具表

品名	TOTO 品番	TOTO 付属品	LIXIL 品番	LIXIL 付属品	電源	数量	備考
(配膳室)							
手洗器	L250CM	TLE24SS2A,T22BP,TS126AR,TL220D	L-176UAN	AM-320TCV1, LF-105PA,KF-30DN,SF-10E,KF-24F,他	【1φ100V】	1	配膳室
マルチシンク	SK510D	T200SNR13C,TL220D,T6PMR	S-17	LF-7R-13-U,SF-25PA, SF-10E,KF-30DN		1	〃
流し台	（建築工事）		（建築工事）			（１）	〃
同上混合水栓	TKS05314J		SF-WM437SY			1	〃
(美術室)							
手洗器	L30DM	T205UNRC,TS126AR,TL4CFU,TL220D,T22BP	L-15G	LF-1-U,KF-24F,LF-3V,KF-30DN,SF-5E,LF-10PA		1	美術室
流し台	（建築工事）		（建築工事）			（１）	〃
横水栓	T200SNR13C		LF-7R-13-U		１０		〃

新設会所表

記号	名称	形状	種類	大きさ	蓋種類	備考
①	汚水桝	90L	小口径桝	200φ	樹脂製200φ	VU→VP変換ｿｹｯﾄ
②	汚水桝	90L	〃	〃	〃	〃
③	汚水桝	90L	〃	〃	〃	〃
④	汚水桝	90Y	〃	〃	〃	〃
⑤	汚水桝	90Y	〃	〃	〃	〃

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事
ITEM 特別教室棟・新館棟 [改修]衛生機器・衛生器具・会所表
DATE 2025.03
SCALE
WORK 機
NO. M-03／12

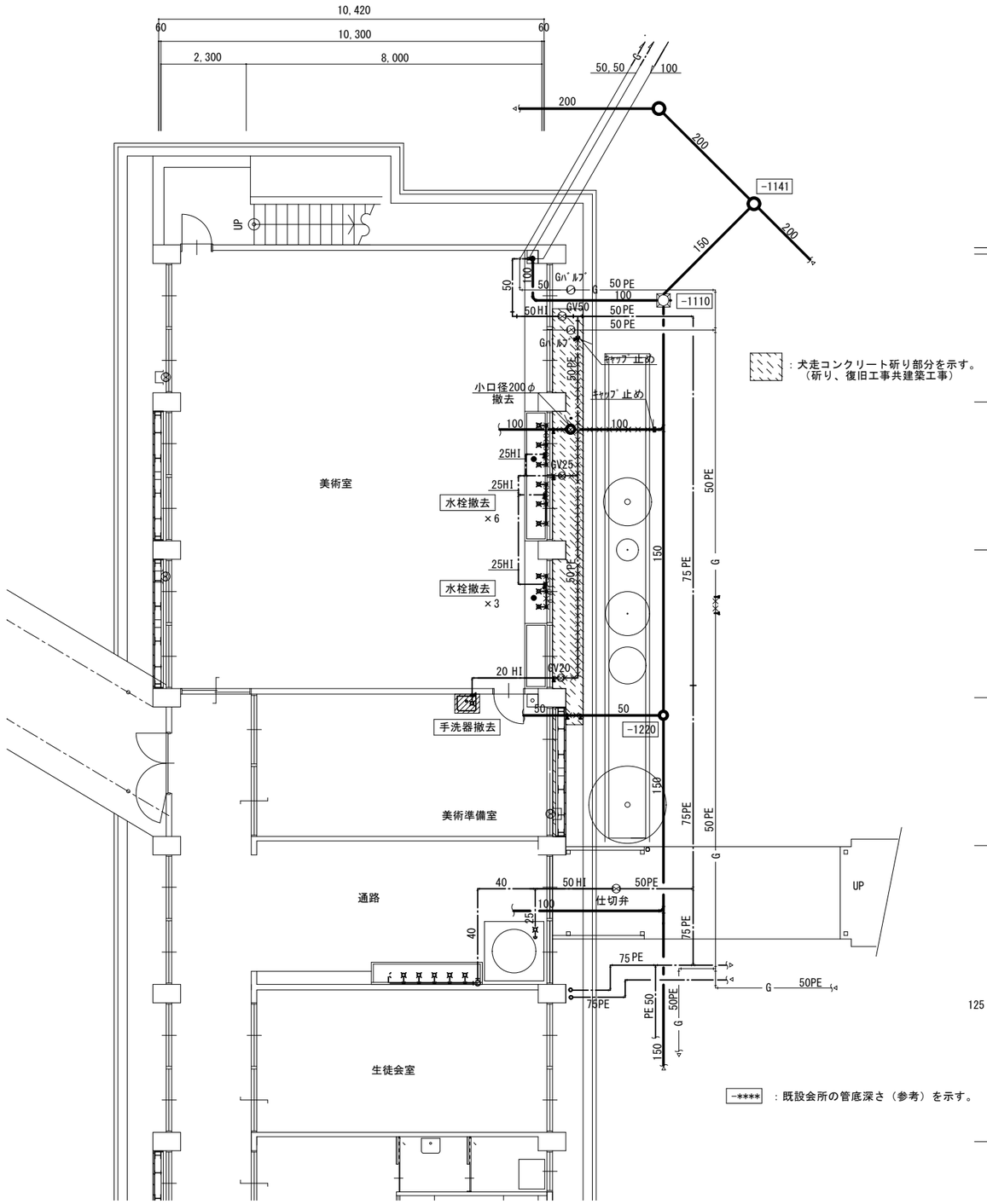
杉原設計事務所
1級建築士 第293338号
村上 哲生

INSP CHECK CHIEF DRAW

凡　例

—·—：給水管　水道用耐衝撃硬質塩化ビニル管(HIVP)
—·—：給湯管　被覆銅管（M）
—G—：ガス管　ガス用ポリエチレン管（PE）
———：排水管　硬質塩化ビニル管（VP）
：既設配管との接続部分を示す。
：ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｺｱ抜きを示す。
配管サイズ20A～40A：コア径75φ
配管サイズ50A～65A：コア径100φ

※犬走りのコンクリート復旧工事は建築工事とする。



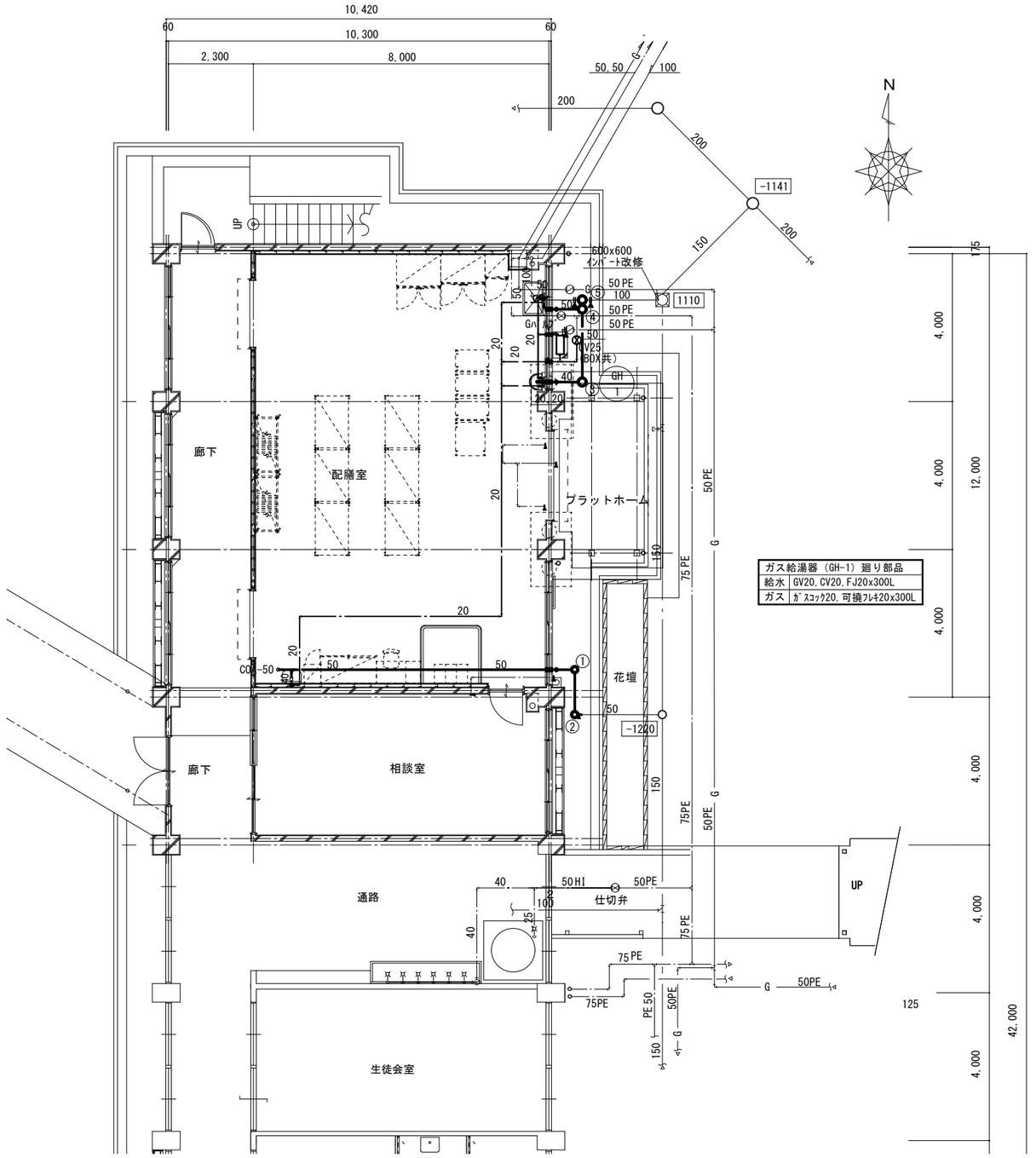
1階　美術室平面図【撤去図】　S=1/100

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機 / NO. M-04／12
ITEM 特別教室棟　[撤去]美術室（衛生設備）		SCALE 1/100	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP / CHECK / CHIEF / DRAW	

凡　例

——·—— ：給水管　給水・ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-PB)
——I—— ：給湯管　被覆銅管（M）
—LPG— ：ガス管　ガス用ポリエチレン管（PE）
——— ：排水管　硬質塩化ビニル管（VP）
：既設配管との接続部分を示す。
：ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｺｱ抜きを示す。
配管サイズ20A～40A：コア径75φ
配管サイズ50A～65A：コア径100φ

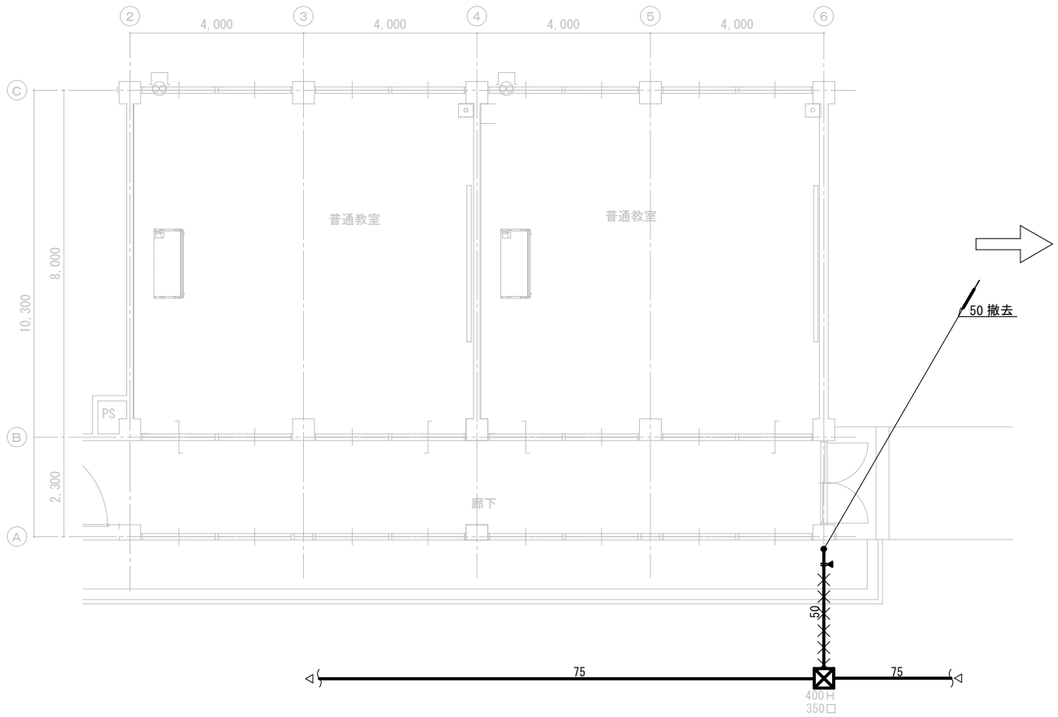
※配膳室内の配管は土間上転がしとする。
（スタイロホーム内）
※犬走りのコンクリート復旧工事は建築工事とする。



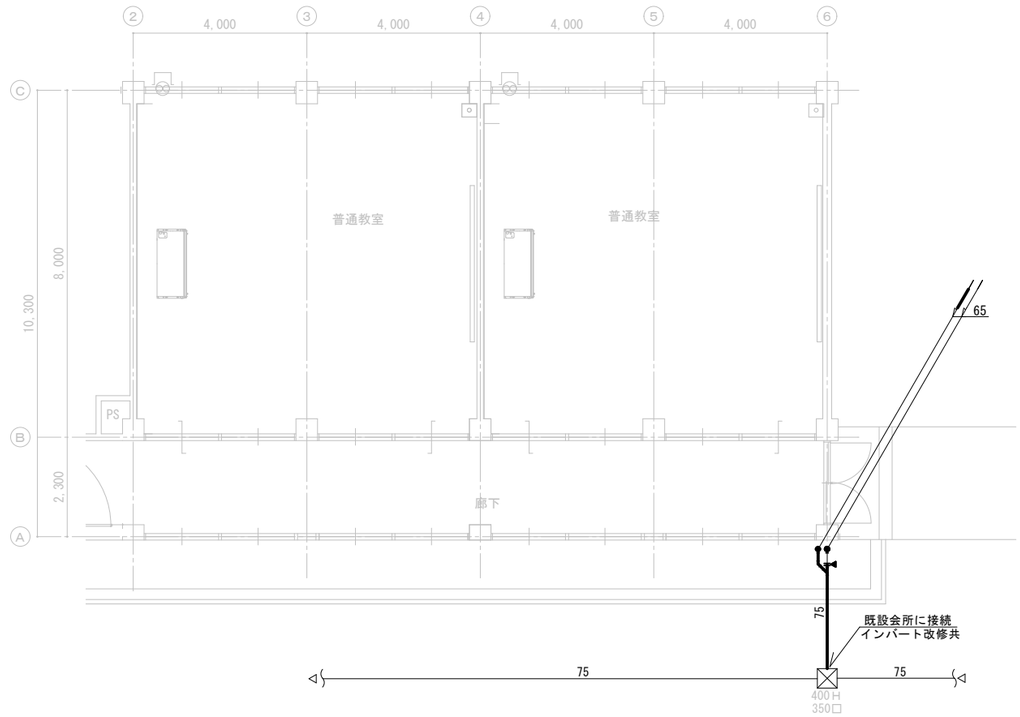
ガス給湯器（GH-1）廻り部品	
給水	GV20,CV20,FJ20x300L
ガス	ｶﾞｽｺｯｸ20,可撓ﾌﾚｷ20x300L

1階　配膳室平面図【改修図】　S=1/100

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 機	NO. M-05／12
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室（衛生設備）	SCALE 1/100		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF / DRAW



北側外部　【撤去図】　S＝1/100



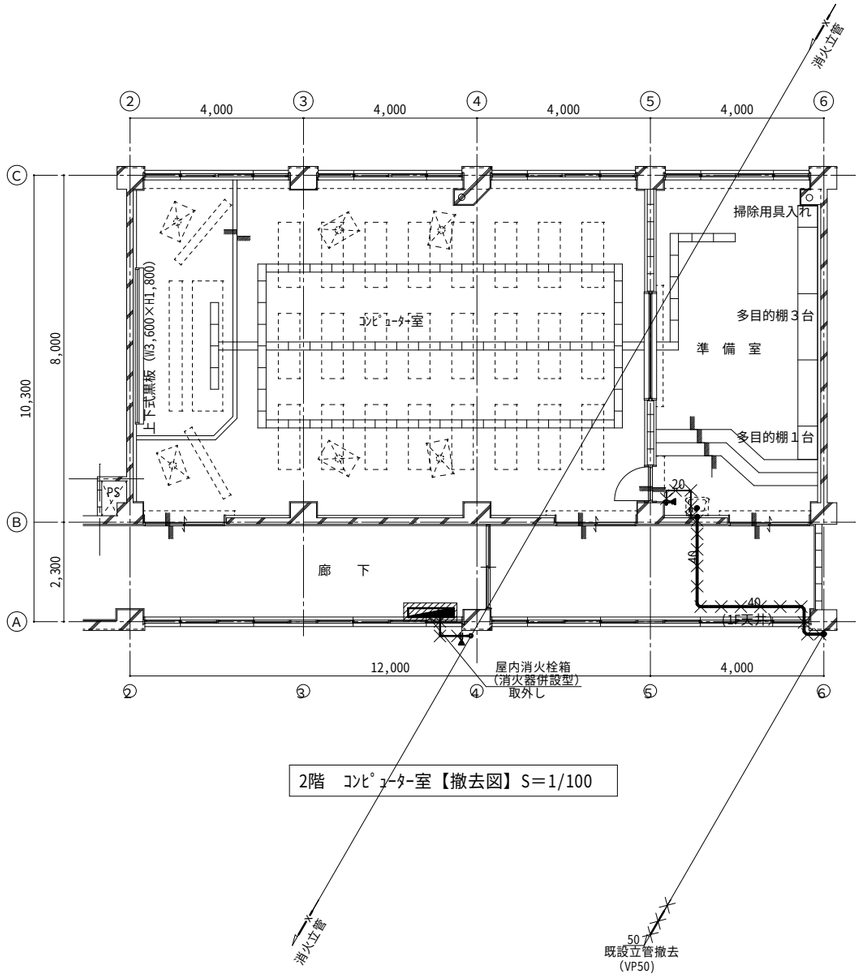
北側外部　【改修図】　S＝1/100

凡　例

- ：給水管　給水・ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-PB)
- ：給湯管　被覆銅管（M）
- ：ガス管　ガス用ポリエチレン管（PE）
- ：排水管　硬質塩化ビニル管（VP）
- ：既設配管との接続部分を示す。
- ：ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｺｱ抜きを示す。
  配管サイズ20A～40A：コア径75φ
  配管サイズ50A～65A：コア径100φ

※配膳室内の配管は土間上転がしとする。
（スタイロホーム内）

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機	NO. M-06／12
ITEM 新館棟　[撤去・改修]北側外部（衛生設備）		SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

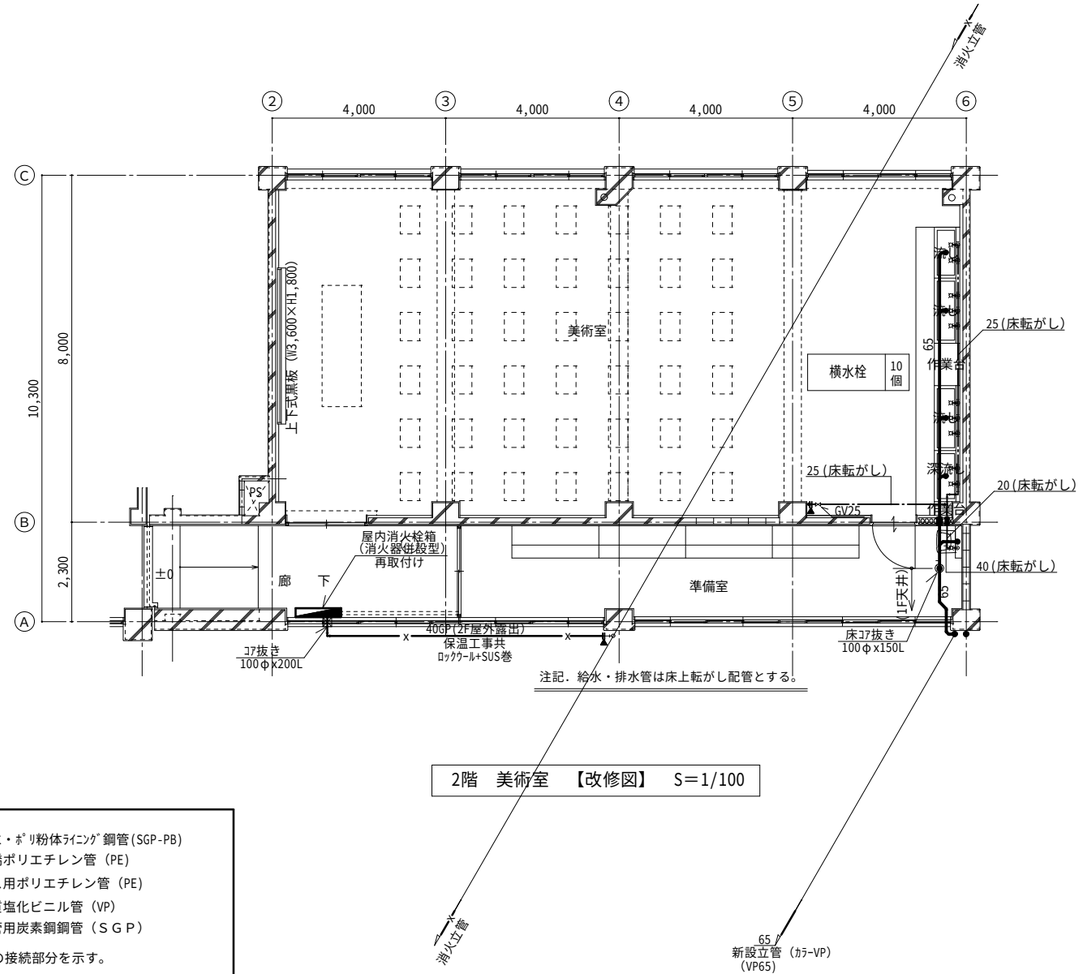


2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室【撤去図】S＝1/100

凡　例

- ：給水管　給水・ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-PB)
- ：給湯管　架橋ポリエチレン管（PE）
- ：ガス管　ガス用ポリエチレン管（PE）
- ：排水管　硬質塩化ビニル管（VP）
- ：消火管　配管用炭素鋼鋼管（ＳＧＰ）
- ：既設配管との接続部分を示す。
- ：ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｺｱ抜きを示す。
  配管サイズ20A～40A：コア径75φ
  配管サイズ50A～65A：コア径100φ

※配膳室内の配管は土間上転がしとする。
（スタイロホーム内）

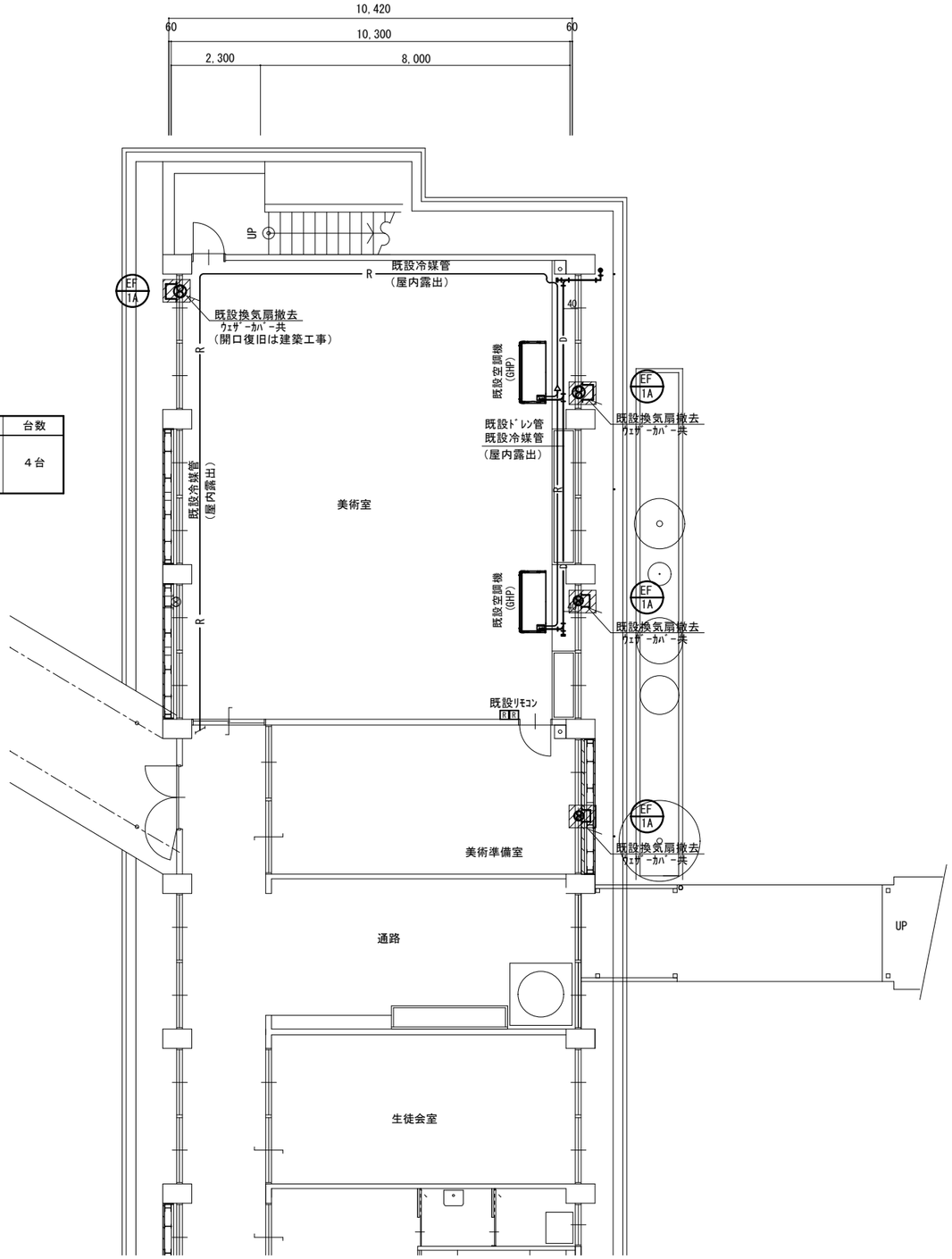


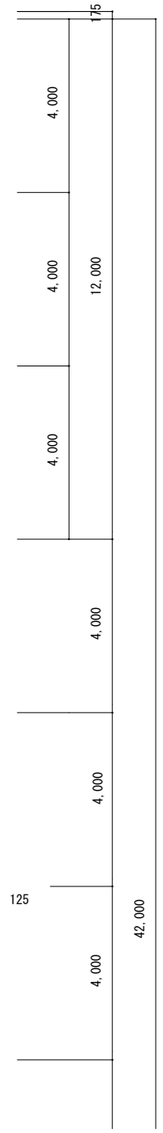
2階　美術室　【改修図】　S＝1/100

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機
ITEM 新館棟　[撤去]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室・[改修]美術室（衛生設備）		SCALE 1/100	NO. M-07／12
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW

撤去機器表

記号	名　称	仕様・附属品	電気容量	台数
EF 1A	有圧換気扇	３００φ　格子タイプ ウェザーカバー共	1φ100V	４台





1階　美術室平面図【撤去図】　S=1/100

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 機	NO. M-08／12
ITEM	特別教室棟　[撤去]美術室（空調設備・換気設備）	SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW

凡　例

——R——：冷媒管　冷媒用被覆銅管
——D——：ドレン管　硬質塩化ビニル管（VP）
：既設配管との接続部分を示す。
R：空調機の運転リモコンを示す。
S：換気扇の運転リモコンを示す。

注　記

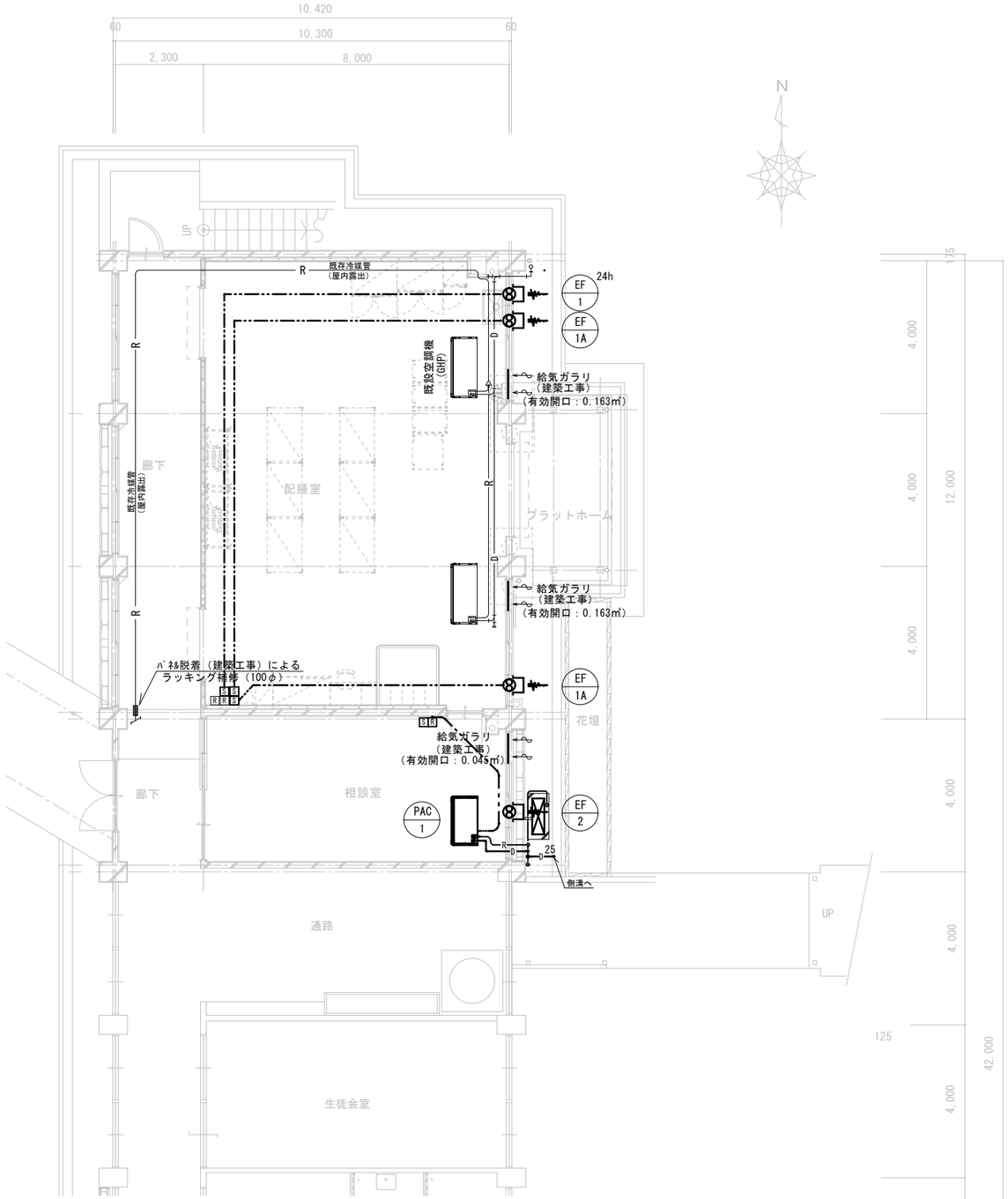
1．冷媒管サイズは（液管／ガス管）9.5φ／15.9φとする。
2．室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。（本工事）。
　制御ケーブルはＥＭ-ＣＥＥ2.0Ｘ２Ｃとする。
3．室外機と室外機の渡りﾘﾓｺﾝ用配管、配線（ＥＭ-ＣＥＥＳ2.0-3Ｃ）
　は電気工事。結線調整は本工事。

空調機器表

記号	名称	仕様	電源 Φ	電源 V	消費電力 Kw（w）	数量	設置場所	備　考
PAC-1	空冷ヒートポンプ	天井吊形（標準）	1	200	冷房：2.30 暖房：2.37	2台	１Ｆ 相談室	（ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎：建築工事）
	パッケージエアコン	冷房能力：７．１KW			（室外機直結）		２Ｆ 美術室	相談室：1200×560×200H
		暖房能力：８．０KW						美術室：1650×820×200H
		運転リモコン、他附属品共						

換気機器表

記号	名称	仕様	電源 Φ	電源 V	消費電力 w	数量	設置場所	備　考
EF-1	壁付換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	48	1台	１Ｆ 配膳室	サッシュアルミパネル
	（２４時間換気）	速調付　引きひもなし						に取付。
		（強）３００φ×１２９０m3/h						（アルミパネルは建築工事）
		（弱）３００φ×　６７２m3/h						・EX-30SC4
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網						・P-04SWL2
		２４時間スイッチ（P-04SW2）、他附属品共						・P-30CVS5
		※２４時間スイッチを電気工事に支給						・P-30CSD3
								・P-30KAT
								・P-30HW6
EF-1A	有圧換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	51	2台	１Ｆ 配膳室	サッシュアルミパネル
		速調なし　引きひもなし						に取付。
		３００φ×１７２０m3/h						（アルミパネルは建築工事）
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網、他附属品共						・EFC-30MSB2
								・FS-04SWA3
								・PS-30CS3
								・P-30UW3
								・P-30FW3
								・LBA-30S
EF-2	壁付換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	18	1台	１Ｆ 相談室	サッシュアルミパネル
	（２４時間換気）	速調付　引きひもなし						に取付。
		（強）２００φ×６０６m3/h						（アルミパネルは建築工事）
		（弱）２００φ×３４８m3/h						・EX-20SC4
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網						・P-04SWL2
		２４時間スイッチ（P-04SW2）、他附属品共						・P-20CVS5
		※２４時間スイッチを電気工事に支給						・P-20CSD3
								・P-20KAT
								・P-20HW6



1階　配膳室平面図【改修図】　S=1/100

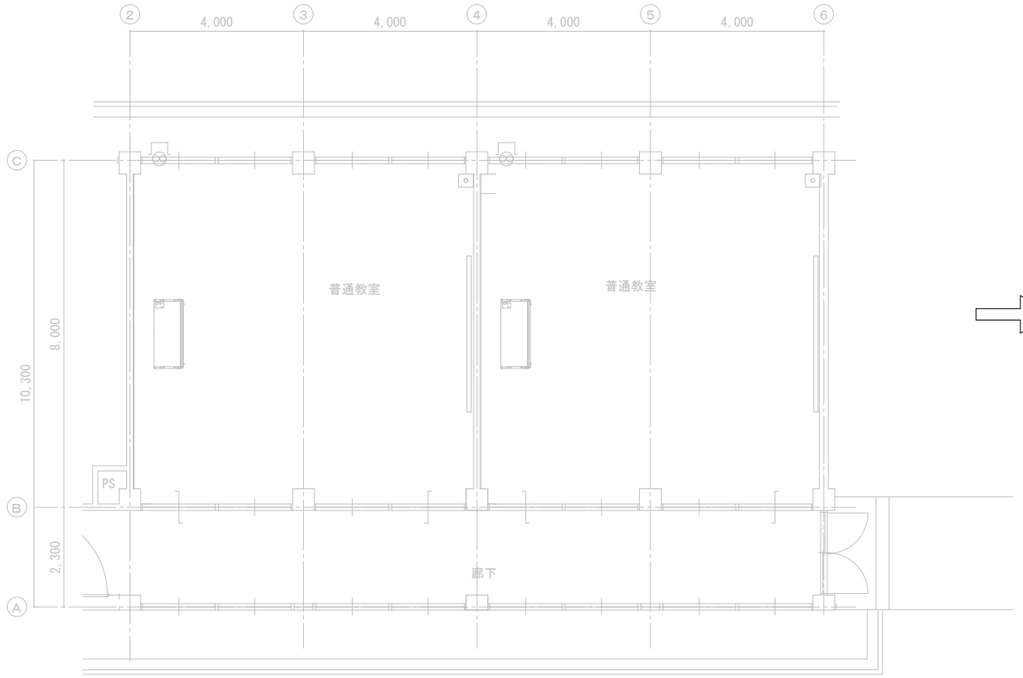
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機
ITEM 特別教室棟　[改修]配膳室（空調設備・換気設備）		SCALE 1/100	NO. M-09／12
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW

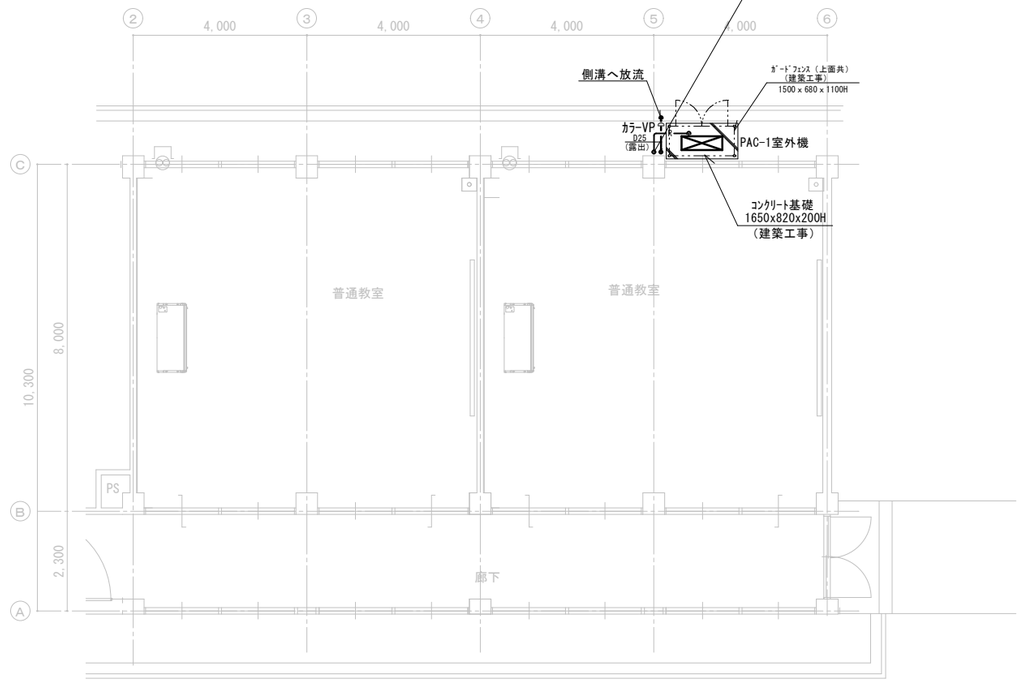
凡　例

——R——：冷媒管　冷媒用被覆銅管
——D——：ドレン管　硬質塩化ビニル管（VP）
：既設配管との接続部分を示す。
：空調機の運転リモコンを示す。

注　記

1．冷媒管サイズは（液管／ガス管）9.5φ／15.9φとする。
2．室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。（本工事）。
　制御ケーブルはＥＭ-ＣＥＥＳ1.25Ｘ２Ｃとする。
3．室外機と室外機の渡りﾘﾓｺﾝ用配管、配線（ＥＭ-ＣＰＥＥＳ0.9-2Ｃ）
　は電気工事。結線調整は本工事。





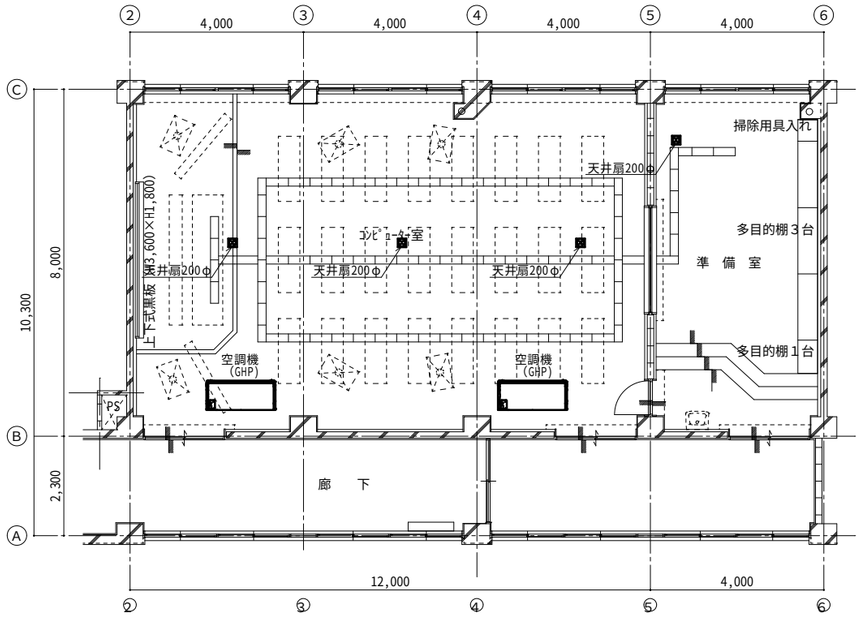
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機	NO. M-10／12
ITEM 新館棟　[改修]南側外部（空調設備）		SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW

凡　例

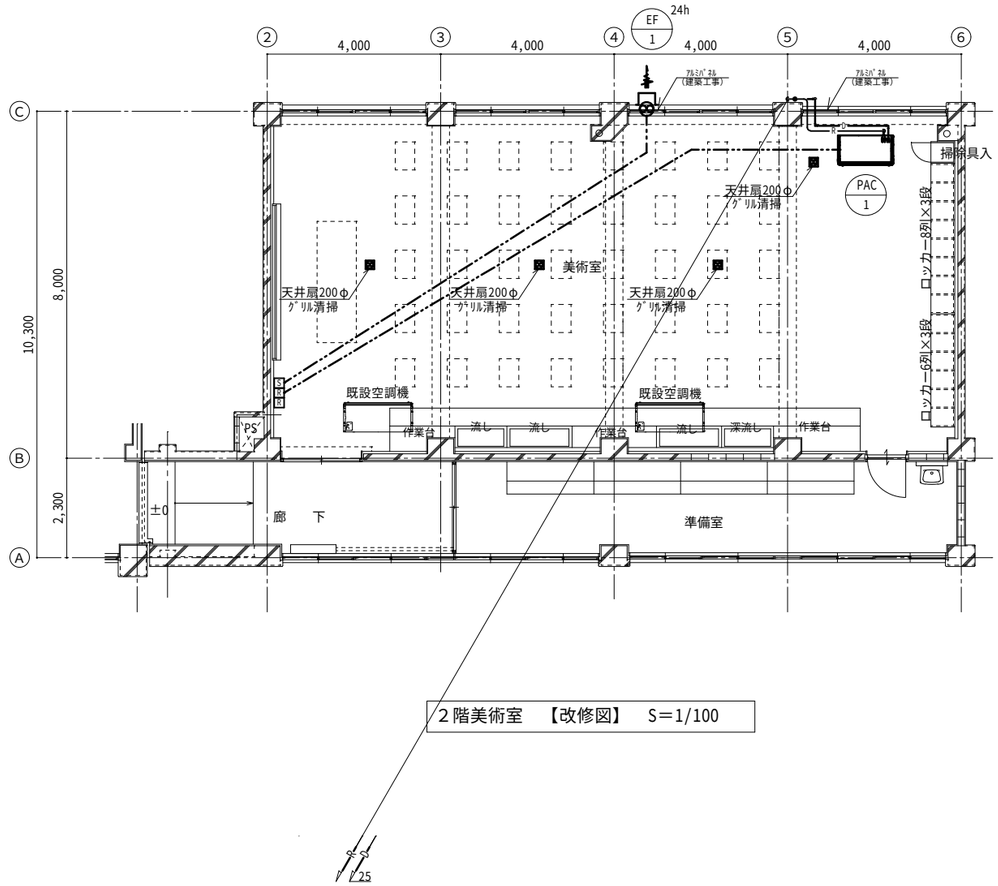
——R——：冷媒管　冷媒用被覆銅管（6.4φ/12.7φ）
——D——：ドレン管　硬質塩化ビニル管（VP）
：既設配管との接続部分を示す。
R：空調機の運転リモコンを示す。
S：換気扇の運転リモコンを示す。

注　記

1．冷媒管サイズは（液管／ガス管）9.5φ／15.9φとする。
2．室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。（本工事）。
　制御ケーブルはＥＭ-ＣＥＥＳ1.25Ｘ２Ｃとする。
3．室外機と室外機の渡りﾘﾓｺﾝ用配管、配線（ＥＭ-ＣＰＥＥＳ0.9-2Ｃ）
　は電気工事。結線調整は本工事。



２階ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　【撤去図】　S＝1/100



２階美術室　【改修図】　S＝1/100

換気機器表

記号	名称	仕様	電源 Φ	電源 V	消費電力 w	数量	設置場所	備　考
EF-1	壁付換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	48	１台	１Ｆ 配膳室	サッシュアルミパネル
	（２４時間換気）	速調付　引きひもなし						に取付。
		（強）３００φ×１２９０m3/h						（アルミパネルは建築工事）
		（弱）３００φ×　６７２m3/h						・EX-30SC4
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網						・P-04SWL2
		２４時間スイッチ（P-04SW2）、他附属品共						・P-30CVS5
		※２４時間スイッチを電気工事に支給						・P-30CSD3
								・P-30KAT
								・P-30HW6

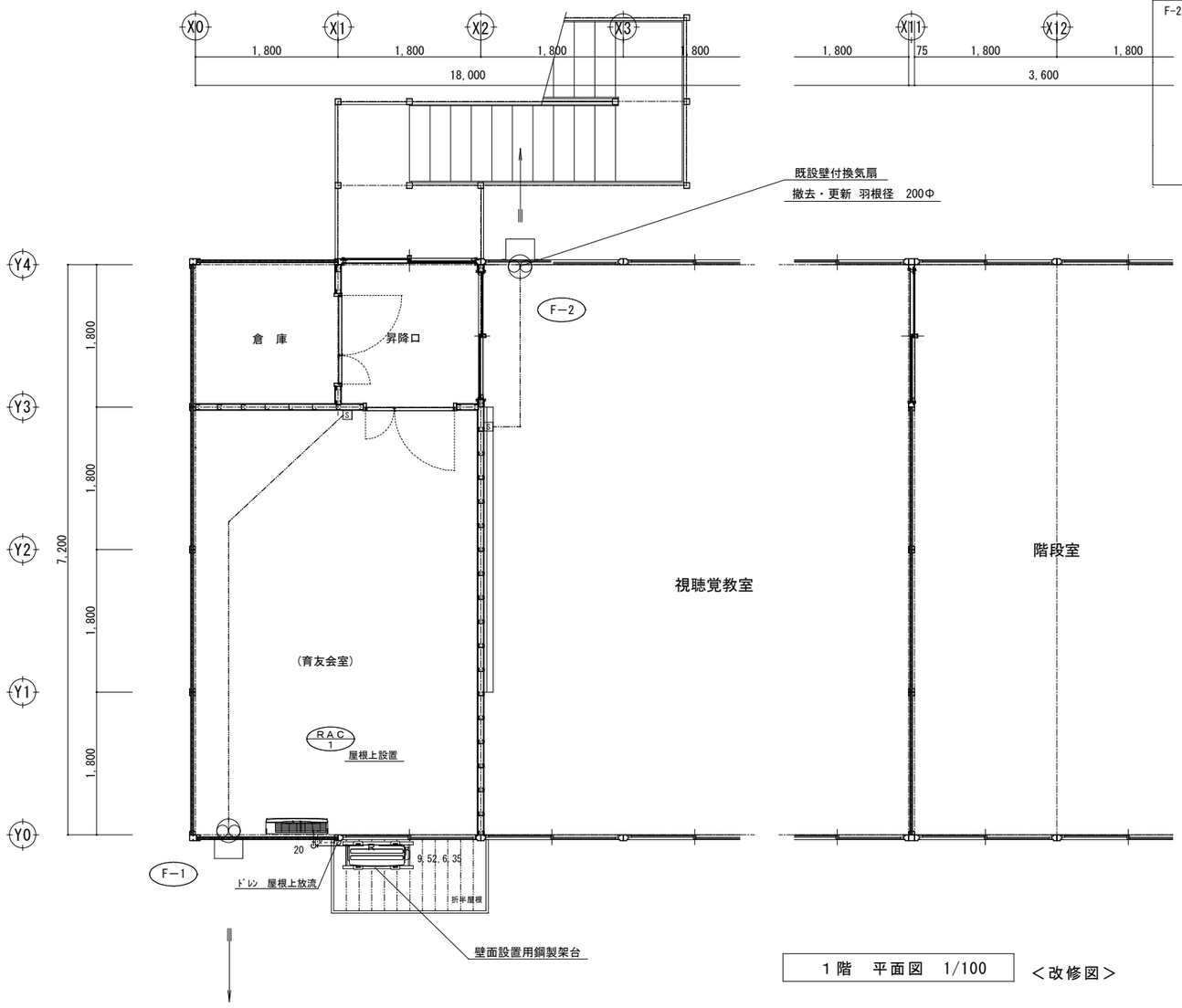
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 機
ITEM 新館棟　[撤去]ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室・[改修]美術室（空調設備・換気設備）		SCALE 1/100	NO. M-11／12
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW

機　器　表

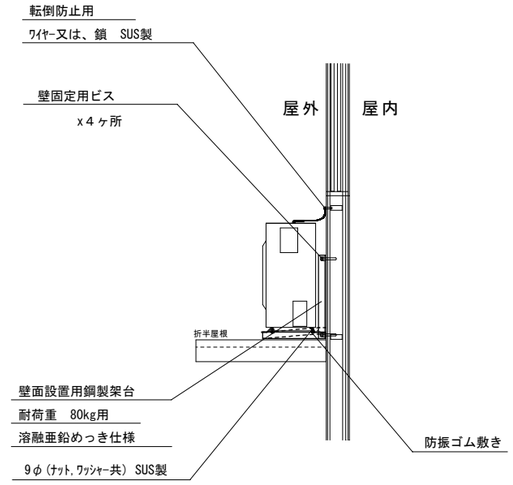
記　号	名　称	冷房能力 (KW/h)	暖房能力 (KW/h)	圧縮電動機 (W)	送風電動機 (KW)	電　源 (φ　v)	消費電力（W） 冷房	消費電力（W） 暖房	本体寸法(mm) W×D×H	製　品 重量(kg)	冷媒管 (m/m)	運転電流 MAX（A）	台数	備　考
RAC 1	ルームエアコン	5.6	6.7	1700		1φ×200V	1930	2840	798　248　285	9.0	9.52　6.35		1	育友会室
	壁掛型	(0.7-5.7)	(0.6-7.3)			コンセント			795　300　708	45.0				ﾜｲﾔﾚｽﾘﾓｺﾝ付
														鋼製平架台
														転倒防止金具

換気機器表

記号	名称	仕様	電源 Φ	電源 V	消費電力 w	数量	設置場所	備　考
F-1	壁付換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	18	1台	２Ｆ 育友会室	サッシュアルミパネル
	（２４時間換気）	速調付　引きひもなし						に取付。
		（強）２００φ×６０６m3/h						（アルミパネルは建築工事）
		（弱）２００φ×３４８m3/h						・EX-20SC4
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網						・P-04SWL2
		２４時間スイッチ（P-04SW2）、他附属品共						・P-20CVS5
		※２４時間スイッチを電気工事に支給						・P-20CSD3
								・P-20KAT
								・P-20HW6
F-2	壁付換気扇	格子タイプ（電動シャッター付）	1	100	18	1台	２Ｆ 視聴覚教室	既設サッシュアルミパネル
	（２４時間換気）	速調付　引きひもなし						に取付。
		（強）２００φ×９９６m3/h						・EX-25SC4
		（弱）２００φ×５２８m3/h						・P-04SWL2
		ＳＵＳ製ウェザーカバー、防鳥網						・P-25CVS5
		２４時間スイッチ（P-04SW2）、他附属品共						・P-25CSD3
		※２４時間スイッチを電気工事に支給						・P-25KAT
								・P-25HW6



1階　平面図　1/100　＜改修図＞



屋外機据付　参考図

註記

1　室内リモコンスイッチは　機能集約　リモコンスイッチとする。
（運転　停止　温度設定　風量切換）　　転倒防止を取り付ける。
2　室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。本工事。
3　室外機と室外機の渡りﾘﾓｺﾝ用配管、配線（ＥＭ-ＣＰＥＥＳ0.9-2Ｃ　２本）結線調整は本工事。

	足立建築工房 一級建築士事務所 京都府宇治市木幡平尾1-65 TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040	所長		主任		担当		工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺 1/100	SHEET M-12／12	年月日 R7.03
								図面名	プレハブ棟［撤去・改修］2階視聴覚教室（空調設備・換気設備）			

電気設備工事特記仕様書－１

【工事概要】

1　工事場所

2　建物概要

建　物　名	構　　造	階　　数	延床面積(m²)	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備　　考
校　舎	RC造	4階			○甲　○乙	工事区分を記載
					○甲　○乙	例・新営
					○甲　○乙	全館無人改修
					○甲　○乙	執務並行改修

3　工事科目　　●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目＼建物名称	校　舎			
電灯設備	●	○	○	○
動力設備	○	○	○	○
雷保護設備	○	○	○	○
受変電設備	○	○	○	○
電力貯蔵設備	○	○	○	○
発電設備	○	○	○	○
構内情報通信網設備	○	○	○	○
構内交換設備	○	○	○	○
情報表示設備	○	○	○	○
映像・音響設備	○	○	○	○
拡声設備	●	○	○	○
誘導支援設備	●	○	○	○
テレビ共同受信設備	●	○	○	○
監視カメラ設備	○	○	○	○
駐車場管制設備	○	○	○	○
防犯・入退室管理設備	●	○	○	○
火災報知設備	●	○	○	○
中央監視制御設備	○	○	○	○
医療関係設備	○	○	○	○
構内配電線路	●	○	○	○
構内通信線路	○	○	○	○
電波障害調査	○	○	○	○
撤去工事	●	○	○	○

【特記事項】

1　一般事項

1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」による。

2）工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

2　特記事項

項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項　　目	特　　記　　事　　項
一般事項	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業　設備機材等評価名簿（最新版）」に記載されている場合、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（２）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第１０条に規定する現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気工事士	契約電力５００ｋＷ以上の場合も、第１種電気工事士による施工を行う。
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが　※できる　○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない　○設置する　（○本工事　○別途）
	※監督職員事務所に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)　・公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) ・電気設備工事監理指針　・電気設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針　・工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)
	※建設副産物の処理及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理　○引き渡しを要するもの　【　　】 右記のほか、　○再生資源利用を図るもの【　　】 現場説明書による。　○特別管理産業廃棄物 ○ＰＣＢ使用機器　○ＳＦ６ガス使用機器　○
		○建設発生土処分　○構外指定地に搬出処理　※(一財)城陽山砂利採取地整備公社　○ 右記のほか、 現場説明書による。　○構内指示場所に敷き均し
		再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書による。
		1）「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理計画書」を監督職員に提出する。 2）関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理計画書」及び「廃棄物処理報告書」により監督職員に報告する。
		○アスベスト成形板の処理等（以下のほか、現場説明書による） 施工調査　アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 ・施工範囲等の確認 確認範囲　※成形板の製造年等の確認　○Ｘ線解析法 処理方法　※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従いあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。

章	項　　目	特　　記　　事　　項
一般事項	※工事関係書類	営繕工事契約関係提出書類書式集◆一覧表により提出。 ◆宇治市ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ参照 <http://www.city.uji.kyoto.jp>
	※履行報告	月報　※２部　○３部　毎月末にメめ、翌月の５日までに提出する。
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部「営繕工事写真撮影要領（最新版）」による。 2）工事完成時、整理の上、１部提出する。 3）小黒板情報電子化については、現場説明書による。。
	※完成図書	名　称 / 内　容 / 大きさ / 部　数 ○完成図 / 金文字製本 / Ａ４版 / １　部 ○完成図 / ○背貼り製本（　　版）　○Ａ４ファイル止め / / ２　部 ○施工図 / ○背貼り製本（　　版）　○Ａ４ファイル止め / / ２　部 ○機器完成図等 / 機器製作図　　ファイル止め 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 / Ａ４版 / ２　部 ○諸官庁提出書類 / 副　本 / / １　式 ○原図 / 完成図 / / １　部 ○完成写真 / アルバム綴り / / ２　部 電子納品については、現場説明書による。
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。
共通事項	●耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」により計算を行い、監督職員に報告し承諾を得る。 2）下記の設計用水平震度（ＫＨ）により、機器製作図定を行う。 設置場所 / ●特定の施設 重要機器 / ●特定の施設 一般機器 / ○一般の施設 重要機器 / ○一般の施設 一般機器 上層階、屋上及び塔屋 / 2.0 (2.0) / 1.5 (2.0) / 1.5 (2.0) / 1.0 (1.5) 中　間　階 / 1.5 (1.5) / 1.0 (1.5) / 1.0 (1.5) / 0.6 (1.0) １階及び地下階 / 1.0 (1.0) / 0.6 (1.0) / 0.6 (1.0) / 0.4 (0.6) 設置場所 / ○特定の施設 水槽 / ○一般の施設 水槽 上層階、屋上及び塔屋 / 2.0 / 1.5 中　間　階 / 1.5 / 1.0 １階及び地下階 / 1.5 / 1.0 注１　耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設、乙類の建物は一般の施設を適用する。 注２　屋外に設置する機器は、建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注３　（　）内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。 注４　設計用鉛直震度は、設計用水平震度の１／２とする。 注５　上層階の定義は、６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上階２階。 注６　重要機器（水槽類含む）は、下記による。（水槽類にはオイルタンク等を含む。） ○配電盤　○直流電源装置　○自家発電装置　○交換機 ○電算用電源　○中央監視装置　○ＵＰＳ装置　○自動火災報知装置 注７　操作卓は本体を床又は壁にアンカーボルトで固定できるように固定金具を備えたものとし、卓上機器は、転倒防止用の措置を講じたものとする。
	○風圧力に対する性能	建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分 Ｖo（○３０　○３２　○３４）　地表面粗度区分（○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ）
	○風圧力（耐風力）	建築基準法施行令第８７条に定めるところによる風圧力（耐風力）検討（計算）書を監督職員に提出する。なお、検討（計算）範囲には、それぞれの取付部分を含めるものとする。 ○受雷部システム及び引下げ導線システム　○太陽光アレイ及び接続箱 ○風力発電装置　○テレビ共同受信用アンテナ及びアンテナマスト　○
	●電線類	1）特記なきものは、ＥＭ－ＩＥとする。 2）ＥＭ電線、ＥＭケーブルで標準仕様書に規格等の記載のないものは、ハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとし、次の記号及び仕様による。 ＥＭ－アクセスフロア：ＪＣＳ４５０２（６００Ｖアクセスフロア用耐燃性ポリエチレンシースケーブル）による６００Ｖアクセスフロア用ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（ＥＭ－ＥＥ）及び６００Ｖアクセスフロア用架橋ポリエチレン絶縁耐燃性ポリエチレンシースケーブル（ＥＭ－ＣＥ）を示す。 ＥＭ－ＭＥＥＳ：ＪＣＳ４２７１に準じ、絶縁材及びシースにＪＣＳ規格によるＥＭケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの 3）長さ１ｍ以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆鉄線等）を挿入する。
	●電線管	電　線　管　●ＰＦ管　ただし、露出部分は鋼製電線管とする。分電盤等の２次側で第１ボックスまでは(※鋼製電線管　○ＰＦ管)とする。 ●ねじなし電線管 1）雨線外及び湿気の多い場所または水気のある場所に使用する露出電線管は、厚鋼電線管とする。 2）スラブ厚の１／４を越える外径の配管及び（ＰＦ２２）又は（Ｅ２５）相当を越えるものは、コンクリート埋設配管を行わない。 最上階の埋込配管　最上階のスラブでモルタル防水及び樹脂防水の場合、埋込配管は避けるのを原則とする。 下記の露出配管は塗装（指定色塗装）を行う。 ●屋外（○屋上を除く）　●屋内居室　○屋内ＰＳ・ＥＰＳ　○屋内機械室・電気室　●即下
	●電線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の２次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更することができる。
	●ボックス	樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。
	○予備配管	分電盤の予備の配線用遮断器が４個以下の場合（２５）を１本、５個以上の場合（２５）を２本天井内まで立上げる。ケーブルラックの床の防火貫通部に（５１）を１本以上立上げる。
	●フラッシュプレート	和　室　○樹脂製　○金属製（○新金属製　○ステンレス製） その他　○樹脂製　○金属製（○新金属製　○ステンレス製）
	○床配線器具等	床用配線器具の形式は以下による。（図面特記のあるものを除く。） 二重床　※インナー形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形 二重床以外　※飛び出し形　○引出し形　○内部固定形　○外部固定形 （フロアベースは水平高低調整式（空転防止リング付）　※砲金製　○アルミ製とする。）
	●機器	寸　法　盤その他機器類について図示した寸法は、約寸法とする。 接　続　電動機への接続は、本工事とする。 アンカーボルト　アンカーボルト、全ネジ及びナットは、下記による。 屋外・多湿室等　（○溶融亜鉛メッキ　●ＳＵＳ） その他　（○一般品　●ＳＵＳ　○　）

章	項　　目	特　　記　　事　　項
共通事項	●あと施工アンカー	施工後確認試験　●行う　○行わない 試験方法　引張試験機による引張試験とし、国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和四年度版）「８．１２．７ 施工確認試験」による。 確認強度　監督職員との協議による。
	●機器内配線等	下記の機器内配線及びケーブルには、ＥＭ電線及びＥＭケーブルを使用する。 ただし、高圧主回路配線はこの限りでない。 ●分電盤　○ＯＡ盤　○実験盤　○開閉器箱　○制御盤 ○キュービクル式配電盤　○直流電源装置 ○交流無停電電源装置（ＵＰＳ）（簡易型を除く）
	●はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。
	●再使用機器	取り外した上再使用する機器は、清掃し絶縁抵抗測定の上取付ける。なお照明器具等の見え掛かり部分は、洗剤を使用するなどして、十分に清掃する。
	●その他	屋外の盤類・開閉器箱　○ＳＵＳ　●鋼板製 屋外のプルボックス　●ＳＵＳ　○鋼板製
電灯設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●電気方式	幹線　●単相３線式　１００Ｖ/２００Ｖ　○直流２線式　１００Ｖ 分岐　●単相２線式　●１００Ｖ　●２００Ｖ ○直流２線式　１００Ｖ
	●照明制御による効果の評価	一般社団法人日本照明器具工業会技術資料１３０「照明制御装置による消費電力削減効果の評価手法」により、消費電力削減効果の評価を行い監督職員に提出する。
	○照明制御装置	照明制御装置の各センサー設定は、監督職員と協議する。センサー設定器を附属させる。
	○多重伝送制御システム	多重伝送制御システムの設定は、監督職員の指示による。システム設定器を附属させる。
	○ＬＥＤ制御装置の種類	図面特記があるものを除き、ＬＥＤ照明器具の制御装置の種類は、調光信号線が接続された器具にあってはＬＸ又はＬＺ、それ以外はＬＮ又はＬＪとする。
	○ＲＰ又はＭＰ形照明器具	標準図において、防雨形または防湿形の器具本体の材質に、ＳＵＳを含む複数の材料が適用されている場合は、ＳＵＳを適用する。
	○非常用照明の形式	○電池内蔵形　○電池別置形
	○フロアコンセント	○引出し形　○飛び出し形　○内部固定形　○外部固定形　○ＯＡフロアー用
	●分電盤等	1）本工事の分電盤、ＯＡ盤、実験盤で、分岐に用いる配線用遮断器及び漏電遮断器の寸法は、ＪＩＳ Ｃ ８２０１-２-１「回路遮断器」、同付属書ＪＣ「電灯分電盤用協約形回路遮断器」、ＪＩＳ Ｃ ８２０１-２-２「漏電遮断器」、同付属書ＪＣ「電灯分電盤用協約形漏電遮断器」、による１極サイズのものとする。 2）ＳＰＤ分離器（配線用遮断機）は　（○警報接点付　○警報接点無）とする。 3）ＳＰＤ分離器は、監督職員の承諾を受けて、ＳＰＤ内蔵とすることができる。 ＯＡ盤の端子盤部に　○通気口　○冷却ファン　を設ける
	○照明用ポール	○開閉器を設ける（○配線用遮断器○カットアウトスイッチ）　○開閉器を設けない
	●一般照明の照度測定	実施　●する　○しない
動力設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	幹線　○三相３線式　２００Ｖ　○ 分岐　○三相３線式　２００Ｖ　○
	○制御盤	1）制御回路に用いる変圧器は絶縁変圧器とする。 2）インバータ発熱対策用冷却装置を扉面に取り付けた場合、開扉時に冷却装置を休止させる。 3）インバータ発熱対策用冷却装置の故障を　盤面に表示（○させる　○させない）
	○監視方法	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○インターロック	自動火災報知設備の受信機、連動制御盤及びガス漏れ火災警報受信機と連動して、制御盤で空調機を停止させる。
	○インバータ装置の規約効率	三相可変性電動機用インバータ装置の規約効率は、次表の値以上とする。 電動機出力（kW） / 0.4 / 0.75 / 1.5 / 2.2 / 3.7 / 5.5 / 7.5 / 11 ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率（%） / 86.0 / 88.5 / 92.0 / 93.0 / 94.0 / 94.0 / 94.5 / 94.5 電動機出力（kW） / 15 / 18.5 / 22 / 30 / 37 / 45 / 55 / 75 ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率（%） / 95.0 / 95.5 / 95.5 / 95.5 / 95.5 / 95.5 / 95.5 / 95.5 備考）1）電動機の供給電圧は１００Ｖ又は２００Ｖとする。 2）インバータ効率は、１００％負荷時の値とする。
雷保護設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○保護レベル	○Ⅰ　○Ⅱ　○Ⅲ　○Ⅳ
	○受雷部システム	突針支持管　○銅製　○ステンレス製
	○接地システム	○Ａ型接地極（○板状接地極　○垂直接地極　○放射状接地極） ○Ｂ型接地極（○環状接地極　○網状接地極） ○構造体利用接地極（構造体底盤部の大地抵抗率測定のための大地抵抗率測定用補助接地極を　○設ける　○設けない）
受変電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○電気方式	高圧　三相３線式　６ｋＶ 低圧　○三相３線式２００Ｖ　○単相３線式１００Ｖ／２００Ｖ ○三相３線式　　Ｖ　○三相４線式　　Ｖ／　　Ｖ
	○配電盤形式	○屋内キュービクル式配電盤　○屋外キュービクル式配電盤　○開放形配電盤 ○変圧器盤　○コンデンサ盤　○系統連系保護制御盤 ○高圧スイッチギヤ（○　ＣＸ形　○　ＣＷ形　○　ＰＷ形　） ○低圧スイッチギア（○　ＣＸ形　○　ＣＳ形　○　ＣＷ形　○　ＦＷ形）
	○変圧器の規格〔グ〕	1）変圧器（スコット結線変圧器、モールド変圧器でＨ絶縁材料を使用するもの、一次電圧が低圧または特別高圧のものを除く。）は、グリーン購入法による特定調達品目の判断基準を満たすものとする。 2）ダイヤル温度計は、最高温度指針付とする。
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視制御装置による監視
	○基礎	○本工事　○別途工事　○既設
	○付属品等	盤内に予備限流ヒューズを収納する。
	○その他	○低圧配電盤の配線用遮断器は取付け板組込形で埋込形とする。 ○低圧配電盤の裏面に負荷側引出し用端子を設ける。 ○低圧配電盤に内部点検空間を設ける。（幅６００mm以上・高さ１，８００mm以上） ○盤内照明器具はＬＥＤとする。 ○換気扇を設ける場合は回転センサ付とする。（盤面警報ランプ共）

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電
ITEM 電気設備工事特記仕様書(1)		SCALE NON	NO. E-01／23
米 杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK　CHIEF　DRAW

電気設備工事特記仕様書－２

章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○直流電源装置	用途　○建築基準法用　○消防法用　○受変電設備専用 その他　○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、９０Ｖとする。
	○交流無停電電源装置	用途　（　　） 方式　○一般形　○簡易形 （ＵＰＳ）
発電設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○形式	○オープン形　○簡易形　○キュービクル
	○連続運転可能時間	○１０時間（乙）　○７２時間（甲）　○
	○発電機	電気方式　三相３線式 電　圧　○２１０Ｖ　○６．６ｋＶ　○４１５Ｖ 定格出力　ｋＶＡ以上　力率　０．８
	○原動機	種　別　○ガスタービン　○ディーゼル機関　○ガスエンジン ○マイクロガスタービン　○燃料電池　○コージェネレーション 定格出力　ｋＷ（　ＰＳ）以上 始動方式　○電気式　○空気式 冷却方式　○ラジエーター式　○水槽循環式 現地負荷試験　○行う　○行わない
	○燃料	種類　○重油　○軽油　○灯油　○ガス（　　） ○燃料小出槽　容量　Ｌ ○主燃料槽　容量　Ｌ
	○監視方式	○警報盤による代表監視　○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池　アレイ　公称最大出力　ｋＷ以上 設置可能建築面積　㎡以下（長辺　ｍ×短辺　ｍ）
		系統連系　○受動　○能動
		パワーコンディショナ出力　相　線式　Ｖ　ｋＷ以上
		逆潮流　○有　※無
		交流出力電圧　○１００Ｖ　○２００Ｖ
		出力電気方式　○三相３線式　○単相３線式　○単相２線式
	○外部移報	○有　○無
構内情報通信網設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
構内交換設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○保安器用接地	○本工事　○別途工事
	○形式	○電子交換機　○ボタン電話装置
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置　○出退表示設備　○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○親時計及び付属装置	○ＣＲ　-Ｐ　Ｍ　○ＣＷ　-Ｐ　Ｍ ○プログラムタイマ（○カード式　○キー式　○　　）
	○子時計	特記なきものは　○ＳＷＡ₃₃－Ｇ₆Ｂ₂　○
映像音響設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○施工方法	○金属管配線　○ケーブル配線　○合成樹脂管配線
拡声設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●増幅器	用途　●全館放送用（●一般放送　○非常放送）　○ローカル放送用
		●自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	●スピーカ	特記なきものは　○ＳＣ₆Ｈｉ－１Ｖ₃－Ｍ　○
誘導支援設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	●工事内容	○音声誘導装置　検出方式　（○磁気式　○無線式　○画像認識）
		○インターホン　○電話式　○相互式
		●テレビインターホン　●親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○
		○トイレ等呼出し装置　○１窓　○３窓　○５窓　○ 呼出しボタン　○壁付ボタン(プルスイッチの長さは０．２ｍ程度とする) ○壁付握りボタン(握りボタンの長さは１．２ｍ程度とする) ○通話機能
		○受付呼出し装置　○誘導音
テレビ共同受信設備	●工事範囲	●配管　●配線　●機器取付
	○アンテナ	○ＵＨＦ用　○ＢＳ用　○ＣＳ用 ○ＡＭ用　○ＦＭ用　○ＣＡＴＶ
	○アンテナマスト	○壁面取付形　○自立形 ○配管用ステンレス鋼鋼管 ○一般構造用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び画質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。

章	項目	特記事項
監視カメラ設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○画像	○カラー　○白黒
	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式　○デジタル同軸伝送方式　○
駐車場管制設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式　○光線方式
防犯・入退室管理設備	●工事範囲	●配管　○配線　○機器取付
	●工事種類	●機械警備用配管 ●防犯装置　○入退室管理制御装置
火災報知設備	○自動火災報知装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○受信機　○　形　級　回線 ○壁掛形　○自立形 ○単独形　○複合形 ○副受信機　窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
		○光警報装置　○
		○消火ポンプ始動　○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
		○機器収容箱　○消火栓一体形　○単独形
	○自動閉鎖装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○連動制御器　回線　【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独　○自火報受信機と一体
		○自動閉鎖装置　○防火戸用【ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事　瞬時通電式又は電動式　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下 遠方復帰機構（電動式）ＤＣ２４Ｖ　０．７Ａ以下】 ○防火シャッター用 【別途工事　ＤＣ２４Ｖ　０．６Ａ以下】
	○非常警報装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○電気方式　ＤＣ２４Ｖ
		○電源装置　○非常電源（蓄電池）　○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲　○配管　○配線　○機器取付
		○受信機　○単独形　○自火報受信機と一体
		○ガスの種類　○都市ガス（１３Ａ）　○液化石油ガス
	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（　窓）を設ける。
中央監視制御設備	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○監視方式	○警報盤　○監視制御装置
	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
医療関係設備	○非接地電源用分電盤	キャビネット　○鋼製　○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出押ボタン　○有線式　○無線式 ○防滴　○防湿
	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
構内配電線路	●工事範囲	●配管　●配線　○機器取付
	○電気方式	高圧　○三相３線式　６ｋＶ 低圧　○三相３線式　２００Ｖ　○ ○単相３線式　１００/２００Ｖ ○単２線式　（○１００Ｖ　○２００Ｖ）
	○ふ設方式	○地中線　○管路式　○波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○ 埋設深さ　特記なきものはＧＬ(舗装がある場合は、舗装下面)から３００mm以上とする。
		○架空線　電柱　○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器　７．２ｋＶ　３００Ａ
		用途　○架空引込用　○地中引込用
		構　○耐中塩じん用　○耐重塩じん用
		形式　○引外し装置付（ＳＯＧ形）　○引外し装置なし　○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法　○標準図による　○図示による。 蓋の文字　○蓋の用途表示は電力とする。　○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはＥＭ－高圧架橋ポリエチレンケーブルは、ＪＣＳ　４３９５「６６００Ｖ　架橋ポリエチレンケーブル（３層押出型）」に（※よる　○よらない）
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、１ヶ所以上で３ｍ余長をとる。
	○碍子、高圧ケーブル端末処理	○一般用　○耐塩用　○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形　○耐塩形
	○装柱材	○一般用　○耐塩形
	○外灯	基礎　○本工事　○別途工事 ○外灯ポールの材質が鋼製（ＳＰＣ）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
構内通信線路	○工事範囲	○配管　○配線　○機器取付
	○ふ設方式	○地中線　○管路式　○波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○ 埋設深さ　特記なきものはＧＬ(舗装がある場合は、舗装（表層）下面)から３００mm以上とする。
		○架空線　電柱　○遠心力プレストレストコンクリートポール
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法　○標準図による　○図示による。 蓋の文字　○蓋の用途表示は通信とする。　○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。

章	項目	特記事項
電波障害調査	○調査範囲	○測定のみ　○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前　○工事中　○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表　付属品・予備品

○イージーキャビネット　箱　○キーボックス　○テスター　○マンホールフック ○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナー、ハンマー）	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、２０％とする。

試験・検査一覧

工事完成に際しては，各種試験，検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
○受変電機器●動力盤及び電灯盤○耐圧試験●絶縁抵抗測定●接地抵抗測定●機器機能試験●その他監督職員の指示するもの
●工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。）
●着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●後施工アンカーの施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、１日の施工本数の３％以上かつ３本以上とする。
例　盤・ケーブルラック・ケーブルダクト等

その他

●試験機器類の校正記録を提出する。
●停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和４年度版）の資料５（Ｐ１１１９）に基づき施工する。
●鉄筋コンクリートをダイヤドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
○交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を２名以上配置する。
○カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ　（参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。）

	名称	測点	取付高（㎜）
電力共通	取引用計器	地上～上端	２，０００
	引込開閉器	〃	１，８００
動力	壁掛型制御盤	床上～上端	１，９００
	手元開閉器	床上～中心	１，５００
	操作スイッチ	〃	１，３００
電灯	分電盤	床上～上端	１，９００
	スイッチ　（一般）	床上～中心	１，３００
	〃　（身障者便所）	〃	９００
	コンセント　（一般）	〃	３００
	〃　（和室）	〃	１５０
	〃　（台上）	台上～中心	３００
	〃　（土間）	床上～中心	１，３００
	ブラケット　（一般）	〃	２，１００
	〃　（踊場）	〃	２，５００
	〃　（鏡上）	鏡上端～中心	１５０

	名称	測点	取付高（mm）
電話	端子盤	床上～上端	１，９００
	保安器函	天井下～上端	２００
	壁付位置ボックス	床上～中心	３００
	〃　（和室）	〃	１５０
拡声、時計	壁掛スピーカー	天井下～上端	２００
	アッテネーター	床上～中心	１，３００
	壁掛型親時計	床上～上端	１，９００
	子時計	天井下～上端	２００
インターホン	壁掛インターホン	床上～中心	１，５００
	〃　（身障者）	〃	１，１００
	壁付位置ボックス	〃	３００
	〃　（和室）	〃	１５０
テレビ共聴	機器収納函	天井下～上端	２００
	直列ユニット	床上～中心	３００
	〃　（和室）	〃	１５０

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03
ITEM	電気設備工事特記仕様書(2)	SCALE	NON
		WORK	電
		NO.	E-02／23
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK　CHIEF　DRAW

1階　準備室　電灯分電盤(1LS-2)　撤去内容

・1～9、11、A、B番回路の負荷名称を取外し

・2～6番回路の既設ｹｰﾌﾞﾙ接続は、存置とする。

(撤去・改修部分)

1φ3W
100/200V

MCCB3P
100AF/60AT

VA		予　備	MCCB2P　50AF20AT	200V	A		B	200V	MCCB2P　50AF20AT	予　備		VA
VA		予　備	MCCB2P　50AF20AT	100V	11					ｽﾍﾟｰｽ		VA
VA		予　備	MCCB2P　50AF20AT	100V	1		2	100V	MCCB2P　50AF20AT	美術室　ｺﾝｾﾝﾄ		VA
VA		美術室　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	3		4	100V	MCCB2P　50AF20AT	美術室　ｺﾝｾﾝﾄ		VA
VA		美術室　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	5		6	100V	MCCB2P　50AF20AT	美術室　ｺﾝｾﾝﾄ		VA
VA		予　備	MCCB2P　50AF20AT	100V	7		8	100V	MCCB2P　50AF20AT	予　備		VA
VA		予　備	MCCB2P　50AF20AT	100V	9		10	100V	MCCB2P　50AF20AT	予　備		VA

(改修)

1階　相談室　電灯分電盤(1LS-2)　改修内容

・1～9、11、A、B番回路の負荷名称を変更とする。

・新設回路のｹｰﾌﾞﾙを接続

1φ3W
100/200V

MCCB3P
100AF/60AT

VA	600	配膳室　空調室内機　電源	MCCB2P　50AF20AT	200V	A		B	200V	MCCB2P　50AF20AT	配膳室　空調室外機　電源	2970	VA
VA	160	ｶﾞｽ給湯機用電源	MCCB2P　50AF20AT	100V	11					ｽﾍﾟｰｽ		VA
VA	400	配膳室(南・東)ｲﾝﾀｰﾎﾝ ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	1		2	100V	MCCB2P　50AF20AT	配膳室(南)・休憩室　ｺﾝｾﾝﾄ	300	VA
VA	400	配膳室(東)　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	3		4	100V	MCCB2P　50AF20AT	廊下(西)　ｺﾝｾﾝﾄ	200	VA
VA	200	相談室　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	5		6	100V	MCCB2P　50AF20AT	相談室　ｺﾝｾﾝﾄ	200	VA
VA	1020	配膳機器(北)　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	7		8	100V	MCCB2P　50AF20AT	配膳機器(北)　ｺﾝｾﾝﾄ	1010	VA
VA	200	機械警備用　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB2P　50AF20AT	100V	9		10	100V	MCCB2P　50AF20AT	配膳室(西)　ｺﾝｾﾝﾄ	200	VA

2階　準備室電灯分電盤(2LN-3)　(撤去)

1φ3W
100/200V

MCCB3P
100AF/60AT

VA		準備室　電灯	MCCB1P　50AF20AT	100V	1		2	100V	MCCB1P　50AF20AT	教室　電灯		VA
VA		教室　電灯	MCCB1P　50AF20AT	100V	3		4	100V	MCCB1P　50AF20AT	換気扇		VA
VA		ｺﾝｾﾝﾄ南北	MCCB1P　50AF20AT	100V	5		6	100V	MCCB1P　50AF20AT	ｺﾝｾﾝﾄ　東		VA
VA		準備室　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB1P　50AF20AT	100V	7		8	100V	MCCB1P　50AF20AT	PC差込(5)		VA
VA		PC差込(1)	MCCB1P　50AF20AT	100V	9		10	100V	MCCB1P　50AF20AT	PC差込(2)		VA
VA		PC差込(3)	MCCB1P　50AF20AT	100V	11							
VA		PC差込(4)	MCCB1P　50AF20AT	100V	12		B	200V	MCCB2P　50AF20AT	ｸｰﾗｰ		VA
VA		PC差込(6)	HB型　2P1E20A	100V	13		14	100V	HB型　2P1E20A	PC差込(7)		VA
VA		ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	HB型　2P1E20A	100V	15		16	100V	HB型　2P1E20A	学校ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ		VA

1階　美術室　電灯分電盤(2LN-3)　(新設)

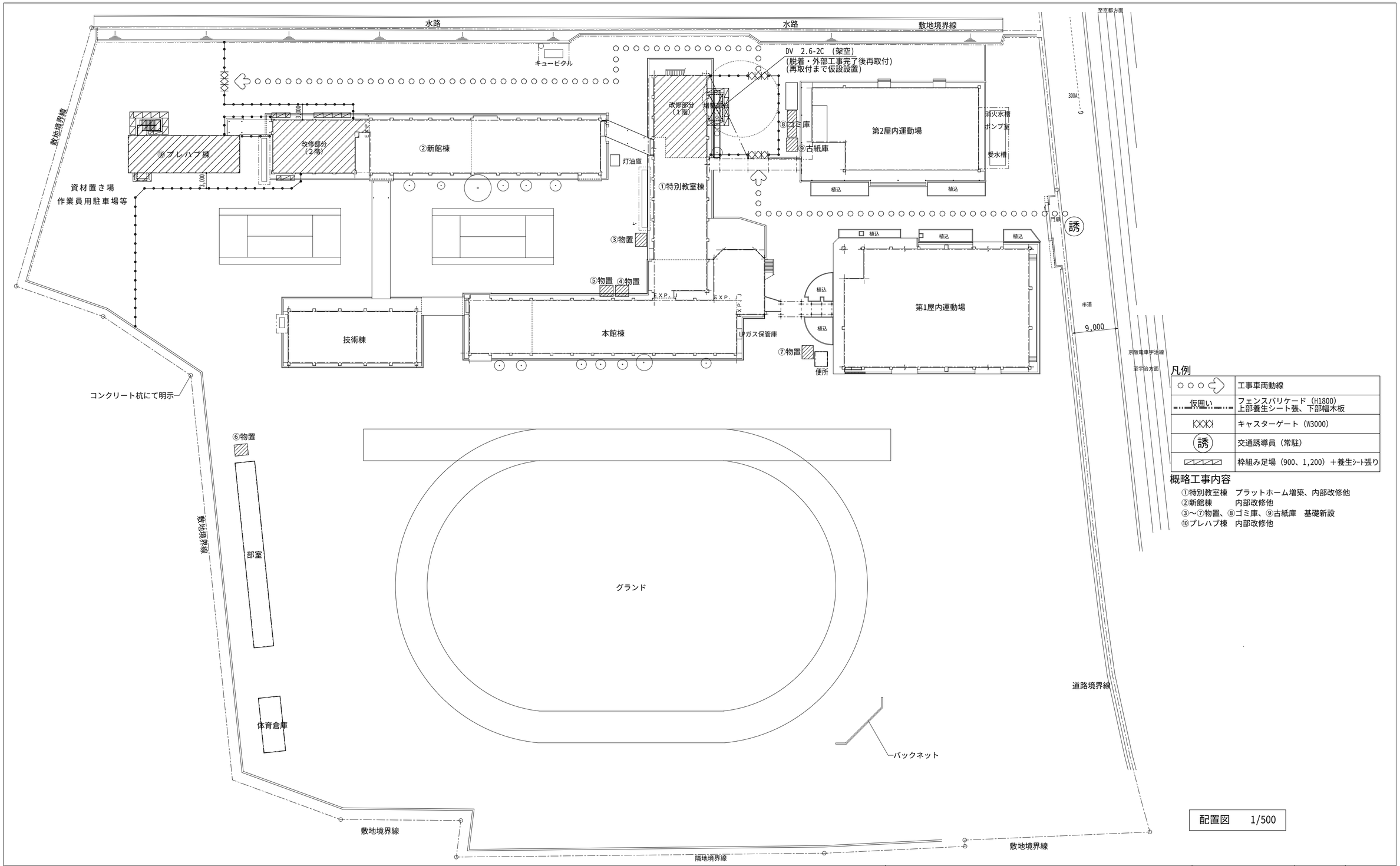
屋内露出型　【鋼板製】

1φ3W
100/200V

MCCB3P
100AF/60AT

VA	1100	美術室・準備室　電灯	MCCB1P　50AF20AT	100V	1		2	100V	MCCB1P　50AF20AT	美術室　電灯　換気扇		VA
VA	300	美術室(南)　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB1P　50AF20AT	100V	3		4	100V	MCCB1P　50AF20AT	美術室(北)　ｺﾝｾﾝﾄ	300	VA
VA	200	美術室(西)　ｺﾝｾﾝﾄ	MCCB1P　50AF20AT	100V	5		6	100V	MCCB1P　50AF20AT	準備室(北)　ｺﾝｾﾝﾄ	200	VA
VA		予　備	MCCB1P　50AF20AT	100V	7		8	100V	MCCB1P　50AF20AT	予　備		VA
VA		予　備	MCCB1P　50AF20AT	100V	9		10	100V	MCCB1P　50AF20AT	予　備		VA
VA	2970	美術室室　空調機　電源	MCCB2P　50AF20AT	200V	A			200V	MCCB2P　50AF20AT	予備		VA
VA		予備	HB型　2P1E20A	100V	13		14	100V	HB型　2P1E20A	予備		VA
VA		予備	HB型　2P1E20A	100V	15		16	100V	HB型　2P1E20A	予備		VA

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-03／23
ITEM 電灯分電盤リスト　(新設･改修･撤去)	SCALE 1/100		
米 杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



凡例

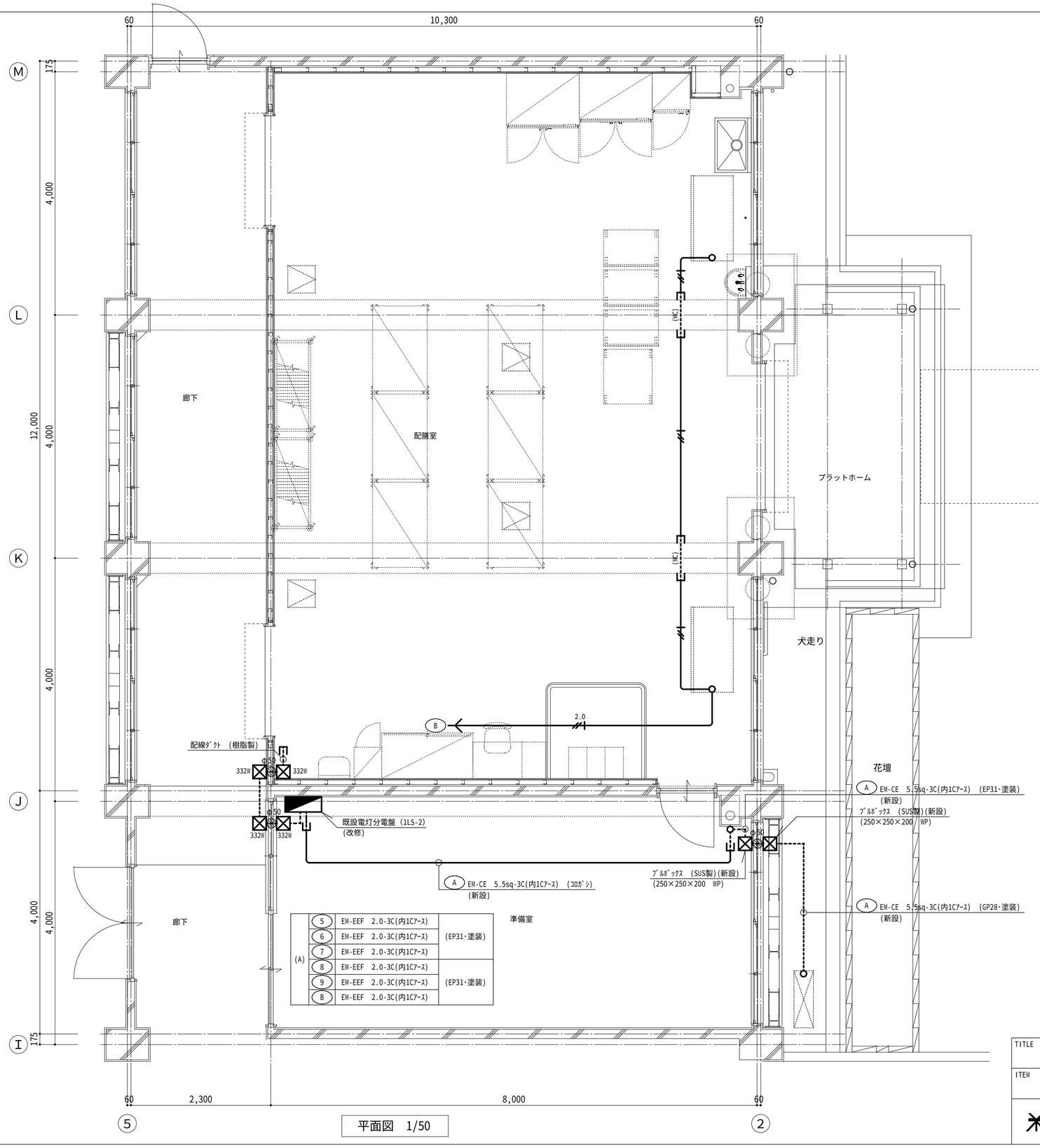
○○○⇨	工事車両動線
仮囲い	フェンスバリケード（H1800） 上部養生シート張、下部幅木板
KXXX	キャスターゲート（W3000）
誘	交通誘導員（常駐）
	枠組み足場（900、1,200）＋養生ｼｰﾄ張り

概略工事内容

①特別教室棟　プラットホーム増築、内部改修他
②新館棟　内部改修他
③～⑦物置、⑧ゴミ庫、⑨古紙庫　基礎新設
⑩プレハブ棟　内部改修他

配置図　1/500

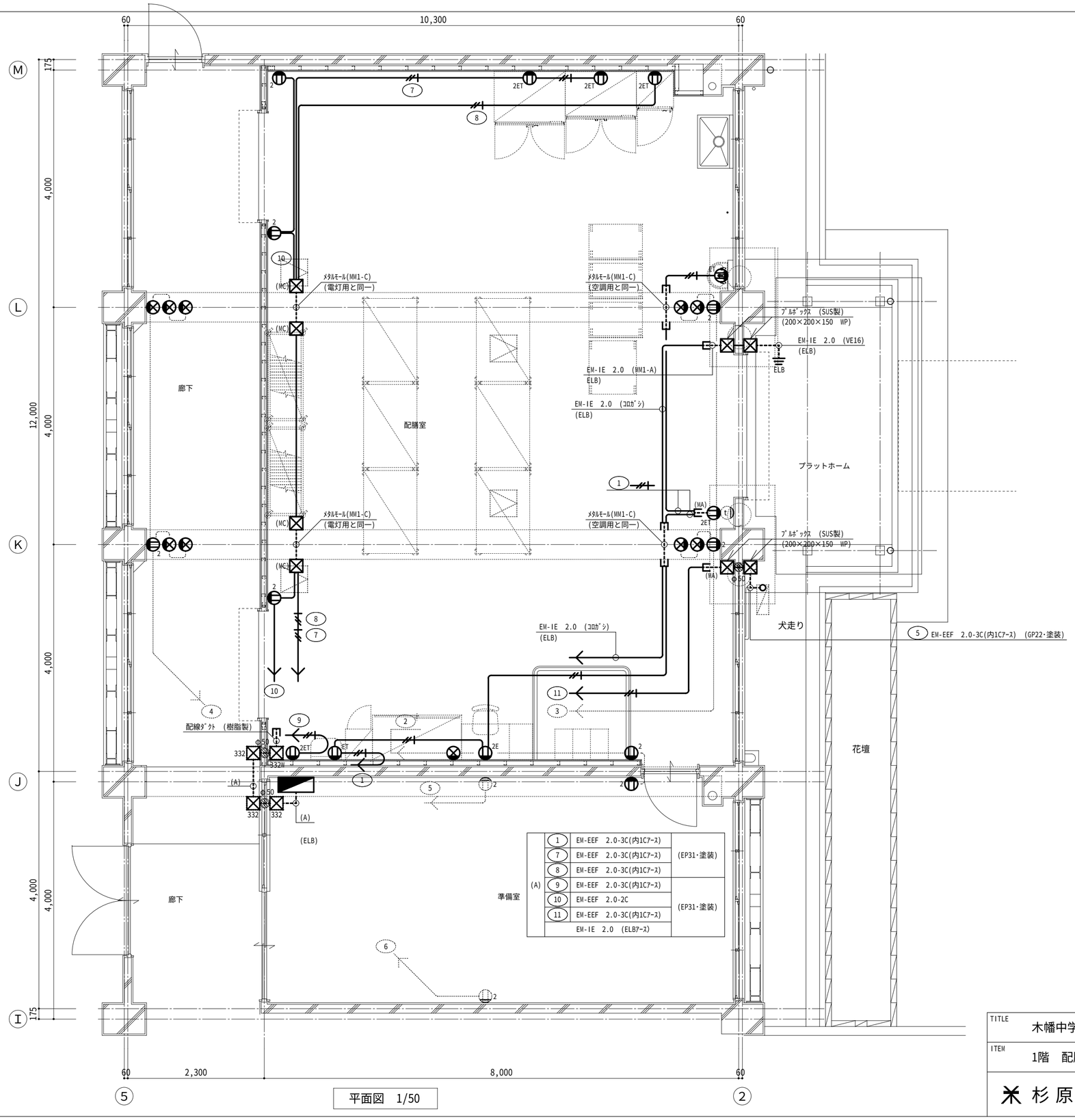
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-04／23
ITEM 電気設備　配置図	SCALE 1/500		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



平面図　1/50

凡　例		
1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。		
記　号	名　　称	備　　考
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2＋E　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1+ET　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2+ET　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型　(MM1-A)
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型　(MM1-B)
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型　(MM1-C)
332	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	300×300×200　（塗装）
	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	1連　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
φ50	壁貫通	φ50　（補修共）
	換気扇	機械設備工事
2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。		
———	EM-EEF　2.0-2C　(PF16)	
——//——	EM-EEF　2.0-3C(内1Cｱｰｽ)　(PF22)	
(MA)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ　A型　(MM1-A)	
(MB)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ　B型　(MM1-B)	
(MC)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ　C型　(MM1-C)	
特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。		
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。		
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。		
3.図中内に記載されている内容は下記とします。		
————	（存置）　既設配線及び既設器具そのまま	
（新設）	照明器具・配線器具・他　新設	

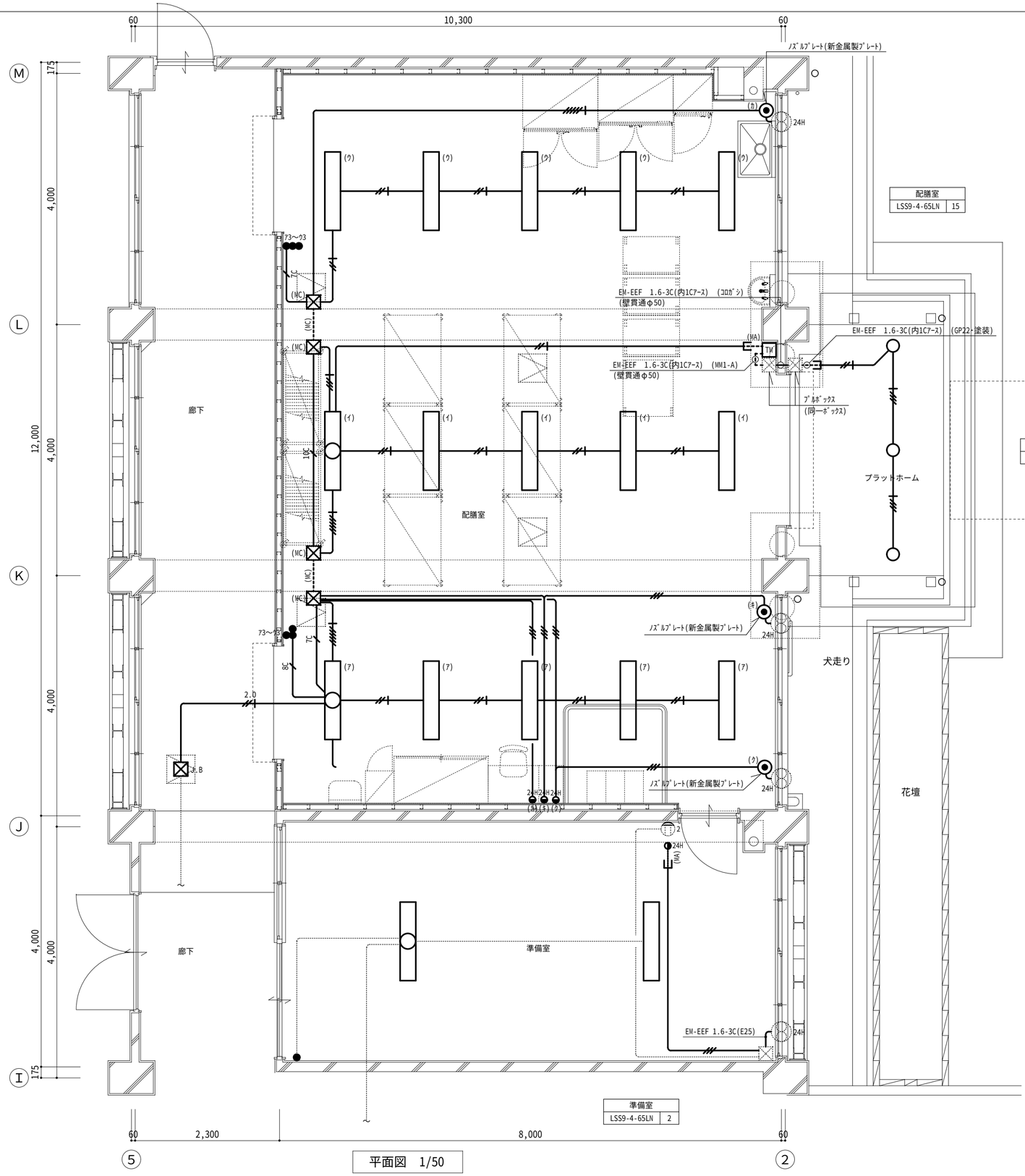
TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-05／23
ITEM 1階　配膳室　空調電源設備図　(改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



平面図 1/50

凡 例		
1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。		
記 号	名 称	備 考
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2+E (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1+ET (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
2ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2+ET (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型 (MM1-A)
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型 (MM1-B)
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型 (MM1-C)
332	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	300×300×200 (塗装)
332W	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	300×300×200 WP (SUS製)
	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	1連 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
φ50	壁貫通	φ50 (補修共)
	換気扇	機械設備工事
2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。		
EM-EEF 2.0-2C (PF16)		
EM-EEF 2.0-3C(内1C7ース) (PF22)		
(MA) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)		
(MB) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)		
(MC) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)		
特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。		
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。		
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。		
3.図中内に記載されている内容は下記とします。		
(存置) 既設配線及び既設器具そのまま		
(新設) 照明器具・配線器具・他 新設		

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-06/23
ITEM 1階 配膳室 コンセント設備図 (改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF DRAW



平面図　1/50

凡　例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記　号	名　　称	備　　考
●	埋込ｽｲｯﾁ	1P15A×1　ﾈｰﾑ付　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
●3	埋込ｽｲｯﾁ	3W15A×1　ﾈｰﾑ付　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
◐24H	24時間換気ｽｲｯﾁ	機械設備支給品
TM	24時間ﾀｲﾏｰ	24時間ﾀｲﾏｰ　（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　TB15601K同等品） （樹脂製ﾎﾞｯｸｽ内取付）
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型　（MM1-A）
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型　（MM1-B）
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型　（MM1-C）
φ50	壁貫通	φ50　（補修共）
	照明器具	LED直付型　（公共事業型番）
	照明器具	LEDﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ　（公共事業型番）

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

———	EM-EEF 1.6-2C	(PF16)
//////	EM-EEF 1.6-2C+3C	(PF22)
7C	EM-EEF 1.6-3C+2C×2	(PF28)
8C	EM-EEF 1.6-2C+3C×2	(PF28)
10C	EM-EEF 1.6-3C×2+2C×2	(PF28)
	EM-EEF 1.6-3C(内1C7ｰｽ)	(PF22)
	EM-EEF 1.6-2C×2(内1C7ｰｽ)	(PF22)　EM-EEF 1.6-3C (PF22)
	EM-EEF 1.6-2C+3C(内1C7ｰｽ)	(PF22)
	EM-EEF 1.6-3C×2(内1C7ｰｽ)	(PF22)
	EM-EEF 1.6-3C+2C×2(内1C7ｰｽ)	(PF28)
(MA)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ	A型　(MM1-A)
(MB)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ	B型　(MM1-B)
(MC)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ	C型　(MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

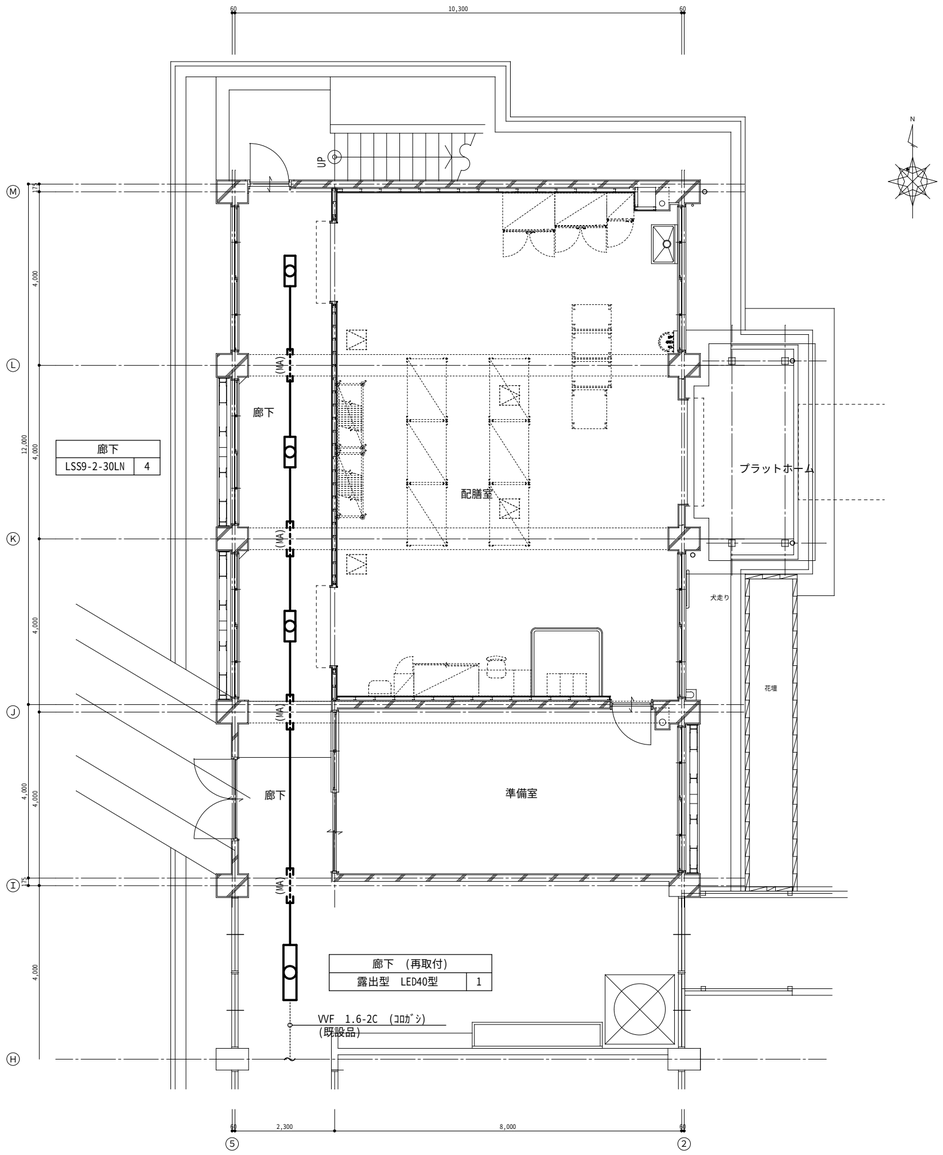
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

——————　（存置）　既設配線及び既設器具そのまま

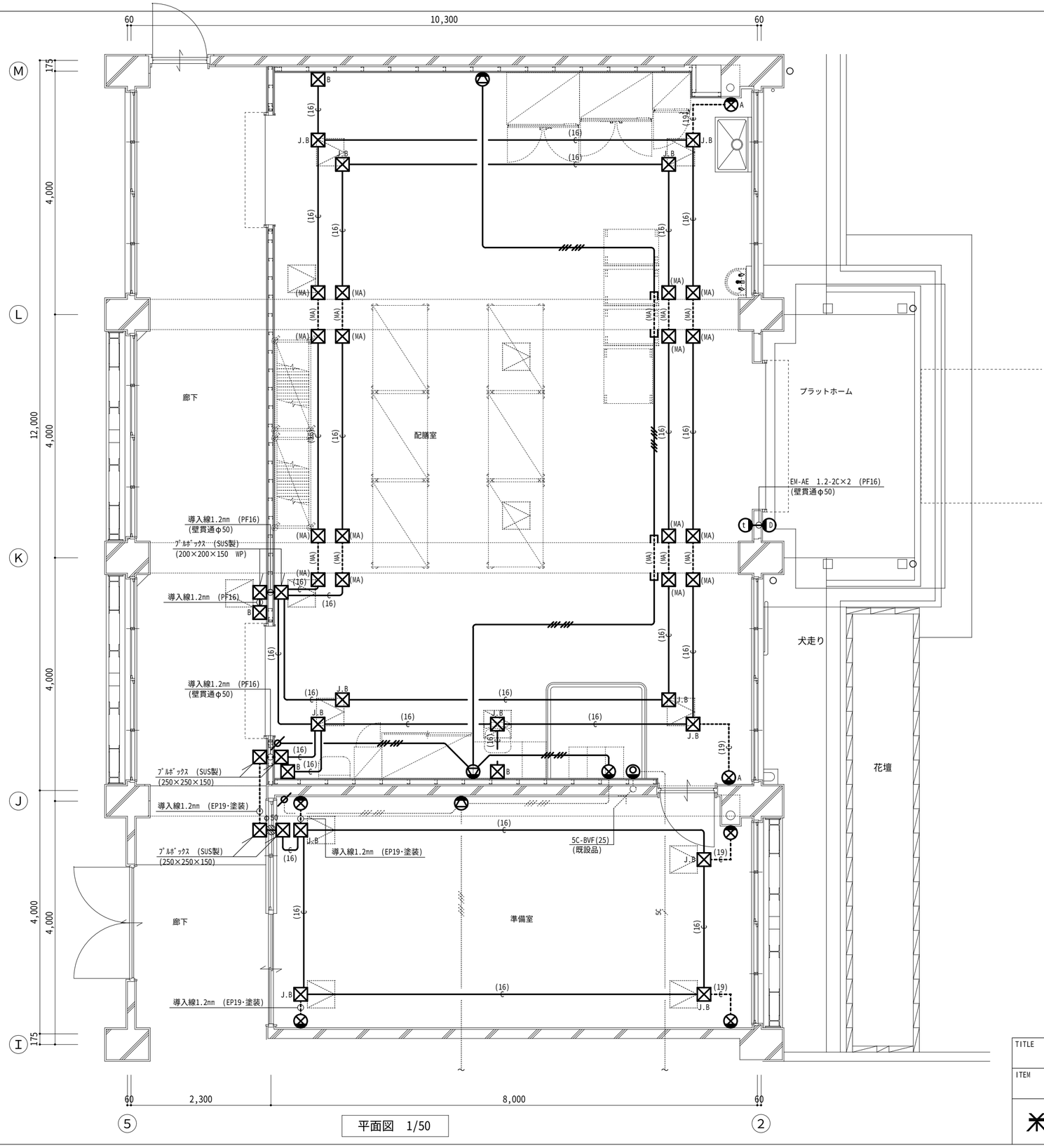
（新設）　照明器具・配線器具・他　新設

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-07／23
ITEM 1階　配膳室　電灯設備図　（改修）	SCALE 1/50		
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK	CHIEF　DRAW



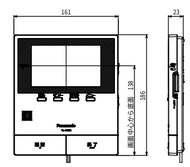
凡 例
1.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。
——— EM-EEF 1.6-2C (PF16)
(MA) ･･･ ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)
特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。
3.図中内に記載されている内容は下記とします。
——— (存置) 既設配線及び既設器具そのまま
(新設) 照明器具・配線器具・他 新設

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-08／23
ITEM １階 電灯設備図 (改修)		SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

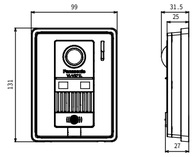


平面図 1/50

①	ﾃﾚﾋﾞﾄﾞｱﾎﾝ モニター親機 ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ VL-ME50K 同等品	ⓓ	ﾃﾚﾋﾞﾄﾞｱﾎﾝ カメラ玄関子機 ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ VL-V571L-S 同等品



定 格	AC100V (50/60Hz)
消費電力	待機時：約1.4 W、動作時：約8.5 W (約0.18 A)
質 量	約540 g
画面表示	約5型ワイドカラー液晶ディスプレイ



電源電圧	待ち受け時： DC約5V：DC 約5 V、動作時：DC 約20 V
消費電流	待機時：DC 約2 mA、動作時：DC約130 mA
質 量	約170g
外観色調	ステンシルバー
取付方法	露出型：JIS1 個用スイッチボックス適合

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
A	露出ﾎﾞｯｸｽ	角型 1方出 (塗装)
B	中継ﾎﾞｯｸｽ	4角44 中浅 (VE製)
J.B	中継ﾎﾞｯｸｽ	4角44 中浅 (VE製)
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛型
	ｱｯﾃﾈｰﾀ	1～6W
	ﾃﾚﾋﾞ端子	SH-7F (新金属製ﾌﾟﾚｰﾄ)
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型 (MM1-A)
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型 (MM1-B)
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型 (MM1-C)
φ50	壁貫通	φ50 (補修共)
	換気扇	機械設備工事

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

(16)	導入線 1.2㎜ (PF16)
(19)	導入線 1.2㎜ (EP19･塗装)
(MA)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)
(MB)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)
(MC)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

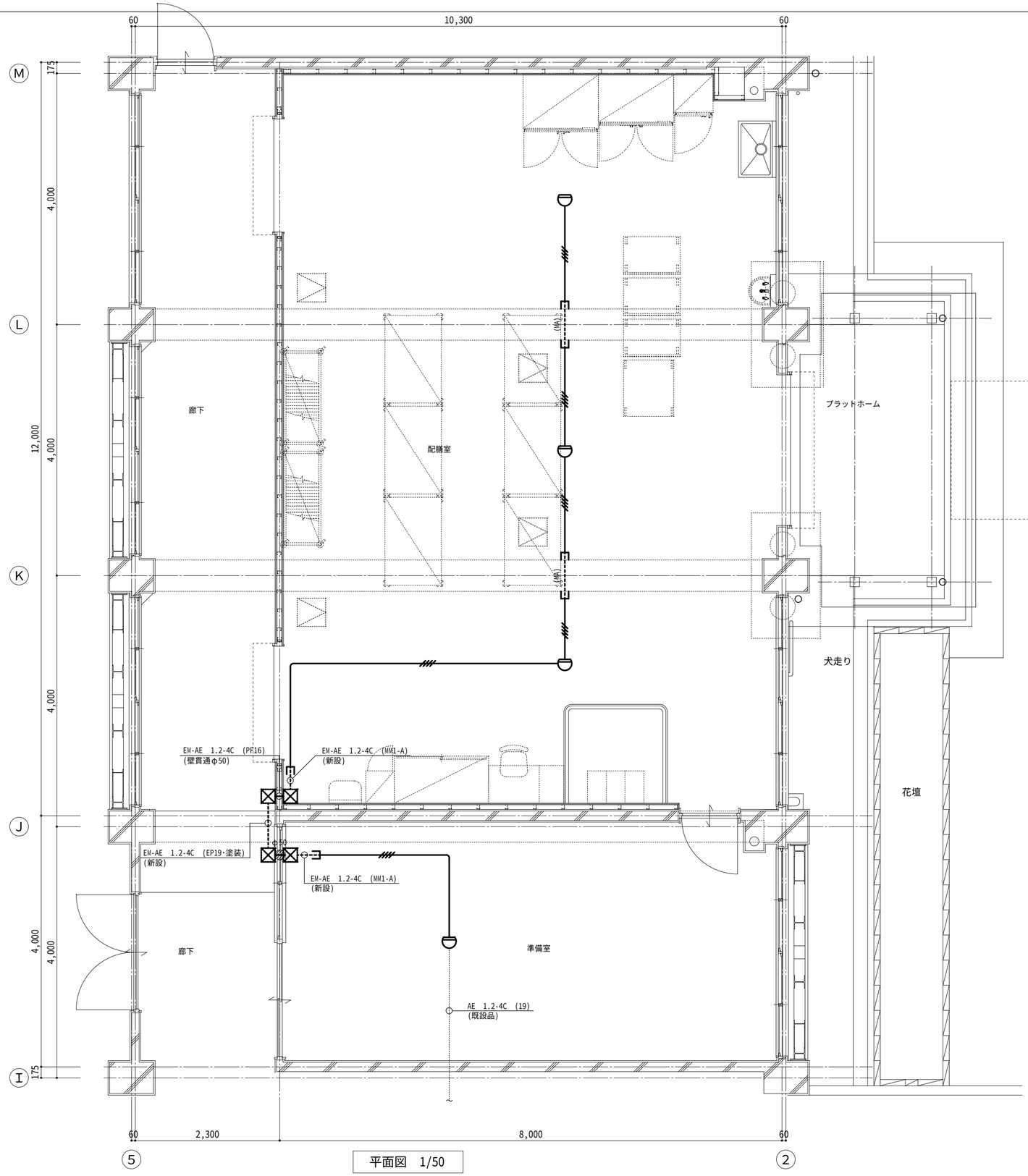
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

(存置)	既設配線及び既設器具品そのまま
(新設)	照明器具・配線器具・他 新設

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-09／23
ITEM 1階 配膳室 弱電設備図 (改修) (放送･テレビ共聴･緊急通報･機械警備･インターホン)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF DRAW



平面図 1/50

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
	感知器	差動式 2種 露出型
	感知器	定温式 特種 防水型

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

EM-AE 1.2-4C (PF16)

EM-AE 1.2-4C (EP19･塗装)

(MA) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)

(MB) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)

(MC) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

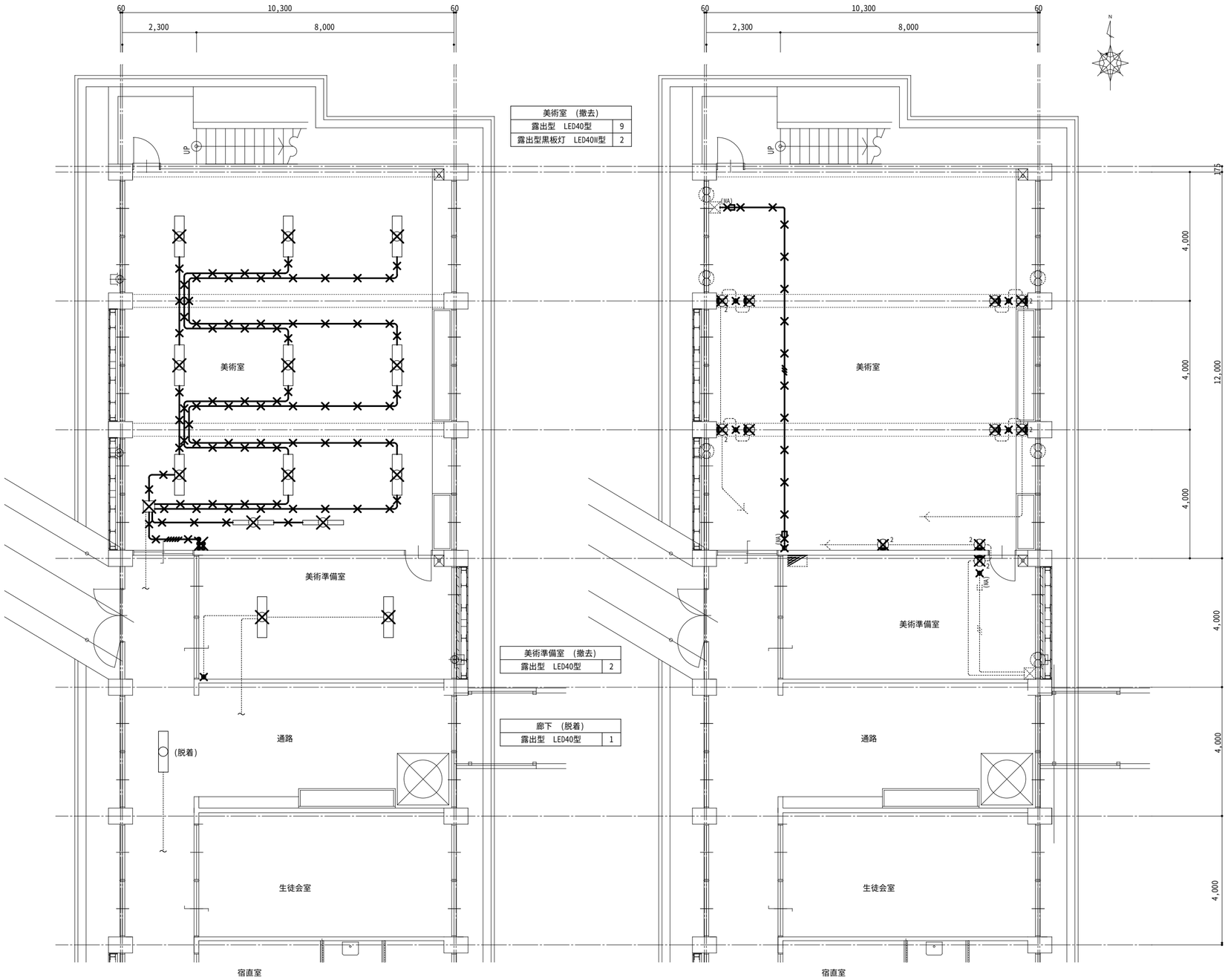
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

(存置) 既設配線及び既設器具そのまま

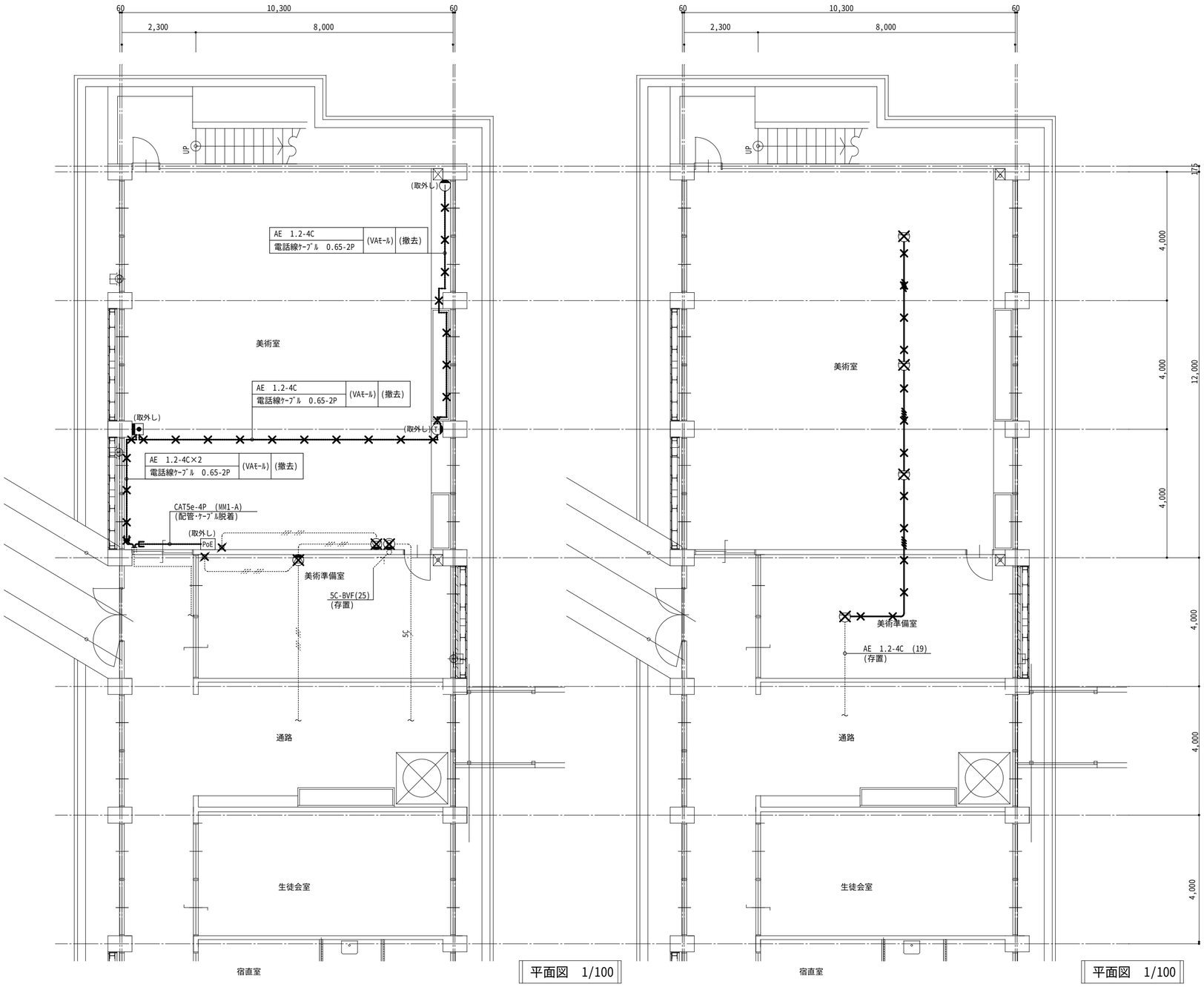
(新設) 照明器具・配線器具・他 新設

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-10／23
ITEM 1階 配膳室 自火報設備図 (改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF DRAW



凡　例		
1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。		
記　号	名　称	備　考
●	埋込ｽｲｯﾁ	1P15A×1　ﾈｰﾑ付　(新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
⊖	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1
⊖2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2
⊖3	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×3
⊗	換気扇	機械設備工事
2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。		
———	VVF　1.6-3C(内1Cｱｰｽ)	(19)
——//——	VVF　1.6-3C	(19)
——//——2	VVF　1.6-3C×2	(25)
- - - - - - - -	VVF　2.0-2C	(19)
3.図中内に記載されている内容は下記とします。		
———————	(存置)　既設配線及び既設器具品そのまま	
×	(撤去)　既設器具類を撤去	
4.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。		
5.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。		

TITLE　木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE　2025.03	WORK	NO.
ITEM　1階　電灯･コンセント設備図　(撤去)	SCALE　1/100	電	E-11／23
杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP　CHECK　CHIEF　DRAW		



N

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
	感知器	差動式 2種 露出型
	感知器	定温式 特種 防水型
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛型
	ｱｯﾃﾈｰﾀ	1～6W
	ﾃﾚﾋﾞ端子	1口
I	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	既設品取外し （保管・引渡し）
T	内線電話機	既設品取外し （保管・引渡し）
	緊急通報装置	既設品取外し （保管・引渡し）
PoE	PoEｽｲｯﾁ	既設品取外し （脱着）

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

AE	1.2-4C	(19)
HP	1.2-3C×2	(PF16)
AE	1.2-3C	(PF16)
5C EM-S-5C-FB		(PF16)

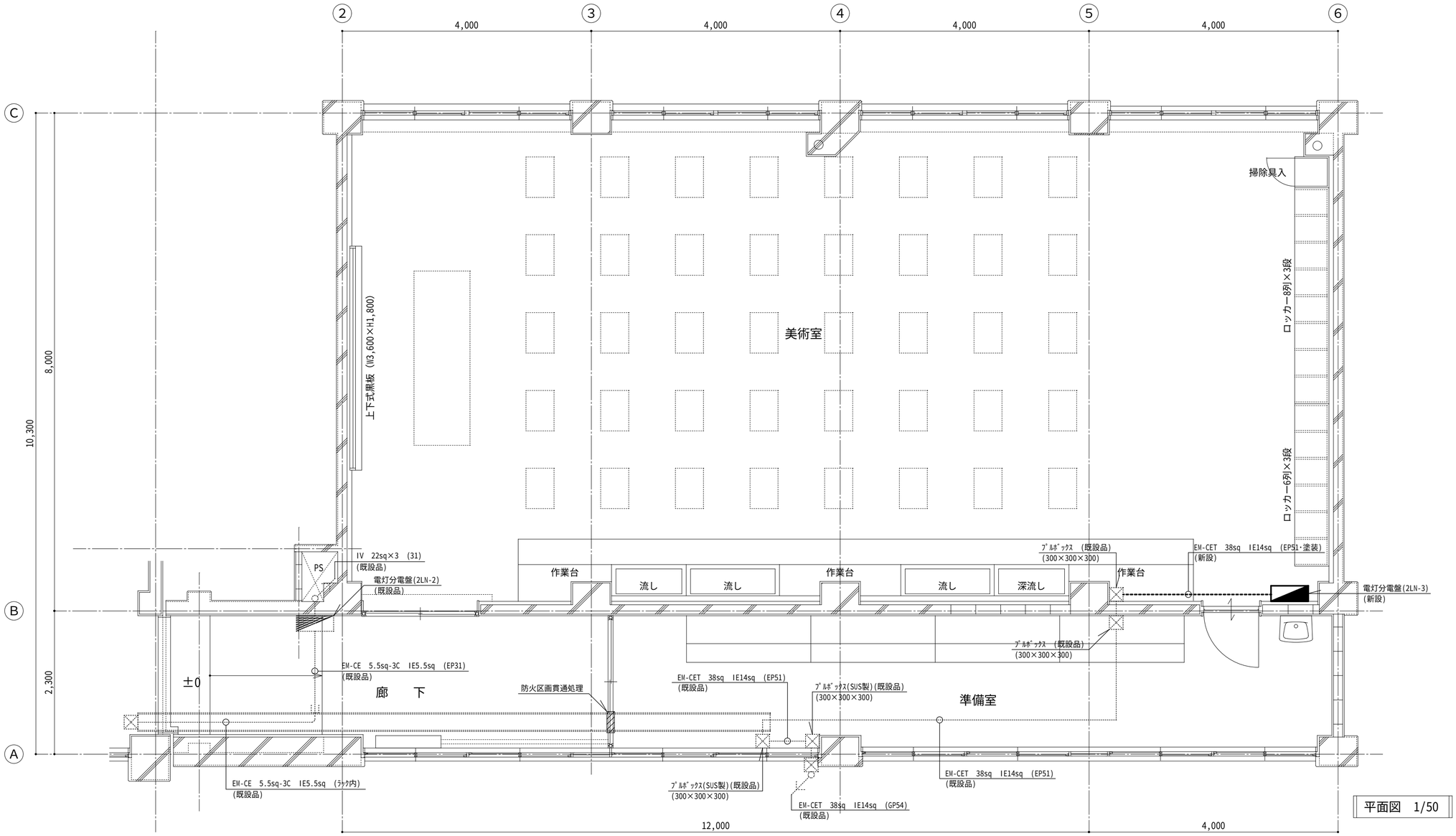
3.図中内に記載されている内容は下記とします。

（存置）	既設配線及び既設器具品そのまま
× （撤去）	既設器具類を撤去

4.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。

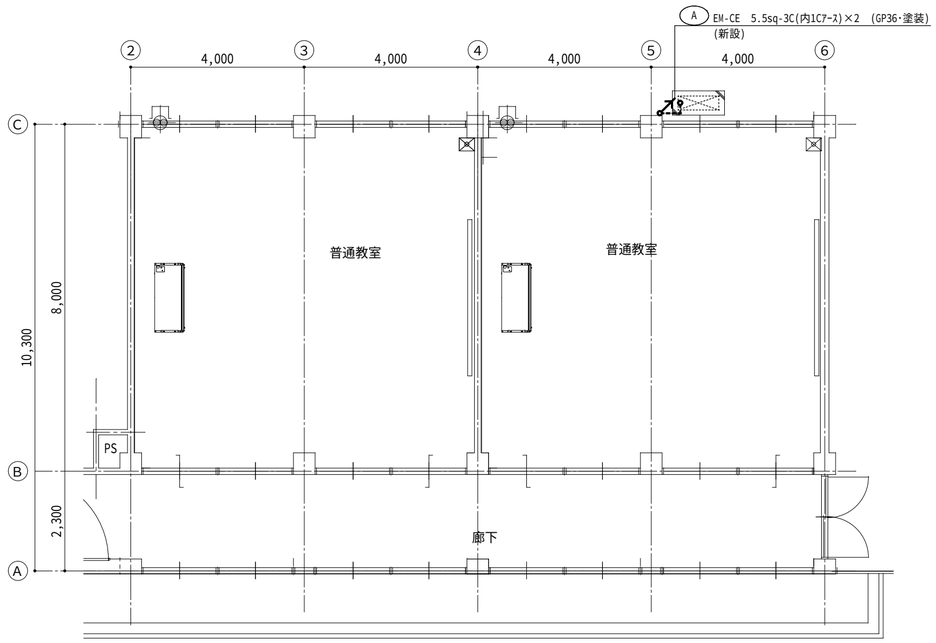
5.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-12／23
ITEM 1階 弱電･自火報設備図 （撤去）		SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF DRAW

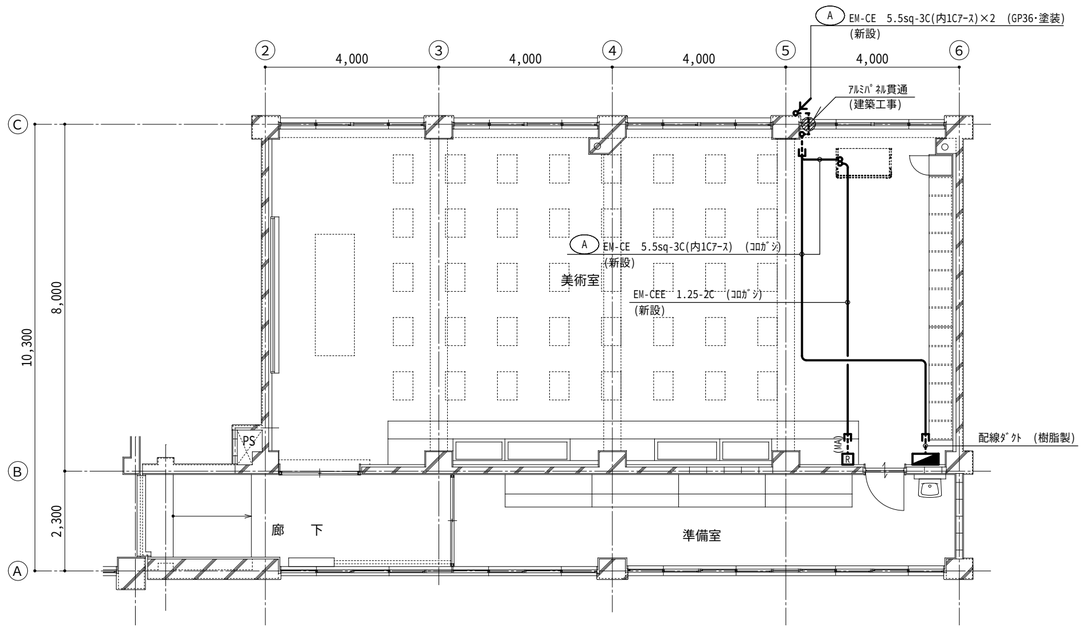


平面図 1/50

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電 / NO. E-13／23
ITEM 2階 美術室 幹線設備図 (改修)		SCALE 1/50	
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW

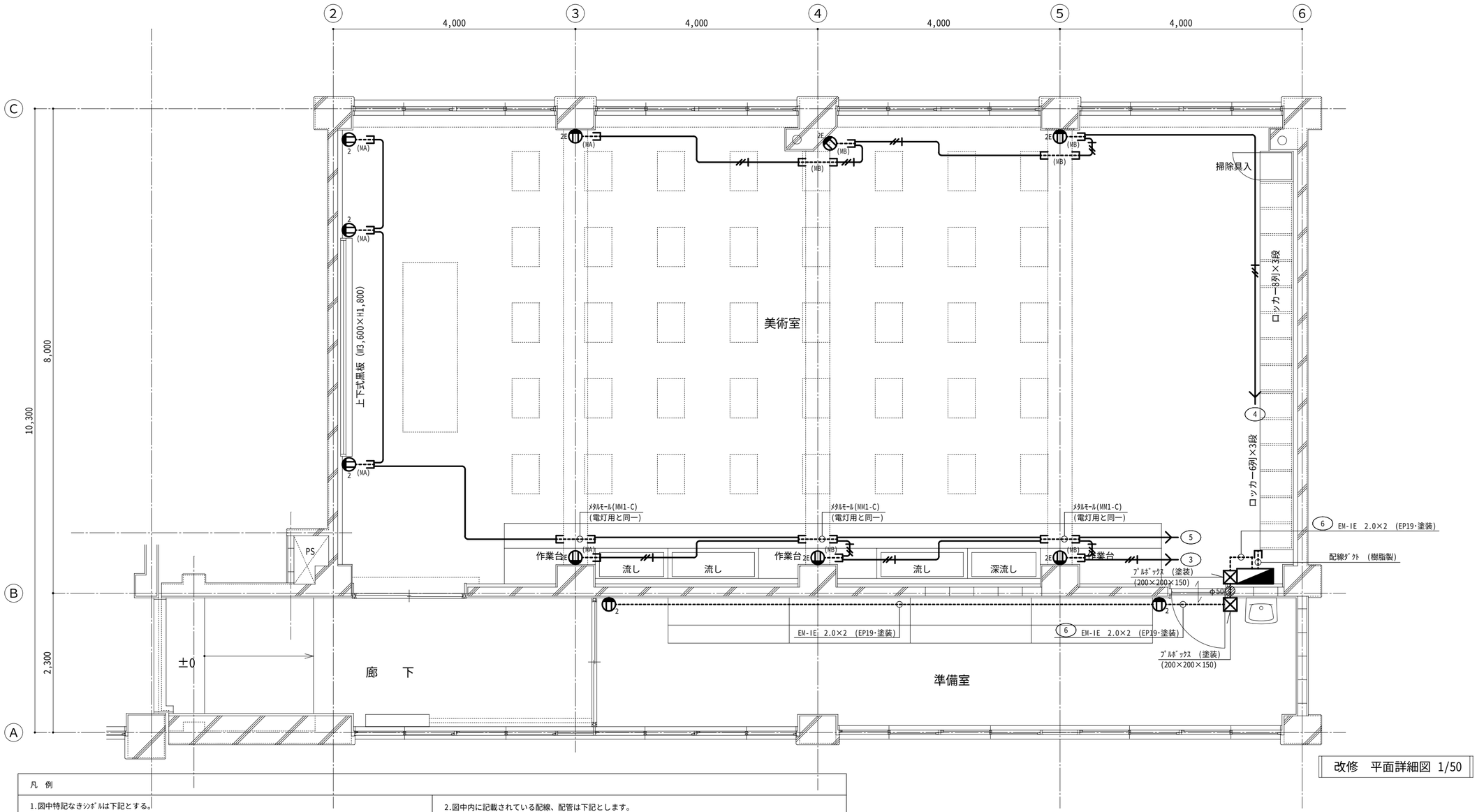


２階美術室　【改修図】　S＝1/100



２階美術室　【改修図】　S＝1/100

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-14／23
ITEM 2階　美術室　空調電源設備図　(改修)		SCALE 1/100		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



改修　平面詳細図 1/50

凡　例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記　号	名　称	備　考
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2＋E　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1+ET　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
2ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2+ET　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型　(MM1-A)
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型　(MM1-B)
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型　(MM1-C)
332	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	300×300×200　（塗装）
	ｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ	1連　（新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製）
φ50	壁貫通	φ50　（補修共）
	換気扇	機械設備工事

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

———	EM-EEF 2.0-2C	(PF16)
——//——	EM-EEF 2.0-3C(内1C7ｰｽ)	(PF22)
(MA)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)	
(MB)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)	
(MC)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)	

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

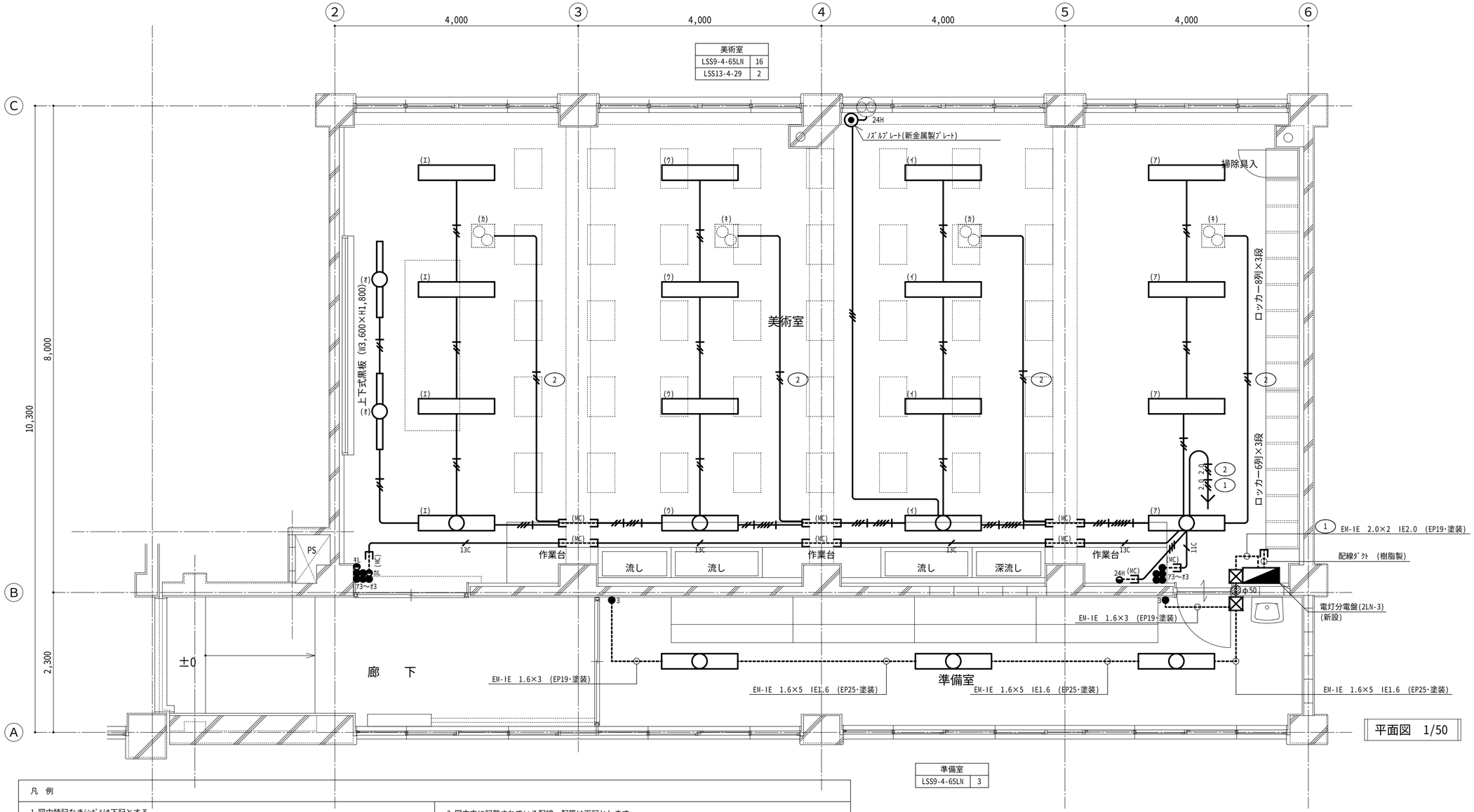
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

---------- (存置)	既設配線及び既設器具品そのまま
(新設)	照明器具・配線器具・他　新設

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-15／23
ITEM	2階　美術室　コンセント設備図　(改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK CHIEF	DRAW



準備室	
LSS9-4-65LN	3

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
●	埋込ｽｲｯﾁ	1P15A×1 ﾈｰﾑ付 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
● 3	埋込ｽｲｯﾁ	3W15A×1 ﾈｰﾑ付 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
◐ L	埋込ｽｲｯﾁ	PL15A×1 ﾈｰﾑ付 (新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
φ50	壁貫通	φ50 (補修共)
◐ 24H	24時間換気ｽｲｯﾁ	機械設備支給品

2.図中内に記載されている内容は下記とします。

(存置) 既設配線及び既設器具品そのまま

(新設) 照明器具・配線器具・他 新設

3.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

EM-EEF 1.6-3C(内1C7ｰｽ) (PF22)

EM-EEF 1.6-2C×2(内1C7ｰｽ) (PF22)

EM-EEF 1.6-3C×2(内1C7ｰｽ) (PF22)　EM-EEF 1.6-3C (PF22)

EM-EEF 1.6-3C×3(内1C7ｰｽ) (PF28)

11C EM-EEF 1.6-3C×3+2C (PF28)

13C EM-EEF 1.6-3C×3+2C×2 (PF28)

(MA) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)

(MB) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)

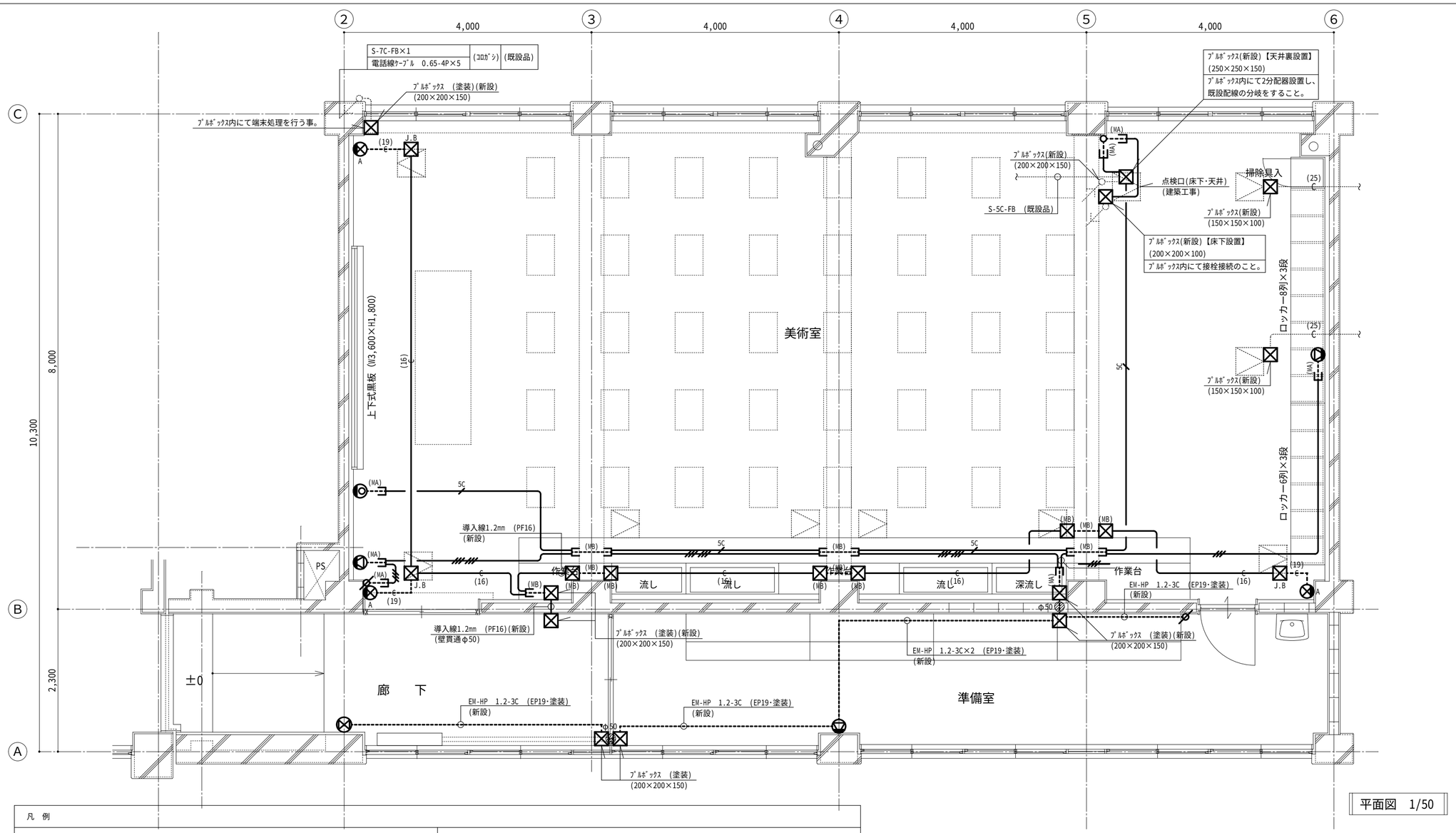
(MC) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-16/23
ITEM 2階 美術室 電灯設備図 (改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF / DRAW



平面図 1/50

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
	ﾃﾚﾋﾞ端子	SH-7FS
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛型
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛両面型
	ｱｯﾃﾈｰﾀ	1～6W
A	露出ﾎﾞｯｸｽ	角型 1方出 (塗装)
J.B	中継ﾎﾞｯｸｽ	4角44 中浅 (VE製)
(MA)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用A型 (MM1-A)
(MB)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用B型 (MM1-B)
(MC)	ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾎﾞｯｸｽ	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ用C型 (MM1-C)
φ50	壁貫通	φ50 (補修共)
	換気扇	機械設備工事

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

	EM-HP 1.2-3C	(PF16)
5C	EM-S-5C-FB	(PF16)
(16)	導入線 1.2mm	(PF16)
(19)	導入線 1.2mm	(EP19･塗装)
(MA)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型	(MM1-A)
(MB)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型	(MM1-B)
(MC)	ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型	(MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

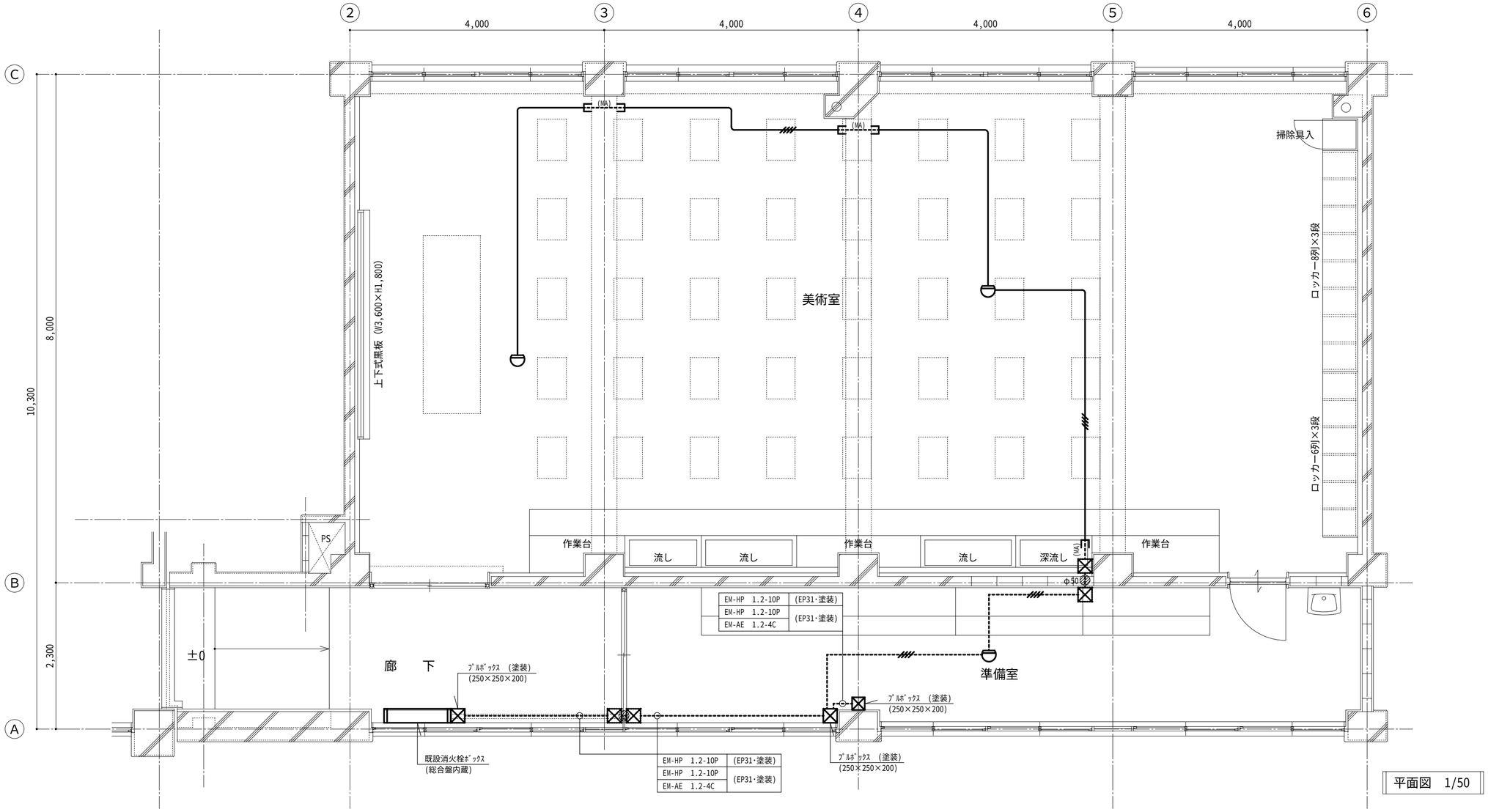
防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

(存置) 既設配線及び既設器具品そのまま

(新設) 照明器具・配線器具・他 新設

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-17/23
ITEM 2階 美術室 放送･テレビ共聴設備図 (改修)	SCALE 1/50		
杉原設計事務所 1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF DRAW



平面図 1/50

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
	感知器	差動式 2種 露出型
	感知器	定温式 特種 防水型

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

- EM-AE 1.2-4C (PF16)
- EM-AE 1.2-4C (EP19･塗装)
- (MA) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ A型 (MM1-A)
- (MB) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ B型 (MM1-B)
- (MC) ﾒﾀﾙﾓｰﾙ C型 (MM1-C)

特記なき、二重天井内はすべて転がし配線します。

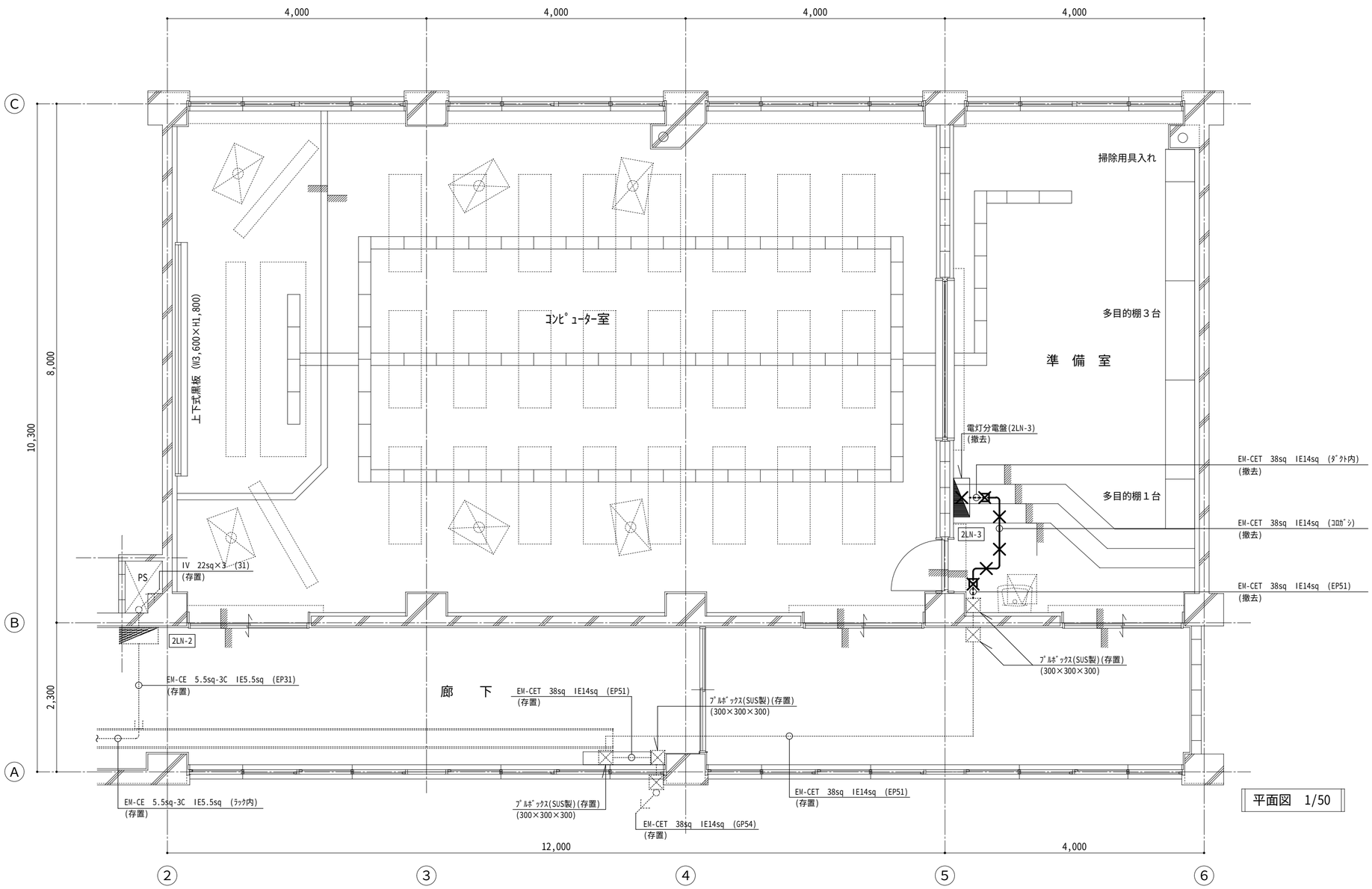
但し、間仕切壁部分はケーブル保護の為、全てＰＦ管を使用する事。

防火区画、隔壁貫通部は、国土交通大臣認定及び消防性能評定認定キットの使用し、区画処理を施す事。

3.図中内に記載されている内容は下記とします。

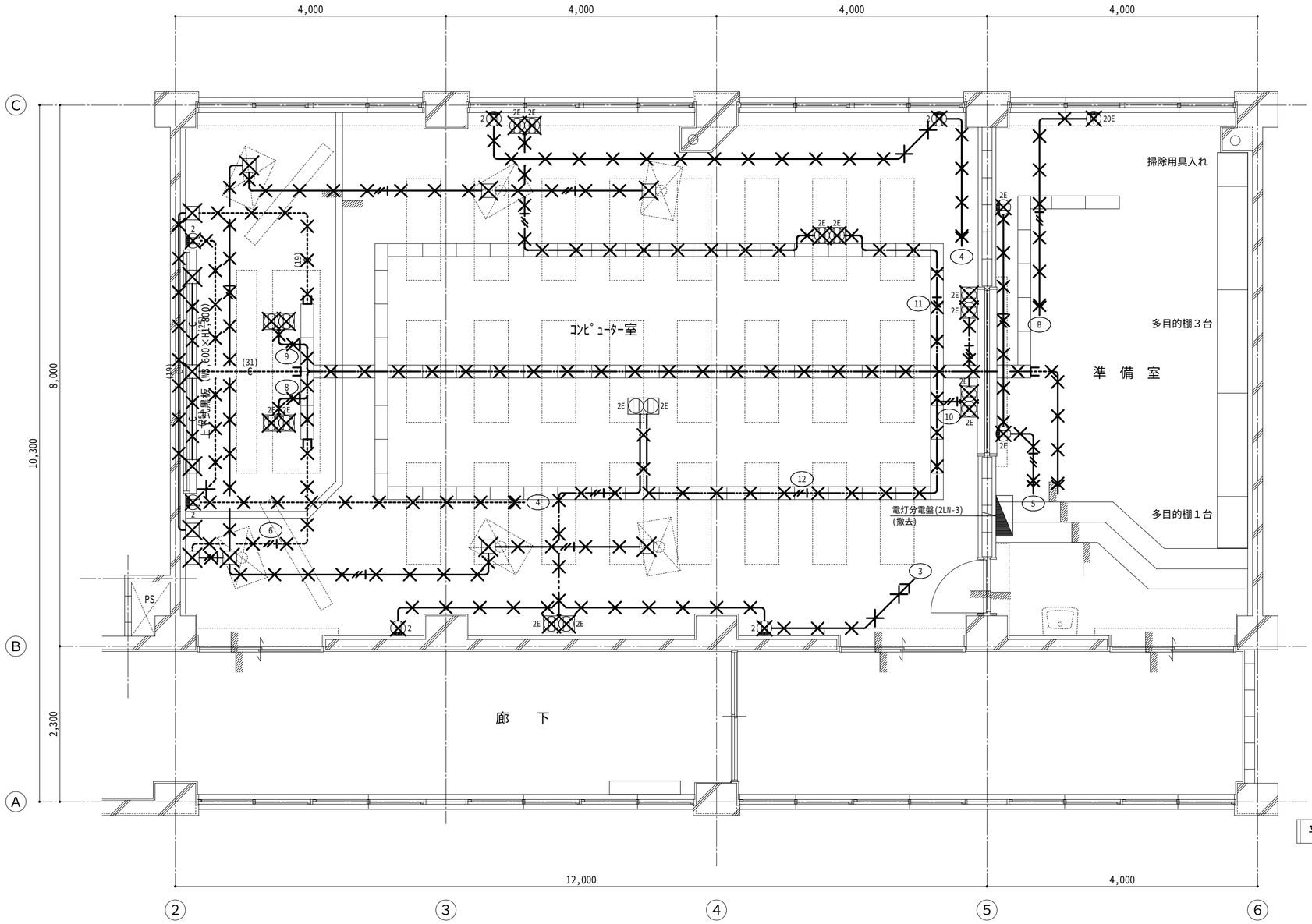
- (存置) 既設配線及び既設器具品そのまま
- (新設) 照明器具・配線器具・他 新設

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電
ITEM	2階 美術室 自火報設備図 (改修)	SCALE 1/50	NO. E-18／23
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW



平面図　1/50

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-19／23
ITEM 2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　幹線設備図　(撤去)	SCALE 1/50		
米 杉原設計事務所　1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP　CHECK　CHIEF　DRAW		



平面図　1/50

現況　平面詳細図　1/50

凡　例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記　号	名　称	備　考
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×3
20E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P20A×1+E
	中継ﾎﾞｯｸｽ	4角44　中浅

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

- VVF　2.0-3C(内1Cｱｰｽ)　(ｺﾛｶﾞｼ)
- VVF　2.0-3C(内1Cｱｰｽ)　(25)
- C　空配管　(19)
- C　空配管　(25)
- C　空配管　(31)

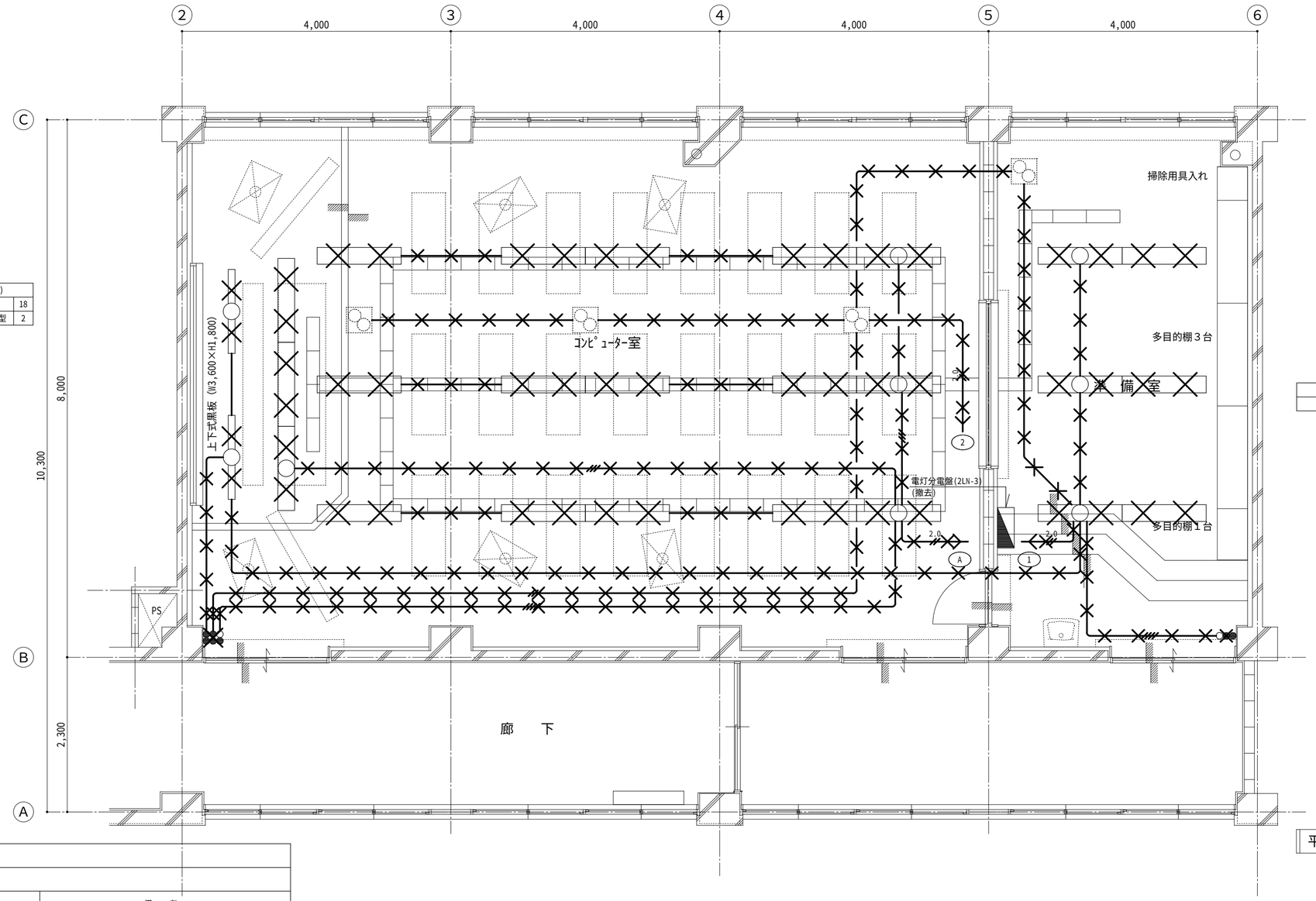
3.図中内に記載されている内容は下記とします。

- ――――　(存置)　既設配線及び既設器具品そのまま
- ×　(撤去)　既設器具類を撤去

4.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。

5.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE 2025.03	WORK 電
ITEM	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　コンセント設備図　(撤去)	SCALE 1/50	NO. E-20／23
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP　CHECK　CHIEF　DRAW	



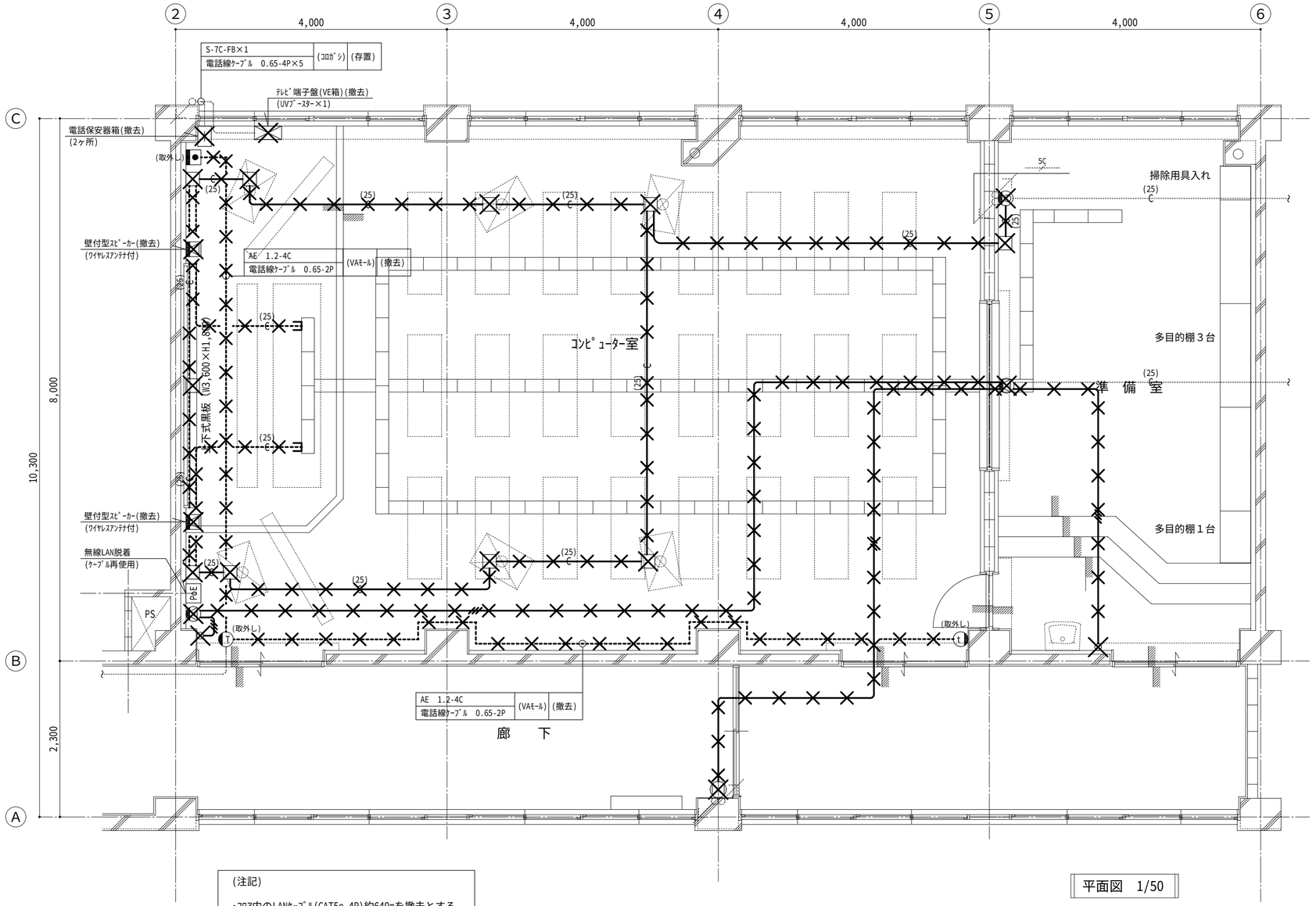
視聴覚室　(撤去)	
露出型　LED40型	18
露出型黒板灯　LED40W型	2

準備室　(撤去)	
露出型　LED40型	6

平面図　1/50

凡　例		
1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。		
記　号	名　称	備　考
●	埋込ｽｲｯﾁ	1P15A×1　ﾈｰﾑ付　(新金属ﾌﾟﾚｰﾄ製)
2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。		
———	VVF　1.6-3C(内1Cｱｰｽ)　(19)	
——//——	VVF　1.6-2C　(19)	
——///——	VVF　1.6-3C　(19)	
——////——	VVF　1.6-4C　(25)	
3.図中内に記載されている内容は下記とします。		
———————	(存置)　既設配線及び既設器具類そのまま	
×	(撤去)　既設器具類を撤去	
3.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。		
4.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。		

TITLE	木幡中学校配膳室設置ほか工事	DATE	2025.03	WORK 電
ITEM	2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　電灯設備図　(撤去)	SCALE	1/50	NO. E-21／23
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP	CHECK / CHIEF / DRAW	



（注記）

・ﾌﾛｱ内のLANｹｰﾌﾞﾙ(CAT5e-4P)約640mを撤去とする。

平面図 1/50

凡 例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。

記 号	名 称	備 考
	ﾃﾚﾋﾞ端子	SH-7FS
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛型
	ｽﾋﾟｰｶｰ	壁掛両面型
	ｱｯﾃﾈｰﾀ	1～6W
	中継ﾎﾞｯｸｽ	4角44 中浅
I	ｲﾝﾀｰﾎﾝ	既設品取外し（保管・引渡し）
T	内線電話機	既設品取外し（保管・引渡し）
	緊急通報装置	既設品取外し（保管・引渡し）
PoE	PoEｽｲｯﾁ	既設品取外し（脱着）

2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。

HP 1.2-3C		(19)
5C	S-5C-FB	(19)
C	空配管	(19)
C	空配管	(25)
C	空配管	(31)

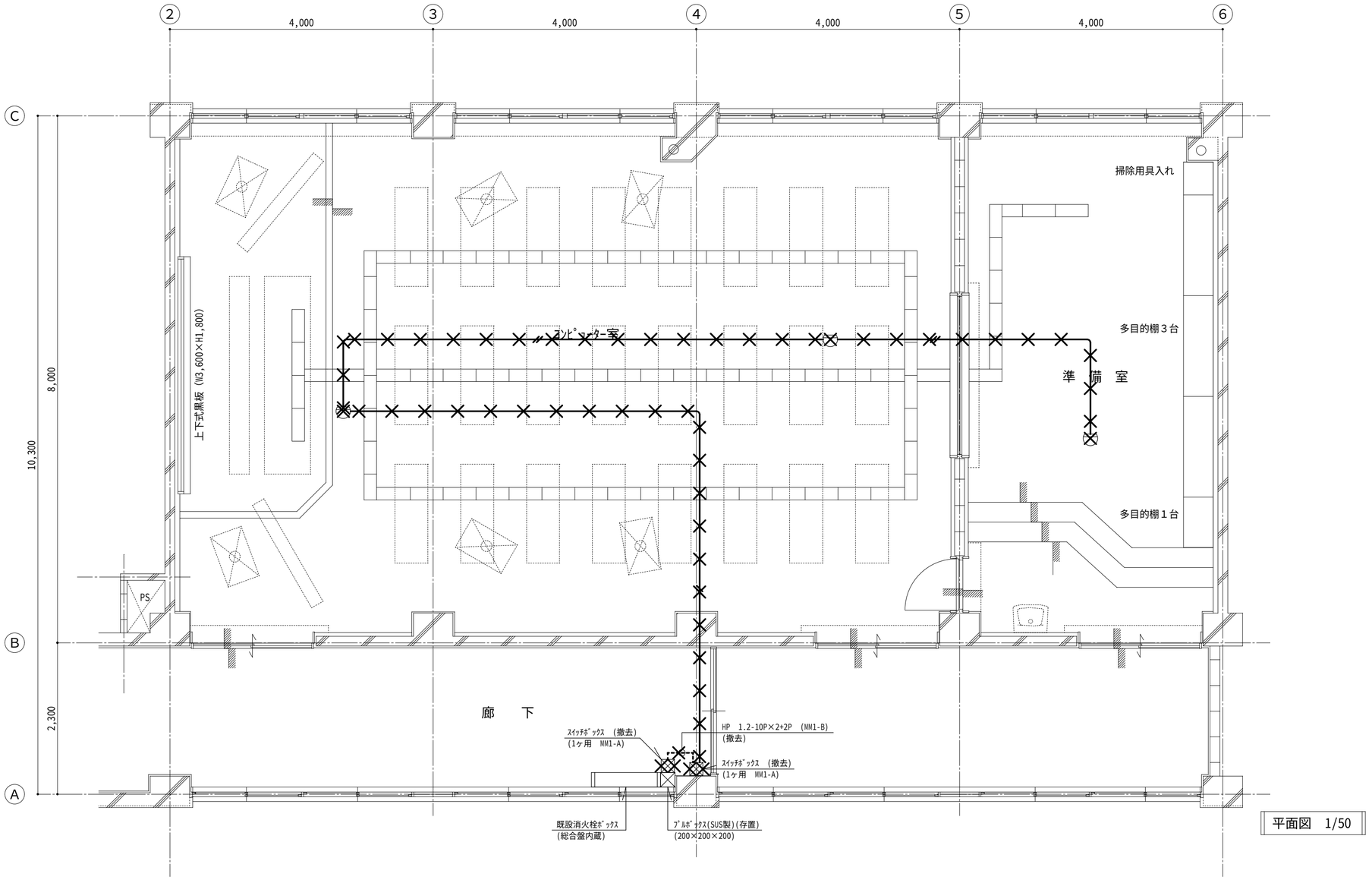
3.図中内に記載されている内容は下記とします。

―――	(存置) 既設配線及び既設器具品そのまま
×	(撤去) 既設器具類を撤去

4.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。

5.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電	NO. E-22／23
ITEM 2階 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室 放送･テレビ共聴設備図 （撤去）		SCALE 1/50		
杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上 哲生	INSP	CHECK	CHIEF	DRAW

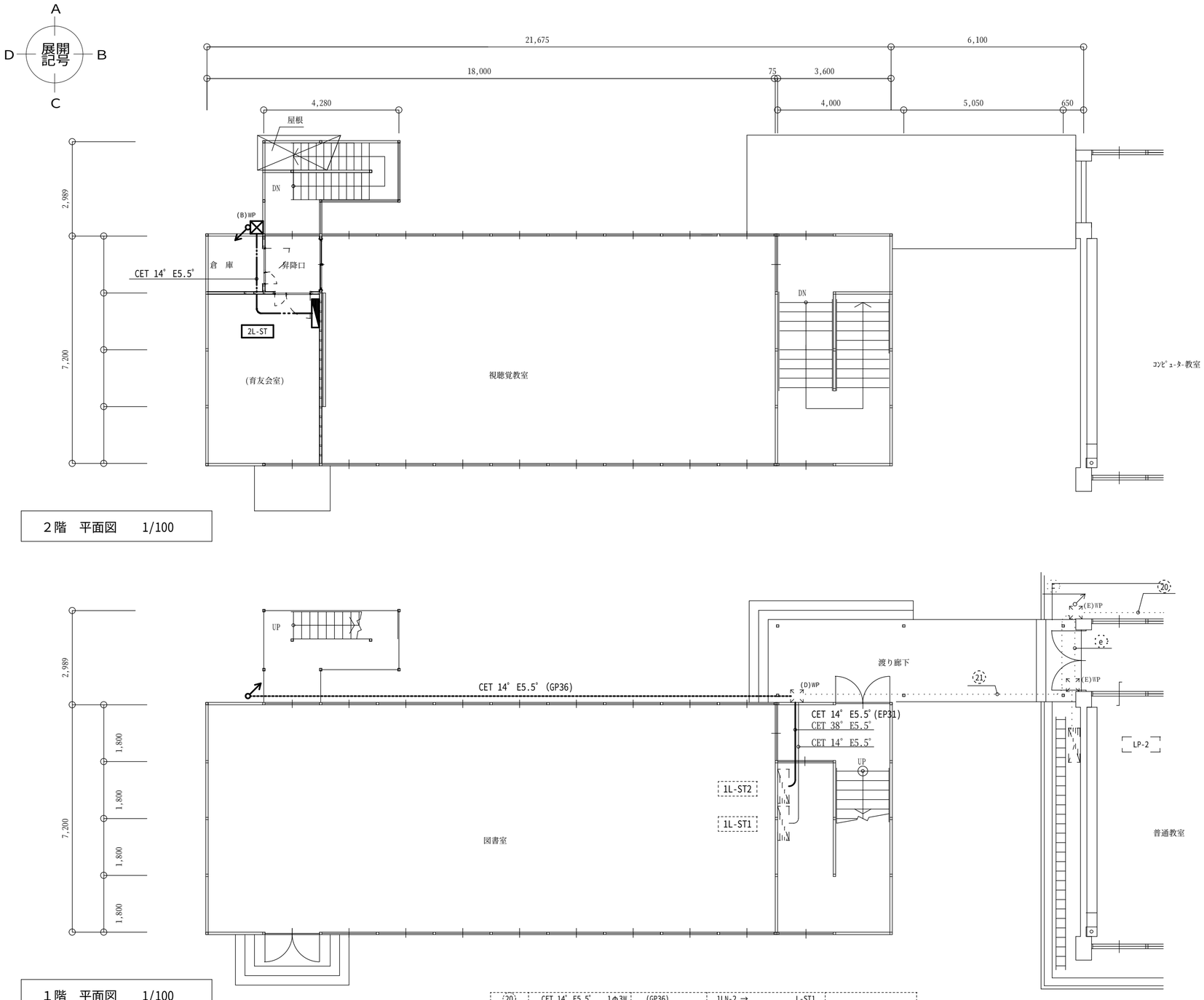


平面図　1/50

凡　例

1.図中特記なきｼﾝﾎﾞﾙは下記とする。			2.図中内に記載されている配線、配管は下記とします。
記　号	名　称	備　考	AE　1.2-2C　(19)
▽	感知器	差動式　2種　露出型	3.図中内に記載されている内容は下記とします。
▽	感知器	定温式　特種　防水型	(存置)　既設配線及び既設器具品そのまま
			×　(撤去)　既設器具類を撤去
			4.撤去工事前には、現地調査を行い監督員との調整の上、撤去工事を行うこと。
			5.図中内記載無き、配管、配線は可能な限り撤去を行い、分別して処分を行うこと。

TITLE 木幡中学校配膳室設置ほか工事		DATE 2025.03	WORK 電
ITEM 2階　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ室　自火報設備図　(撤去)		SCALE 1/50	NO. E-23／23
米 杉原設計事務所	1級建築士 第293338号 村上　哲生	INSP CHECK	CHIEF DRAW



⑳	CET 14° E5.5°	1φ3W	(GP36)		1LN-2 →	L-ST1	露出配管配線
	CET 38° E5.5°	1φ3W	(GP54)	L7	図書室空調	L-ST2	
	CET 22°	1φ3W	(GP42)	L12			
	CET 22°	3φ3W	(GP42)	M10			
	CPEES 0.9-2C		(GP28)	ﾘﾓｺﾝ	GHP空調機間渡り配線		
	予備		(GP54)				
㉑	CET 14° E5.5°	1φ3W	(GP36)		1LN-2 →	L-ST1	露出配管配線
	CET 38° E5.5°	1φ3W	(GP54)	L7	図書室空調	L-ST2	
ⓔ	CET 22°	1φ3W	(GP42)	L12	北校舎棟空調盤	LP-2	
	CET 22°	3φ3W	(GP42)	M10	北校舎棟空調盤	LP-2	
㉓	EM-CE3.5-3C(1E) 1φ2W		(GP36)	402		LP-2	露出配管配線
	EM-CE3.5-3C(1E) 1φ2W			403		LP-2	

⊠(B) P,BOX SS 200×200×200 SUS WPは防水仕様
⊠(D) P,BOX SS 300×300×300 SUS WPは防水仕様

配管・配線

————	天井埋込
— —	床埋込
----------	露出
——·——	地中埋設
——··——	ころがし配線

盤名称 盤形式：1L-ST1 ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ棟 既設

主回路：AC1φ3W 100/200V — EM-CET 14° — ELB 3P 50/50A — Σ=6.57 KVA — ED

回路	負荷名称	負荷容量(VA)	MCB	ELB	P	AF	AT	電圧
					3	50	40	200/100
1	既設		○		2	30	20	100
2	既設		○		2	30	20	〃
3	既設		○		2	30	20	〃
4	既設		○		2	30	20	〃
5	既設		○		2	30	20	〃
6	既設		○		2	30	20	〃
7	既設		○		2	30	20	〃
8	既設		○		2	30	20	〃

盤名称 盤形式：1L-ST2 ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ棟 既設

主回路：AC1φ3W 100/200V — L7 — CET38° — ELB 3P 100/100A — Σ= 9.32 KVA — 2L-ST — EM-CET 14° — ED

回路	負荷名称	負荷容量(VA)	MCB	ELB	P	AF	AT	電圧
1	既設ｴｱｺﾝ	2330	◌		2	30	30	200
2	既設ｴｱｺﾝ	2330	◌		2	30	30	〃
3	既設ｴｱｺﾝ	2330	◌		2	30	30	〃
4	既設ｴｱｺﾝ	2330	◌		2	30	30	〃
5	予備		◌		2	30	30	〃
6	予備		◌		2	30	30	〃
7	予備		◌		2	30	20	100
8	予備		◌		2	30	20	〃
9	予備		◌		2	30	20	〃
10	予備		◌		2	30	20	〃
11	予備		◌		2	30	20	〃
12	予備		◌		2	30	20	〃

盤名称 盤形式：2L-ST ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ棟 新設

主回路：AC1φ3W 100/200V — EM-CET 14° — ELB 3P 50/50A — Σ= 6.14 KVA — ED

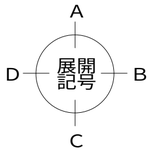
屋内露出 壁掛形
メーカー標準品
組み換え

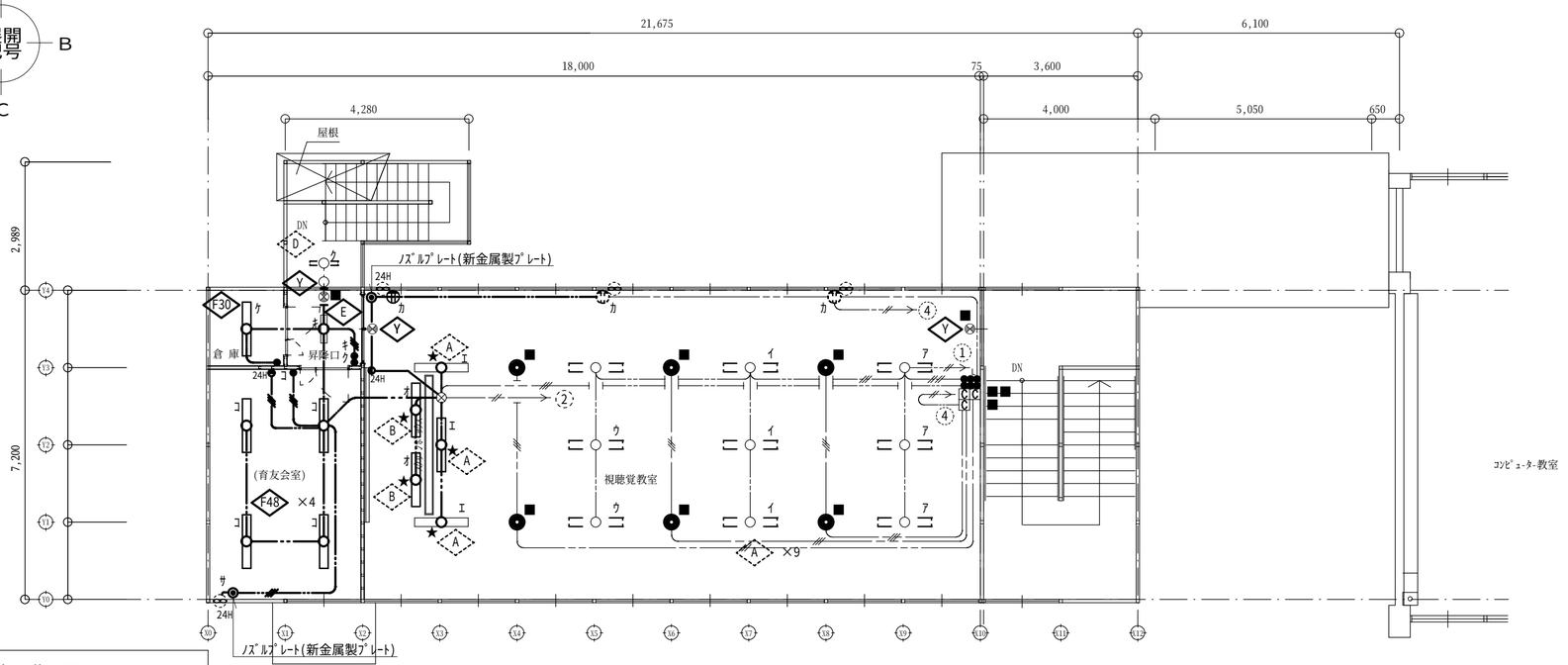
回路	負荷名称	負荷容量(VA)	MCB	ELB	P	AF	AT	電圧
301	育友会室 ｺﾝｾﾝﾄ	300	○		2	30	30	100
302	育友会室 ｺﾋﾟｰ機	1500	○		2	30	20	〃
303	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	1500	○		2	30	20	〃
	予備		○		2	30	20	〃
	予備		○		2	30	20	〃
	予備		○		2	30	20	〃
401	育友会室ｴｱｺﾝ	2840	○		2	30	20	200
	予備		○		2	30	20	〃

足立建築工房 一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL (0774) 33−6022 FAX (0774) 33−6040

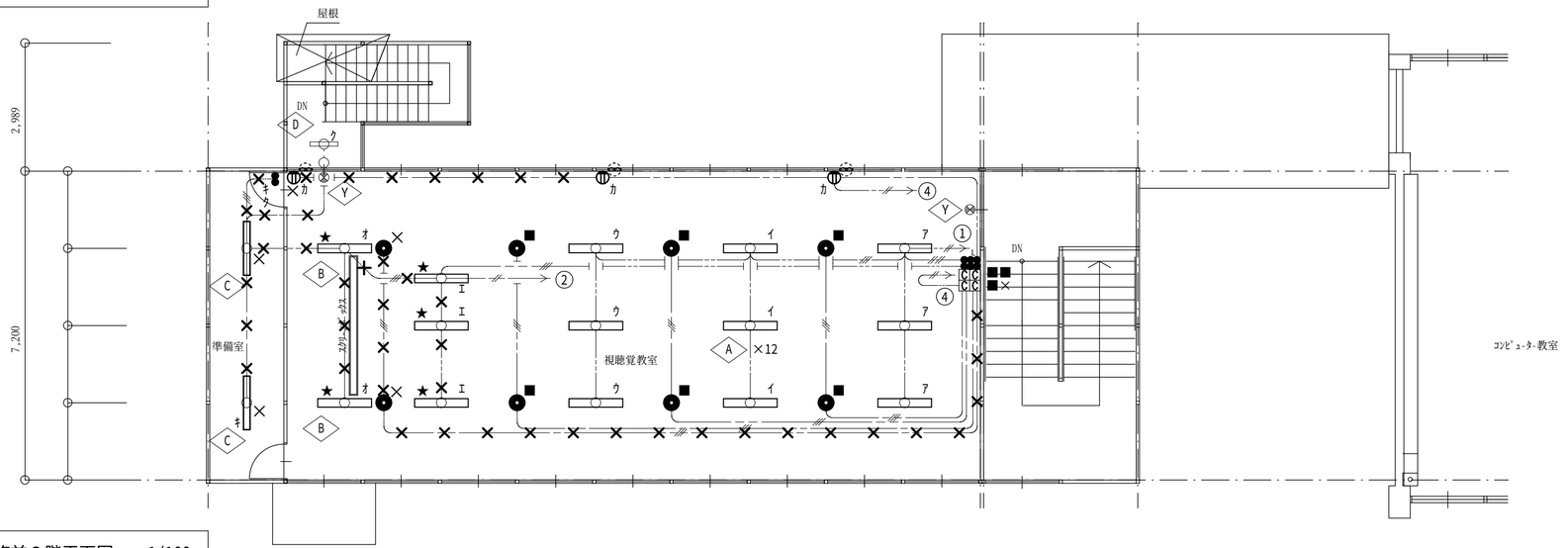
所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	幹線設備（改修）各階平面図	1/100	E-24	R7.03





改修後２階平面図　1/100



改修前２階平面図　1/100

凡例			
	電灯盤		
●	壁付ｽｲｯﾁ	1P15A	
●L	〃	1P 4A	ﾊﾟｲﾛｯﾄﾗﾝﾌﾟ付
●3	〃	3W15A	
●K	換気ｽｲｯﾁ	1P15A	24H換気ｼｰﾙ貼付け
	壁付換気扇		
	天井付換気扇		
	ｻｲｸﾙﾌｧﾝ		
C	ｻｲｸﾙﾌｧﾝ ｺﾝﾄﾛｰﾗ		

記載なきなき配管配線は、下記に依る。		
———	EEF 1.6 - 2C	(PF16)
——+——+——	EEF 1.6 - 3C (1E)	(PF22)
——//——//——	EEF 1.6 - 3C	(PF22)
——///——///——	EEF 1.6 - 2C×2	(PF22)
——///——///——	EEF 1.6 - 2C+3C	(PF22)
——///——///——	EEF 1.6 - 3C×2	(PF28)
——//——	EEF 2.0 - 2C	(PF16)
——/——	EEF 2.0 - 3C (1E)	(PF22)
二重天井内はころがし配線とする。		

配管・配線

———	天井埋込
— — —	床埋込
- - - - - - -	露出
——— - ———	地中埋設
——— ·· ———	ころがし配線

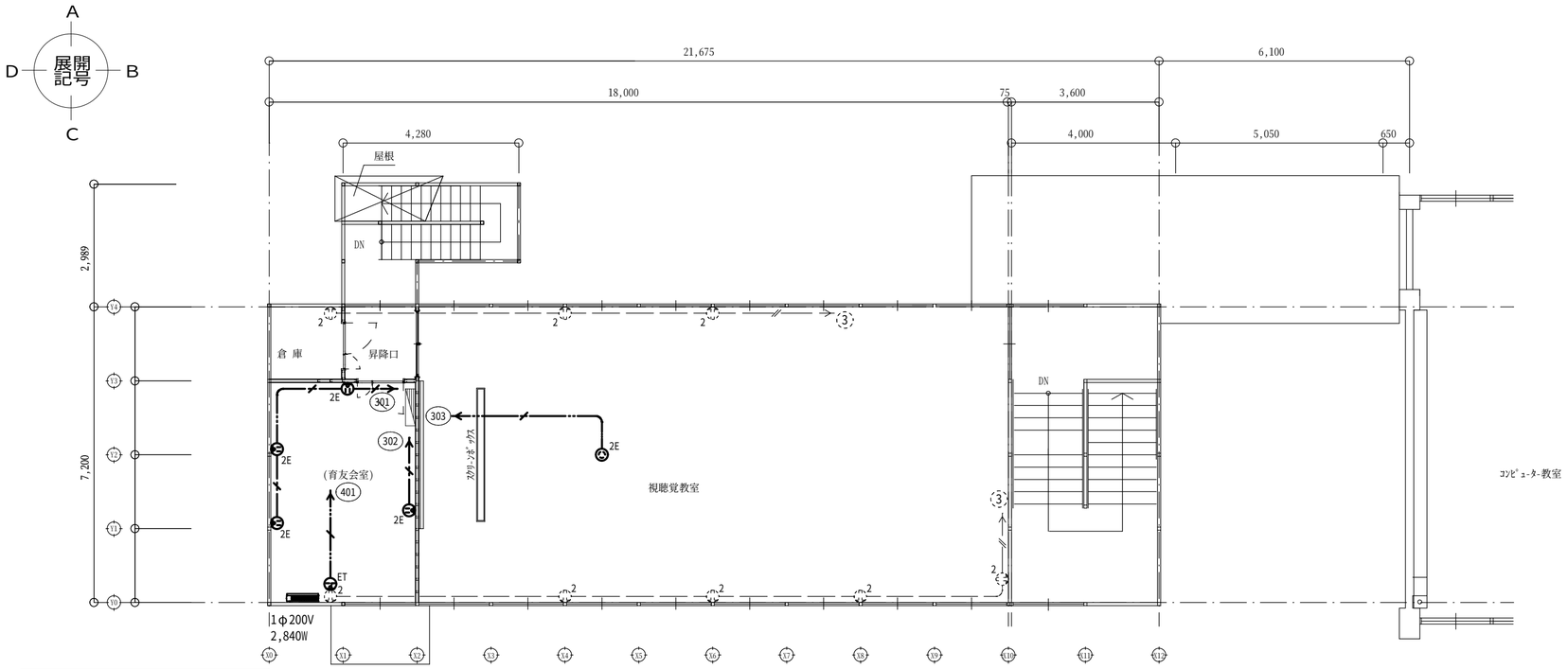
■印 既設撤去取替
★印 既設機器一時撤去清掃後移設再取付
▲印 ﾌﾟﾚｰﾄ取替（新金ﾌﾟﾚｰﾄ）
▼印 樹脂ﾓｰﾙ撤去 ｹｰﾌﾞﾙ再使用
◆印 既存のまま
×印 撤去

A	V型 直付	D	LSS1MP/RP-2-14　LED 11.6W
	一部移設		再使用
B	黒板灯	E	LSS9-2-15　LED 11.6W
	移設再使用		新設
C	V型 直付　FL 40W-1	F30	LSS9-4-30　LED 20.6W
		F48	LSS9-4-48　LED 31.9W
	撤去		新設
Y	誘導標識	Y	誘導標識　（蓄光式）
	撤去		新設
	サイクル扇 40cm ｻｲｸﾙﾌｧﾝ ｺﾝﾄﾛｰﾗ		サイクル扇 40cm CY40-WG　CY-402　三菱電機同等品
	撤去		新設

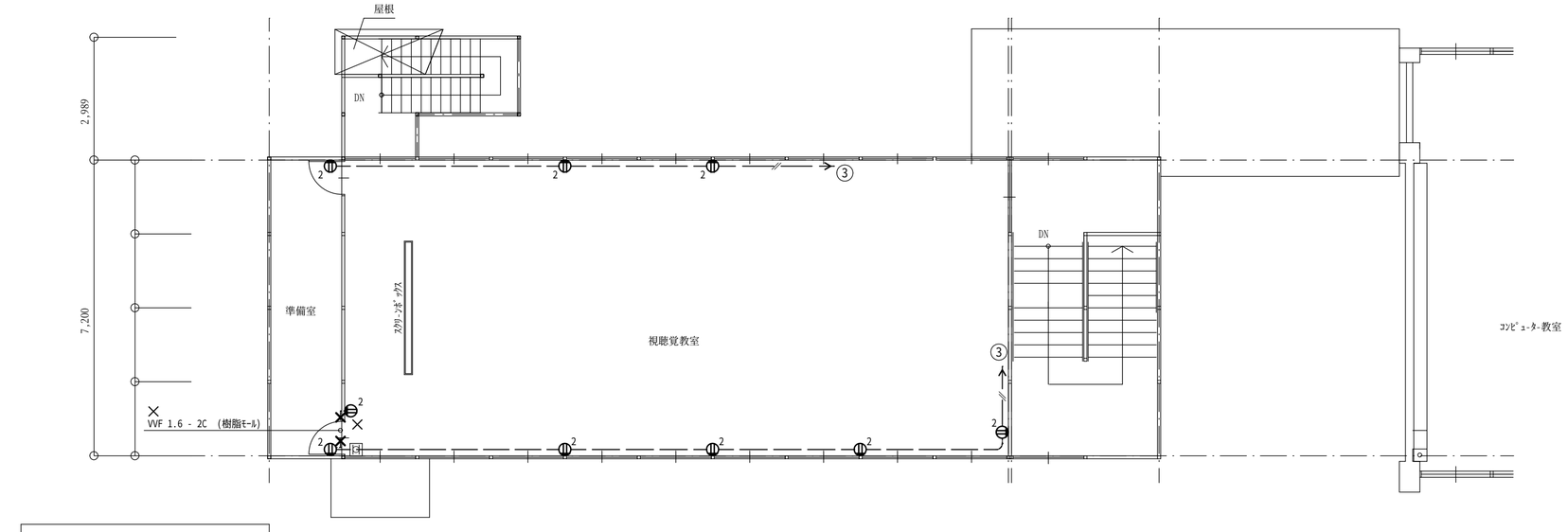
足立建築工房一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	電灯設備（撤去･改修）２階平面図	1/100	E-25	R7.03



改修後２階平面図　1/100



改修前２階平面図　1/100

凡 例			
		電灯盤	
	2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P 15A×2
	ET	〃	2P 15A×1 接地端子付
	2E	〃	2P 15A×2 接地極付
	ET	〃	2P 20A×1 接地極付
	2E	天井埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P 15A×2 接地極付 抜け止
	⊗	接続ﾎﾞｯｸｽ	
	F：国交省認定区画貫通処理		

記載なきなき配管配線は、下記に依る。		
———	VVF 1.6 - 2C	(PF22)
——//	EEF 2.0 - 2C	(PF16)
——/	EEF 2.0 - 3C (1E)	(PF22)
——C	空配管	(PF16)
二重天井内はころがし配線とする。		

■印 既設撤去取替
★印 既設機器一時撤去清掃後再取付
▲印 ﾌﾟﾚｰﾄ取替（新金ﾌﾟﾚｰﾄ）
▼印 樹脂ﾓｰﾙ撤去 ｹｰﾌﾞﾙ再使用
◆印 既存のまま
×印 撤去

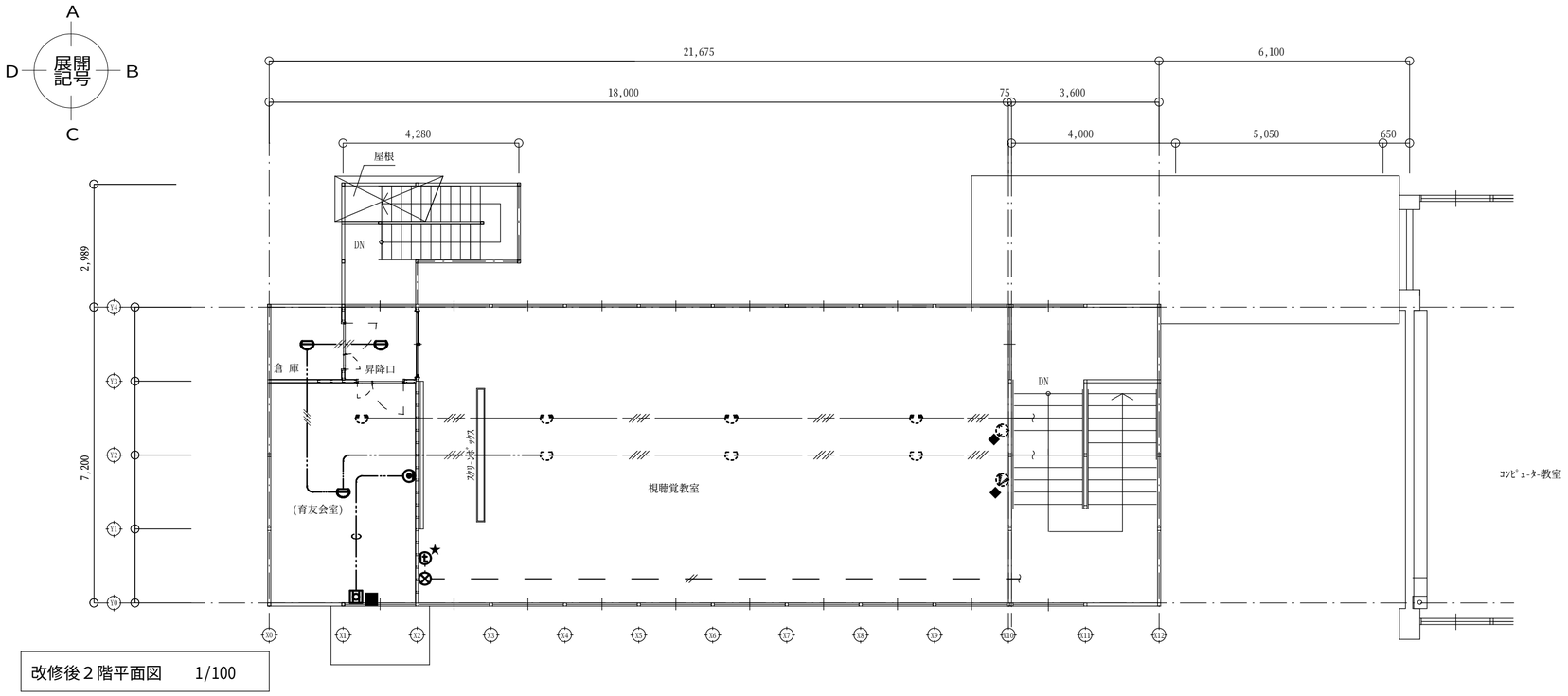
配管・配線

————	天井埋込
— —	床埋込
- - - - - - -	露出
——-——	地中埋設
——··——	ころがし配線

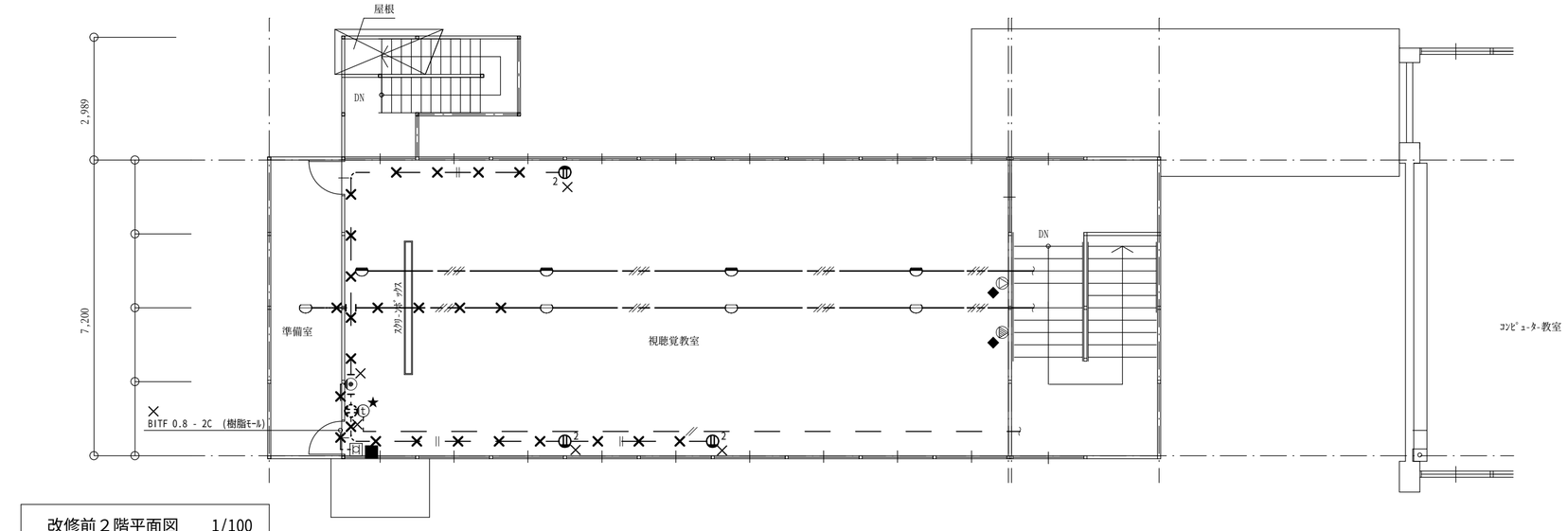
足立建築工房一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	ｺﾝｾﾝﾄ設備（撤去･改修）２階平面図	1/100	E-26	R7.03



改修後２階平面図　1/100



改修前２階平面図　1/100

凡 例		
	◫	電話用保安器
	◉	電話用アウトレット
	ⓣ	緊急通報用内線電話
	◬ △	スピーカー
	▽	感知器　差動式ｽﾎﾟｯﾄ2種
	▽	感知器　差動式ｽﾎﾟｯﾄ2種　天井内
	▢▢▢	総合盤　Ｐ型１級
	◍$_2$	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2P 15A×2
	⊗	接続ﾎﾞｯｸｽ
	F：国交省認定区画貫通処理	

記載なきなき配管配線は、下記に依る。		
———	BTIF 0.8 - 2C	(PF16)
—//—	EM-CPEE 0.65 -2P	(PF16)
—////	AE 0.9 - 4C	(PF22)
----‖----	VVF 1.6 - 2C 3C - 2V	(VE22)
—C—	空配管	(PF16)
二重天井内はころがし配線とする。		

■印 既設撤去取替
★印 既設機器一時撤去清掃後移設再取付
▲印 ﾌﾟﾚｰﾄ取替（新金ﾌﾟﾚｰﾄ）
▼印 樹脂ﾓｰﾙ撤去 ｹｰﾌﾞﾙ再使用
◆印 既存のまま
×印 撤去

配管・配線

———	天井埋込
— — —	床埋込
- - - - - - -	露出
——-———	地中埋設
——·———	ころがし配線

足立建築工房一級建築士事務所
京都府宇治市木幡平尾 1-65
TEL（0774）33－6022　FAX（0774）33－6040

所長		主任		担当	

工事名	木幡中学校配膳室設置ほか工事	縮尺	SHEET	年月日
図面名	弱電設備（撤去･改修）２階平面図	1/100	E-27	R7.03